

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

The language ability of children in the third and fourth grade

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001227">https://doi.org/10.15084/00001227</a>

国立国語研究所報告 14

# 中学年の読み書き能力

国立国語研究所

1958

国立国語研究所報告 14

# 中学年の読み書き能力

国立国語研究所

1958

## 刊 行 の こ と ば

国立国語研究所で、1953年4月から7か年の計画で「言語能力の発達に関する調査研究」を実施し、これまでに中間報告として、

入門期の言語能力（1954年3月刊）

低学年の読み書き能力（1956年3月刊）

を發表した。これは、それにつぐ第三の中間報告である。

この調査研究は、国語教育研究室が担当し、この報告書に関する部分は、興水実、芦沢節、高橋太郎、村石昭三が仕事に当たった。この研究調査の目的・機構・経過については本書のはじめに述べてある。

研究所は、この調査研究を実施するため、実験学校と協力学校を設け、学校と父兄との協力を得て来た。この報告書について、そうした学校および父兄の御協力に対して心からの謝意を表する。

1958年3月

国立国語研究所長 西 尾 実

# 目 次

刊行のことは

「言語能力の発達に関する調査研究」について .....	1
Ⅰ 読む能力の発達 .....	3
A 黙読理解の発達 .....	3
1. 中学年の読む能力の発達の問題点 .....	3
2. 3年第1学期のテストと結果解釈 .....	4
3. 3年第2学期のテストと結果解釈 .....	10
4. 3年第3学期のテストと結果解釈 .....	15
5. 4年第1学期のテストと結果解釈 .....	20
6. 4年第2学期のテストと結果解釈 .....	25
7. 4年第3学期のテストと結果解釈 .....	29
8. 中学年における読解技能の発達 .....	36
B 読書速度の発達 .....	39
1. 一般的傾向 .....	39
2. 検査の手引きと問題 .....	39
3. 結果の考察 .....	45
C 音読技能の発達 .....	46
1. 中学年の音読技能の問題点 .....	46
2. 4年第1学期の音読テスト .....	47
3. 4年第3学期の音読テスト .....	48
D 読みにおける眼球運動 .....	49
1. 眼球運動の発達 .....	51
2. 眼球運動の各技能の相関 .....	56
3. 眼球運動の各技能と言語能力との相関 .....	58
4. 眼球運動の各技能と言語能力を規定する要因との相関 .....	59
5. 中学年の子どものもつ“知覚の類型” .....	60
E 読む能力の発達の要因 .....	62

1.	黙読理解力を規定する要因	64
2.	読書速度力を規定する要因	66
3.	音読技能を規定する要因	68
4.	読書興味を規定する要因	69
F	読む能力の発達の事例的研究	70
	〔事例 1〕 西田幸治	70
	〔事例 2〕 畑 友子	84
Ⅱ	作文能力の発達	94
A	課題作文からみた能力の発達	94
1.	中学年の作文の能力の一般的特徴	94
2.	考察の資料	94
3.	文字や文法上の誤りはどのくらい減るか	95
4.	長さ・くわしさの問題	96
5.	句読点の使い方の発達	101
6.	文段を分けている者の数(構想力の発達)	103
7.	書き出しのことばの変化	103
8.	題目への集中の度合い(主題意識の発達)	104
B	同一の経験を書かせた作文にみられる発達	105
1.	文字量と発達	105
2.	主題意識の発達	110
3.	叙述面に見られる発達	115
4.	語いのひろがり	120
5.	文法・句読点・表記などに見られる傾向	121
C	いろいろな目的に応じて文を書く能力の発達	122
1.	手紙文を書く能力	123
2.	記録文を書く能力	132
D	作文を書く能力と鑑賞する能力	141
1.	遠足文について	141
2.	手紙文の良否の判別	144
E	作文能力の発達の要因	148

1.	一般的な作文能力を規定する要因	148
2.	作文の分量を規定する要因	152
F	作文能力の発達の事例的研究	154
〔事例 1〕	木村勇二	154
Ⅲ	文字能力の発達	168
A	かたかな能力の発達	168
1.	全体的考察	168
2.	かたかな文字力発達の問題点	185
3.	個人別かたかな文字力発達一覧表	191
B	漢字能力の発達	196
1.	全体的考察	196
2.	具体的考察	215
3.	個人別漢字力発達一覧表	238
C	表記能力の実験と問題点	241
Ⅳ	語い能力の発達	252
A	行なった検査とその結果	252
1.	ねらい	252
2.	検査法	252
3.	検査問題とその結果	254
B	結果の分析	277
1.	定義法と用例法	277
2.	用例法(1)(2)と学習・読書	280
3.	完成法と定義法	282
Ⅴ	文法能力の発達	284
A	行なった検査とその結果	284
1.	ねらい	284
2.	検査法	284
3.	検査問題とその結果の概要	285
B	結果の分析	300

1.	格助詞と関係表現	301
2.	副助詞（係助詞をふくむ）と気持の表現	304
3.	副詞・副詞句と陳述	307
4.	代名詞・こそあど系	310
5.	複雑な文の組立て	312
VI	読書生活の発達	317
A	調査の方法	317
1.	調査方法	317
2.	調査期日	317
3.	調査内容	317
B	どんな本を読んでいるか	318
1.	読む本の種類と範囲	318
C	どう読んでいるか	332
1.	読書態度の変化	332
2.	読書の興味と時間	334
D	個人差および言語能力との関係	347
1.	個別的考察	347
2.	全体的考察	353
E	新聞とラジオ・テレビへの接近と興味	354
1.	新聞	355
2.	ラジオ	358
3.	テレビ	360
F	読書ノートに見られる読む能力の発達	361
1.	読書ノート回収状況	362
2.	読書ノート記録の状況	363
3.	読書ノートの記入のしかたからみた読みとり能力の発達	365
付録1	家庭読書調査の問題	374
付録2	社会性調査の問題	383



## 「言語能力の発達に関する調査研究」について

### 研究の目的・特色

- (1) 同一児童について小学校入学の時から卒業までの言語能力の発達を追跡的に調べる。
- (2) 聞く・話す・読む・書くの全体にわたって調べる。
- (3) 環境・知能・身体・人格・学習など言語能力の発達の要因を調べる。
- (4) 発達の要因との関係において事例的にとらえる。

### 研究の機構

実験学校——所員がその学校の職員の協力を得て、所員の手でテストし観察して資料を集める学校

実験学校に準ずる学校——実験学校とはほぼ同じことをその学校の職員の手でおこなって資料を送ってくれる学校（実験学校が東京都の中央の学校であるから、それと比較するため純農村の学校を依頼する）

協力学校——実験学校でおこなっているものの一部分あるいは大部分を、その学校の職員の手でおこなって、資料を送ってくれる学校

### 研究の経過

- (1) 昭和28年入学児について、各学校1学級分（約50名）を対象として開始した。（昭和33年1月現在5年生）
- (2) この学級についておこなえなかったこと（主として聞く・話すの能力の方面）を補充するため、昭和29年入学児についても各学校1学級分（約50名）を対象として加えた。（昭和33年1月現在4年生）
- (3) 昭和29年3月 中間報告として「入門期の言語能力」（国立国語研究所報告7）を発行。
- (4) 昭和31年3月 同じく「低学年の読み書き能力」（国立国語研究所報告



# I 読む能力の発達

## A 黙読理解の発達

### 1. 中学年の読む能力の発達の問題点

中学年の読む能力の発達についてこれまで注意されているのは次のようなことである。

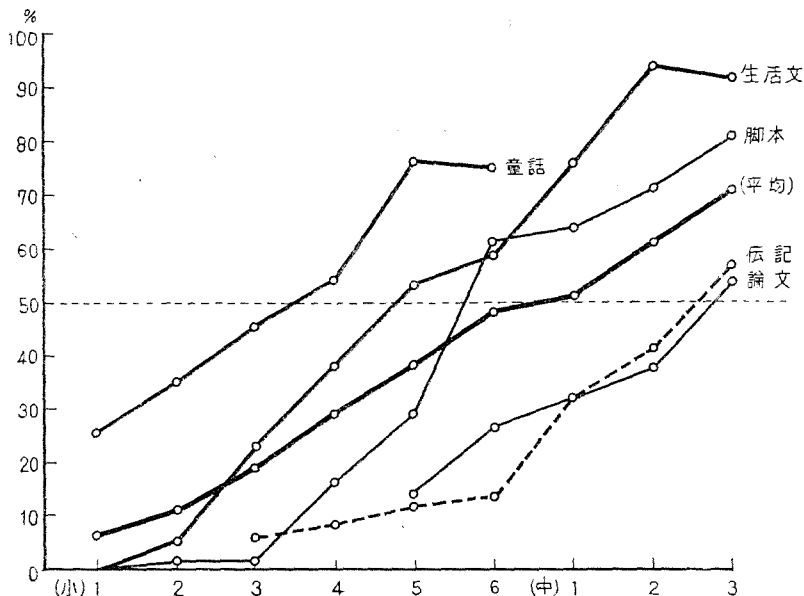
- (1) 読める漢字が増す
- (2) 読書語いがふえる
- (3) 読書速度が速くなる
- (4) いろいろな本を読むようになる
- (5) 要点を読みとる力ができる
- (6) 文の段落・組み立てがわかる
- (7) 問題を解決するために読むようになる
- (8) 前後の関係からわからない語の意味をとらえることができる

このうち、(1)(2)(3)(4)は本書の別の項で取り扱う。ここでは、(5)(6)(7)(8)のいわゆる読解技能の発達だけを問題とする。

読解技能としてここにあげた四つのものは、中学年だけのものである。低学年ではこれよりもいっそう簡単に基礎的な技能、たとえば、書かれている事実についてその大体がわかるという技能がある。また、たとえば物語について、その登場人物がわかり、あらすじがわかるというようなことも、低学年（1、2年）でほぼ完成されるものと見られる。それから、一層高次の読解技能、たとえば、文のかくれた主題とか意図を見出すというようなことは、高学年（5、6年）から中学校へ行ってのびることである。もちろんそれも、中学年から始まっているというべきだろう。（注1）

（注1） 長野県教育委員会で昭和26年度におこなった、文の主題をとらえる能力の発達を、われわれがそこに出ている数字にもとづいて図表にすると、次ページの表のようになる。（長野県実験学校報告「学習能力の発達、国語編」昭和29年）

主題をとらえる能力の発達（長野県教育委員会による）



そういうことを前提として、以下、われわれが3年4年の各学期末に出したテストの問題とその結果とを述べる。

## 2. 3年第1学期のテストと結果解釈

### 検査の趣意

第1学年、第2学年において、「文の中にだれとだれが出て来るか」「だれがなにをしたか」というような、文に明らかに提示されている事実は理解されるということがわかった。

第3学年以降は、さらに高次ないろいろの読書技術がどうめばえ、どう伸びて行くかをみようとする。

### 問題構成

問題は全体で4題8項目とし、うち2題は、第2学年の第1学期に検査して成績が悪かったものをそのまま採用する。この成績が悪かったのは、そこに高次の読書技能が要求されていたからで、その技能が1年間にどれだけ伸びたかをためす。問題1、問題4が旧問題。

問題	材料文	設問——検査する能力
1	おつかい(生活文)	(1) 細部の理解 (2) 大体の意味をとる
2	きんぎょ( )	(1) 文脈による語や用法の理解 (2) 主題や情緒にふれる
3	ミズーリ川(こども新聞)	(1) 文の種類に関する知識 (2) 内容を吟味して読む
4	王さまの馬車(童話)	(1) 話の筋をたどる (2) 書かれている特定の事実をつかむ

### 検査の実施

- (1) 問題用紙は全部一括してくばる。
- (2) 児童はすでにこの種のテストになれているわけであるが、「これから文を読んでからお答えをするテストをします。答えかたは、たいていは、よいと思うものの上に○をつけるのですが、そのほかに、関係のあるのを線で結んだり、上に順番をつけたりするのがあります。」といった説明をしておく。
- (3) 問題用紙は児童に読ませる。教師が読まない。
- (4) やりかたがわからない者は途中で挙手させて、やりかたを説明してもよい。
- (5) ほとんどの者がやり終ったところで集める。(正味の所要時間は15分から長くても20分である。)

もんだい 1.      もんだいのあとの( )の中は正答率

つぎの ぶんを よんで、あとの しつもん に こたえなさい。

「まさおさん、おつかいに 行って きて ちょうだい。」と、おかあさんが いいました。まさおさんは、「はい。」といって、すぐに 出かけました。

とちゅうで、じろうさんに あいました。

いちばの そばで サークスが にぎやかな おんがくを やって いました。

まさおさんは、じろうさんと いっしょに サークスの かんばんに みとれている うちに おつかいを わすれて しまいました。

「まさおさん、どこへ いくの。」みると、よしこさんが にこにこしながら たずねました。

よしこさんは、おかあさんと おつかいに きたのでした。

「あっ、ぼく おつかいに きたんだっけ。」まさおさんは、おつかいを おもいだして、あわてて かけだしました。

- (1) おかあさんは だれの おかあさんですか。
- 1 まさおさんの おかあさん (35.4%)
  - 2 じろうさんの おかあさん (0%)
  - 3 よしこさんの おかあさん (64.6%)
  - 4 しらないうちの おかあさん (0%)
- (2) この おはなしで、まさおさんの したことを 4人の ひとが はなしました。だれのが いちばん いいですか。
- 1 まさおさんは おかあさんに ようじを たのまれると すぐ「はい。」という かんしんな 子どもです。(29.2%)
  - 2 まさおさんは じろうさんと いっしょに たのしく あそびました。(2.1%)
  - 3 まさおさんは サーカスが すぎで サーカスを みに いきました。(0%)
  - 4 まさおさんは おつかいの とちゅうで あそびましたが よしこさんに あって おつかいを おもいだしました。(58.3%)
- 二つ以上に反応したもの 10.4%

もんだい 2.

つぎは よしこさんの 作文です。よんでから、あとの しつもん に こたえなさい。

わたしは、このあいだ、おかあさんと おつかいに 行きました。きんぎょやの まえを とおりました。みせさきには、あかや ぶちの きんぎょ①が たくさん いました。あまり かわいいので、おかあさんに おねがいで きんぎょを 3びきと、きんぎょばちを かって もらいました。

きんぎょ②は、うれしそうに はちのなかを およいで います。すこしも やすみなしに ばくばくと 口を あけて およぎまわって います。わたしは きんぎょも ねるときが あるかしら、どうやって ねむるのかしらと おもって、ねえさんに きいて みました。

ねえさんは、「さあ、わたしにも よく わからないけれど、やっぱり 目をつぶって ねむるのでしょう。」と いいました。

そうしたら、おとうさんが、  
「きんぎょ③だって ねむる ときが ある。けれども、目を つぶらない。それは たいていの さかなには、まぶたが ないからで、目を つぶることと ねむることとは べつに なって いる。だから さかなは、目を つぶることが できなくても、りっぱに ねむれるのです。」と、おしえて くださいました。

- (1) きんぎょ① きんぎょ② きんぎょ③のいみを かんがえて、(イ)(ロ)(ハ)のあっているのと せんで むすびなさい。(34.1%)

きんぎょ① (イ) どんな きんぎょでも いい、きんぎょという さかな  
ぜんぶ

きんぎょ② (ロ) きんぎょやさんで うっていた きんぎょ

きんぎょ③ (ハ) うちへ かって かえった きんぎょ

(2) 文の いみを よく かんがえて つぎの どれが いちばん よく よし子さんの、<sup>きもち</sup>気持に あっているか、一つだけ えらんで ○を つけなさい。

1 おかあさんと おつかいに いって きんぎょを 3びきと きんぎょばちを かった。(50.0%)

2 うちの きんぎょは すこしも やすみなく、ばくばく 口を あけて およぎまわっている。(15.9%)

3 このあいだ きんぎょを かってもらって、とても うれしかった。(22.7%)

4 わたしは このあいだ さかなが 目を つぶらないで ねむるということをした。(11.4%)

### もんだい 3.

よんでから あとの しつもんを こたえなさい。

アメリカの ミズーリ川<sup>かの</sup>の 川原<sup>の</sup>の あれ野<sup>の</sup>で あるけなくなっていた おじいさんが、一か月ぶりに すくいだされました。この おじいさんは、ドレフスという 66になる人で、きん<sup>ねん</sup>年の 12月8日に ミズーリの 川原に ひとりで えんそくに いって、けいれんを おこして、あるけなくなっ てしまいました。

すくいだされるまでの 一か月間、ドレフスおじいさんは、まい日、かみさまに おいのりを してから、ミズーリ川の 水<sup>みず</sup>を 5リットルほどずつ のんで、ちかくの 木や 草<sup>くさ</sup>を ひろって きては、火<sup>ひ</sup>を たやさず もしつづけて いました。

おじいさんを たすけたのは、この川原に 自動車<sup>じどうしゃ</sup>で りょこうに きた 人<sup>ひと</sup>たちで、だれも いらないはずの 川原<sup>の</sup>に、けむりが あがっているの<sup>の</sup>で、なんだらうと 思<sup>おも</sup>って いってみたら そこに、おじいさんが 死<sup>し</sup>にそうに なって たおれて いたのだ そうです。

66にもなる おじいさんが ひとりで そんな ところ<sup>ところ</sup>に えんそくに 出<sup>で</sup>かけたり、一か月も じつと がまんして いたりして、アメリカの 人<sup>ひと</sup>は 年<sup>とし</sup>とって も げんきが ありますね。

(1) この文<sup>ぶん</sup>は なにに かい<sup>か</sup>いて あったと おもいますか。

1 子どもの 作文<sup>ぶん</sup> (29.2%)

2 子どもの しんぶん (22.9%)

3 詩<sup>し</sup>の本<sup>ほん</sup> (6.3%)

4 物語<sup>ものがたり</sup>の本<sup>ほん</sup> (41.6%)

(2) おじいさんは なぜ たすかったのでしょうか。だいじだと おもうものの上に  
一つだけ ○をつけなさい。

1 まい日 かみさまに おいのりを していたから。(58.3%)

2 まい日 水を のんだり 火を たやさず もやしつづけて いたから。(8.3  
%)

3 一か月も じっと おなじところで がまん していたから。(12.5%)

4 アメリカ人は 年とっても げんきがあるから。(14.6%)

無答 (2.1%)

二つ以上に反応したもの (4.2%)

もんだい 4.

よんでから あとの しつもん に こたえなさい。

むかし、ある<sup>くに</sup>で おうさまが、ばしゃを うんてんする ひとを やとう こと  
に なりました。

うでじまんの うんてんしゅばかり あつまりました。おうさまの けらいが み  
んなに むかって いいました。

「どうだ、みんな うでじまんらしいが、いったい どのくらい うまいのかね。」  
すると、ひとりが すすみでて いいました。

「わたしは、がけの みちでも、ばしゃより30センチも ひろければ、へいきで は  
れます。」

そうすると、ほかの うんてんしゅたちが、めいめい はなを びくびくさせなが  
ら いいました。もうひとりの うんてんしゅは、

「なあんだ、わたしなんぞは、10センチも あれば へいき です。」

と、おおきな こえで いいました。

「おうさま、わたしは、5センチも あれば じゅうぶんで ございます。」

と、もうひとりが てまねを しながら いいました。

「わたしは、また そんな あぶない みちを はしるのが だいすきです。」

と、また べつの ひとりが とくいそうに いいました。

すると、さいごのひとりが、

「おうさま、わたしは、みちが ばしゃより 50センチ ぐらい ひろくなければ、  
とおらないことに しています。あんぜん だいい ですから。」

と、しずかに いいました。

みんなの じまんばなしを、だまって きいていた おうさまは、

「えらい。おまえは せかい一の うんてんしゅだ。」

そういって、その ひとを やとう ことに しました。



- (1) はなしをした じゅんに ばんごうを つけなさい。(50.0%)
- ( ) あぶない みちを はしるのが だいすぎだ。
- ( ) 50センチ ひろいと いい。
- ( ) 30センチ ひろければ へいきだ。
- ( ) 10センチ あれば いい。
- ( ) 5センチで いい。
- (2) おうさまは、なぜ さいごの うんてんしゅを やとう ことに したのでしょ  
う。一つだけ ○を つけなさい。無答 (4.2%)
- 1 うんてんが じょうずだから。(8.3%)
- 2 はなしを するのを さいごまで まっていた ひと だから。(6.3%)
- 3 あんぜん だい一と いうことを かんがえて いたから。(70.8%)
- 4 うんてんが じょうずだと いうて じまんを しなかったから。(10.4%)

#### 結果の概観

4問題のうち、「おつかい」と「王様の馬車」は前にやった問題である。その正答率の上昇を見ると、「おつかい」については、

	2年第1学期	2年第3学期	3年第1学期
(1) 細部の理解	36.3%	47.8%	63.3%
(2) 大体の意味	38.7%	54.3%	57.1%

であって、2問ともものび方が順調である。設問の(1)と(2)をくらべると、(1)の方がのびがいい。最初は悪いがあとでよくなっている。(2)の方は最初がよく、あとでもそれほどよくなっていない。これは問題の性質上そうなったものと思われる。(1)の方はそこに書いてあることで、きまっていることであり、注意して読む態度ができればいい。そういう、書かれている事に注意する態度は、この結果の限りでは、2年から3年にかけて、非常によくなるようである。これに対して、大体の意味をつかむ方は、2年の第1学期と第3学期の間で非常に進歩しているが、3年1学期にかけては、それほどでない。

「王様の馬車」については、

	2年第1学期	3年第1学期
(1) 話の筋	29.5%	44.9%
(2) 書かれている特定の事実をつかむ	50.0%	69.4%

のようになっている。(ただし(1)の方は2年の時は話の筋が五つでていてそれ

に順番をつけさせた。3年ではそれを四つにした。したがってむしろやさしくなっているといえる。)どちらも1年間にそれぞれ上昇している。

「きんぎょ」と「ミズーリ川」はどちらも新問題で、比較的むずかしい。これは、あとでもう一度テストするためにすこしむりかも知れないが提出したものである。結果について考察すると、

「きんぎょ」の設問の(1)のような、語の意味内容をくわしく分析して考える態度は、まだできない。また、こうしたテスト方法にもなれていない向きがあったようである。

「きんぎょ」の設問の(2)は、4が正答であるのに、1の方をとった者が多かった。1は大意的とらえ方であり、4は文意的なとらえ方である。主題や情緒にふれるということは、実際にはいくらかふれているわけであり、教室ではこうした「主人公の気持」をたずねる学習活動が非常に多い。それにもかかわらず、テスト結果としてはそうよくないということがわかった。

「ミズーリ川」の1は、文章文体の見分けである。3年生になったばかりの段階では、これが「子どもしんぶん」だということがわからない。「子どもしんぶん」というものになれていないのかも知れない。「物語の本」としたり、「子どもの作文」としたりしたものの方が、むしろ多かった。

「ミズーリ川」の2については、設問に問題があることがわかった。こうしたお話の読解指導でこの設問のように、「おじいさんはなぜたすかったのでしょうか」という「なぜ」という質問をすることは非常に多いので、それにそって出したものである。ところが、設問の(1)(2)(3)(4)ともに「なぜ」という原因なり理由なりに無関係ではない。それぞれが、みんな、その理由である。多くの子供が1の「まい日かみさまにおいのりしていたから」をとったのは、今までの教育からいえば、むしろ当然であろう。これに対して2を正答とするのは、そういう教訓的なものよりも科学的な見方を重くみようとするものである。

### 3. 3年第2学期のテストと結果解釈

#### 検査の趣意

いろいろな読解技能がこれからどうのびて行くかを調べる。そのために、この学期としては困難度の高いものをも出す。

文学作品の読みと問題解決の読みとをみる。

### 問題構成

問題は全体で5問題、設問は7、第1の問題は選択法でなく、書き出させる方法をとる。

問題	材料文	設問——検査する能力
1	さむいあさ(生活文)	(1) 登場人物(書き出す) (2) 題をつける
2	やぎゅう(物語)	(1) 文脈から語をとらえる (2) 同上
3	やぎ(物語)	(1) 主題をとらえる
4	雪がつもる(詩)	(1) 主題や情緒にふれる
5	こうこく(広告文)	(1) 問題を解決するために読む

### 検査の実施

実施および整理は毎学期と同様。(正味の時間は15分)

#### もんだい 1.

「たけちゃん、たけちゃん、7時半ですよ。」という、こえに、ぼくは ゆめから さめ、まだ ねむい目を すこし ひらいた。ふとんの すきから ちらっと みると おかあさんが こたつの ふとんを どけて、あさの そうじを しておられた。よしこねえさんが きて、ぼくたちの へやの とを あけたので、つめたい かぜが へや いっぱいにはいって きた。「おう さむい。」ぼくは くびを ちぢめた。おかあさんが 大きな こえで 「たけちゃんも かずちゃんも おきなさい。」といわれた。いもうとも やっと 目を さました。

- (1) この文に でている人は だれと だれですか。つぎに かきなさい。(55.1%)
- (2) この文の だいは なにが いいですか。いいのに ○を つけなさい。
- 1 たけちゃんの ゆめ (32.7%)
  - 2 ぼくのおかあさん (8.2%)
  - 3 あさの そうじ (16.3%)
  - 4 さむい あさ (40.8%)
- 二つ以上に反応したもの (2.0%)

#### もんだい 2.

カーン カーンと、せんしゅの うつ ボールの おとが あきの 夜空に きも

ちよく はずみます。こんやは よるの やぎゅうの しあい、ひろい やぎゅう  
じょうは、なん万という 人で いっぱいです。みちおさんは、おとうさんに つれ  
られて、にいさんと 3人で 見に きました。たかい とうから、なん万しょくこ  
うという 電とうの ひかりが ぱっと てらします。まるで ひるまのような あ  
かるさです。

「ねえ、かわかみせんしゅ、きのうみたいに ホームランを うたないかな、すごい  
やつ。」

みちおさんは、にいさんに はなしかけました。

(1) この文で「はずみます」というのは なにが はずむのですか。

- 1 ボール (40.8%)
- 2 ボールの おと (34.7%)
- 3 きもち (10.2%)
- 4 あぎの 夜空 (14.3%)

(2) 「すごいやつ」というのは なにを さして いるのでしょうか。

- 1 たかい とうのこと (2.1%)
- 2 ひるまのように あかるいこと (2.1%)
- 3 かわかみせんしゅのこと (57.0%)
- 4 ホームランのこと (38.8%)

### もんだい 3.

やぎは こやの中で メーメー ないていた。ほかに なきようもないのだから、  
人間は、いつでも、やぎは メーメー なくものだともおもっている。

しかし、やぎだって きげんの いい ときもあるし、わるい ときもある。  
きげんの いいときは あごを だして あまえるような なきかたを する。そう  
いうときは、こやに はいっていても けっして むかって こない。からだを  
こすりつけるように よって きて、みじかい しっぽを びよこびよこふる。

きげんの わるいときは、そうは いかない。こやの すみっこに ひっこんで、  
はいいろの 目で じっと、はいってくる 人間を にらんで いる。そばへ よる  
と、あたまを さげて、つかかってくる。

きょうの やぎは、どうみても、ごきげんが わるそうだった。

これは 長い女の いちばんはじめてで、これから いよいよ お話が はじまりま  
す。作者は いったい どういう お話を かこうと しているのでしょうか。

- 1 やぎの なきごえの いろいろ (4.1%)
- 2 やぎにも きげんの いい ときと わるい ときと ある。(61.2%)
- 3 やぎの ごきげんのわるい目の できごと。(14.3%)

4 やぎの くらしかた。(20.4%)

もんだい 4.

雪が つもる。山の上の 小さな 学校で、

けさも はじめの かねが なる。

オルガンが ひびき、子どもたちの、本を よむ こえや

手を あげる こえが、かんだかく きこえる。

そして、しばらく しんとする。

ああ ああ しずかだ。まったく しずかだ。

木々は、だまって それを きいている。

どこか とおい たにぞいの、雪に うずまった ねかぶや

はこの かげで、山々の りすや うさぎたちが、

みみを たてて じっと それを きいている。

この 文の 二つの「それを」は なにを さしていますか。

- 1 がっこうの はじめの かね。(12.2%)
  - 2 オルガンの おと、本を よむ こえ、手を あげる こえ。(34.7%)
  - 3 「ああ ああ しずかだ、まったく しずかだ。」といった さげびごえ。(18.4%)
  - 4 かねが なったり、こえが きこえたり してから、すっかり しずかに なったこと。(16.3%)
- 二つ以上に反応したもの (18.4%)

もんだい 5.

これは こどもしんぶんに でていた こうこくの 文です。(10.2%)

(1) だんだん 年のくれも せまって きました。

(2) 年のくれから おしょうが つは やすみがつづきます。

(3) この やすみのうちに、(4) なにか りっぱな こうさくを つくって、がっこうに だしましょう。

(5) こうさくの べんきょうは はつめいの もとで、これからの にっぽんには いちばん だいじな ことです。

(6) いますぐ、(7) はがきに、(8) あなたの がっこうの 名まえと がくねんと うけもちの せんせいの お名まえを かいて、(9) よこはま市 かながわきょく くない たかはししょうかい えてに だして ください。

(10) くじびきで えらんで、(11) りっぱな はこに はいった こうさくの どうぐを さしあげます。

ただし、しょうがっこうの 3ねんから 6ねんまでに かぎります。

3ねんせいの よしおさんは、この こうこくを よんで、はがきを だそうと おもいました。よしおさんが おぼえていなければならない だいじなことは 以上の(1)から(4)までのうち、どれと どれですか。その ばんごうを 4つだけ かきなさい。

( ) ( ) ( ) ( )

### 結果の概観

「さむいあさ」の第1問は登場人物を拾う問題で、この種の能力は1.2年でかなりまでついているものと見られる。ここでも50点以上であった。

「さむいあさ」の第2問のような、文の題を選ぶ問題は、「文題」というものの本質上、どれがいいということを書きにくい。選択肢1, 2, 3, 4のうち2の「ぼくのおかあさん」はたしかにあたっていないもので、これは一番すくなかったが、優秀児が3の「あさのそうじ」につけていた。これは文題にならないとはいえない。「さむいあさ」よりも、ある点では、あたっているかも知れない。ただ、全体の意味からいうと、「そうじ」はきわだてる理由がない。1の「たけちゃんのゆめ」というのも、文題にならないことはない。2の方に反応した者も比較的多かったが、これは、どちらかという中以下の子供の反応である。

「やぎゅう」の第1問は、1の「ボール」と答えた者の方が多かった。しかし優秀児は2の「ボールの音」の方をえらんでいた。第2問の反応はほとんどが3, 4に集ったが、これはできがよかった。

「やぎ」の文は2に反応した者が多い。主題なり情景をとらえるよりも、事実なり、大意なりをとらえるもので、この段階の読む能力の実態かも知れない。「雪がつもる」の詩については、優等生がやはりできていた。2の「オルガンのおと、本をよむこえ、手をあげるこえ」というのをとった者が多かったのは情景をとらえるよりも、語にとられるからであろう。

もんだい5は成績が非常に悪かったが(10.2パーセント)、(6)(7)のどちらかの代りに(4)をとって、あとはできた者が6名あるので、それを加えると30.6パーセントとなる。文章理解よりも生活的な判断力の問題で、こうした仕事は3年

生ではまだむりのようである。

#### 4. 3年第3学期のテストと結果解釈

##### 検査の趣意

3年の学年末であるから、2年の学年末の時と共通の問題を出して、発達の度合いを調べる。そしてそのほかに新しい問題を加える。この新しい問題の方は、来学年もやれるような困難度の高いものにする。技能としては、主題把握の能力がどのくらいあるかを一つの目標とする。

##### 問題の構成

全体で4問題、設問は8で、書き出す設問が二つある。問題2と問題4は2年生の第3学期にやって、その時の正答率がどちらもほぼ50%のもの。(問題(2)は3年第1学期にも実施している。)

問題	材料文	設問—検査をする能力
1 まくあげ	児童文(事件の記録)	(1) 文脈から特定の語の意味や用法をとらえる (2) 主題の把握
2 おつかい	(第1学期と同一)	
3 ランドセル	児童文(生活の感想)	(1) 主題の把握 (2) 文の鑑賞(書く)
4 雪ぼうず	作家の文(物語)	(1) 細目の理解(書き出す) (2) 大体の意味

##### 検査の実施

実施は4問を一括して、所要時間は正味15分。

整理は1の(1)(2)、2の(1)(2)、3の(1)、4の(2)は、とった選択肢をそのまま書く。3の(2)は「いぼっている、わるい子だ」は誤答、「かわいがっている、おもしろいと思っている」という方面が出ていれば正答とする。4の(1)は、三人とも書き出したものだけ正答。

##### もんだい 1.

ジジーッ ジジーッと ベルが なる と、ぼくは「よいしょ よいしょ」と まくをあけます。きょうは 6年生をおくる がくげい会<sup>かい</sup>で、ぼくと 5年の ひろしくんが まくあげです。

まくを あけると すぐ、よこから げきを みます。ふたいでは いま、3年<sup>ねん</sup>が「かぐやひめ」を して います。ぼくが 3年<sup>ねん</sup>の ときにも「かぐやひめ」を し

ました。そのとき ぼくは おじいさんでした。

3年の ときの ことを おもいだしながら じっと みて いると、とつぜん、  
ジジーッ ジジーッと、なんかいも くりかえして、ベルが なりだしました。ぼく  
は はっと しました。まくを しめるのを わすれて いたのです。まっかな か  
おで 力ちからいっぱい まくを しめました。

ぼくたちは、先生せんせいに しかられないかと しんばいでした。

(1) この 文ぶんを 書いた 子こは、いま なん年生ねんせいですか。

(一つだけ ○を つける)

1 3年生 (29.2%)

2 4年生 (16.7%)

3 5年生 (43.8%)

4 6年生 (10.3%)

(2) この話はなしの まとめとしては つぎの どれが いいか。

(一つだけ ○を つける)

1 ベルが ジジーッ ジジーッと になると げきが はじまる。(12.5%)

2 げきの まくを あげるときは「よいしょ よいしょ」と いうて あげる。

(0%)

3 3年生ねんせいの げきを みて いて、まくを しめるのを わすれた。(33.3%)

4 ぼくが 3年の とき「かくやひめ」のげきで、おじいさんおじいさんに なった。(54.2%)

## もんだい 2.

「まさおさん、おつかいに いうて きて ちょうだい。」と、おかあさんが いいま  
した。まさおさんは、「はい。」と いうて、すぐに 出かけました。

とちゅうで、じろうさんに あいました。

いちばの そばで、サーカスが にぎやかな おんがくを やって いました。

まさおさんは、じろうさんと いっしょに サーカスの かんばんに みとれて  
いる うちに おつかいを わすれて しまいました。

「まさおさん、どこへ いくの。」みると、よしこさんが にこにこしながら たず  
ねました。よしこさんは、おかあさんと おつかいに きたのでした。

「あっ、ぼく おつかいに きたんだっけ。」まさおさんは、おつかいを おもいだ  
して、あわてて かけだしました。

(1) おかあさんは だれのおかあさんですか。

1 まさおさんの おかあさん (37.5%)

2 よしこさんの おかあさん (62.5%)



- 3 じろうさんの おかあさん (0%)
- 4 しらないうちの おかあさん (0%)
- (2) この おはなしで、まさおさんの したことを 4人のひとが はなしました。だれのが いちばん いいですか。
- 1 まさおさんは じろうさんと いっしょに たのしく あそびました。(0%)
- 2 まさおさんは サーカスが すきで サーカスを みに いきました。(4.2%)
- 3 まさおさんは おつかいの とちゅうで あそびましたが、よしこさんに あって おつかいを おもい だしました。(75.0%)
- 4 まさおさんは おかあさんに ようじを たのまれると すぐ「はい。」という かんしんな ことです。(20.8%)

もんだい 3.

おとうとは 1年生だ。ほくの せいより 5センチくらい ひくい。  
 おとうとは かわの ランドセルを もっている。ほくは 1年生の ときからの きれの ランドセルだ。おとうとが がっこうで かいた さくぶん、こんなのが ある。

「ほくのは かわのランドセル、  
 おにいちゃんのは きれですよ。

ほくは エヘンと いぼってる。」

いぼることが とても すきで、みんなから ほめられた ときは、「エヘン、ど うだ。うでまえ、うでまえ。」と いうて、とても とくになる。

おとうとは がっこうの しゃくだいなんか するのが きれいの ようだ。はじめは 本気でやっ ているが、すこし たつと、じき あきて しまう。おかあさん が、「本気で つづけて やりなさいね。」と いうと、「はい、かしこまりました。」と いうて、べこんと あたまを さげる。その がっこうが おかしいので みんなで わらって しまう。

- (1) この文に どの だいを つけたら よいと おもいますか。
- 1 おとうとの さくぶん (10.4%)
- 2 おとうとの ランドセル (45.8%)
- 3 ほくの うち (0%)
- 4 ほくの おとうと (43.8%)
- (2) この文を 書いた人は、おとうとを どう おもって いますか。どうだと 書 いて いますか。それを つぎに 書きなさい。(39.6%)

もんだい 4.

大きな いろりに 赤い火が あたたかそうに もえて います。ろばたに こし

かけて、いちろうと、じろうと、ちよ子は おかあさんから、雪ぼうずの話をきいていました。

「ある おばあさんが、ゆうがた 遠くへ おとうふを 買いに行き、とちゅうで 道が わからなくなってしまったの。こまて ぼんやりしていると、向こうに まっ白い、目も はなも ない、のっぺらぼうの かおをした ぼうずが 立っている。はっ としたとき、もう それは 見えなくなったが、いつのまにか、手に かけていた かごの中の おとうふが すっかり なくなって いた んですって。」

「そんな おばけなんか うそだい。」

と、じろうが 言いました。

ろの上に かけて あった 鉄のなべが、ぐつぐつと 音を たてはじめました。

(1) 雪ぼうずの話をした人はだれか、きいていた人はだれか。( )の中に書きこみなさい。(72.9%)

話をした人 ( )

きいていた人 ( )

(2) これだけの話に題をつけるとしたら、どれがよいか。よいと思うものの上に○をつけなさい。

1 ろばた (14.6%)

2 鉄のなべ (0%)

3 雪ぼうず (75.0%)

4 おかあさん (6.3%)

5 3人の子供 (0%)

無答 (4.1%)

### 結果の概観

まず2年第3学期との比較からいうと「おつかい」(1)の問題は、書かれている特定の事実をつかむ、細目、細部の理解に関する質問である。正答率は、

47.8%→62.5%

と、かなり上昇している。しかしこの問題は3年第1学期にもやっており、その時の正答率は63.3だから、その時より悪くなっている。実際的人数としてひとりだけ悪くなったのだが、とにかく1学期から3学期まで上昇していない。ここに問題がある。設問(2)は

54.3%→57.1%→75.0%

と、これは非常によくなっている。この伸び方からすると、3年の2学期3学

期にかけて、こうした能力が大いについているということになる。

次に、雪ぼうず(1)(2)は、それぞれ75.0%と72.9%の正答率で、ほとんど完成に近い。登場人物が明かに出ている場合、その名前を拾い出すことや、ここに何が書いてあるかを漠然とつかむというようなことは、2年生まででかなりでき、3年生の終りにはほとんど完成するといってよいようである。

新問題の方の「まくあけ」の(1)はできが悪い。これは、書かれている事柄以上に、推理をふくむ設問であって、こういう書かれてないことについて、しかもかなりまで理論的に推理するということは、困難なことらしい。5年とか3年とかいう語が出て来るので、表面的にとらえて、それに反応した者が多い。テストには、そうしたいそがしいものが多いことも、一つの原因かも知れない。「まくあけ」(2)については、4の「ぼくが3年のとき『かくやひめ』のげきでおじいさんになった」というのをとった者が多かった。これは話の「まとめ」でなくて、話の中の一事件である。しかし子供の問題意識的なとらえ方では大事な点である。子供は文に対して冷静に、客観的にその意味をたずねるよりも、物語的、事件的な態度で臨むわけである。提示された文の、ほんとうの趣意や主題を求めるよりも、かってに自分の体験に結びつけて見て行く段階にあるわけである。この設問は「主題」をたずねているのでもあり、また、「まとめ」の力を見ているものでもある。

「ランドセル」の(1)はどの題をつけるかという設問で、1「おとうとのさくぶん」、3「ぼくのうち」をとった者はほとんどいない。約半数が2の「おとうとのランドセル」か4の「ぼくのおとうと」かどちらかをとっている。「文題」というもののあいまいさからいうと、どちらも正答としなければならない。しかし文の趣意というかねらいというか、主題そのものは、やはり、「おとうと」にあるわけで、そのとらえ方が、まだ十分でない。

「ランドセル」の(2)は主題なり情緒なりにふれているかどうかを書き出させてみたものである。感想は実に活発で、「弟をうらやましがっている」とか「弟がいぼっている」と書いた者がかなりあった。「かわいいと思っている」という趣意のものをすべて正答と見て、その正答率が39.6%であった。設問(1)の方で「ぼくのおとうと」という正しい選択肢をとった者が43.7%であるから、こ

の二つのことから考えて、こうした文のほんとうの主題にふれている者は40～50%だということになる。

#### 5. 4年第1学期のテストと結果解釈

##### 検査の趣意

文脈・文段の把握力を主とした。また、読後感を書きなれているか、読んだことをまとめる力がついているかを見ようとした。(読んだことをまとめるのは、この段階ではまだむりだと考えられるが、あとへの発展として実施する。)

問題2,4は前学年の第1学期末にやった問題文で、設問を変えた。

##### 問題の構成

もんだい文	文の種類	設問	正答
1 インクと油	説明文	(1) 文脈から適当な接続詞を選ぶ	ところが、つまり
		(2) 文脈からむずかしい副詞の解釈をする	すぐに、すこしも
2 おつかい	物語文	(1) 登場人物をさがす	よし子さんのおかあさんもいれて5人書いたものを正答。4人は準正答。
		(2) 題をつける	おつかい(おつかいのとちゅう等)
3 とのさまの茶わん	読後感	(1)(2) 文段(本文と感想とのみわけ)	(1)―(5)まで (2)―(7)まで
4 きんぎょ	生活文	(1) 読んだことを短くまとめる	1・2どちらも上中下の3段階に判定する
		(2) 感想を書く	

##### 検査の実施

実施は一括して、所要時間は正味30分。「(「インクをそそぐ」という語について説明しない。「油」とか「山国」が読めなかったら読み方を教えてもよい。)

##### もんだい 1.

つぎの文を 読んで あとの しつもん に こたえなさい。

インクを 水の上に そそいでみたら、どうなるでしょう。インクは みるみる水ぜんたいの中に ひろがってしまい、インクと 水は、すっかり、まざり合っ て しまいます。それは、インクが ひじょうに、水に とけやすいからです。

$\left( \begin{array}{l} \text{そこで (28.6\%)} \\ \text{それから (8.2\%)} \\ \text{ところが (5.3\%)} \\ \text{やっぱり (1.0\%)} \end{array} \right)$ 
 $\left( \begin{array}{l} \text{あぶら} \\ \text{なが} \end{array} \right)$ 
 油を 水に 流しこんでも、油は 水の上に どんと うい

ています。油と 水はいっこう まざり合いません。これは、油が 水に すこしも
 とけないからです。

けれども、水に とけない だけでは、油は 水の上に うくわけには いきませ
 せん。油が 水の上に うくのは、水よりも かるいからです。

$\left( \begin{array}{l} \text{つまり (44.9\%)} \\ \text{だから (34.7\%)} \\ \text{しかし (16.3\%)} \\ \text{そして (4.1\%)} \end{array} \right)$ 
 $\left( \begin{array}{l} \text{あぶら} \\ \text{なが} \end{array} \right)$ 
 油が 水にうくのは、油が 水よりも かるい上に、油が 水

に すこしも とけないからです。

(1) この 文の 二つの ( ) は、どれが いちばん いいか。上に ○を つけ
 なさい。

(2) 「みるみる 水ぜんたいの 中に ひろがってしまう。」の「みるみる」のいみ
 は どれが いいか。○を つけなさい。

みるみる  $\left\{ \begin{array}{l} \text{すぐに (26.5\%)} \\ \text{だんだん (57.2\%)} \\ \text{見えるか見えないように (12.2\%)} \\ \text{よく見ていると (4.1\%)} \end{array} \right.$

(3) 「いっこう まざり合いません。」の「いっこう」のいみは どれがいいか。○を
 つけなさい。

いっこう  $\left\{ \begin{array}{l} \text{すこししか.....(まざらない)(18.4\%)} \\ \text{すこしも.....(まざらない)(65.2\%)} \\ \text{すぐに.....(まざらない)(8.2\%)} \\ \text{いっぺんに.....(まざらない)(8.2\%)} \end{array} \right.$

もんだい 2.

つぎの 文を よんで、あとの しつもん に こたえなさい。

「まさおさん、おつかいに いって きて ちょうだい。」と、おかあさんが いいま
 した。まさおさんは、「はい。」と いって、すぐに でした。

とちゅうで、じろうさんに あいました。

いちばの そばで サーカスが にぎやかな おんがくを やって いました。

まさおさんは、じろうさんと いっしょに サーカスの かんぽんに みとれて
 いる うちに、おつかいを わすれて しまいました。

「まさおさん、どこへ いくの。」みると、よしこさんが にこにこしながら たず
 ねました。よしこさんは、おかあさんと おつかいに きたのでした。

「あっ、ぼく おつかいに きたんだっけ。」 まさおさんは、おつかいを おもいだして、あわてて かけだしました。

- (1) この 文には だれと だれが 出て きますか。出て くる 人を ぜんぶ 書きださない。 (53.1%)
- (2) この 文は どんな 話か よく かんがえて 「だい」を つけなさい。 (93.9%)

もんだい 3.

つぎの 文を 読んで あとの しつもんに こたえなさい。

- (1) きょうは、「とのさまの 茶わん」を 読んだ。
- (2) とのさまの 茶わんは、有名な 職人の 作った りっぱな 茶わんだった。
- (3) うすい、上等な 品で、熱い物を たべる 時は、いつも ゆびが あつくて、こまっ いて。
- (4) ある時、山国を 旅行して、ひゃくしょう家に とまった。
- (5) ひゃくしょう家で 出した茶わんは、そんなに 上等な うすい 茶わんではな かったから、熱い しるを のんでも へいきだった。
- (6) わたしは、いくら 上等の 茶わんでも、安心して 使えなければ なんにも ならないと 思った。
- (7) とのさまは、いろいろな 物が あることを 知らないから、ほんとうに 幸福 か どうか わからない。
- (8) この前に 読んだのも、とのさまの 話だった。
- (9) このごろ、とのさまの 話を 読むことが 多い。

1 「とのさまの 茶わん」の話は、どこまでか。正しいのに ○を つけなさい。

- (2)まで (6.1%)
- (3)まで (26.5%)
- (4)まで (8.2%)
- (5)まで (59.2%)

2 わたしが 思ったこと (かんそう) は、どこまでか。正しいのに ○を つけな さい。

- (6)まで (16.3%)
- (7)まで (44.9%)
- (8)まで (8.2%)
- (9)まで (30.6%)

#### もんだい 4.

つぎは よしこさんの 作文です。よんでから、あとの しつもん に こたえなさい。

わたしは、このあいだ、おかあさんと おつかいに 行きました。きんぎょやの まえを とおりました。みせさきには、あかや ぶちの きんぎょが たくさん いました。あまり かわいいので、おかあさんに おねがいして、きんぎょを 3びきと きんぎょばちを かって もらいました。

きんぎょは、うれしそうに はちの なかを およいで います。すこしも やすみなしに ぼくぼくと 口を あけて およぎまわって います。

わたしは きんぎょも ねるときが あるかしら、どうやって ねむるのかしらとおもって ねえさんに きいてみました。ねえさんは、「さあ、わたしにも よく わからないけれど やっぱり 目を つぶって ねむるのでしょうか。」と いいました。そうしたら、おとうさんが「きんぎょだって ねむる ときが ある。けれども 目を つぶらない。それは、たいていの さかなには、まぶたが ないからで、目を つぶることと ねむることとは べつになっている。だから、さかなは 目を つぶることが できなくても、りっぱに ねむれるのです。」

と、おしえて くださいました。

- (1) ここに 書いて あることを みじかく まとめて 書きなさい。(26.0%)
- (2) この文を 読んだ かんそを 書きなさい。(56.0%)

#### 結果の概観

共通問題のうち、「おつかい」の設問(4)は、「書かれている特定の事実をつかむ(登場人物をさがす)」という仕事としては、前と同じである。前にはおかあさんが二人出ている、その事実気がついているかどうかを選択法でできた。3年第1学期に63.3%の正答率であった。こんどは登場人物を全部書き出させた。選択法になっていないから、おかあさんがふたり出ていることに気がつかない。正答は53.1%であった。すなわち文面をそれだけ正確に、分析的に読んでいないようである。

「おつかい」の設問(2)も大体の意味をとらえるという仕事としては同じで、こんどは題をつけさせた。ところが、趣意が非常に明瞭な、自分たちの生活に近い文であったから非常によくできて93.9%という好成绩であった。

この成績から見て、もしこの「おつかい」の文に前と全く同じ設問をつけて

いたとしたら、設問(1)は恐らく70%ぐらい、設問(2)は80%あるいはそれ以上できたであろうと思われる。

問題4の「きんぎょ」も、材料文は同じであるが、これは設問が技能的に、すっかり変っているから、比較するべきではないであろう。

設問(1)は「みじかくまとめて書く」という作業で、選択技法でなく論文体のテストである。この成績は（人数）

	男	女	計
要点を書き抜いたもの	6	6	12
題目的なもの	2	1	3
自分でまとめているが、要領を得ないもの、最初だけ書いたもの、何も書いてないもの	4	5	9
みじかくないもの(100字以上)	6	7	13
大体みじかくまとめているもの	4	9	13
計	(22)	(28)	(50)

であって、優等生がむしろ本文と同じことをくりかえして、みじかくまとめ得ない方であった。

設問(2)は「かんそうを書きなさい」である。

	男	女	計
要点（おもしろいところ）を書きぬいたもの	5	2	7
要点を書きそれに「おもしろかった」と加えただけのもの	1	1	2
「おもしろかった」「ためになった」「いい」というような抽象的な評語だけのもの	5	5	10
要領を得ないもの、書いてないもの	1	2	3
感想らしいもの（具体的な書き方）	10	18	28
計	(22)	(28)	(50)

正答率とすると、56.0%となり、割合にいい。なお、優等生はすべて感想らしいもの、の部にはいつている。また、女子の方がいい。設問(1)についても女子の方がややよかったが、この時期においてみじかくまとめたり、感想を書いたりするのは女子がすぐれているといっているかどうか、この文だけ、またこの場合だけのことか、そこに問題がある。



問題1の「インクと油」については、数学型の子がよくできて、文学型の子はまちがえるというような傾向が見られた。優等生でも、文学型の子には「みるみる」を「だんだん」と解釈する者が多かった。

問題3の「とのさまの茶わん」も文脈・文段の問題であるが、これも男女別に分けてみると次の通りである。

「とのさまの茶わんの話はどこまでか」(人数)

	男	女	計
(2)まで	1	4	5
(3)まで	8	3	11
(4)まで	2	2	4
(5)まで	11	19	30 (60.0%)
(計)	(22)	(28)	(50)

「わたしが思ったこと(かんそう)はどこまでか」(人数)

	男	女	計
(6)まで	2	6	8
(7)まで	13	10	23 (46.0%)
(8)まで	3	2	5
(9)まで	4	10	14
(計)	(22)	(28)	(50)

これも女子の方がすこしいい。それに、女子の誤りは設問(2)の「(9)まで」という反応が多いことによる。そこまで感想だといえはいえないことはない。これに対して、男子の誤りは設問(1)の「(3)まで」という反応に多い。これはそそっかしい読みである。この時期において女子の方が読みが慎重だということはいえるのではあるまいか。

男女を通じて、「(6)まで」という反応がすくない。ここには「……と思った」とあるので3年生ぐらいまでであるとこれに引っかかる場所である。そういうところに上達が見られる。

## 6. 4年第2学期のテストと結果解釈

### 検査の趣意

基本的読解技能が中学年でどの程度完成されているかを調べる。あわせて、文段に区切る能力があるかどうかを見る。3年2学期の問題をもう一度取りあ

げて、発達の度合いを調べる。4問題、8設問で、第3問題と第4問題は3年2学期にやったことのあるもの。

### 問題の構成

もんだい文	文の種類	設問	正答
1 雪国	童話	(1) (1, 2, 3) (2) (3)	(1) (1左, 2右, 3左) (2) 3 (3) 2
2 えいが	感想文	(1) (2)	(1) 北きょくものがたり (2) 3
3 さむいあさ	生活文	(1) (2)	(1) わたし(よっちゃん), おかあさん, にいさん, いもうと(みよちゃん) (2) 4
4 やぎ	物語		3

### 検査の実施

実施は一括して、所要時間は 正味25分。

#### もんだい 1.

朝、目を さますと、白い雪が つもって いるのは うれしい ものですが、南の国と ちがって、北国では すこしも めずらしくは ありませんでした。ちらちらと、きのうも きょうも、そして おそらく あしたも、よくも 天に これだけの雪が ためてあると かんしんするほど、毎日 毎日 ふりつづけるからです。

雪には うれしく ありませんでしたが、わたしが 目を さますと、そうだ ゆうべは じろうが あの 雪の 中を かけて きたんだってと 思いました。

「おかあさん、じろうは。」

と、わたしは ねどこの 中から おかあさんに ききました。

「ちゃんと ねて いますよ。」

と おかあさんは こたえました。

まあ、よかったと、わたしは 思いました。

すると、また、おとうさんの ことが しんばいに になりました。

1 {の つぎは どちらが あって いますか。(○ ×を つけなさい。)

(1) さくしゃ(わたし)は、雪を {めずらしがって いる。  
めずらしがって いない。(87.0%)

(2) さくしゃ(わたし)は じろうが きた ことを {うれしがって いる。  
うれしがって いない。

(91.3%)

- (3) おとうさんは いま この うちに { いる。 / いない。 } (89.1%)
- 2 じろうと いうのは なんと おもいますか。(一つだけ ○を つけなさい)
- (1) おとうとの なまえ (30.4%)
- (2) しんるいの こどものなまえ (37.0%)
- (3) 犬の なまえ (28.2%)
- (4) ねこの なまえ (4.4%)
- 3 「おもいました」は だれが 思ったのですか。(一つだけ ○を つけなさい)  
(89.1%)
- (1) じろう
- (2) わたし
- (3) おかあさん
- (4) おとうさん

もんだい 2.

- (1) わたしは この えいがを 見るまえには 北きょくは 1年中 とても さむいところで、人は もちろん すんでいないし、動物なども あまり いないところだと思っ っていました。きっと みどり色の 木なども なくて、いちめん 氷山が ういている けしきだと そうぞうして いました。
- (2) わたしのそうぞうは だいたいあたって いました。
- (3) けれども 思ったより いろいろの 動物が いるのに おどろきました。
- (4) わたしは、この えいがを 見て、まえに 見た「さばくは 生きている」という えいがを 思いだしました。
- (5) 「さばくは 生きている」のほうは、この えいがとは はんたいで、あついで いろいろな 植物や 動物が 出てきました。色は とても あかるくに ぎやかでした。それに くらべると、「北きょく ものがたり」の ほうは、くらくて さびしいかんじでした。けれども 北きょくにも きせつが あるのです。とくに 夏と 冬が はっきり して いて、さむいなかでも 動物たちが げんきに せいかつ して いるのだ という ことを しりました。
- 1 この文は なんの えいがを 見た ことを かいて いますか。(書きこみなさい) (69.6%)
- ( )
- 2 文が (1)(2)(3)(4)(5) と 五つに 分けて あります。ぜんたいを 二つに 分けて読む としたら、どの 読みかたが、つづきぐあいが いいですか。  
(1, 2, 3, 4) の よいのに 一つだけ ○を つけなさい。

- 1 (1)だけ ひとりで読み, (2)(3)(4)(5)は ほかの 人が読む (10.9%)
  - 2 (1)(2)を ひとりで読み, (3)からあとは ほかの 人が読む (19.6%)
  - 3 (1)(2)(3)を ひとりで読み, (4)からあとは ほかの 人が読む (34.8%)
  - 4 (1)(2)(3)(4)まで ひとりで読み, (5)から ほかの 人が読む (28.3%)
- 無答 (6.4%)

もんだい 3.

よっちゃん、よっちゃん、もう8時よ。という こえに、わたしは ゆめから さめて、まだ ねむい目をすこし ひらきました。ふとんの すきから ちらっと みると、おかあさんが こたつの ふとんを どけて、あさの そうじを して いられます。たけしにいさんが きて わたしたちの へやの とを あけたので、つめたい かぜが すうと へやに はいって きました。おう さむい。わたしは くびを ちぢめました。おかあさんが おおきな こえで よっちゃんも みよちゃんも おきなさい。と いわれたので、いもうとも やっと 目を さました。

- (1) この文に でている人は だれとだれですか。つぎに かきなさい。(78.3%)

( )

- (2) この文の だいは なにが いいですか。いいのに ○を つけなさい。  
(67.4%)

- 1 よっちゃんの ゆめ
- 2 わたしの おかあさん
- 3 あさの そうじ
- 4 さむい あさ

もんだい 4.

やぎは こやの 中で メーメー ないていた。ほかに なきようも ないのだから、人間は、いつでも、やぎは メーメー なくものだと おもっている。

しかし、やぎだって きげんの いい ときも あるし、わるい ときも ある。きげんの いい ときは あごを だして あまえるような なきかたを する。そういう ときは、こやに はいって いても けっして むかって こない。からだを、こすりつけるように よってきて、みじかい しっぽを びょこびょこ ふる。

きげんの わるいときは、そうは いかない。こやの すみっこに ひっこんで、はいいろの 目でじっと はいって くる 人間を にらんで いる。そばへ よると、あたまを さげて、つかかってくる。きょうの やぎは、どう みても ごきげんが わるそうだった。

これは 長い 文の いちばんはじめで、これから いよいよ お話が はじまり  
ます。作者は いったい どういう お話を かこうと して いるのでしょうか。

(26.1%)

- 1 やぎの なぎごえの いろいろ
- 2 やぎにも きげんの いいときと わるといごと ある。
- 3 やぎの ごきげんの わるい日の できごと
- 4 やぎの くらしかた

### 結果の概観

まず、共通問題の「やぎ」についてみると、3年第2学期に14.3%であったものが、26.1%と、ずっとよくなっている。しかし、この種の文章にまだ十分慣れてはいないのである。「さむいあさ」の方は、

	3年の時	4年の時
大体の意味をとる	40.8	67.4
登場人物を数える	63.3	78.3

であって、大体の意味をとる方が上昇率がいい。登場人物を数える方は78.3%といえはもうほとんど完成に近いわけで、この辺までくると上昇率が低くなるものである。

いずれにしても、共通問題に関して、すべての点で、1年間の上昇が見られる。

問題1の「雪国」は設問の(2)「じろうというのはなんだと思いますか」が悪い。これは、情景をよほど深く、また物語的に考えてみないと、犬の名前ということが出て来ない。選択肢に「犬の名前」というのがあるのだから、それについても考えてみたらよさそうなものであるが、そこまで頭が働かないのであろう。物語などを読みなれていれば、そうした情景も思いうかべられるだろうと思ったが意外であった。しかし正答者にはやはり成績のよい者が多かった。

問題2の「えいが」は朗読の形で文段の分け方をたずねた。「二つに分けて読む」という場合には、分量的に分けることもある。選択肢4の「(5)からほかの人が読む」というのも、文段のことを別とすれば、誤りとはいえない。そういう設問の趣意がわからないで、これに反応した者があるかも知れない。

## 7. 4年第3学期のテストと結果解釈

## 検査の趣意

4年終了時の検査として、3年終了時よりもどれくらい力がついたかを共通問題で調べる。中学年の読解技能をできるだけ多くふくむようにする。(ただし、文段の分け方については1学期2学期に割合にやっているの、この度はやらない。)

## 問題の構成

3問題に9設問で、問題1「まくあけ」問題2「おつかい」は共通問題。

問題文	文の種類	設問	正答
1 まくあけ	生活文	(1), (1, 2)	(1) 4年 (2) わけ (a) 6年生を送る会 (b) 「5年のひろしくんと」とことわってあるので5年ではない (c) 3年のときやったと書いてあるので3年ではない 1と2のbが書けた者だけ正答
		(2)	(2) 3
		(1)	(1) 2 (2) 3
			(2)
		3 ニュートン 物語	物語
(2)	「はじめ……であったが……のことがあって……になった」とまとめてあるものだけ正答とする。		
(3)	感じたことが一つでも書いてあれば正答、ただし、「たいへん心のよい人だと思った」「ためになる話だ」というような余りはつきりしないものは誤答。		
(4)	(a) 「ニュートンはそのあとを見送って、しばらくぼんやりしていたが……」以下文末のところ全部あるいは一部。 (b) 「ひきょうもの」と叫んで……のところ。 (c) 「おばあさん、見てごらん、水車ができたよ」「水車だって——」のところ。 以上、(a)(b)(c)のどれ一つでも正答、他は誤答とする。		
	(5) (1, 2, 3, 4, 5)		

問題3の設問(2)(3)(4)は正誤という立場からだけでなく、くわしく読んで類型を分けるといい。読書ノートを書かせているかどうかとも関係がある。

### 検査の実施

実施は一括して所要時間は正味30分。

#### もんだい 1.

ジジーッ ジジーッと ベルが になると、ぼくは「よいしょ よいしょ」と まくをあけます。きょうは 6年生を おくる がくげい会で、ぼくと 5年の ひろしくんが まくあげです。

まくをあけると すぐ、よこから げきを みます。ぶたいでは いま、3年生が「はごろも」を して います。ぼくたちが 3年の ときにも「はごろも」を しました。その とき ぼくは りょうしに なりました。

3年の ときの ことを おもいだしながら じっと みて いると、とつぜん、ジジーッ ジジーッと、なんかいも くりかえして、ベルが なりだしました。ぼくは ほんと しました。まくを しめるのを わすれて いたのです。まっかな か おで 力いっばい まくを しめました。

ぼくたちは 先生に しかられないかと しんばいでした。

(1) この 文を 書いた 子は、なん年生だと 思いますか、それは なぜですか。

1 年生 (の 中に 書きこみなさい。) (29.7%)

2 そのわけ

(2) この 話の まとめとしては つぎの どれが いいか。

(一つだけ ○を つける) (61.7%)

1 ベルが ジジーッ ジジーッと になると げきが はじまる。

2 げきの まくをあける ときは「よいしょ よいしょ」といって あげる。

3 3年生の げきを みて いて、まくを しめるのを わすれた。

4 ぼくが 3年の とき「はごろも」の げきで りょうしに なった。

#### もんだい 2.

「まさおさん、おつかいに 行ってきて ちょうだい。」と、おかあさんが いいました。

まさおさんは、「はい。」と いって、すぐに でかけました。

とちゅうで、じろうさんに あいました、じろうさんも いっしょに いてくれることになりました。

いちばんの そばまで くと、ちんどんやさんが さむらいの かっこうを して おんがくを やって います。とても おもしろいので、まさおさんは、じろうさんと いっしょに ちんどんやさんに みとれて いました。そして おつかいの ことを わすれて いました。

「まさおさん どこへ いったの。」みると、よしこさんが にこにこ しながら たって います。よしこさんは、おかあさんと おつかいに きたのでした。

「あっ、ぼく おつかいに きたんだっけ。」まさおさんは、おつかいを おもいだして、あわてて かけだしました。

(1) おかあさんは だれの おかあさんですか。(63.8%)

- 1 まさおさんの おかあさん
- 2 よしこさんの おかあさん
- 3 じろうさんの おかあさん
- 4 しらないうちの おかあさん

(2) この おはなしで、まさおさんの した ことを 4人の ひとが はなしました。だれのが いちばん いいですか。(80.4%)

- 1 まさおさんは ちんどんやさんが おもしろいので ちんどんやさんを みて いました。
- 2 まさおさんが じろうさんと いっしょに おつかいに いって、よしこさんに あいました。
- 3 まさおさんは ちんどんやさんを みていて おつかいを わすれそうに なったが、よしこさんに あって おつかいを おもいだしました。
- 4 まさおさんは おかあさんに ようじを たのまれると すぐ「はい。」と いうかんしんな こです。

### もんだい 3.

つぎの 文を 読んで、あとの しつもん に 答えなさい。

アイザック・ニュートンは、いまから 3百年ほど 前に イギリスの ウールズ = ソープという 小さい 村で 生まれました。おうちには、昔からの かなり ゆたかな おひゃくしょうでした。だから ニュートンは、こうふくなくとも時代を すごすことが できた はずでした。ところが、かわいそうに、おとうさんが 早く なくなって おかあさんは ニュートンをおいて となり村へ かえってしまいました。ニュートンは ひとりぼっちに なって、おばあさんに そだてられる ことになりました。

おばあさんは とても やさしい 人で ニュートンをおかあさんが かわいがって くれました。しかし、おとうさん おかあさんが いないで さびしいし、からだも じょう



ぶで なかったので、ニュートンは だんだん (1)ひっこみじあんの、気の弱い  
性格になりました。めったに 外へも 出ないのです。大工さんの 仕事がすき  
で、3つ4つの ころから どこからか 板や 棒きれを 見つけて きて、ひとり  
で、ごしごし のごぎりで ひいたり、くぎを うったり して あそびました。

ニュートンは 6つに なって 村の 学校へ かよう ように なりましたが、  
(1)ひっこみじあんは、すこしも なおりません、それどころか、先生に 何か 聞か  
れると まっかになんて よく 返事が できません。そんな ふうでしたから、  
成績は いつも びりで、同級生から、ばかに されどおしでした。

ところが、3年生に なって まもなく その ニュートンを いっぺんに (2)ふ  
るいたたせる ような ことが おこりました。

ニュートンは 学校から かえてから、あいかわらず、毎日のように 大工仕事  
を やって いましたが、ある日、くしんして 水車を つく 作りあげました。

「おばあさん、見てごらん、水車が できたよ。」

「水車だって、——おやまあ、かわいい 水車だね、それで 動くのかえ。」

「動くさ。これで 粉も ひけるよ。おばあさん、いま、むこうの 川で ためして  
くるから、小麦を すこし ちょうだい。」

「はいはい、粉やさん。それでは、これだけ 粉に してきて もらいましょう。」

ニュートンは 一にぎりの 小麦を 小さな ふくろに 入れてもらおうと、うれし  
そうに 表へ とびだしました。そして、家から 少し はなれた 小川の ちょう  
どよい 所を 見つけて 水車を しかけました。すると 水車が くるくると ま  
わって 麦を ひきはじめました。

「あ、まわる。まわる。うまく いったぞ。」

ニュートンが 思わず 手を たたいて にっこり 笑って いた ときの こと  
です。

「ほう、よくまわるんだな、アイザック。それ だれに こしらえて もらったんだ  
い。」

とつぜん、うしろから、声を かけた ものが ありました。ふり返って みると、  
同級生の なかでも らんぼうもの の トムが、ふたりの なかまと ならんで 立  
って いました。

「だれにも つくって もらわないよ。ほく、ひとりで 作ったんだ。」

ニュートンが とくいそうに 答えると、

「うそを つけ、おまえなんかにつくれるものか。」

といって トムは、ぐるぐる まわって いる 水車を もちあげました。ニュート  
ンは、

「あ、だめだよ。そんなに らんぼうしちゃ。」と あわてて とめました。

「へん、けちんぼ、いらんよ こんなもの。」

トムは そういって、いきなり、その 水車を 地面へ 投げつけました。  
 ニュートンが、はっと 顔色を かえて トムを見あげると、  
 「なんだ その顔は。——くやしいか。くやしかったら かかってこい。」  
 トムは そういって ニュートンを けとばしました。やせっぽちの ニュートンは、2,3メートル うしろに しりもちを ついて しまいました。しかし、つぎのしゅんかん  
 「ひきょうもの」  
 とさげんで、立ち上った ニュートンは、強い 犬のように トムに とびついて  
 ④ひっしになって ぶったり、ひっかいたり しました。  
 「あ、いたい、いたい。アイザック、はなせ、ゆるしてくれ、ぼくが わるかった。」  
 トムは さけび声を あげて にげて 行きました。  
 ニュートンは そのあとを 見送って、しばらく ぼんやり して いましたが、やがて 心の中に ふしぎな ④自信が でて きました。  
 「ぼくは、いままで、人から よむむしと いわれて いたし、じぶんでも そうだと 思っていた。しかし、いま 思いっきり かかって いたら トムに 勝つ ことが できた。そうすると べんきょうの ほうでも いっしょうけんめい やれば、もっとできるように なるかもしれないぞ。」そう 思っ たら、それから、いっしょうけんめい べんきょう しました。学校の 成績は どんどん あがって きました。それから、いっそう ④自信が ついて べんきょうに ⑤うちこんだので、つぎの年には 組の なかで できる人の方になりました。

- 1 こういう 文を なんと いいですか。(あっているのに ○をつける)(17.0%)
  - (1) 詩
  - (2) げき
  - (3) でんき
  - (4) どうわ
- 2 どんな お話でしたか。なるべく みじかく まとめて つぎの あいている ところに 書き こみなさい。(63.8%)
- 3 この お話を 読んで どんな ことを 感じたか。かんそうを 書きなさい。(82.9%)
- 4 この お話で どころが 一番 大事な ところでしょうか。作者は どこに 力を いて いますか。前の 文について ところが 大事だと思 ったところに —を ひきなさい。(51.1%)
- 5 つぎの (1)(2)(3)(4)(5)の ことばの いみは どれが あって いますか。この ことばの 出ている ところを よく 読んで かんがえなさい。(あっているのに ○を つける)
  - (1) ひっこみ じあん (38.3%)

- 1 ひっこんで ばかり いる人
  - 2 ひっこんで ばかり いること
  - 3 ひっこんで いじわるを すること
  - 4 学校<sup>がっこう</sup>の 成績<sup>せいせき</sup>が わるいこと
- (2) ふるい たつ (57.4%)
- 1 ゆうきを だす
  - 2 おこり 出す
  - 3 成績<sup>せいせき</sup>が よくなる
  - 4 ふるえて 立っている
- (3) ひっしになる (87.2%)
- 1 いっしょうけんめい になる
  - 2 大きわざをする
  - 3 げんこつを かためる
  - 4 相手<sup>あいて</sup>に かじりつく
- (4) 自信<sup>じしん</sup>がつく (78.7%)
- 1 じまんする
  - 2 自分<sup>じぶん</sup>の ために なることが わかる
  - 3 自分<sup>じぶん</sup>の ことは 自分で するようになる。
  - 4 自分に 力のあることが わかる。
- (5) うちこむ (19.1%)
- 1 なぐり かかる。
  - 2 うって 入れる。
  - 3 いっしょうけんめい になる。
  - 4 よい点<sup>てん</sup>を とる

### 結果の概観

問題1 「まくあけ」は、二つの設問がある。

	3年	4年
(1)	16.7	29.7
(2)	33.3	61.7

(1)の方の理由を書かせたところが新しいわけだが、どちらもそれぞれ上昇している。(2)の方についてみると非常に上昇している。

問題2 「おつかい」に、二つの設問がある。

	3年	4年
(1)	62.5	63.8
(2)	75.0	80.4

これは、どちらも余り上昇していない。正答率もこの辺までくると上昇が悪

くなる。(1)の方は3年第1学期にすでに63.3で、3年第3学期では、むしろ悪くなり、4年第3学期でこの程度であるから、こういう能力は、3年4年で余りのびないというべきであろう。つまり書かれている事実ではあるがそこに一つのおとし穴があって、よほどくわしく、正確に考えなければならぬものであると、余りのびない。2年第3学期は47.8で、それから3年第1学期にかけてはかなり上昇したのに、60点以上になるとあまりふえないということには、深い根がありそうである。

問題3の「ニュートン」は長文である。しつもん(1)としつもん(5)の中の二つの語を除き、他の六つの質問は、すべてよい成績である。この成績から次のことがいえそうである。

- (1) 文学形態(文章形態)に対する知識や自覚は、まだ十分でない。
- (2) 単語を文脈に即して正確に理解し解釈する力は十分でない。それよりも、語の形式からかたくなに意味を想像してすませている。
- (3) 大体の意味をとる力はできている。しかし、「まとめ」としては不十分。
- (4) 要点(大事なところ)を見出す力はできている。
- (5) 感想は持つ。それはかなり活発である。

#### 8. 中学年における読解技能の発達

3年第1学期から4年第3学期まで各学期末におこなった読解力テストを、その設問のふくむ技能的性格によって区別してみると、次の(37ページ)設問種類別正答率一覧表ができる。この表から次のことがわかる。

- (1) 共通問題は、一つ例外があるが、すべて、それぞれ点数がよくなって行く。発達が見られる。
- (2) 「大体の意味をとる」「書かれている特定の事実をつかむ」というような読解技能は大体完成している。
- (3) 「文段に分ける」ことも、わかりやすい文では大体できる。
- (4) 「主題や情緒にふれる」能力は、かなり進歩しているがまだ十分でない。
- (5) 「文脈から特定の語の用法や意味をとらえる」ことは、その文脈の性質や語の性質によってちがう。正確なものを要求する時には、まだ困難がある。
- (6) 「感想を書く」ことはできる。

その他の技能・能力については、検査回数がすくないので、一般的なことはいえない。

設問種類別正答率一覧表

設問分類	3-1		3-2		3-3		4-1		4-2		4-3	
1. 大体の意味をとる	おつかい 2 57.1	さむいあさ 2 40.8	おつかい 2 75.0	雪ぼうず 2 75.0	(おつかい 2) 93.9	雪国 1 89.1	おつかい 2 80.4					
2. 話の筋をつかむ	王様の馬車 1 44.9								さむいあさ 2 67.4			
3. 書かれている特定の事実をつかむ(登場人物を数える)	おつかい 1 63.3	さむいあさ 1 55.1	おつかい 1 62.5	雪ぼうず 1 72.9	(おつかい 1) 53.1	さむいあさ 1 78.3	おつかい 1 63.8		(えいが 1) 69.6			
4. 文脈から特定の語の用法や意味をとらえる	きんぎょ 1 30.6	やきゅう 1 34.7	まくあけ 1 16.7		インクと油 2 26.6	雪国 2 28.3	まくあけ 1 29.7					
5. 文段に分ける		やきゅう 2 65.3			インクと油 3 65.5	雪国 3 89.1			えいが 2 34.8			ニュートン 5 56.1
6. 文と文との続きぐあいかわかる(接続詞の用法)					とのさまの茶わん 1 60.0							
7. 主題や情緒にふれる	きんぎょ 2 10.2	やぎ 1 14.3	ランドセル 1 43.7		とのさまの茶わん 2 46.0	えいが 2 34.8						ニュートン 4 51.1
8. 感想を書く		雪がつもる 2 16.3	ランドセル 2 39.6		インクと油 1 50.0							まくあけ 2 61.7
9. 短くまとめる			まくあけ 2 33.3		(きんぎょ 2) 56.0							(ニュートン 3) 82.9
10. 内容を吟味して読む	ミズーリ川 2 8.2				(きんぎょ 1) 26.0							(ニュートン 2) 63.8
11. 目的にしたがって要件をとらえる		こうこく 1 10.6										
12. 文学形態の知識	ミズーリ川 1 22.6											ニュートン 1 17.0
設問数	8	7	8	9	8	8	9					

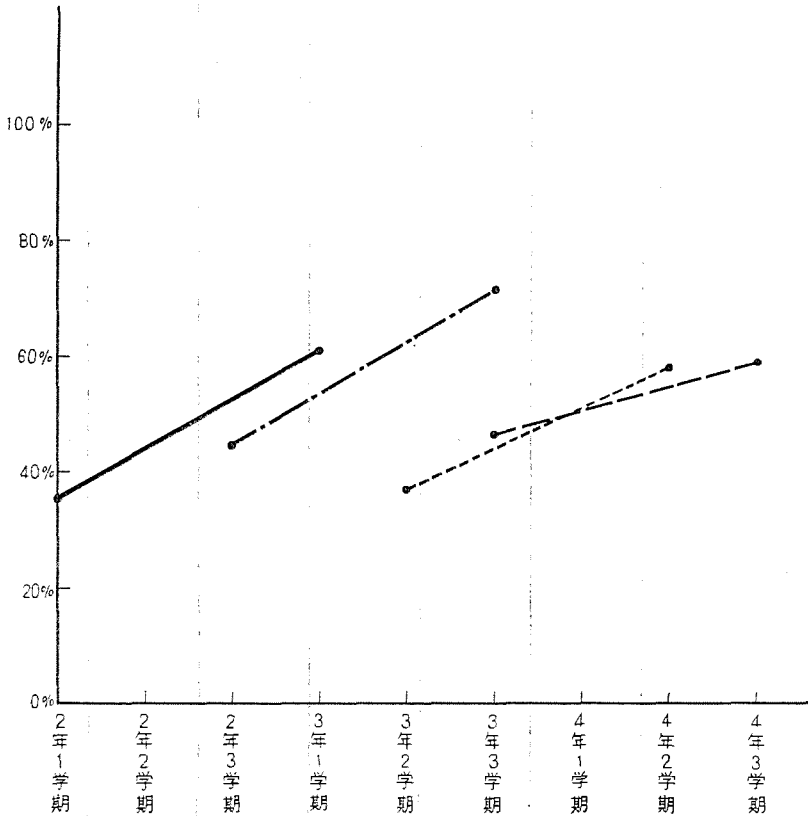
注 { — のついているのは同一問題が二回以上出ている場合。  
( ) は選択法でなく、答を書き出させた場合。

なお、読解力の伸びる時期を知るために共通問題について、設問のふくむ技能は無視して、その正答率だけを調べてみた。

共通問題は

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 2年第1学期と3年第1学期 | おつかい      |
| 2年第3学期と3年第3学期 | おつかい 雪ぼうず |
| 3年第2学期と4年第2学期 | さむいあさ やぎ  |
| 3年第3学期と4年第3学期 | おつかい まくあけ |

である。これをグラフ化すると次のようになる。

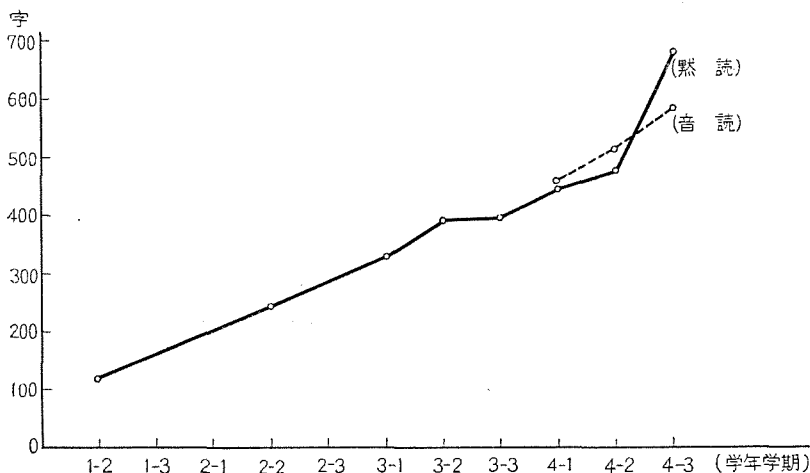


## B 読書速度の発達

### 1. 一般的傾向

読書速度（音読・黙読）については、次のような結果を得た。

1分間読字数の発達



1年から3年までは音読・黙読を分けなかった。自由にやらせた。大部分は音読あるいは微音読であった。またこれは、すべて同一の文で、同一の条件の下に実施した。この点で4年2学期の黙読が悪いことには、何か偶然的な要因があるようにも思われる。（たとえば、単に速く読むことを強調する場合と、誤りなく速く読むことを強調する場合ではちがう。また、テストの際の条件特に隣室の騒々しさの問題もある。わずか3分間のテストであるために、十分落ちつかないうちにすぐに開始すると結果が悪くなる、3分間の計り方、ストップ・ウォッチの使い方の問題もある。——しかし、この場合には何であるか思いあたるものがない。）

### 2. 検査の手引きと問題

検査の手引（4年第1学期の場合）

1. これまでの問題文を少し書き改め、順序を変えた。
2. 実施は例の通り正味3分間（厳密に）とする。終わった時しじるしをつけさせる。

今回は練習問題がないので用紙を配ったら、すぐに名前だけ書かせ、合図のあるまで机上に伏せておかせろ。

3. 黙読テスト指示 問題文(1)~(4)

「声を出さなくてもできるだけ速く読みます。そして質問にまるをつけて行きます。どんどんやります。答をまちがえないで、なるべくたくさん、さきの方まで読んだのがいいのです。3分で やめ といいます。それまでどんどんやりなさい。はじめ といってからはじめます。では、表を出してください」「では、はじめ」(みんなが下を向いた時から秒数をかぞえる。……3分で「やめ、しるしをつけて、正面を向きなさい。」……集める。)

4. 音読テスト指示 問題文は(21)~(24), (17)~(20), (13)~(16), (9)~(12), (5)~(8), (1)~(4)の順にとじておく。

「声を出して できるだけ速く読みます。ふだん声を出さずに読んでいる人も、きょうは小さな声を出してできるだけ速く読んでみてください。質問にはまるをつけます。そしてどんどんやります。だまって読んだ時とどっちがたくさん読めるか、たくさん読めるだけではいけない。答をまちがえないでください。どっちがまちがいが少ないか。どんどん読んでみましょう。はじめといってからはじめます。……(以下黙読の指示と同じ)」

読書速度検査問題

(1)

せんせいが、「これから、みんなが いつも いきたいなあとおもっているところへ、つれて いって あげるよ。」とおっしゃいました。みんなが「わあ、うれしい。」「せんせい どこですか。」と いいました。わたしは すぐに としょしつだろうとおもって いました。やっぱり としょしつ でした。

みんなで どこへ いきましたか { としょしつ  
りかしつ  
うんどうば

(2)

まつむらさんが ずっと やすんで いるので おみまいに いきました。まつむらさんの ちは、おとうさんも おかあさんも おつとめなので だれも いません。まつむらさん ひとりで ねて いました。わたしは まつむらさんが はやくよくなって、がっこうへ こられるようになる といっておもいます。

だれを みまいに いきましたか { まつもとさん  
むらたさん  
まつむらさん

(3)

おもてに でて みたら、みんなが ふうせんを ついて いました。かぜに 吹られて ふわふわ おりてきます。みんな おもしろそうに あそんで います。ぼ



くも ほしくなって、おかねを もらって、いそいで かいに いきました。けれど  
も ふうせんは もう うりきれて ひとつも ありませんでした。

なにを かいに いきましたか { ふうせん  
たこ  
こま

(4)

きょうは せんせいに さんすうの テストを かえして いただきました。みると  
ひゃくてん でした。ぼくは うれしく なりました。となりの のぶごさんは  
一つ まちがえて 90てん でした。みっちゃんは 80てん でした。ぼくは はやく  
おうちに かえって おかあさんに みせたく なりました。

ぼくは なんてん でしたか { ひゃくてん  
90てん  
80てん

(5)

けさは はやく おきて おつかいに いきました。やおやさんも さかなやさん  
も まだ みんな ねむって いましたが、おとうふやさんの みせさきには、もう  
まっしろな 四かくの おとうふが たくさん でて いました。わたしは おとう  
ふを 1つと、あぶらげを 2まい かって かえりました。

この子は なにを かいに いきましたか { おとうふ  
やさい  
さかな

(6)

ひるごはんを たべてから、おともだちと あそびました。それから べんきょう  
しようとおもって、えんぴつを けずりました。よく けずれたので ためしに  
まどガラスに かいて みました。そのとき ちょうど おかあさんが きて、「い  
つも ガラスに らくがきを するのは よし子ちゃんね。」と いうて おこりまし  
た。

おこったのは だれですか { おとうさん  
おかあさん  
おばあさん

(7)

きょうは 日ようびで、がっこうは やすみです。うちで おとうさんと くつみ  
がきを しました。いちばんさきに わたしの くつを みがきました。シュッ シ  
ュッと おとを たてながら みがきました。つぎに ぼうやの くつと、おかあ  
さんのくつを みがきました。それから おとうさんのを みがきました。

いちばん あとで みがいたのは だれの くつですか { おかあさん  
おとうさん  
ぼうや

(8)

うちのおとうさんは、まえにはおかしのこうばに つとめて いました。雨がふって かさを もって いかなかったとき、ぼくは こうばまで かさを もって きました。こうばの もんの ところで まって いると、あとから あとからと 人が 出てきて なかなか みつかりませんでした。

この子のおとうさんは まえに どこに つとめて いましたか { がっこう  
えき  
こうば

(9)

きのう どうぶつえんへ きました。くじゃくが おりの 中で すこし はねを ひろげて いました。くじゃくの えさを もって きた おじさんが、「てを たたくと、はねを たくさん ひろげますよ。」と いったので、おとうさんと まさこと わたくしと、3人で いっしょけんめい てを たたきました。

てを たたいたのは なんにんですか { 2人  
3人  
4人

(10)

みいこが にゃんにゃん なきながら おしれの 声を あけようとして いました。わたしが あけて やると、ふとんの 上に のりました。わたしは、ふと きがついて、二かいへ つれて きました。みいこは あかちゃんが うまれる のです。わたしは いそいで おかあさんの ところへ きました。

おかあさんの ところへ いったのは { わたし  
あかちゃん  
みいこ

(11)

ぼくの ちは ようふくやです。おみせには ぬいかけの ようふくや できあがった ようふくを きた おにんぎょう みたいな ものが いくつも ならんでいます。おみせで はたらいて いる 人は、8人です。みんなで てわけをして、ミシンを うごかしたり、ちょっきん ちょっきんと きれを きったりして います。

おみせで はたらいて いるのは みんなで なん人ですか { 7人  
8人  
9人

(12)

この あいだの りかの じかんの おわりに、せんせいが、「この つぎには でんぶんつくりを しましょう。」と おっしゃいました。わたしは でんぶんって なんだか しりません。なにを するのだろうと おもっていると、しん一くんが、

てを あげて「せんせい、でんぶんって なんですか。」と ききました。

せんせいに しつもん したのは { わたし  
しん一さん  
はるおさん

(13)

きょうは さむいので、おともだちも あそびに きません。わたしは 一日じゅう うちの <sup>なか</sup>中で、べんきょうを して いました。おかあさんが「きょうは よくべんきょうが できましたね。」と いうて、おしるこを つくって くださいました。おいしくて 3ばいも たべました。しゅくだいも すっかり すみました。

おかあさんが なにを くれましたか { おいも  
おかし  
おしるこ

(14)

ばんごはんを たべたあとで、おとうさんと すもうを とって あそびました。ぼくが まけると、おとうとが たすけに きます。おとうとが まけると、ぼくが たすけに いきます。ふたりで いくら ちからを だしても おとうさんには かないません。でも おとうとが 1かいだけ おとうさんに 勝ちました。

おとうさんに かったのは だれですか { おとうと  
ぼく  
にいさん

(15)

きょうは <sup>おお</sup>大そうじなので、すみから すみまで きれいに ふきました。せんせいが ほうきの ながいで、てんじょうの すずを はらって くださいました。きれいに おそうじした あとは とても よい きもちです。みんなで いすに こしかけて、きょうしつ の あちら こちらを ながめました。

せんせいは なにを しましたか { きれいに ふいた。  
てんじょうの すずを はらった。  
あちら こちらを みた。

(16)

ゆうべは すこし くもって、おつきさまが かさを かぶって いたので、「あしたは あめかな。はれると いいが、さんねんだなあ。」と おもって ねました。けさ おきて みると、やっぱり あめが ふって いました。だんだん ほんぶりに なって、とうとう わたしたちの けんがくは えんきに なりました。

きょうの てんきは { はれ  
あめ  
くもり

(17)

きのう がっこうから かえって みると、かなあみの なかに かわいい うぐ

いすが はいって いました。そこへ にいさんが かえって きたので、ぼくは にいさんに、「この うぐいす だれに もらったの。」と ききました。そうしたら にいさんは、「となりの おじさんが とって くれたんだよ。」と いいました。

うぐいすを とって くれたのは だれか  $\left\{ \begin{array}{l} \text{にいさん} \\ \text{おとうさん} \\ \text{となりのおじさん} \end{array} \right.$

(18)

わたしが おつかいから かえると おばあちゃんが、「すず子、いい子だね。かたを たたいて おくれ。」と いいました。わたしは「はい。」と 言って たたいて あげました。おとうとが よこで みている、「おねえちゃん うまいなあ。あんまさんみたい。」と いいました。わたしは とくいになって どんどん たたきました。

わたしは なにを しましたか  $\left\{ \begin{array}{l} \text{かたたたき} \\ \text{おつかい} \\ \text{るすばん} \end{array} \right.$

(19)

きのうは うんどうかいでした。1年生の つなひきの つぎが わたしたちの かけっこです。わたしたちは 6人で かけました。ドンと ピストルが なったときおもわず どきと しました。だれかが わたしの まえを はしっていたが、だれだか わかりません。1とうは はるえさんで わたしは 2とうでした。

わたしは なんとうですか  $\left\{ \begin{array}{l} \text{1とう} \\ \text{2とう} \\ \text{3とう} \end{array} \right.$

(20)

まいあさ、うちの もんの まえを そうじを するのは、ぼくの やくめです。きのうは かぜが ふいて きのはが ちったので、けさは とても たいへんでした。おかあさんも いっしょに やって くださいました。とおりがかった人が、「ごくろうさま。きれいに なりますね。」と いったので ぼくは うれしく なりました。

「ごくろうさま。」と いったのは  $\left\{ \begin{array}{l} \text{うちのおかあさん} \\ \text{となりのおばさん} \\ \text{とおりがかった人} \end{array} \right.$

(21)

うちの ますよは きょうだいの なかで いちばん <sup>下</sup>なので、とても あまえます。きのう、おとなりから えいがの けんを 2まい もらったので、おとうさんと わたしとで、えいがに いくことになりました。そうしたら ますよが、「ますよも つれていって。」と 言って わあわあ なきました。

えいがの けんは なんまい もらいましたか  $\left\{ \begin{array}{l} 1 \text{ まい} \\ 2 \text{ まい} \\ 3 \text{ まい} \end{array} \right.$

(22)

いもうとは よし子と いう なまえで、4つです。いつも おもしろい ことを います。よその 人が、わたしに とても よく にて いると います。まい あさ おとうさんが かいしゃに いくとき、大きな こえで「いっていらっしゃい。はやく かえって きてね。おみやげ かって きて ちょうだい。」と います。

おとうさんは どこに いきますか  $\left\{ \begin{array}{l} \text{かいしゃ} \\ \text{やくしょ} \\ \text{がっこう} \end{array} \right.$

(23)

わたしの うちに ずっと まえに ねこが いました。けれども、どくねずみを たべて しんで しまいました。このごろ また ねずみが あばれるので、おばあさんは、よその 人が、くると すぐ、「どこかに かわいい ねこの 子は ないかしら。ねずみが あばれて こまるんだが。」と います。

この子の うちでは なにを かいたがって いますか  $\left\{ \begin{array}{l} \text{いぬ} \\ \text{ねこ} \\ \text{にわとり} \end{array} \right.$

(24)

ずっと まえの ことです。ぼくは ともだちの しんちゃんと としおちゃんと 3人で 山へ いきました。山は あおぼが 目に かがやいて いました。山の なかへ はいると 木のはが りょうがわから いっぱい しげっているので、みちが うすぐらい ほどでした。しんちゃんが、石に つまずいて「いたい。」と いて ころんで しまいました。

ころんだのは だれですか  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ぼく} \\ \text{しんちゃん} \\ \text{としおちゃん} \end{array} \right.$

### 3. 結果の考察

読書速度には4段階ある。

(1) 急いで目を通す……ひろい読み、とぼし読み、走り読みなどといわれる。

新聞の紙面に目を通す場合、本のページを繰って内容を概観する場合。

(2) 大急ぎで読んで行く……できるだけ速く読むのだが、読み落しをしないように、全文に目を通す。

(3) ふつうの速さで読む……小説などを読む場合。

(4) 気をつけて読む……むずかしいものを読む場合、味いながら読む場合  
意味を考え考え、問題を持ちながら読む場合。

われわれがここで測定しているのは(2)の能力である。(3)の場合の音読については国立国語研究所報告9(「読みの実験的研究」)に、

1年	2年	3年	4年	5年	6年
70字	182字	197字	167字	194字	219字

という結果が出ている。(ただし、この場合2年3年4年の数字は正常ではないと思われる。)

こうした(2)の読みが3年生までは音読・黙読未分化で、大部分は自然の音読であった。

4年第1学期から嚴重に音読・黙読を区別して実施した。4年第1学期では読んだ分量にはわずかの差しか見られなかったが(音読36.8行、黙読36.5行)、読み誤り(誤答)の数には目立った差があって、音読の方がずっと誤答がすくなかった。しかもこの傾向は4年第3学期においても同様であった。(かっこ内は第3学期)

		黙読	音読
男子	21名(20名)	15(10)	5(1)
女子	27名(27名)	21(11)	10(5)
	計	39(21)	15(6)

これで見ると、4年第1学期では読みの速さにおいても読み取りの正確さにおいてもまだ音読の方がまさり、4年第3学期では読みの速さでは黙読の方がまさっているが、正確さではまだ音読の方がまさっているという段階である。

## C 音読技能の発達

### 1. 中学年の音読技能の問題点

音読技能については、2年第3学期末において「文として読む者」69.6%、「語として読む者」13.0%、「一字ずつ読む者」1.0%であった。中学年になれば普通はもっとずっと流暢になるが、読み誤りはかえってふえるということ

が報告されている。(注2)

(注2) 国立国語研究所報告9「読みの実験的研究—音読にあらわれた読みあやまりの分析」参照。

この問題について、われわれは4年の第1学期と第2学期に、実験学校で、次のような問題と方法で、音読技能テストを試みた。

## 2. 4年第1学期の音読テスト

### 検査の手引

個人検査でまず「子ねこ」の文、1年の終りと2年生の終りにやったものを、前と同じ方法で読ませる。

○指示「先生にきこえるように、小さな声を出して、ふつうの速さで、どんなことが書いてあるか考えながら読みなさい。」

評価観点

1. すらすらと読めるか。
2. わかって読んでいるか(読後にきく)。
3. 読みあやまりが多いかどうか(用紙に記入する)。
4. 会話のところと地の文と多少調子を変えて読むようになっているかどうか。

この四つの観点について、全体的に上、中、下の三段階に分け、また個人個人について目立った特徴を記入しておく。

### 読ませた文

(これを読ませながら、もう一枚の同じプリントに読み誤りを書き込み、流暢さの度合いや、質問による理解度もそのプリントに書き込んでいく。)

いけの まわりに、子どもが おおぜい あつまって いました。

「なんだろう。あんなに。」

たろうさんは、いそいで かけて いきました。

いけの 中には、なわで しぼられた 子ねこが、いまにも しずみそうに、木のきれはしに つかまって いました。

「どうしたの、この ねこ。」

たろうさんは、そばの 子に きいてみました。

「としちゃんの うちのおぜんの 上から さかなを とって いったんだって。わるい のらねこなんだよ。」

「そうか、と、たろうさんは おもいました。でも かわいそうで しかたが ありませんでした。」

「ちょうど そこへ こうちょうせんせいが とおりかかりました。」

## 結果の概観

すらすら読めない者が男子に4名、女子に3名、計7名いた。それに、読みちがいが、内容理解、それから会話の読みを加えて音読点数をとったところ、

	男 21名	女 28名	計
優	10名	10名	20名
劣	5名	6名	11名

で、女子も劣ってはいないという結果が出た。(この学級は女子に優秀児が少なく、一般成績をはじめ理解その他の点で男子の方が常に優位にある。)特に会話のところを会話らしく読むという表現的な読みとか朗読調とか、そういう点では、女子の方がずっとすぐれていた。ただ女子には声の非常に小さくてよく聞きとれないような読み方をする者が2名あった。

### 3. 4年第3学期の音読テスト

#### 検査の手引

#### 1. 読みぶりの検査(個人検査)

もんだい文「さんたろうと おじそうさん」

#### 2. 指示 先生に聞こえるように、小さな声を出して、ふつうの速さで、どんなことが書いてあるか、考えながら読みなさい。

#### 3. 評価観点

1) すらすらと読めるか——ひろい読みではなくなったか、会話のところを、地の文と多少調子を変えて読むようになっているか。

2) わかって読んでいるか(読後にきく)。

3) 読みあやまりが多いかどうか(用紙に、ぬかしたところ、つけ加え、読みあやまり、教師が手伝ったところなどを記入しておく)。

この三つの観点について、全体的に上、中、下の三段階に分け、また個人個人について目立った特徴を記入しておく。

#### 読ませた文

ある冬ふゆ それは さむい さむい 日ひでした。これから お話はなししようとするその少年しょうねん さんたろうは、はなみずを たらしながら 町まちからの もどりを、いつになく いそぎ足あしで すたこら すたこらと あるいて いきました。

もう 村むら 近く、とうげを くだって、ひるでも うすぐらい 松まつなみ木きに かかると、そこに つじが あって、道みちばたに 石いしのおじそうさんが しょんぼりとさびしそうに 立たって いました。いつも 見みなれて いる ことでは あるが、そ



の日はなぜか とくべつ さびしそうに見えたので、  
 —いくら おじぞうさんだって さむいだろうなあ こんな 日に—  
 と かわいそうに 思って、ふりかえり ふりかえり その まえを とおりすぎま  
 した。  
 すこし 行くと うしろから こえを かけた 者が あります。  
 「おい さんちゃん。」  
 さんたろうは ふみとどまって 見まわしました。けれど だれも どこにも お  
 りません。

### 結果の概観

流暢さは3段階に分けたが、非常に悪い者は男子18名中1名、女子28名中1名であった。すこし流暢でない者は、男子7名、女子4名であった。また男女ともに非常に速く読み得る者があり、女子では読みぐせの目立つものがあつた。読み終ってから理解のテストをしたが、この場合、流暢に読むことと内容の理解とはほとんど関係がなかつた。

流暢さ、理解、読みなおし、読み誤り、とぼし読み、つけ加え、区切り方の適・不適、会話への特別の意識の八つの観点から3段階に判定してみた。

	男18名	女28名	計
優	7	9	16
中	4	12	16
劣	7	7	14

すなわち、男子には音読の非常によい者と非常に悪い者とがいる。

なお、この音読技能テストのうち、理解を除いた他の観点について、2回の結果を合計して、各児童の音読技能点数とし、別の黙読理解テストの結果とくらべたところ、相関係数は0.69であり、読速テストの相関は0.60であつた。

(興水)

## D 読みにおける眼球運動

ここで報告する内容は、オフサルモグラフ(注1)という、目の動きを撮影する

(注1) オフサルモグラフ(Ophthalmograph)の性能、構造、使用法などについては、国語研究所年報5および8に、詳しくふれておいた。

機械を使って、中学年の子どもが文章を読むときの目の動きを調べた、実験的研究の報告である。

掲掲のA文章、B文章を実験学級の子どもが3年のときに、C文章は4年のときに読ませて、目の動きの各技能の特徴と、それを規定する要因はなにか、をみた、その部分の報告をここでは扱う。

被験者になった子どもは実験学級の子どもである。この人数は実験のときの欠席や、撮影の失敗などのために、多少の変動があるが、約50名の子どもについて、3年の2学期（昭和30年秋）と4年の2学期（昭和31年秋）に、実験をした。

#### 児童に読ませた文章

##### A文章（3年生用）

たろうさんの うちの きんじょに いけが あります。いけには さかなが たくさん います。たろうさんは よく つりに いきます。まさるさんを さそって いきます。よしこさんを さそうことも あります。

#### 理解度テスト

- (1) だれが、なにをしたお話ですか。
- (2) どこに行ったのですか。
- (3) だれと行ったのですか。 (以上5点満点)

##### B文章（3年生用）

きのう みさ子さんは おかあさんの ご用で かいものに 出かけました。大きな かいものかごを 持って 行きました。たまごを 6こ、トマトを 3こ、それから にくを 少し かいました。家に かえる とちゅうで 学校の 先生に 会いました。

#### 理解度テスト

- (1) だれが、なにをしたお話ですか。
- (2) なにを買いましたか。
- (3) 途中でだれに会いましたか。
- (4) みさ子さんはだれの用事で行ったのですか。 (以上7点満点)

## C文章（4年生用）

鳥の中には、きせつによって、住む場所を変えるものがあります。このような鳥をわたり鳥というのです。これは、その鳥にあったきこうの所やたべものをもとめて移るのです。がんは秋になると、北の方から日本に来て、春になると、また北の方へかえります。それと反対に、つばめは春に日本に来て、秋に南の国へとんで行きます。

### 理解度テスト

- (1) このお話には、どんな題がよいか。
- (2) わたり鳥は、どうして住む場所を変えるのか。
- (3) がんは春になると、どこへ行くか。
- (4) つばめが南の国へ行くのは、いつか。

子どもに読ませた、A、B、Cの各文章は、よこ組み、8ポ大、タイプ印刷、黒である。理解度テストは、撮影がすんでから、子どもに口頭で質問をする。

### 文章の読みかた

文章を読ませるときの教示は、つぎのようにきめておく。

「ふつうの速さで、黙読をして（声をださないで）ください。読んだあとで、どんなことが書いてあったか、聞きます。」

本実験にはいる前に、練習文を使ってやらせ、その読みかたをよくのみこませておく。

### 1. 眼球運動の発達

#### 1. 眼球運動の五つの技能<sup>(注2)</sup>

オフサルモグラフで撮影したフィルムには、目の動きは階段状の線模様になってあらわれる。それで、その目の動きを、五つの技能に分析して、中学年の子どもの特徴をつかむのである。

#### 1) 読字数（1秒間に、平均して何字読んだか。）→ふつうにいう読書速度

(注2) 技能というとき、読字数、停留数……という項目の名前はかならずしも適切なことばではない。正しくは以下のようによぶのが適切であるが、ここでは分析項目として、より具体的なよびかたをそのままつかうこととした。

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1) 読字数→読書速度能力 | 4) 逆行数→語間運動能力    |
| 2) 停留数→凝視域    | 5) 不適応凝視数→行間運動能力 |
| 3) 停留時間→凝視速度  | >知覚能力            |

と考えてよい。

- 2) 停留数 (100字の文章を読む間に、平均して、何回、目がとまったか。)
- 3) 停留時間 (1回、目がとまっている間に、平均して、どれだけの時間をかけたか。)—→この際の時間の単位はシグマ  $\left(\frac{1}{1000}\text{秒}\right)$  であらわす。
- 4) 逆行数 (100字の文章を読む間に、平均して、何回、目が後もどりをしたか。)
- 5) 不適応凝視数 (ある行から、つぎの行に読み移るとき、平均して、何回、目がまちがった箇所におちたか。)

このほかに、読みの理解度を考える。

この報告では、各技能についての、図表にでている結果の数字は、上掲の ( ) 内を統計の単位にして、あらわしてある。

## 2. 中学年の眼球運動の発達段階

眼球運動の技能が発達する、ということは、一般的にはつぎのようにいうことができる。

- 1) 目が1回の凝視で、知覚する文字群がたくさんになる。
- 2) その凝視し、知覚する時間が短くなる。
- 3) 目の後もどりが少なくなる。
- 4) 次行の最初の文字を誤りなく知覚できるようになる。
- 5) そうして、文章全体が速く読めてくる。

したがって、その意味では、1) 停留数がへる。2) 停留時間がへる。3) 逆行数がへる。4) 不適応凝視数がへる。5) 読字数がふえる。こういう傾向がでていれば、その子どもの眼球運動の技能は発達しているということである。つまり、すぐれた読み手とは、それぞれの技能欄で、ほかの子どもより、すぐれた結果をだしている子どもをさす。

A文章による実験、B文章による実験、C文章による実験の結果を、表にまとめると、第1表のようになる。

- 1) まず、目の動きの特徴を、中学年ということではどうか、という点につ

第1表 中学年の子どもの眼球運動

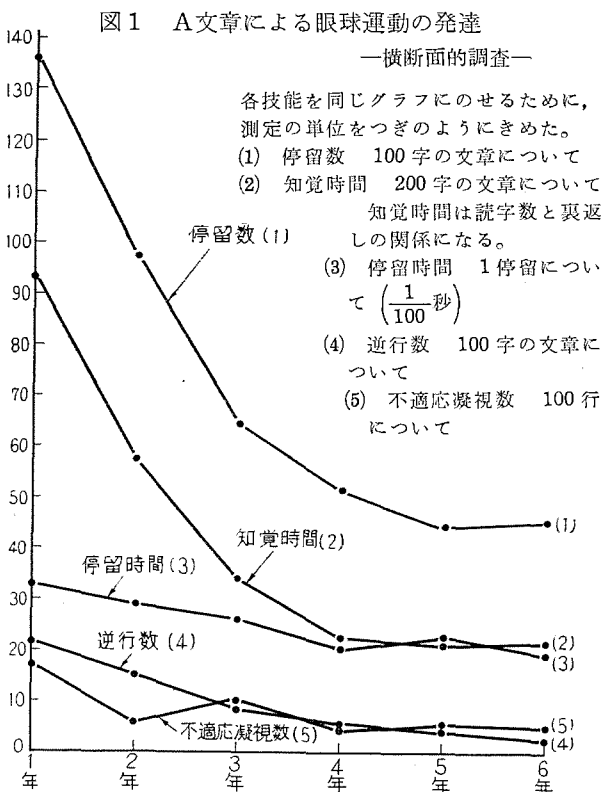
学年	技能文章	停留数	逆行数	不適応凝視数	停留時間	読字数	理解
3年	A	61.9(17.3)	8.4(6.1)	0.79(0.38)	259(43.1)	6.2(2.05)	3.9(1.3)
	B	72.0(28.3)	11.0(8.5)	0.85(0.44)	267(47.5)	5.5(2.11)	4.9(1.2)
4年	C	68.4(12.7)	7.8(4.2)	0.79(0.31)	270(36.0)	5.1(1.35)	3.5(0.9)

( ) 内は標準偏差値である。

いて考えてみよう。

第1表によれば、中学年の子どもは、100字の文章を読む間の、目の停留は62回～72回、目の逆行は7回～11回である。不適応凝視は1行について、0.7回～0.8回、そうして、1回の目の停留にかける時間は、260シグマ～270シグマ、1秒間の読字数は、5.1字～6.2字ということになる。

「眼球運動（1年生～9年生）の発達」は前に実験をして、その結果も公にしてある。(注3) 参考までに、それを図1にあげておいた。これと



(注3) これは、横断面的に、各学年10名ずつ、読書能力が学級で中位のものを選んで、調べたものである。国立国語研究所年報7に報告してある。

第1表とを比較してみよう。

図1の3年生の結果と、それと同じA文章を読んで調べた第1表のA文章による実験の結果とは、だいたい同じ結果がでていいる。したがって、Aのような文章なら、3年生という学年発達の段階では、いつも、その程度の結果がでるものだ、ということがわかる。

しかし、B文章による実験と、C文章による実験の結果は、図1の結果より、だいぶ悪い結果が出ているが、これは読む文章の難易度がでたものである。つまり、A文章よりB文章、B文章よりC文章の方がむずかしいためである。

発達段階ということでみると、4年の終りと、6年の終りとでは、低学年にでていいるような、はっきりした、発達の差がみえない。中学年の終りともなれば一応、小学校の卒業までに達せられるはずの諸技能は、ほぼ完成しつつある。そういう段階にあるのが中学年だ、ということがわかる。しかし、そうはいいても、目の動きが小学校で完成してしまっ、て、中学・高校生ではもう発達しないということではない。

2) つぎに、3年と4年では、目の動きの上で、どんな差があるか、を考えてみよう。それは、

第1表の平均値では、3年と4年の間では、目の動きに発達の差が見えない。しかし、同じ文章を読ませて、1年生～9年生の発達をみた実験では、3年と4年との間に、はっきりした有意差がでていいるから、この点を考えあわせると差が見えないというのは、先にのべたように、読む文章の難易度という別の条件がより強く結果にきいていいるためであろう。ただし、結果の平均値に差がなくとも、標準偏差に注意すれば、3年と4年の間に差がなくはない。3年よりも4年の方に、標準偏差の開きが小さい。これは、劣った子どもでも、だんだんと目の動きの技能を身につけはじめてきて、児童間の差がなくなりつつあることを示している。

### 3) 男女による眼球運動の差

第1表にあげた目の動きの結果を、男女、二グループにわけ、平均をとって、男女のちがいをみた。それが第2表の結果である。男女のいづれかが、どの技能で優劣の差があるか、をみよう。

第2表 男女による眼球運動の差

A文章（3年）

性	技能 人数	停留数	逆行数	不適応 凝視数	停留時間	読字数	理解
男	19	61.9	9.3	0.74	244	6.7	3.9
女	24	62.6	7.7	0.82	271	5.8	3.9

B文章（3年）

性	技能 人数	停留数	逆行数	不適応 凝視数	停留時間	読字数	理解
男	17	75.1	13.1	0.86	261	5.7	5.4
女	26	70.0	9.7	0.84	272	5.4	4.5

C文章（4年）

性	技能 人数	停留数	逆行数	不適応 凝視数	停留時間	読字数	理解
男	15	68.3	8.5	0.77	264	5.02	3.9
女	28	68.4	7.4	0.81	274	5.10	3.1

3種の文章による実験で、男子がどの実験でも、女子よりすぐれている技能がある。それは、

停留時間が少ない。

（理解度が高い。）

逆に、女子がどの実験でも、男子よりすぐれている技能は、<逆行数が少ない>ことである。逆行数が少ないというのは、文章を正確に、文字をおって知覚している証拠である。女子の停留時間がいつも男子より長いというのは、このことをさらに裏書きしている。つまり、女子は文章を読むとき、正確に、ゆっくりと文字群を知覚する傾向がある。これは、女子のパーソナリティからおこるのであろうと、大まかに断定しておく。

もう少し、綿密に、各技能の差をみるために、有意差検定を試みた。

それによると、男女に有意差ありとでた技能は、

- 1) 停留時間（3年A文章の実験）

2) 理解点 (3年B文章の実験)

3) " (4年C文章の実験)

である。他の技能については、有意な差はなかった。

ふつう、ペーパーテストの形式で読む速さを調べると男子の方が速く読める。この実験でも、A文章、B文章のときはそういう結果が出ている。しかし、4年生のC文章による実験では女子のほうが速い。平均読字数が女子の方が多いという結果が出ているが、しかし有意な差ではない。

この実験ででた1秒間の読字数は、ペーパーテストででてきた読字数より、少ないものである。たとえば、3年2学期末に、この子どもたちがやった読速ペーパーテ

第3表 読速度(注4)のペーパーテストと実験との比較

条件 性	ペーパー テスト	実験 (B文 章による)
男	7.77字	5.6字
女	7.25字	5.4字
計 標 準 差	7.46字 (2.70)	5.5字 (2.10)

(注4) この場合の読速度は平均1秒間の読字数を示す。

トと実験の結果とをくらべてみよう。第3表にあげたとおりである。

ペーパーテストのほうが、速く読める理由は、「できるだけ速く読みなさい。」という速読みをさせているためである。実験のほうは、ふつう読みである。また、実験場面では、子どもの頭を動かさないように固定させてあるし、精神的な緊張があることも忘れてはならない。

2. 眼球運動の各技能の相関

目の動きの五つの技能は、中学年の子どもでは、どのような相互関係にあるか、をみるために、各技能間の相関係数をだしてみた。C文章による実験結果から各技能の相関をだしたものが第4表である。

1) 読字数(読書速度)と他の技能との関係をみよう。第4表によると、読字数は停留数との相関は+0.83で、ひじょうに高い。逆行数、停留時間がこれにつづいている。したがって、読書速度といちばん関係の深い技能は停留数である。子どもが文章を速く読めるということは、文字群をすばやく知覚するよりも、ゆっくりでもいいから、たくさんの文字群を知覚すること、また、後もどり読みをしないこと、その方が効果的であることを示している。

この関係は、A文章による実験結果から、各技能の相関をみた場合でも、そ



第4表 眼球運動の各技能の相関（C文章による実験）

	停留数	逆行数	不適応凝視数	停留時間	読字数	理解点
停留数	—	0.70	0.26	0.26	0.83	0.13
逆行数	0.70	—	0.11	0.33	0.68	-0.15
不適応凝視数	0.26	0.11	—	-0.10	0.22	0.13
停留時間	0.26	0.33	-0.10	—	0.63	-0.10
読字数	0.83	0.68	0.22	0.63	—	0.10
理解点	0.13	-0.15	0.13	-0.10	0.10	—

うということができた。第5表のとおりである。

第5表 眼球運動の各技能の相関  
（A文章による実験）

読字数と停留数	r. 0.67
読字数と停留時間	r. 0.46
読字数と不適応凝視数	r. 0.50
読字数と逆行数	r. 0.48
逆行数と不適応凝視数	r. 0.38
停留数と停留時間	r. 0.04
読字数と理解点	r. 0.20

一般に、読字数にたいする停留時間のかかりあいについて、「読書速度は停留数と停留時間とによって規定される」といわれているが、ここでは、それでは、どちらがより中学年では読書速度にきいているかということ、もうひとつつっこんで問題を考えたのである。

不適応凝視数は、読字数とは、第4表ではあまり関係がなかったが、第5表では+0.50という相関係数がでている。

2) <不適応凝視>と逆行とは、もともと文字や単語の不正確な知覚からおこるものであり、そのかぎりでは相関はありそうであるが、ここに出た係数はあまり高くない。むしろ、われわれは、上の意味で、類似したものとみるよりも、両方は中学年の子どもには、ちがった技能である点に注意したい。つまり、逆行のほうは、語間運動、不適応凝視のほうは行間運動のまずさからおこるという要因のちがいである。

3) <停留数>は逆行数と相関が高いけれども、停留時間とは、ほとんど相関がない。目の停留する回数が少なくなることと、停留する時間が短くなることとは、併行しないわけである。事例研究の上では、むしろ、知覚の型として、素質的に、子どもはそのどちらかの型をもっているようである。これは次

節で問題にする。

4) <理解点>と目の動きの技能とは、第4表では、相関がどれも、0.13～-0.15で、非常に低い。第5表でも、理解点と読字数との相関係数は0.20である。もともと、ここで調べた文章理解は、深い読みを要求したものでなく、とぼし読みをしたり、ずる読みをさせないようにするためのものであるが、読みにおける眼球運動の技能と、理解力とは別の能力である、ことをあげておく。

5) つぎに、眼球運動の各技能の相関が、実験のたびごとに変わるものか、あるいはそうでなく、一定の恒常性をもつものか、3種の実験結果の相関を調べてみた。第6表がその結果である。

第6表 同一被験者の異なる実験による眼球運動の各技能の相関

技能 実験のく みあわせ	停留数	逆行数	不適応 凝視数	停留時間	読字数	理解点
A × B	0.82	0.69	0.36	0.72	0.94	0.20
A × C	0.58	0.20	0.47	0.20	0.68	0.04

第6表をみると、停留数と読字数は、三つの実験でも、変化がない。つまり学級で、停留数が少ない子は、どの実験でもそうであることを示している。

理解点は実験のたびに、大幅に変化していることがわかる。これはつまり、オフサルモグラフの実験に、つけて行われる理解テストの結果は、ほとんど信頼がおけない、と考えてよい。この、本質的な子どもの読解力がつかめないわけは、1) 読む実験条件の制約、2) 文章の知覚に重点がおいてある、3) 読む文章が短すぎる、などのためである。

参考までにいうと、3年2学期末の読解力テストの結果と、A文章による実験の理解点との相関は、+0.31であった。やはり相関は低い。

### 3. 眼球運動の各技能と言語能力との相関

まず、C文章による実験と、4年2学期に行ったテストの結果との相関を主なものだけについてみた。それが第7表である。

これをみると、目の動きの技能である停留数、停留時間、読字数というものと言語能力とは、ほとんど相関がない。わずかにあるとすれば、停留数と黙読速度、停留数と語彙、停留時間と漢字書字との関係ぐらいである。

第7表 眼球運動技能と言語能力との相関

技能 言語能力	停留数	停留時間	読字数	理解点
黙読速度	0.29	0.02	0.16	0.45
漢字書字力	0.13	0.20	0.02	-0.05
読解	-0.01	0.08	0.02	0.16
語彙	0.24	0.13	0.16	0.42
文法	0.10	-0.01	-0.05	0.53

むしろ、ここでは、理解点と読速、語彙、文法との相関の方が高くでている。皮肉なことに、理解点と読解との相関は低い。

実験の結果でた読字数とテストの読書速度との相関がないというのは納得がいかないが、あるいは、ここで調べた目の動きの技能と、言語能力との測定そのものに不備があつての結果かもしれない。というのは、別の実験ではちがつた結果もでているからである。

たとえば、A文章による実験の読字数と、言語能力との相関をみると、かなり高い相関がでた。

読字数(実験)と読速能力(テスト)  $r=0.68$

読字数(実験)と読字力(テスト)  $r=0.49$

以上のような問題については、まだ結論がだせない。もっと調べてみる必要がある。

#### 4. 眼球運動の各技能と言語能力を規定する要因との相関

C文章による実験の結果から、目の技能と知能・身体・環境・社会性・家庭読書との相関をみた。それが第8表である。

第8表によると、

相関の高いものは、

環境と停留時間

読書と停留数

読書と不適応凝視数

逆相関の高いものは

第8表 眼球運動の各技能と知能・身体・環境・社会性・読書との相関

技能 要因	停留数	逆行数	不適応 凝視数	停留時間	読字数	理解点
知能	-0.28	0.11	0.18	0.28	0.19	0.53
身体	-0.04	0.03	-0.02	0.02	-0.03	-0.16
環境	0.20	0.08	-0.12	0.57	0.25	0.58
社会性	-0.29	0.36	-0.02	0.22	-0.34	0.12
読書	0.46	0.06	0.46	0.17	0.26	0.28

知能と停留数

社会性と停留数

社会性と読字数

ところで、こういう関係がいつの実験でもでるものか、中学年の子どもの場合だけにでるのか、あるいは、環境・読書という、間接的な要因が目の技能の発達にどんな素地をつくっているか、逆相関がどうしてでてきたかは、今のところわからない。それにはもっと、この種の継続的研究をつみあげていくことと、要因を言語能力と関連づけながら事例研究をしていくことが必要である。

##### 5. 中学年の子どものもつ“知覚の類型”

停留数と停留時間とは、逆の関係にある。停留時間が長くても、停留数が非常に少なければ、速く読める。また停留数が多くても停留時間が非常に短ければ速く読める。そういう二つの型を考えることができる。

(イ) 停留数が多く、停留時間が短い。

(ロ) 停留数が少なく、停留時間が長い。

(以下、前者の知覚型をイの型、後者の知覚型をロの型と呼ぶことにする。)

1. そこでA文章、B文章による実験の結果、イの型、ロの型の子どもの何パーセントをしめているかをみた。

実験の結果でた、それぞれの子どもの停留数と停留時間を、上、中、下の3評価段階にわけ、両者にちがいのあるものを、イの型、ロの型とする。たとえば、ある子どもの結果が停留数(下)、停留時間(上)であれば、これをイの型とし、停留数(中)、停留時間(下)であれば、これをロの型とする。結果はつぎの

とおり。

文章 知覚	A文章による実験	B文章による実験
イの型	35%	33%
ロの型	33%	35%

イの型、ロの型は、それぞれ全体の子どもの約 $\frac{1}{3}$ ずつをしめている。残りの $\frac{1}{3}$ の子どもはイロの中間型に属する。

2. つぎに、これらの知覚の型が、A文章による実験と、B文章による実験で、児童によって変化があるか、どうかをみた。これを人数で示したのが第9表である。

第9表 実験による知覚の型の恒常性

B文章 A文章	イの型	中間の型	ロの型
イの型	10人	3人	1人
中間の型	2人	5人	5人
ロの型	0人	6人	11人

つぎに、この定性相関係数をだしてみると、 $C=0.57$ でかなり高い。

このかぎりでは、A文章による実験ででたそれぞれの子どもの知覚の型は、B文章による実験でもあまり変っていない。

3. 性別による知覚の型を考えてみる。A、Bの両実験で、イの型、ロの型に属するものが、男女のグループの中で、何パーセントになるか、をみたものが第10表である。これによると、男子はイの型、女子はロの型に属するものが多い。この理由は、先にふれておいたように、男子と女子のパーソナリティのち

第10表 知覚の型と性

文章 知覚 性	A文章による実験		B文章による実験	
	イの型	ロの型	イの型	ロの型
男	42%	26%	30%	18%
女	29%	38%	35%	46%

がいによるのであろう。

4. さらに、知能と知覚の型について考える。A、Bの両実験で、イの型、ロの型には、知能が上グループのもの、下グループのものが何パーセントずつ含まれているか、をみたものが第11表である。

第11表 知覚の型と知能

文章 知覚 性	A文章による実験		B文章による実験	
	イの型	ロの型	イの型	ロの型
上	27%	29%	14%	20%
下	40%	29%	50%	26%

これをみると、知能の低いものに、イの型が多い。ロの型では知能の上下のものが相半ばしている。

## E 読む能力の発達の要因

ここで報告する内容は、中学年の子どもの読む力と言語発達の諸要因とは、どんな関係をもつか、という問題である。

読む力のテストは、中学年のそれぞれの学期末に実施し、子どもの黙読理解力、読書速度、音読技能、読書興味を調べた。また、言語発達の諸要因の調査は、中学年で知能の要因、身体の要因、環境の要因、社会性の要因、家庭での読書の要因、家庭での言語生活(聞く・話す)の要因について調べた。

われわれは、上にあげた言語能力と各要因との相関係数をだして、それぞれの関係をみようとした。そのなかで要因としてだした知能、身体、環境、性格、家庭読書という項目は、そのままでは具体性がとぼしいから、必要におうじてさらに小分けして、言語能力との関係をみることにした。

### 要因の調査

中学年の時期におこなった言語発達の諸要因の調査はつぎのようなものである。

#### 1. 知能の要因

京大NX知能検査 大成出版社牧野書房

昭和31年2月13日（4年3学期）に実施した。この検査は下位能力を12の項目にわけている。

1. 折紙パンチ（空間関係の視覚的把握力）
2. 文章完成（文章の構成力）
3. 図形分割（図形の空間関係の理解力）
4. 乱文構成（文章の編成力および常識）
5. 四則計算（生活に必要な計算力）
6. 日常記憶（日常生活に必要な有意義記憶力）
7. 重合板（空間表象の操作力）
8. 数字三角（数学の系列関係の理解能力）
9. 符号交換（法則の把持とその適用の柔軟性）
10. マトリックス（概念の関係把握）
11. 反対語（語彙理解力）
12. 単語完成（語の流暢性）

この中の、2.文章完成、6.日常記憶、11.反対語、12.単語完成は言語的（あるいは文科的）な知能因子である。

## 2. 身体の要因

低学年で実施ずみの生活歴の調査に、中学年では子どもの出欠状況、疾病、身体発達の結果をつけくわえた。

## 3. 環境の要因

田研式・家庭環境診断テスト 日本文化科学社

昭和32年2月12日（4年3学期）に実施した。このテストは、さらにつぎの5項目に小分けして評価できるようになっている。

- (1) 家庭の一般的状態
- (2) 子どものための施設
- (3) 家庭の文化的状態
- (4) 家庭の一般的ふんいき
- (5) 両親の教育的関心

## 4. 社会性の要因（付録参照）

社会性のテストは市販している標準テストではなく、われわれがこの研究の

ためにとくにつくったものである。昭和30年10月（3年2学期）に実施した。このテストは、さらにつぎの項目に小分けして評価できるようになっている。

- (1) 家庭における子どもの生活習慣
- (2) 道徳性判断
- (3) 社会的常識
- (4) パーソナリティ、交友関係

#### 5. 家庭での読書の要因

付録1を参照のこと。

#### 6. 家庭での言語生活（聞く、話す）の要因。

この報告では、家庭での言語生活（聞く、話す）の要因と読む力との相関をみていない。もともと、これは子どもの聞く、話す力の発達を規定する要因を調べるために、われわれがとくに作ったものだからである。

#### 1. 黙読理解力を規定する要因

3年1学期末テストから、4年3学期末テストまで、各テストの黙読理解能力と、各要因との相関係数をだした。その結果は第1表のとおりである。

第1表 黙読理解力と各要因との相関

学期 要因	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
知能	0.11	0.23	0.30	0.19	0.43	0.40
身体	0.16	0.17	-0.05	0.11	0.07	-0.05
環境	0.20	-0.06	0.08	0.02	0.08	0.20
社会性	0.16	0.19	0.05	-0.09	0.39	0.16
読書	0.47	0.25	0.33	0.37	0.30	0.32

第1表によれば、

黙読理解力と相関の高い要因は、読書とか、知能とかいう要因が、ほかの要因よりも高い。黙読理解力といちばん相関の低いものは身体の要因であり、とくに3年3学期と4年2学期には負の相関がでている。

学期を順において黙読理解力と相関の高い知能と家庭読書の要因について、相関のうつりゆきをみると、3年では家庭読書のほうが知能より黙読理解力と相関がより高いのに、4年の2学期と3学期では逆に知能の要因のほうが高く



なっている。

### 知能と黙読理解力

知能の要因と黙読理解力の相関は3年では0.11~0.30であるのに、4年では0.19~0.43である。傾向的には4年のほうが相関が高くなっていることがわかる。アメリカの研究では、文章を理解する力と知能の要因との相関は、4学年まではすすむという。

黙読理解力と知能の要因との相関をみる場合、非言語的知能の因子より、言語的知能の因子との相関が高くなる、といわれている。ストラングの報告では、非言語的知能とは0.36~0.56、言語的知能とは0.80の係数がでている。われわれの場合、言語的知能の因子だけについて、黙読理解力との相関をみると、やはり、非言語的知能の因子よりも高いものがでた。第2表のとおりである。

第2表 黙読理解力と言語的知能との相関

言語的知能		相関係数
文章の構成力	(文章完成)	0.42
日常生活に必要な有意義記憶力	(日常記憶)	0.52
語彙理解力	(反対語)	0.68
語の流暢性	(単語完成)	0.36

これは、中学年の時期に、知能の要因がいちばん黙読理解力と高い相関がでた4年2学期末の結果からだしたものである。

### 家庭読書と黙読理解力

家庭読書の要因は知能の要因とおなじように黙読理解力と相関が高い。中学年では、相関は0.25~0.47である。具体的に、読書調査の質問項目の反応をあげて、反応の型と黙読理解力との関係をみると、つぎのようになる。この表は黙読理解力の上グループ、下グループには、各質問項目に答えたものの何パーセントが含まれているか、というように読めばよい。

1. あなたは本を読むことが好きですか。

反応 読解力	すぎ	ふつう・ きらい
上	35%	22%
下	13%	44%

2. 学校の勉強のほかに、毎日なにかほかの本を読みますか。

読解力	反応	
	まいにち読む	ときどき・あまり読まない
上	19%	35%
下	19%	31%

3. うちで本を読む時間は、平均毎日ののくらいですか。(記入された時間を、長い・ふつう・みじかいの3段階に分けた)

読解力	反応	
	長い	みじかい
上	42%	43%
下	17%	30%

4. ざっと、いっさつのまとまった本とどちらがすぎですか。

読解力	反応	
	本	ざっと
上	32%	24%
下	20%	35%

5. 本で読んだことをうちの人や友だちに話しますか。

読解力	反応	
	いつも・ときどき話す	あまり話さない
上	26%	30%
下	11%	39%

6. 本で読んだことをノートなどに書いておくことがありますか。

読解力	反応	
	いつも・ときどき書く	書かない
上	28%	29%
下	33%	21%

新聞の接近の度合いも黙読理解力と相関がある。3年1学期末テストの結果と新聞の接近度との相関係数は、0.34であった。

## 2. 読書速度を規定する要因

中学年の学期ごとにおこなった読書速度テストと各要因との相関係数をだしたのが第3表である。

中学年で、読書速度と相関の高いのは、知能の要因と読書の要因である。そ

第3表 読書速度と各要因との相関

学期 要因	3—1	3—2	3—3	4—1	4—2	4—3
知能	0.45	0.71	0.52	0.61	0.48	0.65
身体	0.23	0.08	0.08	0.11	0.08	0.19
環境	0.10	0.15	0.26	0.13	0.13	0.22
社会性	0.02	-0.03	0.27	0.18	0.27	0.05
読書	0.51	0.73	0.52	0.61	0.45	0.39

れも学期ごとにいくぶんのユレがあるが、知能と読書速度力との相関は、0.45～0.71、家庭読書と読書速度との相関は、0.39～0.73である。

3年では、家庭読書の要因がいちばん相関が高いが、4年になると、家庭読書にかわって、知能の要因がだんだんときいてくる。

読書速度といちばん相関の低いものは身体の要因である。その相関は0.10～0.26である。

#### 読書速度と言語的知能

読書速度といちばん相関の高かった3年2学期末の知能テストから、言語的知能因子だけをとりあげて、その相関をみる。

第4表 読書速度と言語的知能との相関

言語的知能	相関係数
文章の構成力 (文章完成)	0.80
日常生活に必要な 有意味記憶力 (日常記憶)	0.64
語彙理解力 (反対語)	0.70
語の流暢性 (単語完成)	0.70

#### 読書速度と社会性

社会性や環境の要因は知能や家庭の読書ほど読書速度にきいてはいないが、学期によって相関が比較的高くでることもある。たとえば、4年2学期末のテストと社会性との相関は、0.27であった。

社会性をさらに小分けして相関をみると、つぎのようになる。

1. 家庭における習慣  $r=0.48$
2. 道徳性判断  $r=0.14$

3. 社会的常識  $r=0.50$

4. パーソナリティ、交友関係  $r=0.56$

これによると、よいパーソナリティとか、社会的常識に豊かな子どもは読書速度が速いことがわかる。これにひきかえ、道徳性判断力の有無は読書速度には、きいていない。

### 3. 音読技能を規定する要因

音読技能テストは4年の1学期と2学期におこなっただけである。この2回のテストの結果と各要因との相関をみたものが第5表である。

第5表 音読技能と各要因との相関

要因	学期	
	4-1	4-2
知能	0.70	0.36
身体	0.11	0.06
環境	0.18	0.24
社会性	0.16	0.21
読書	0.35	0.21

第5表によれば、

いちばん、音読技能と相関の高い要因は知能の要因である。その相関は第1学期では0.70、第2学期では0.36である。

知能について高いのは1学期では家庭読書の要因、2学期では環境の要因である。

知能と読書の要因とは、1学期にくらべて2学期になると相関係数がさがっている。これとは逆に、環境や社会性の要因は高くなっている。このかぎりでは、音読技能はだんだんと知能や読書の要因からはなれていくことを示している。

### 知能と音読技能

知能の各因子のなかで、とくに言語的知能因子をとりあげて、音読技能との相関をみると、つぎのようになる。4年1学期末におこなった音読技能テストと言語的知能因子との相関をみた。

これによると、言語的知能因子のなかで音読技能といちばん相関の高いもの

第6表 音読技能と言語的知能との相関

文章構成力 (文章完成)	$r=0.75$
日常生活に必要な 意味記憶力 (日常記憶)	$r=0.36$
語彙理解力 (反対語)	$r=0.79$
語の流暢性 (単語完成)	$r=0.66$

は、反対語による語彙理解力である。

#### 4. 読書興味を規定する要因

子どもの家庭における読書興味とほかの要因との相関をみた。どういふすぐれた要因をもつ子が家庭でよく読書興味がのびているか、をみたものである。その結果は第7表のとおりである。

第7表 読書興味と各要因との相関

要 因	相関係数
知 能	$r=0.23$
身 体	$r=-0.07$
環 境	$r=0.22$
社会性	$r=0.03$

第7表によれば、全体的にみて、このかぎりでは読書興味と相関が高い要因というものはみあたらない。ただ、わずかではあるが、知能と環境の要因が読書興味にきいていることがわかる。

身体の変因と読書興味とは、負の相関がでている。つまり、身体の変面でハンデキャップをもつ子に、読書興味がひじょうにのびているためである。

環境の変因を、さらに小分けして、読書興味との相関をみると、つぎのようになる。

1. 家庭の一般的状態  $r=0.13$
2. 子どものための施設  $r=-0.05$
3. 家庭の文化的状態  $r=0.14$
4. 家庭の一般的ふんいき  $r=0.45$
5. 両親の教育的関心  $r=0.22$

家庭のふんいきがよい(近所つきあいがよい、家族仲がよい、子どもが幸福

である)とか、教育的関心の高い家庭の子に、よく読書興味がのびていることを示している。これにひきかえ、外形的な施設、経済状態というものは、読書興味の発達にはあまりきいていない。

#### 要約

1. 一般的に、読む力と関係の深い要因は、知能と家庭読書の要因である。とくに、知能の中では、言語的知能が非言語的知能よりも読む力と関係が深い。読む力と関係がいちばんないのは身体の要因である。
2. 知能や家庭読書の要因といちばん関係の深い読む力は読書速度である。つまり、知能の高い子や家庭でよく読書をする子は速く読むことができる。
3. 知能と家庭読書の要因は、一般的な読む力全体にたいして、3年では読書の要因のほうがきいているが、4年では知能のほうがきいている。
4. 身体の要因は読む力とはあまり関係がない。これは、ふつうの学級にある子どものもつ身体の多少の障害は、読む力の発達に影響をあたえていないことを示している。ある学期末テストのある読む力と身体の要因とのあいだに逆相関がでるのは、身体に障害のある子どもに、読書興味がとくに発達し、読む力がのびているためである。
5. 環境や社会性の要因は、知能や家庭読書にくらべて読む力とあまり関係が深くない。しかし、ある学期の、ある読む力にたいしては、かなり関係が深いということもある。また、環境の要因のなかでも、家庭のふんいきや、教育的関心、あるいは子どもの社会的常識の豊富さは、読む力と関係が深い。

## F 読む能力の発達の事例的研究

〔事例1〕 西田幸治(仮名) 昭和22年3月19日生

### 1. この事例的研究のねらい

西田幸治という子どもについて、とくに問題になるのは黙読理解力、読書速度力は学級でふつうであるのにくらべて、音読技能と文字力がひどく劣っているという言語能力の特徴をもつことである。

西田幸治の、こういう特徴はどういうわけのでてきたのかを調べてみよう。

## 2. 西田幸治の言語能力

まず、西田幸治が中学年の間にうけた、いろいろな言語能力テストの結果をみよう。それを一覧表にすると、第1表のようになる。ここにあげた数字は西田幸治のいる学級の子どもの成績を、5段階の評点でわけたときの、西田幸治についての各能力の評点である。

5——非常によい

4——ややよい

3——ふつう

2——やや悪い

1——非常に悪い

5段階の各評点は、全体が正常曲線になるように、人数をわりあてた。またA、B、Cは5段階にわけられないためにとった3段階の評点である。

第1表 西田幸治・中学年の言語能力

能力 \ 学期		学期						
		3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	
書	字	1	1	1	1	1	1	
	読	1	1	1	1	—	1	
	解	1	3	3	3	3	3	
読	速	3	3	2	黙	3	3	3
					音	1	1	2
音	読	—	—	—	1	C	—	
	彙	—	3	3	3	3	3	
文	法	2	2	—	2	1	1	
	作	3	4	2	2	1	1	
話	す	—	B	B	1	B	3	
	聞	—	A	C	2	3	3	

第1表をみると、西田幸治の言語能力には、ある能力は学級相当の成績であるのに、ある能力はひどく劣っていることがわかる。

学級の平均に相当する能力

黙読理解力、黙読速度、語彙力

学級の平均よりひどく劣る能力

音読速度、音読技能、文字力、文法力

読む力

それで、西田幸治の能力のヒズミは同じ読む力というわくの中でもでていることに、とくに注意をしておきたい。つまり、西田幸治の中学年の言語能力は、文章を読んで内容を理解するとか、文章をだまって読む速さはふつうだが、文字力が劣っている。また、声をだして読む技能とか、同じ読む速さでも、声をだして読む時はひどくおそい、ということである。

これらについて、西田幸治の、なまのテスト結果をあげて、その実態を調べていただく。

漢字力テスト・3年3学期

( ) の なかに よみかたを かなで かいて ください。( ) 内のふりがなは (西田の答を示す。)

○ 1	食 <sup>(た)</sup> べ <sup>(く)</sup> る	× 18	病 <sup>(び)</sup> 気 <sup>(き)</sup>	× 35	売 <sup>(う)</sup> る
× 2	注 <sup>(ちゆ)</sup> 意 <sup>(い)</sup>	× 19	平 <sup>(へい)</sup> 気 <sup>(き)</sup>	○ 36	絵 <sup>(え)</sup>
○ 3	太 <sup>(ふと)</sup> い	× 20	運 <sup>(うん)</sup> ぶ	○ 37	遠 <sup>(とほ)</sup> い
○ 4	役 <sup>(やく)</sup>	× 21	苦 <sup>(く)</sup> し い	× 38	波 <sup>(なみ)</sup>
× 5	進 <sup>(しん)</sup> む	○ 22	弟 <sup>(おとうと)</sup>	× 39	開 <sup>(ひら)</sup> く
× 6	短 <sup>(たん)</sup> い	○ 23	広 <sup>(ひろ)</sup> い	○ 40	日 <sup>(ひ)</sup> 記 <sup>(き)</sup>
○ 7	船 <sup>(ふね)</sup>	× 24	野 <sup>(の)</sup> 球 <sup>(きゅう)</sup>	× 41	急 <sup>(いそ)</sup> ぐ
× 8	お <sup>(おく)</sup> 客 <sup>(きやく)</sup>	○ 25	楽 <sup>(たの)</sup> し い	○ 42	海 <sup>(かい)</sup> 岸 <sup>(がん)</sup>
◎ 9	新 <sup>(しん)</sup> 聞 <sup>(ぶん)</sup>	○ 26	庭 <sup>(にわ)</sup>	× 43	金 <sup>(かね)</sup> 魚 <sup>(いし)</sup>
× 10	送 <sup>(おく)</sup> る	○ 27	日 <sup>(にち)</sup> 曜 <sup>(よう)</sup> 日 <sup>(び)</sup>	○ 44	帰 <sup>(かへ)</sup> る
× 11	集 <sup>(あつ)</sup> ま る	○ 28	歌 <sup>(うた)</sup>	○ 45	工 <sup>(こう)</sup> 場 <sup>(ば)</sup>
× 12	安 <sup>(あん)</sup> 心 <sup>(しん)</sup>	○ 29	王 <sup>(おう)</sup> 様 <sup>(さま)</sup>	○ 46	死 <sup>(し)</sup> ぬ
○ 13	感 <sup>(かん)</sup> 心 <sup>(しん)</sup>	× 30	晴 <sup>(あせい)</sup>	○ 47	島 <sup>(しま)</sup>
○ 14	拾 <sup>(ひろ)</sup> う	× 31	世 <sup>(せ)</sup> 界 <sup>(がい)</sup>	× 48	勝 <sup>(しょう)</sup> つ
× 15	発 <sup>(はつ)</sup> 車 <sup>(しゃ)</sup>	○ 32	買 <sup>(か)</sup> う	× 49	三 <sup>(さん)</sup> 度 <sup>(ど)</sup>
○ 16	遊 <sup>(あそ)</sup> ぶ	○ 33	橋 <sup>(はし)</sup>	× 50	駅 <sup>(えき)</sup>
○ 17	荷 <sup>(に)</sup> も つ	○ 34	流 <sup>(なが)</sup> れ る	○ 51	国 <sup>(こく)</sup> 語 <sup>(ご)</sup>



× 52 通 る	× 66 同 じ	× 80 待 つ
× 53 答	○ 67 者	× 81 肉
× 54 着 る	× 68 取 る	× 82 助 け る
× 55 動 物	× 69 級	× 83 向 く
○ 56 乗 る	× 70 住 む	○ 84 切 る
○ 57 地 面	× 71 店	× 85 負 け る
× 58 追 う	◎ 72 返 事	○ 86 寒 い
○ 59 終 る	× 73 合 う	○ 87 投 げ る
× 60 葉	× 74 台	○ 88 主 人
○ 61 使 う	× 75 暗 い	× 89 形
× 62 妹	○ 76 走 る	× 90 近 い
× 63 落 ち る	○ 77 親	× 91 知 る
× 64 歩 く	× 78 考 え る	× 92 旅
× 65 受 け る	× 79 深 い	○ 93 所

音読技能

ある 冬の それは さむい さむい 日でした。これ  
 から お話しようとする その 少年 さんたらうは、は  
 なみずを たらしながら 町から(の)もどりを、いつにな  
 く いそぎ足で すたこら すたこらと あるいて いま  
 した。

もう 村 近く、とおげを くだって、ひるでも うす  
 ぐらい 松になみ木に かかると、そこに つじがあって、  
 道(ばた)に 石の おじそうさんが しょんぼりと さび  
 しそうに 立っていました。いつも 見なれて いる こ  
 とでは あるが、その 目には なぜか とくべつ さび  
 しそうに 見えたので、

—いくら おじ(そう)さんだって さむいだらうなあ

こんな 日に—

と かわいそうに 思っ、ふりかえり ふりかえり そ

- (1)長音の読みができない。
- (2)拗音の読みができない。
- (3)長音の読みができない。
- (4)間をおいて読んだ。
- (5)とばし読みをした。
- (6)ことばのおきかえ読みをした。

- (7)くりかえし読みをした。
- (8)鼻音化ができない。
- (9)ほかのことばをつけくわえた。

- 00とばし読みをした。
- 01拗音の読みができない。

- 02ほかのことばをつけくわえた。
- 03くりかえし読みをした。

- 04とばし読みをした。

- 05ことばのおきかえ読みをした。

の まえを とおりすぎました。

すこし 行くと うしろから こえを かけた 著者が  
あります。

「おい さんちゃん。」

さんたろうは ふみとどまって 見まわしました。けれ  
ど だれも どこにも おりません。

朝ことばのおきかえ読みをした。

(読みふりは拾い読みの程度)

### 読解力検査

(1)

朝、目を さますと、白い雪が つもって いるのは うれしい のですが、  
南の国と ちがって、北国では すこしも めずらしくは ありませんでした。ちら  
ちらちらと、きのうも きょうも、そして おそらく あたしも、よくも 天に こ  
れだけの 雪が ためてあると かんしんするほど、毎日 毎日 ふりつづけるから  
です。

雪には うれしく ありませんでしたが、わたしが 目を さますと、そうだ ゆ  
うべは じろうが あの 雪の 中を かけて きたんだっけと 思いました。

「おかあさん、じろうは。」

と、わたしは ねどこの 中から、おかあさんに ききました。

「ちゃんと ねて いますよ。」

と おかあさんは こたえました。

まあ、よかったと、わたしは 思いました。

すると、また、おとうさんの ことが しんばいに になりました。

1. {の つぎは どっちが あって いますか。(○×を つけなさい) (以下○印は西田の答を示す)

1 さくしゃ(わたし)は 雪を {めずらしがって いる。  
めずらしがって いない。○

○2 さくしゃ(わたし)は じろうが きた ことを {うれしがって いる。  
うれしがって いない。○

3 おとうさんは いま ここの うちに {いる。  
いない。○

2. じろう と いうのは なんだと 思いますか。(一つだけ ○を つけなさい)

1 おとうとの なまえ

○2 しんるいの こどもの なまえ

3 犬の なまえ

4 ねこの なまえ

3. 「思いました」は だれが 思ったのですか。(一つだけ ○を つけなさい)

○1 じろう

- 2 わたし
- 3 おかあさん
- 4 おとうさん

読解力検査

(2)

- (1) わたしは この えいがを 見る まえには 北きょくは 1年中 とても さむい ところで、人は もちろん すんでいないし、動物なども あまり いない ところだと 思って いました。きっと みどり色の 木なども なくて、いちど ん氷山が ういている けしきだと そうぞうして いました。
- (2) わたしの そうぞうは だいたい あたって いました。
- (3) けれども 思ったより いろいろの 動物が いるのに おどろきました。
- (4) わたしは、この えいがを 見て、まえに 見た「さばくは 生きている」とい う えいがを 思いました。
- (5) 「さばくは 生きている」の ほうは、この えいがとは はんたいで、あついで 園の いろいろな 植物や 動物が 出てきました。色は とても あかるく にぎやかでした。それに くらべると、「北きょくものがたり」の ほうは、くらくて さびしい かんじでした。けれども 北きょくにも きせつが あるのです。とくに 夏と 冬が はっきり して いて、さむい なかでも 動物たちが げんきに せいかつ して いるのだ という ことを しりました。

- 1 この 文は なんの えいがを 見た ことを かいて いますか。(書きこみなさい。)

( 北きょくものがたり )

- 2 文が (1)(2)(3)(4)(5)と 五つに 分けて あります。ぜんたいを 二つに 分けて 読むと したら、どの 読みかたが つづきぐあい が いいですか。

(1. 2. 3. 4.)の よいのに 一つだけ ○を つけなさい。

- 1 (1)だけひとりで読み、(2)(3)(4)(5)は ほかの 人が 読む
- ② (1)(2)を ひとりで 読み、(3)から あとは ほかの 人が 読む
- 3 (1)(2)(3)を ひとりで 読み、(4)から あとは ほかの 人が 読む
- 4 (1)(2)(3)(4)まで ひとりで 読み、(5)から ほかの 人が 読む

読解力検査

(3)

よっちゃん、よっちゃん、もう 8時よ。という こえに、わたしは ゆめから さめて、まだ ねむい目を すこし ひらきました。ふとんの すきから ちらっと

みると、おかあさんが こたつの ふとんを どけて、あさの そうじを して おられます。たけしにいさんが きて、わたしたちの へやの とを あけたので、つめたい かぜが すうと へやに はいって きました。おう さむい。わたしは くびを ちぢめました。おかあさんが 大きな こえで よっちゃんも みよちゃんも おきなさい。と いわれたので、いもうとも やっと 目を さました。

(1) この文に でている人は だれとだれですか。つぎに かきなさい。

(おかあさん、よっちゃん、たけしにいさん、みよこちゃん)

(2) この文の だいは なにが いいですか。いいのに ○を つけなさい。

- 1 よっちゃんの ゆめ
- 2 わたしの おかあさん
- 3 あさの そうじ
- ④ さむい あさ

#### 読解力検査

(4)

やぎは こやの 中で メーメー ないていた。ほかに なぎようも ないのだから、人間は、いつでも、やぎは メーメー なくものだと おもっている。

しかし、やぎだって きげんの いい ときも あるし、わるい ときも ある。きげんの いい ときは あごを だして あまえるような なぎかたを する。そういう ときは、こやに はいって いても けっして むかって こない。からだを こすりつけるように よって きて、みじかい しっぽを びょこびょこふる。

きげんの わるい ときは、そうは いかない。こやの すみっこに ひっこんで はいいろの 目で じっと、はいって くる 人間を にらんでいる。そばへ よると、あたまを さげて、つかかってくる。きょうの やぎは、どう みても ごきげんが わるそうだった。

これは 長い 文の いちばんはじめで、これから いよいよ お話が はじまります。

作者は いったい どういう お話を かこうと しているのでしょうか。

- 1 やぎの なぎごえの いろいろ
- 2 やぎにも きげんの いい ときと わるい ときと ある。
- ③ やぎの ごきげんの わるい日の できごと
- 4 やぎの くらしかた

読書速度（3分間に読めた文字数）

学期 黙音	3—1	3—2	3—3	4—1	4—2	4—3
黙 読	875字	1050	700	910	1225	1610
音 読	—	—	—	840	805	1225

ここで、西田幸治の低学年のころは、読む力や、文字力がどんなだったか、参考までにみてみよう。第2表が評点で示した結果である。

第2表 西田幸治、低学年の読む力・文字力

学期 能力	1—1	1—2	1—3	2—1	2—2	2—3
書 字	3	1	1	2	2	2
読 字	2	2	1	1	2	1
読 解	2	3	3	3	3	3

これによると、やはり、文字力は劣っているが、読解力は学級相当の成績であったことがわかる。2年のときに、西田幸治は、阪本・基礎読書能力テストをうけたが、偏差値は53という、ふつうの成績をとっている。

また、低学年では発音能力テストをしたことがあるが、これはあまりよくなかった。1年の終りになっても、まだ幼児音がぬけなかった。

### 眼球運動

西田幸治が文章を読むときの目の動きを調べてみよう。3年の時、西田幸治にA、Bの二種類の文章を読ませた。目の動きをオフサルモグラフで記録して分析してみると、第3表のようになる。この結果は、西田幸治の目の動きの各技能は学級でふつうであるとでている。

第3表 西田幸治の眼球運動

技能 文章	停留数	逆行数	不適応 凝視数	停留時間	読字数	理解
A文章	100字につき 59回(中)	100字につき 6回(中)	1行につき 0.5回(中)	1停留につき 262シグマ(中)	1秒につき 6.5字(中)	下
B文章	100字につき 74回(中)	100字につき 15回(中)	1行につき 0.7回(中)	1停留につき 276シグマ(中)	1秒につき 4.6字(中)	中

表中、( )内は学級の中での西田幸治の評点である。B文章による実際結果の方がA文章のより悪いのは、読ませた文章の内容がむずかしいためである。

以上が西田幸治の言語能力として、うかびでたおもなことがらである。このような特徴は、どういう要因が働いているためか、それがつぎの問題である。

### 3. 言語能力を規定するもの

#### 知能の状態

知能指数 102 (京大式 9 N X 知能検査による)

西田幸治の、この知能指数は学級のほかの子どものものにとくらべてふつうである。ただ、われわれがつくった記憶力、推理力テストの結果では、西田幸治は記憶力、推理力が少し劣るという結果がでている。

#### 身体の状態

学期ごとに、学校でしている身体検査の結果をみると、西田幸治の身体の発達はつぎのようである。

第4表 西田幸治、身体の発達

学期 \ 身体	身長	体重	胸囲	座高	その他
3—1	117.3cm	20.0kg	58.5cm	66.5cm	視力 右 0.8 左 0.7 左利き手
4—1	123.2cm	22.0kg	63.9cm	69.2cm	
5—1	128.6cm	24.6kg	67.3cm	71.4cm	

西田幸治は背がひくい。男の子のなかでは、低いほうから2番目である。しかし、ひくいわりに胸囲のほうは平均以上に広いようである。気になることは目が近視であることと、左利き手であることだが、ともかく、西田幸治は小さいながら、色浅黒く、元気な少年である。学校の欠席は、3年のときに3日、4年のときは2日である。

学校にはいるまでの西田幸治の生育歴をみると、誕生後、歩行ができるようになったのは18か月目からで、おそい感じがするが、これまでとくに、からだが虚弱だということはみあたらない。ただ、運動能力がすこし劣るようである。本人は体育の時間がいちばん好きなようだが。

#### 社会性の状態

社会性テストの結果をみると、西田幸治にはつぎの評点がでている。

家庭での生活習慣 3

通徳性判断	3
社会的常識	4
パーソナリティ	3

社会的常識はかなりある。家庭での生活習慣や道徳性判断、また、パーソナリティも一応、中学年なみの望ましいものをもっている。

#### 自立性

しかし、西田幸治の実際の行動を観察したり、母親からの報告をまとめてみると、自立性の面がどうも欠けているようである。

たとえば、家の近くの友だちと遊ぶときは、グループのリーダーにならず、いつも後からついていくほうになっている。家のなかでは、だらしがなく、兄弟仲はあまりよくないようである。

#### 学習態度

西田幸治の学習態度はあまり積極的でない。よくいたずらをして、すぐお調子にのるといったタイプの子どもである。つぎのような観察記録があがっている。少し低学年にもどって、その当時の記録もひろってみる。

○2年の5月24日（月）

第3校時、図画の時間。西田は左手に（左利きだから）短かい棒きれをもっていて、「班長だから、悪いことをしたらぶつのだ。」と喜んでいて。

○2年の5月27日（木）

体育祭の日、西田は1年生のダンスをみていて、「うまいぞ！」とさげんだ。

○2年の7月5日（月）

第1校時、社会の時間、時間中、はさみでいたずらをする。本を見ていなかったので注意され、そのあとではさみをとりあげられた。

○2年の7月16日（金）

学校の帰りみち。溜池におちてずぶぬれになった。先生に自転車で、家まで送りとどけてもらった。「ふざけていた罰だ。」とそばにいた子どもたちはいていた。

○5年の5月10日（火）

聖蹟桜ヶ丘に遠足に行く。数人の女生徒が足にマメができて、先生の介抱を

うけた。西田は少し離れたところで、これをみていて、「ザマー見ロ！ マメ マメ モットデキロ」といった。

西田幸治の、このような学校生活態度は、能力の劣った子どもが集団の協調がえられないとき、よく集団のなかで示す不適応行為で、代行的攻撃態度のあらわれと考えたい。

#### 交友関係

3年のとき、西田幸治の学級の子どもたちについて、友人関係の調べをした。子どもたちに、ひとりで5人まで友だちの名を書かせたが、西田幸治は7人の子から友だちとしてえられた。西田幸治には仲のよいお友だちがたくさんいる。

ただし、この友だちは、どっちかという、学力がふるわない子どもたちで、またそろっていたずらっ子だということは興味深い。西田はよく女の子にいたずらをする、いわゆる「おチョビさん」であることも、ここにあげておく。

#### 教師関係

西田幸治が「先生」という課題で、担任の先生のことを書いた作文をみてみよう。(下線の説明は村石がつけた)

#### ○3年3学期

川口先生は、ときどきじかんわりおまもらいからきらい。(中略)川口先生は女んなのこあそんでいて男の子にはあまりあそんでくれない。川口先生はべんじょうでおあらってからきゅうしょうくのパンおたべるのできたない。川口先生おこるときはおこるがふざけるのがおもしろい。(中略)川口先生はさんすうのべんきょのときはっきり教えてくれる。

#### ○4年3学期

川口先生はじかんわりおまもってくれないのできらい。たいくのじかんわりのときやってくれないのできらい。川口先生はがきゆうでまりおかってくれない。川口先生はこごとおいってばかりいるのできらい。川口先生はせんそうにいったのでおっかない。川口先生なぐるといっておどかすのできらい。



西田幸治はこのように先生をみている。先生は嫌いだという感情が心のそこにある。西田は低学年のころは先生がただむやみとこわかったが、中学年では嫌いという抵抗感にかわってきた。教師との人間関係はこのかぎりではまだ望ましいというところまでになっていない。

#### 家庭環境の状態

このあたりで、家庭環境に、目をむけてみなければなるまい。家庭環境調査（日本文化科学社発行）では、それぞれの項目につきの評点がでている。

家庭の一般的状態	3
子どものための施設	2
文化的状態	2
家庭の一般的ふんいき	2
両親の教育的関心	1

これによると、家庭の一般的状態がふつうのほかは、どれも平均より悪い。とくに、両親の教育的関心がないことを示している。

ところで、この調査は西田幸治が4年の終りちかくに調べたものである。実は、この前に、幸治の家庭環境に大きな変動があったことを書かねばならない。

西田幸治は福島で生まれたが、3歳から、2年の9月までは、都内の某母子寮に住み、それから、4年の9月までは学校近くのアパートに、そして現在は学校からだいぶ離れた中野に住んでいる。住居をこれまでに4度も変わったが、なぜ両親の揃った西田の家庭が母子寮などに身を寄せていたかが問題になる。

それは幸治の父親がほかに女をつくって、姿を消し、行方がしれなくなったために、父に逃げられた幸治の母子は母子寮に入ったのである。もともと、幸治の父は時計修理工であるが、道楽ぐせがあり、夜はキャバレーのバンド演奏にであるいていたようである。

しかし、幸治が学校に通うようになって、父親は同棲していた女とうまくいかず、幸治の母親とヨリをもどし、いっしょに住むようになった。それが母子寮からアパートに転居するようになった理由である。

幸治の母親は父親より年が多い。学校は女学校をでており、夫が行方をくらませてからは、タイピストとなって生計をささえてきた。しかし、女手ひとつ

で、育ちざかりの3人の男の子をかかえて、経済状態はかなり苦しかった。(いちばん末子は母子寮にいた間に、赤痢で死なせてしまった。)子どもにたいする教育指導がいきとどかなかったのはいうまでもないことである。だから、母親は、幸治には、入学までお話をしてやったり、旅行につれだしたりすることもできず、絵本も満足に読んでやれなかった、と、こう当時のことを報告している。

現在、幸治の父母は共かせぎをつづけている。

上にあげた家庭環境の調査は、父が帰ってきてからの状態である。幸治が低学年のころは、これとは及びもつかないほど悪い環境にあったことは想像にたかない。

環境調査で、西田幸治が現在の状態を答えているなかで、問題になりそうなのを拾ってみよう。家庭生活はかならずしもうまくいっていないようである。

1. うちには字引がぜんぜんない。
2. きまって毎月とっている雑誌がない。
3. 幸治の家は近所とあまりしたしくつきあっていない。
4. 兄弟げんかはよくする。
5. 「ぼくは家でじゃまもの扱いにされている。」と、ときどき思う。
6. 幸治はときどき、両親に叱られてたたかれる。
7. 両親は幸治の話し相手にあまりなってくれない。
8. 父は夜おそく、幸治が眠ってからでないと家に帰ってこない。

#### 家庭での読書の状態

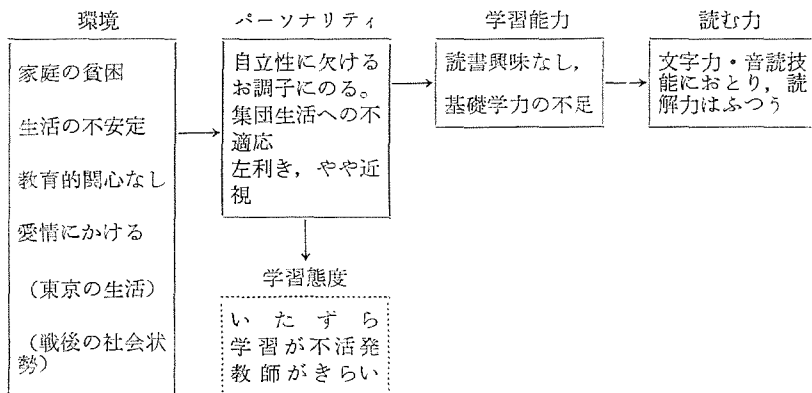
幸治はあまり本が好きでない。学校以外の本をみるのは、ときどきという程度で、4年になっても新聞をみるものがほとんどない。字がむずかしくて読めないと幸治は言っている。うちで本を読む時間は平均して1時間半ぐらいという、時間こそ長い、その大部分は漫画本である。2日から3日に一度は貸本屋から本をかりてくる。

このようにみえてくると、西田幸治をとりまく、いろいろな原因の中で、問題としてでてくるものは、家庭環境、とくに父の素行、夫婦関係、家庭の貧困や母子寮に住むという、生活の不安定にある。幸治が家庭で教育指導がうけられなかったのは、そのような家庭生活からの影響である。たまたま、父親が幸治

たちの家庭に帰ることによって、経済状態はよくなったにしても、本当に幸治が幸福に感じるフンイキなり、学習環境なりができていないか、疑われるフシがあるし、それまでの生活が幸治のパーソナリティに与えた影響はまだ消えていない。学習態度の悪さは、そういうパーソナリティのあらわれである。今後、どれだけ、このパーソナリティが親子水いらずの家庭であらたまっていくかについては、今のかぎり、かなり不安がある。

#### 4. 診断

西田幸治の読む力の特徴——文字力、音読技能がわるく、読解力はふつう——は、つぎのような背景があつてでできた。図で示すとつぎのようになる。



文字力が劣るのは、就学前の教育指導や、低学年の時期に基礎能力が十分に身につけていないためである。

文字力がなくとも、読解力がふつうなのは、読解力を調べる文章は、むずかしい漢字をあまり使わないために、幸治にはさほど読むことに抵抗とはならない。内容の解釈力と語彙力が幸治の読解力をのばすことに役だっている。

音読技能と音読速度が劣るのは、その原因には共通したものと考えるとよい。それは、ひとつには文字力のないこと、もうひとつは、幸治のパーソナリティに原因がある。幸治は人前で、おちついて学習を成就する態度ができていないという情緒性の欠陥と身体の未成熟である。

幸治の学習能力の発達をさまたげる、この子の未成熟なパーソナリティの背

後には、複雑な家庭環境がある。

知能相当の読解力も、いまの読書習慣をつづけていくかぎり、学級相当の力をずっとのばしていけることには、不安がある。

〔事例2〕 畑 友子（仮名） 昭和21年11月10日生

1. この事例的研究のねらい

畑友子の読む力のなかで、いちばんめだつ特徴は、中学年のどの学期でテストをした結果でも、読解力より読書速度のほうが、学級のなかで成績がよいということである。この能力のふつりあいの原因をとくにかんがえてみる。

2. 畑友子の読む力

畑友子が中学年のあいだに、読解力、読書速度力のテストをうけた、それらの結果の評点をみよう。第5表がその表である。

第5表 畑友子・中学年の読む力

能力 \ 学期	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	
読 解	3	3	1	3	1	3	
読 速	4	4	5	黙	4	5	4
				音	3	4	5

(注) 5——非常によい                    3——ふつう                    1——非常にわるい  
 4——ややよい                        2——ややわるい

第5表をみると、畑友子の読む力の特徴がはっきりとでている。つまり、畑友子は文章を速く読む力は非常についている（女の子の中でいちばん速い）のに、文章を深く読んで解釈する力となると、学級平均またはそれ以下である。

読書速度テストは3分間にできるだけ速く読ませたものである。畑友子が3分間に何字読めていったか、第6表をみるとわかる。

第6表 畑友子、3分間の読書速度

能力 \ 学期	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
黙 読	1400字	1750字	2100字	2065字	2100字	3150字
音 読	—	—	—	1365字	2100字	3000字

つぎに、畑友子の読解力検査の結果を、4年2学期にしたものについてみよ

う。(以下選択肢の○印は畑の答を示す)

### 読解力検査

(1)

朝、目をさますと、白い雪が つもっているのは うれしい ものですが、南の函とちがって、北国では すこしも めずらしくは ありませんでした。ちらちらと、きのうも きょうも、そして おそらく あしたも、よくも 天に これだけの雪が ためてあると かんしんするほど、毎日 毎日 ふりつづけるからです。

雪には うれしく ありませんでしたが、わたしが 目をさますと、そうだ ゆうべは じろうが あの 雪の 中を かけて きたんだっけと 思いました。

「おかあさん、じろうは。」

と、わたしは ねどこの 中から おかあさんに ききました。

「ちゃんと ねて いますよ。」

と おかあさんは こたえました。

まあ、よかったと、わたしは 思いました。

すると、また、おとうさんの ことが しんばいに になりました。

(1) {の つぎは どっちが あって いますか。(○×を つけなさい)

1 さくしゃ(わたし)は 雪を {めずらしがって いる。○  
めずらしがって いない。○}

2 さくしゃ(わたし)は じろうが きた ことを {うれしがって いる。○  
うれしがって いない。○}

3 おとうさんは いま この うちに {いる。○  
いない。○}

(1) じろう と いうのは なんだと 思いますか。(一つだけ ○を つけなさい)

○1 おとうとの なまえ

2 しんるいの こどもの なまえ

3 犬の なまえ

4 ねこの なまえ

(3) 「思いました」は だれが 思ったのですか。(一つだけ ○を つけなさい)

1 じろう

○2 わたし

3 おかあさん

4 おとうさん

### 読解力検査

(2)

(1) わたしは この えいがを 見る まえには 北きょくは 一年中 とても さ

むい ところで、人は もちろん すんでいないし、動物なども あまり いない  
ところだと 思って いました。きっと みどり色の 木なども なくて、いちめ  
ん氷山が ういている けしきだと そうそうして いました。

- (2) わたしの そうぞうは だいたい あたって いました。
- (3) けれども 思ったより いろいろの 動物が いるのに おどろきました。
- (4) わたしは、この えいがを 見て、まえに 見た「さばくは 生きている」と  
いう えいがを 思いました。
- (5) 「さばくは 生きている」の ほうは、この えいがとは ほんたいで、あつい  
に いろいろな 植物や 動物が 出てきました。色は とても あかるく に  
ぎやかでした。それに くらべると、「北きょくものがたり」の ほうは、くらく  
て さびしい かんじでした。けれども 北きょくにも きせつが あるのです。  
とくに 夏と 冬が はっきり して いて、さむい なかでも 動物たちが げ  
んきに せいかつ して いるのだ という ことを しりました。

1. この 文は なんの えいがを 見た ことを かいて いますか。(書きこみ  
なさい)

( さばくは生きている )

2. 文が (1)(2)(3)(4)(5)と 五つに 分けて あります。ぜんたいを 二つに 分けて  
読むと したら、どの 読みかたが つづきぐあいが いいですか。

(1. 2. 3. 4.)の よいのに 一つだけ ○を つけなさい。

- 1 (1)だけ ひとりで 読み、(2)(3)(4)(5)は ほかの 人が 読む
- 2 (1)(2)を ひとりで 読み、(3)から あとは ほかの 人が 読む
- 3 (1)(2)(3)を ひとりで 読み、(4)から あとは ほかの 人が 読む
- ④ (1)(2)(3)(4)まで ひとりで 読み、(5)から ほかの 人が 読む

### 読解力検査

(3)

よっちゃん、よっちゃん、もう 8時よ。という こえに、わたしは ゆめから  
さめて、まだ ねむい 目を すこし ひらきました。ふとんの すきから ちらっ  
と みると、おかあさんが こたつの ふとんを どけて、あさの そうじを して  
おられます。たけしにいさんが きて、わたしたちの へやの とを あけたので、  
つめたい かぜが すうと へやに はいって きました。おう さむい。わたしは  
くびを ちぢめました。おかあさんが 大きな こえで よっちゃんも みよちゃん  
も おきなさい。と いわれたので、いもうとも やっと 目を さました。

- (1) この文に でている人は だれと だれですか。つぎに かきなさい。

(よっちゃん おかあさん たけしにいさん)  
(みよちゃん)

(2) この文の だいは なにが いいですか。いいのに ○を つけなさい。

- 1 よっちゃんの ゆめ
- ② わたしの おかあさん
- 3 あさの そうじ
- 4 さむい あさ

### 読解力検査

(4)

やぎは こやの 中で メーメー ないていた。ほかに なきようも ないのだから、人間は、いつでも、やぎは メーメー なくものだと おもっている。

しかし、やぎだって きげんの いい ときも あるし、わるい ときも ある。きげんの いい ときは あごを だして あまえるような なきかたを する。そういう ときは、こやに はいって いても けっして むかって こない。からだを こすりつけるように よって きて、みじかい しっぽを びょこびょこふる。

きげんの わるい ときは、そうは いかない。こやの すみっこに ひっこんで はいいろの 目で じっと、はいって くる 人間を にらんでいる。そばへ よると、あたまを さげて、つかかってくる。

きょうの やぎは、どう みても ごきげんが わるそうだった。

これは 長い 文の いちばん はじめで、これから いよいよ お話が はじまります。

作者は いったい どういう お話を かこうと して いるのでしょうか。

- 1 やぎの なきごえの いろいろ
- ② やぎにも きげんの いい ときと わるい ときと ある。
- 3 やぎの ごきげんの わるい日の できごと。
- 4 やぎの くらしかた。

畑友子が速く読めても、理解がそれにとまなわない、という読む力のヒズミはすでに低学年のころからでてきている。

畑友子は2年のときに、阪本・基礎読書力テストをうけたが、偏差値63で、たいへんよい成績をとっている。しかし、このテストは、時間制限法であるから、速く読める友子などには有利になる傾向がある。畑友子はこのテストで、読みの正確度は、やはり劣っていた。

### 眼球運動

畑友子の読みかたの特徴が、文章を読むときの目の動きにはどうあらわれるか。この実験は畑友子が3年の2学期に、オフサルモグラフで調べた。

第7表 畑友子の眼球運動

停留数	逆行数	不適応凝視数	停留時間	読字数	理解
100字につき 61回(中)	100字につき 10回(中)	1行につき 0.7回(中)	1停留について 230シグマ(上)	1秒につき 6.23字(上)	下

第7表をみると、停留時間がひじょうにみじかいという特徴がでている。つまり、畑友子は文字群を知覚する時間をなるべくみじかくして、(そのために一度にたくさんの文字が読めないから)目を何回もきぜわしげにとめて読んでいく。いわゆる神経質な読みかたをしている。

### 言語能力

畑友子の言語能力はどんなていどのびているか、をかながえてみる。第8表がその結果である。表中の数字は学級のなかでの5段階評点であり、A、B、Cは3段階の評点である。

第8表 畑友子、中学年の言語能力

学期		3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	
能力	書字	4	4	4	3	3	3	
	読字	—	4	4	3	—	3	
	読解	3	3	1	3	1	3	
読速		4	4	5	黙	4	5	4
					音	3	4	5
音読	—	—	—	5	A	—		
語彙	—	3	4	3	4	4		
文法	4	3	—	3	3	3		
作文	3	3	3	3	4	2		
話す	—	B	B	3	B	3		
聞く	—	B	B	4	3	3		

第8表をみると、畑友子の言語能力の中で、

すぐれている能力      読速・音読技能



## 劣っている能力 読解

文字力は3年までは、ややよかったが、4年になってから、ふつうの能力にとまっている。語彙、文法、話す、聞く、作文は学級相当の力をもっている。作文、話す力などは、ことからの表面的な記述、表現にとどまって、深い解釈が欠けている。このことは読解の特徴と相通ずるものがある。

このことから、畑友子の言語能力の特徴は、

1. いちばんすぐれた能力は読速、音読技能である。
2. いちばん劣っている能力は読解力である。
3. 文字力は3年より4年の方がわるい。
4. 一般に、ことがらを深く考えるという能力、態度がかけている。

### 3. 畑友子の言語能力を規定するもの

「畑友子」という子はどんな子か、とかんがえたとき、すぐでてくることは学習態度の特徴である。

#### 学習態度

畑友子はよく本を忘れてくる。授業中にいたずらをしている。国語の一斉読みの時には、机の下に漫画本をかくして盗みみている。テストのときには、カンニングをする。欠席はあまりしないが、遅刻は学級の中でいちばん多い。こういう事例ばかりが観察記録からでてくる。

#### 交友関係

畑友子の交友関係はふつうである。ゲス・フー・テストの形式で、お友だちの名前を書かせたものによると、4人の子どもが畑をお友だちとしている。ふだんの観察記録からも、とくにほかの子どもから嫌われているという傾向もないようである。

#### 教師関係

しかし畑友子は、うけもちの先生にたいしては抑圧感情をいだいている。2年のとき、畑友子の学級の子ども全体に面接をして、うけもちの先生にたいする好ききらいを聞いたことがある。そのとき、畑友子は「きらい」と答えた。「きらい」と答えたのは、この畑だけであり、こわいからという理由である。その際学校のお勉強はおもしろくないとも答えている。

畑友子は3年3学期と4年3学期の課題「先生」という作文に、うけもちの先生について、こう書いている。

### 3年3学期の作文

野口先生は とても おこりんぼで南さんと杜さんばかり かわいがっているのに にくらしい だけど 先生は勉強をわかりやすくおしえてくれるのです。このあいだも算数の時間……おしえてくれました。杉山先生女の先生と野口先生男の先生がとてもなかよしなのです。

### 4年3学期の作文

野口先生はやさしい先生ですが、おこるとものすごくこわいのよ。でもいまのせんせいはあんまりよい先生だともおもいません。それにくらべると一年生の時の石井先生はよい先生だと思いました。(中略)

### 社会性

畑友子の作文を読むと、ここで問題にしたい畑友子のパーソナリティがよくわかる。畑友子は、性質がひねくれている。先生に愛されないことをうらんでいる。(これは畑友子が父親の愛情にあまりひたれない、コンプレックスと関係がある。)こういう畑友子のパーソナリティは家庭の生活でもあらわれているようで、母親の報告によると、性質がひねくれていて、ときどきうそをつく。自我がつよく、感情のはげしい子どものようである。

すこし古い観察記録になるが、こんな例がある、

○2年の5月21日(金)

聴力テストをした。畑友子は順番をまつあいだ廊下で本を読んでいた。山田さんの番がきたので、畑にどいてくれるようにたのんだ。しかし、畑は返事をせず、本を読みつつづけていた。ほかの子どもに「畑さん、どいてあげなさい」と言われると、「ほかのどこを通っていけばいいじゃないの」と怒った。山田さんがそれでもむりに通ろうとして、畑の肩にふれると「うるさいわね」といって、あくまで通してやらなかった。

社会的常識・道徳性判断

社会性テストをして、社会的常識を調べたものでは、畑友子はふつうより劣るようである。テストの反応をみると、たとえば、青物市場には、野菜や果物だけでなく、お米も市場にでる。木は洪水を防いだり、木炭をつくるのではなく、煉炭をつくる。新しい道をつくるには、まっすぐで幅が広いことより、けしきがいよきが必要である、など。

道徳性判断力テストでは、一応中学年なりの考えかたをしている。たとえば作文にこう書いている。1年の時を回想している。

わたしは、みずのさんとさわいで木本先生にたたされた。たたされたひとがひとりでもいると、そのとなりの人もいっしょに立たされるので、いまわたしはさわいたときの人におわるいなあ、と思いました。

こうみてくると、畑友子の学習態度の悪さは、性格的なひねくれ、わがまま、いじわるに原因があり、それに教師へのねたみということがからんでいる、と思われる。

#### 家庭環境の状態

畑友子は東京で生まれた。いまふたり兄妹の末子である。両親は健在。父は旧制高商をでて、いまは北海道で硫黄の製錬をしている。一年の大半は北海道にいる。母は旧高女卒、自分で店をかまえて洋裁店を開いている。

4年2学期の作文で、家庭の内情と生活を、畑友子はこう書いている。

私の家は、4人かぞくです。私とお兄ちゃんと、お母さんとお父さんです。お父さんは北海道の、さっぽろにいます。お父さんがたまに帰ってきて私もちょっとうれしくありません。(中略)ことしの9月からバイオリンをならいました。バイオリンの先生はとてもやさしい先生なのですきです。わたしはいつもおけいこをしています。

畑友子が4年生のときに調べた家庭環境調査(日本文化科学社発行)では、つぎの結果がでている。

家庭の一般的状態	3
家庭の文化的状態	3

家庭の一般的ふんいき	3
両親の教育的関心	3
子どものための施設	2

子どものための施設が少し劣るようであるが、とくに問題になるところはない。

畑友子の家庭環境で問題になることは、作文に書いていたように、畑友子の家庭には父がいなくともよい、母親と結びついた生活である。母親の養育態度は溺愛の傾向がある。卑近な例になるが、お風呂ではいつも友子のからだを洗ってやったり、鉛筆をけずってやったり、ちょっとした傷でもすぐ手当をしてやるという、友子が自分ですべきことをも母親がしてやっている。友子はこれに甘えてわがままに育っている。

#### 知能の状態

知能検査の結果では、知能指数は115で、学級でも高い方である。とくに言語的知能、推理力がすぐれている。

#### 身体の状態

畑友子はあまり学校は休まない。3年では1日、4年では5日の欠席である。身体検査の結果から身体発達の傾向をみてみよう。

学期 \ 項目	身長	体重	胸囲	座高	その他
3—1	119.7cm	21.0kg	57.0cm	66.9cm	視力
4—1	125.4cm	23.1kg	61.5cm	67.9cm	右 0.1
5—1	129.7cm	25.6kg	64.0cm	70.3cm	左 0.7

3年のころは、とくに問題はないが、4年になってからは、女の子としては少し発達がおくれぎみである。近視であることが気になる。

4年になって、からだがあまりのびないのは、畑友子が虚弱体質だからである。顔色もすぐれない。これは母親の影響をうけているもようで、母親は過去に肋膜炎をわずらい、現在、貧血に悩んでいる。友子は早産をした。離乳は1年6か月、幼児期には、肺炎や気管支炎をおこして病弱であったという。

畑友子が神経質なもの、この身体の腺病質と関係があるように思われている。

#### 家庭読書の状態

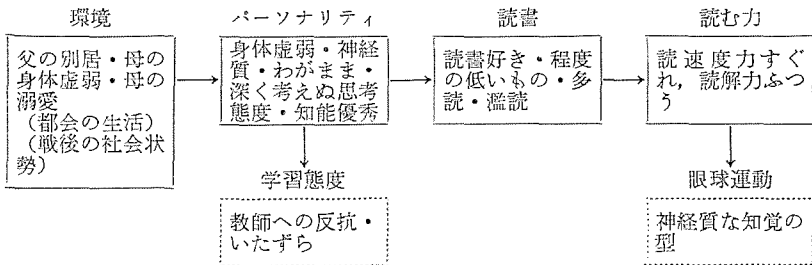
畑友子は読書好きである。母親の報告によると、毎日、2時間ぐらい家で本を読んでいるそうである。目ぼしいものとして最近ではメーテルリンクの「青い鳥」、宇治拾遺集、清少納言などポプラ社の世界名作物語などを読んでいる。ただ、悪い点は、多読、濫読の傾向が強いことであり、このことは、とくに注意しておかねばならない。

このようにみえてくると、畑友子の学習態度の特徴は、えこじでずるい性格にあり、それは、父の愛を知らない母中心の甘やかされた生活と腺病質体質ということに原因がある。

#### 4. 診断

畑友子の文章を読む速さがひじょうに速くて、読んで理解する力がない、という読む力の特徴には、つぎのような背景がある。

これを図に示すと、つぎのようになる。



畑友子の父は友子とは別居して、1年のうち、たまにしか家に帰ってこない。母はからだ弱い。父のいない生活と、母親は自分のからだの弱さから友子にたいする養育態度は溺愛の傾向をおびていった。友子はこの母と、東京のまんなかで、戦後の社会状況の中でそだってきた。

このような環境のなかで、友子のパーソナリティは身体虚弱、神経質、わがまま、深く物を考えぬ思考の習慣ができてきた。学校では、教師への反抗、いたずら、ひねくれた子どもという態度ができあがっていった。友子の読書生活は、そうした環境とパーソナリティから、読書への興味をたかめ、内容は程度の低いものを多読、濫読する読書の習性ができてきた。それが、友子の速く読んでも、深い読みができない、という読む力の特徴となってでてきた。

## Ⅱ 作文能力の発達

### A 課題作文からみた能力の発達

#### 1. 中学年の作文の能力の一般的特徴

小学校3年4年の段階における作文能力の特徴として、これまで指摘されていたことを拾ってみる。

(1) 文が長くなり、くわしくなる。

特に3年生で長い文が書けるようになる。しかし4年後期あたりで敘述力の停滞がおこる。

(2) 文法上の誤りがすくなくなる。

(3) 句読点の使い方、会話のかぎの使い方などができてくる。

(4) 文の組み立てを考え、段落のはっきりした文を書くようになる。

(5) 1,2年では羅列的・行動的・事件的に書いているが、だんだんと観察的・思惟的な要素が見えてくる。

(6) 推考するようになる。

(7) いろいろの文を書くようになる。

これ等のことを前提として、われわれが試みたこと、その結果、およびその結果の解釈について述べてみよう。

#### 2. 考察の資料

われわれは作文能力の発達を見るための資料として、1年生の時から、ずっと続けて、

第1学期末 「ともだち」

第2学期末 「わたくしのうち」

第3学期末 「せんせい」

という題で文を書かせている。

はじめにこの資料の性質をいわなければならない。実験学校では作文について特別な学習指導が行われていない。また毎学期の作文の時の条件は、ほとんど同じである。1年から3年まではほとんど全員が30分間で書きあげていたの、いつも30分間であった。4年の第1学期から45分とした。45分かけないと

できない者が出て来たというところに、発達のあるしというか、一つの変化が見られたわけである。文を書いた個人個人の身体的・情緒的状況は、もちろんいつも同一ではない。これについては教室の観察記録もある。また、われわれはすでにその、子供のパーソナリティをいくらか知っているのだから、作品そのものから、本人のその時のコンディションを想像することができる。

三つの文は、文題がちがうから、すべて同一には論じられない。その文題について書くことがあれば、長く、また、生き生きとも書ける。それでなければたとえ能力があっても、それほどに書けない。同じ「ともだち」にしても、書きたい友達、それも何か特徴を持った友達があれば、それについて書けるから、書きすやい。

「せんせい」という題は、学年末であるし、感情・感慨がはいりやすいので、これを「ともだち」とか「わたくしのうち」と同じ性質の資料と見ることはできない。しかし、「せんせい」の作文は「せんせい」の作文で、ずっと続けて見て行けばよいわけであり、三つの異った題のものをくらべる場合は、そうした書き手と題目との関係を考慮に入れておいて、その範囲内で、くらべればよいわけである。

### 3. 文字や文法上の誤りはどのくらい減るか

文字や文法上の誤りの減少について1,2年の時に10項目の検査項目を作り、そうした誤りの目立っている者の人数を調べた。「目立っている」というのは、項目によっては全部をあげているのではないからで、主観的であるが、判定はすべて同一検査者によった。

この表の数字を見る上に注意しなければならないことは、判定が目立っている者の人数という、かなり主観的なものであること、検査人員が1年ではもっとも少なく、2年ですこしふえて、3年からずっとふえていること、分量がちがっていること、1年の第1学期の「ともだち」という作文はほとんど文章になっていないこと、また、前述の通り、1,2,3 学期で文題がちがいが、したがって文章・文体にも多少のちがいがあることなどである。

そうした限界内でいえることは、

- (1) 拗音・促音・長音の表記をふくめ、一般に、語の表記はだんだんと完

作文にあらわれた文字や文法上の誤り

検 査 項 目	1年			2年			3年			4年		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
(1) かなに判読困難なものがある。誤字がある	7	5	5	2	5	2	5	1	1	1	0	0
(2) 拗音・促音・長音の表記の不完全なのが目立つ	7	12	12	16	6	4	4	3	2	3	2	1
(3) 一般に語の表記の不完全。脱字, 増字, 誤記など	6	8	14	9	12	17	11	10	8	9	5	2
(4) 文法上の活用などの誤り	3	5	3	6	6	2	2	2	1	1	2	2
(5) 主述の不分明	0	2	7	5	6	4	2	1	3	0	1	2
(6) 助詞「は」を「わ」と書く	5	5	6	5	9	8	10	8	7	5	4	7
(7) 「へ」を「え」と書く	0	7	0	5	3	4	11	8	0	4	4	2
(8) 「を」を「お」と書く	12	13	6	12	12	9	12	6	6	6	8	5
(9) 「そして」「それから」の多い文。	0	9	5	4	2	2	5	4	3	3	0	0
(10) 「……たら……たら」「……ので……ので」の非常に続いた文	0	3	0	2	1	2	1	1	3	1	1	0
検 査 人 員	34	36	37	42	44	43	47	47	47	47	46	45

全になって行っている。

(2) 助詞の発音式の書き方はあまり減らない。

(3) 「それから……それから」の文や「……たら……たら」の文はだんだん減っている。

である。そして4年第2学期では、文字や文法の誤りが目立つという者は、ほとんどなくなる。(4年生になっても2年生ぐらいの学力の者も幾人かいるわけであるが、それは特別として考えなければならない。)

なお、この数表から見ると、そのような上達の線が引けるのは、4年の第1学期と第2学期との間で、結局、4年後期からよくなるわけである。

#### 4. 長さ・くわしさの問題

作文の分量(平均文字数)の変化をグラフにすると、別表のようにどの文題についても4年までずっと量がふえている。



よく見ると、「ともだち」と「わたくしのうち」とは大体同じ形で、3年4年の間で増加がややおとろえて来ている。ところが「せんせい」の方は、2年3年の間で上昇しないかわりに、3年4年で非常に上昇している。これについては、3年の393字というのが何か特殊事情で低かったものと考えられることもできる。

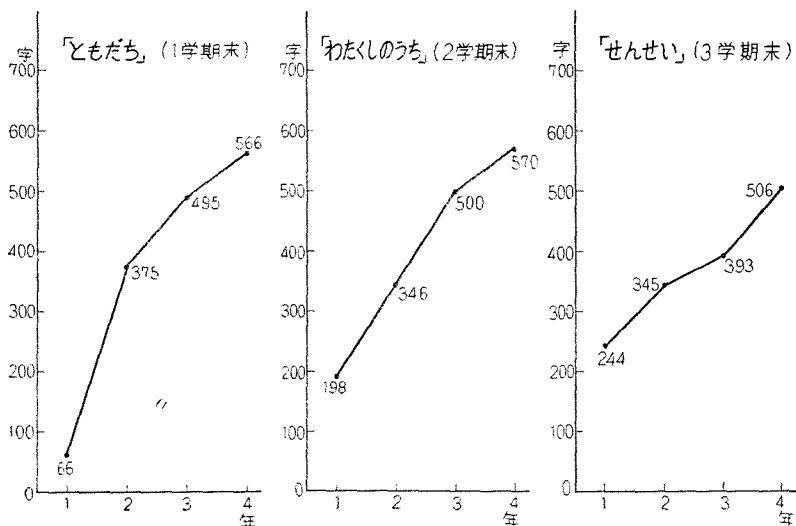
これを男女別にしてみると、一般に、女子の方が分量が多い。ところが3年の第3学期はその女子の分量がぐっと減っている。この「せんせい」の文の全体の平均文字数が3年の時に低かった特殊事情は、この辺にあるわけである。

なお、3年4年の6回のうち4回以上も600字以上の文を書き、時によっては1,000字以上の文を書いている者を長文型の者とすれば、実験学校では

男子 2名          女子 5名

で、女子に多い。そうして、3年3学期の女子の文字量がすくないのは、こういう長文型の児童が、この時には、229字とか283字、398字というように短い文であることが原因である。

作文の文字量の変化

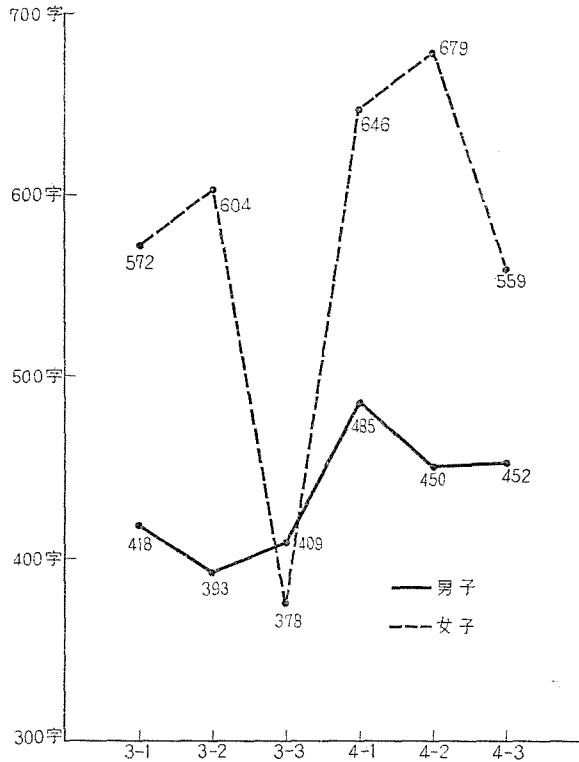


元来、長文を書く子供は必ずしもいわゆる優秀児ではない。優秀児の中に長

文を書く者があることはあるが、だいたい、むしろその反対である。ところがこの「せんせい」という文は、「ともだち」や「わたくしのうち」にくらべて事件的、叙式的に

男女別作文文字量の変化

扱にくいもの、観察的なものである。また強い感情もあらわれるものである。それが特に、女子の、いわゆる叙述型の者において分量の減る一つの原因で、女子の4年3学期の文字量が4年2学期よりも減っているのも、同様の理由であると考えられる。すなわち、「せんせい」の文が女子において2回とも分量がすく



なく、ことに3年生の場合に非常にすくないことには、それだけの理由があると考えられる。

なお、この男女の分量の比較から見ると、女の子には「わたくしのうち」が書きやすく、男の子には「ともだち」の方が書きやすいということがいえそうである。ただしここに分量の多い少ないで、書きやすい書きにくいの判定をしていかどうかという問題はある。

なお、最初に、中学年の作文能力について一般的にいわれていることとしてあげた、4年後期に叙述力の停滞があるかどうかという問題であるが、前表の

実験学校児童作文文字数一覧表（男子）

男子 番号	3-1 ともだち	3-2 私のうち	3-3 先生	4-1 ともだち	4-2 私のうち	4-3 先生
1	645	306	604	422	280	507
2	570		659	716	369	230
3	375	91	305	548	348	386
4	375	643	272	815	611	942
5	630	600	501	920	634	544
6	525	524	595	333	459	624
7	330	478	260	391	514	392
8		397	425	259	515	341
9	75	317	327	275	357	308
10	375	425	223	547	342	525
11	465	562	840	595	385	309
12	285	568	194	466	338	332
13		211	334	396		885
14	300	296	402	590	476	415
15	420	413	295	201	482	610
16	705	576		556	434	262
17	510	341	335	458	766	332
18	300	284	408	304	525	465
19				226	270	338
20						291
21						
22						
23	375	215	201	428		
24	645	516	598	738		
25						
26						
男子平均	418	393	409	485	450	452

実験学校児童作文文字数一覧表（女子）

女子 番号	3—1 ともだち	3—2 私のうち	3—3 先生	4—1 ともだち	4—2 私のうち	4—3 先生
1	630		331		362	
2	555	607	401	717	566	559
3	465	500	301	756	397	389
4	855	680	221	571	334	298
5	780	982	229	1006	861	533
6	270	393	197	494	1565	727
7	345	765	302	774	843	626
8	780	871	398	1096	1498	1052
9	675	600	389	812	718	1111
10	630	404	299	282	260	
11	585	493	275	457	554	581
12	300	528	250	406	289	393
13	525	927	420	586	526	500
14	105		409	482	761	375
15		567	516	373	791	
16	780	617	310	469	338	598
17	945	500	417	598	771	643
18	405	359	239	621	494	380
19	495	234	240	288	388	388
20	105	381	422	974	1841	922
21	300	598	407	748	495	579
22	660	793	406	685	722	604
23	660	360	201	475	777	339
24	480	496	310	310	367	270
25	885	1003	968	768	513	483
26	750	396	283	1022	597	723
27	675	850	351	677	706	238
28	765	1006	1069	801	669	668
29	600	403				
女子平均	572	604	378	646	679	559
総平均	520	513	390	572	588	511

三つの作文の文字量の変化からいえば、どれもふえているわけであり、特に「せんせい」の文は、いちじるしくふえている。こういう文には停滞はなく、むしろ飛躍さえある。「ともだち」「わたくしのうち」もふえているが、これはそれほどでもない。これについては5年6年まで見ないとはっきりしたことはいえないが、事件や行動の羅列的・叙述的な文については4年でそれほど伸びなくなり、またそうした文を書かなくなるから、停滞が起ると見られるのであると思う。

なお分量の変化を個人個人について見ると、

- (1) ずっと長文の者（女子28番）
- (2) ずっと短い文ばかりの者（男子9番，女子12番）
- (3) 4年になって長文を書くようになった者（男子4番，女子20番）
- (4) 4年になって文が短くなって来た者（男子1番，女子25番）
- (5) 文題によって一つの傾向のある者（男子5番，女子5番）
- (6) いつでも、ふつうの長さの者（男子6番，10番，14番，18番，女子11番，18番，24番）
- (7) その時その時で全くいろいろである者（女子26番）

などの区別が見出される。

##### 5. 句読点の使い方の発達

1年から4年までの各学年で平均して叙述量の多い第2学期の「わたくしのうち」について、句読点の使い方という観点から分析すると、102ページのようになる。（数字は人数で、計は下の欄にある）

マルを使っている者の比率

1年	2年	3年	4年
94.4%	93.0%	87.2%	95.7%

マルを使うということは、1年生ですでにその意識が生じている。2年3年では書く事柄の方が主になるからか、かえてその意識が低くなっている。

テンを使っている者の比率

1年	2年	3年	4年
22.2%	34.9%	48.9%	57.4%

1年—4年 句読点の発達

	1年	2年	3年	4年
テン・マル大体適當 (分ち書きせず)	7	6	11	21
〃 (分ち書きの上)	0	0	2	1
〃 (テンがやや多い)	0	2	6	0
マルだけ (分ち書き)	1	7	8	3
〃 (分ち書きせず)	19	15	9	10
テン・マルごく僅か使用 (分ち書き) (欠陥が多い)	1	0	0	1
〃 (分ち書きせず) (欠陥が多い)	0	5	1	2
マルだけ・欠陥が多い	1	2	3	6
〃 ・テンのところもマル	2	1	1	1
〃 ・最後だけ	3	1	0	0
テンだけ	0	2	3	2
テン・マルなし (分ち書き)	0	2	1	0
〃 (分ち書きせず)	2	0	2	0
計	36	43	47	47

テンを使うことは、学年を追って、平均して、多くなっている。

分ち書きをしている者の比率

1年	2年	3年	4年
5.6%	20.9%	23.4%	10.6%

分ち書きは、2年3年にいくらかあって、4年ではむしろ減っている。これは、教科書の分ち書きから来ているものと思われる。分ち書きをしていればテンがなくてもすむ場合もある。また、テンの打ち過ぎと見られる者が、2年で2名、3年で6名あるところからすれば、テンの意識はその辺から強くなり、技能的には、4年になればかなり完成されるといえるのではないか。

1年～4年の発達を、上の表の、一番下のマルだけで欠陥が多い者、テンだけの者、テン・マルなしの者など、欠点の合計の比率で見ると

1 年	2 年	3 年	4 年
22.2%	18.6%	21.3%	19.1%

ということになって、欠陥が学年的にあまりへらない。2年から3年になる場合にむしろふえている。これは、この時期の作文が内容的に複雑なものになり、児童が内容を書くことにいっしょうけんめいになることによるものと思われる。

句読点を正しく使っている者の比率は3年4年とずっとよくなっているのに、欠陥の多い者の比率は減らないという現象は、学習指導上の問題をもふくんでいると思われる。

#### 6. 文段を分けている者の数（構想力の発達）

400字なり500字なりの文を段落に切って書いている者（途中で文段を変えて書いている者）の人数を調べると、3年4年の各学期で、次のようになる。

3—1	3—2	3—3	4—1	4—2	4—3
0	2	3	2	4	10

はじめひとりもいなかったのが、だんだんと増している。その文段の分け方に事件的な切り方と思想的な切り方とあるわけであるが、ここではそれを区別していない。

なお、このことに関しては、各学期が同一文題でなく、「ともだち」「わたくしのうち」は事件的・羅列的に取扱われやすく、「せんせい」は、これに対して、説明的・観察的に取扱われやすい面があることにも注意しなければならない。

#### 7. 書き出しのことばの変化

書き出しが「きのう……」「きょう……」であれば事件的な書き方であるし、「わたくしのうちは……」「わたくしのうちには……」であれば説明的な文になる。

そういうことを考えて、書き出しを分類してみると、「わたくしのうち」の文では104ページの表のようになる。

「わたくしのうち」という主題に正面から取りくんだ、大体において説明的な文が学年を追ってふえている。そのふえ方は、1年から2年になる時がいちじるといふ。書き出しは1年の時

に非常に多く、2年からずっとへっている。

書き出しのことは	1年	2年	3年	4年
きょう	8	2	5	2
きのう	8	2	3	3
このまえ、あさおきてみると 等	2	1	5	1
学校からかえって	1	4	1	1
ぼくは(ぼくが、ぼくと)	14	5	6	4
わたしのうちは……です。(きのう)ぼくが	0	8	0	6
わたしのうちのねこは、(にんぎょうは)	1	2	3	2
うちのおねえさんは(いもうと、おばあさん、おかあさん、おとうさんは)	1	4	6	4
わたしのうちでは、(うちには、うちは)	1	15	18	24
計	(36)	(43)	(47)	(47)

3年生でいちじるしいことは、「わたしのうちは……です。(きのう)ぼくが……」という書き出しが2年と4年とにありながら、3年ではなくなっていることである。そして、もしこれを、「わたしのうちは……」という類に数えると、

1年	2年	3年	4年
1	23	18	30

ということになり、これを比率にすると、3年はもっと悪くなる。これは、2年の方が、陳述の形式、形態に対する意識が強く、3年の方ではそうした形式にこだわらないものがうまれているのかも知れない。

しかし、3年生にはそうでない面もある。たとえば「うちのねこは……」という文で、

2年生の場合 わたくしのうちのねこは、もうおかあさんです。

いつもわたくしが学校からかえると……

3年生の場合 わたくしの家はどうぶつがすきです。……それにうちではまたねこがいます。……

というように、最初に主題に合わせた説明文が出て来ている。同じものでもそれに対する態度に余裕が出て来ている。

#### 8. 題目への集中の度合い(主題意識の発達)



「ともだち」という題に対して、自分のことを書いたり、「わたくしのうち」に対して、うちで友だちと遊んだことを書いて、わたくしのうちを書くという意識が全然見られなかったりする者がある。また、はじめは「ともだち」のことを書いているが、だんだんと自分のことになり、ついにそれで終わってしまっている者がある。そうした、最初、あるいは中途から文題とそれで行った者の人数を比率で示すと、3年4年の間で次のようになる。

3—1	3—2	3—3	4—1	4—2	4—3
12.8%	25.5%	23.4%	8.5%	10.9%	4.4%

これを見ると、学年を追ってだんだんとそうした者がなくなる。集中度が高くなるわけであろう。しかし学期によってちがう。3年の1学期が特によく、4年の1学期がまたその次によい。すなわち文題の性質によるところもあると思われる。

各学年末の「せんせい」の文について1年～4年を調べると、

1年	2年	3年	4年
56.8%	29.5%	23.4%	4.4%

この数字だけでいうと、学年的にだんだんよくなり、3年から4年になって急によくなるようである。

## B. 同一の経験を書かせた作文にみられる発達

4年になってから、従来の課題作文のほかに、種々の目的のもとに、文を書く能力はどのように発達しているかも、あわせ見るようにした。その一つとして春秋2期に行われる遠足を利用して、作文を書かせることを、実験学校に試みてみた。

### 遠足文

遠足文は、多くの児童が、一様に同一の経験をしたことを書くわけだから、経験の相違からくる表現の差ではなくて、各人の真の表現能力が見られるはずであるし、また、ようやく個人差が大きくなってきたこの期の児童の表現能力の実態が、具体的にとらえられるはずである。

#### 1. 文字量と発達

文字量の発達は、課題作文にも、著しく現われ、発達の一つの現象として取りあげられたが、遠足の作文では、この文字量が、いっそう上昇している。

課題作文学年別平均文字数と遠足文の文字数

実験学校

課題	ともだち	わたくしのうち	せんせい	春の遠足	秋の遠足
学期	1学期末	2学期末	3学期末	1学期	2学期
学年					
1年	66字	198字	244字		
2年	375	346	345		
3年	495	500	393		
4年	566(383)	570(385)	506(341)	859(596)	736(490)
5年	701(468)			816(544)	

作文所要時間      1年～3年      30分間

                         4年以後      45分間

( )内の数字は、30分間に換算した文字数

これは、遠足作文が、経験したことを時間的経過に従って、叙述していけばひととおりに書くことができるという比較的叙述しやすい性質によると思われる。

そのためか、朝早く起きて遠足の仕度をして登校したことからはじめて、目的地的につき、遊んだり、たべたりしてやがて帰途につき、解散、帰宅、就寝という一日の様子が平板に書き流されているものも数多くある。

課題作文で、文字量が学年的発達につれて増加しながらも、時に中だるみが見られたのは、総合的に書く意欲・書く能力がついてきての自然増量という結果になったこと、中学年にもなると、題目によって、書く意欲や分量が左右されること、上位者になると、主題に即して叙述を展開させようとして、文がまとめられる結果、量的にはむしろひきしめられてくるなどの諸現象があることが見出されたが、遠足の作文にも、同様の現象がみられた。

同一の経験が、4年1学期の春の遠足では、最多2,224字(女児)最少376字(男児)、4年2学期の秋の遠足では最多2,646字(女児)最少352字(男児)というような開きを見せて表現されている。分量の多いのでは、遠足の具体的描写や新しい経験の印象を詳細に表現した結果という、分量と内容の一致した、

男子 No	遠足の作文			遠足作文の評価		
	4年1学期 春の遠足 ユネスコ村	4年2学期 秋の遠足 高麗神社	5年1学期 春の遠足 相模湖	4の1	4の2	5の1
1	1049	470	607	4	3	2
2	693	743	418	2	1	2
3	1083	596	594	1	1	1
4	1060	768	1490	4	4	4
5	944	598	781	5	5	4
6	1247	/	586	5	/	4
7	553	774	478	2	2	2
8	806	419	993	5	5	5
9	625	527	581	3	3	2
10	979	629	922	3	3	3
11	818	(519)	774	1	1	2
12	1270	352	343	2	1	1
13	788	/	1194	3	/	3
14	648	558	558	5	5	5
15	/	971	1119	/	2	2
16	376	513	396	1	2	5
17	458	674	547	2	3	3
18	640	363	671	5	5	5
19	667	354	517	2	3	2
20	(323)	/	(257)	(4)	/	(4)
21			606			5
22			483			5
23	1149	1022	/	5	5	/
<p>( ) 内の数字は、 遠足不参加で、他の 自由作文を書かせた 文字数。</p>						

女子 No	遠足の作文			遠足作文の評価		
	4年1学期 春の遠足	4年2学期 秋の遠足	5年1学期 春の遠足	4の1	4の2	5の1
1	/	(221)	/	/	(3)	/
2	640	850	1152	5	5	5
3	563	582	661	3	2	2
4	738	393	730	3	3	2
5	1037	545	306	3	2	3
6	(677)	2646	1230	(3)	4	3
7	1143	1116	1057	3	4	4
8	610	1279	931	3	1	2
9	2224	1389	887	5	5	4
10	394	693	426	1	3	2
11	883	820	1022	5	4	5
12	825	496	1240	3	3	2
13	519	848	674	3	3	4
14	1107	878	/	2	3	/
15	339	(619)	1061	1	(4)	4
16	773	(553)	1178	3	3	4
17	798	421	1152	1	1	2
18	665	697	838	3	2	1
19	594	401	638	3	3	3
20	1199	1278	1154	3	2	2
21	/	347	1141	/	4	4
22	1149	842	1461	5	4	3
23	731	842	596	1	2	1
24	1670	615	465	1	2	1
25	787	669	614	2	3	2
26	/	1432	1397	/	3	2
27	1163	549	791	1	3	1
28	1609	976	1428	3	4	4

すぐれたものもあるが、一日の経験を細大となく書きつづる平板羅列型に終るものが多く、分量の多いもの、必ずしも、内容がすぐれているとは限らない。この傾向は、女兒の方に多く見られる。また、遠足という新しい経験を、何の感動も、印象も示さず、極めて、無感覚に400字たらずであっさり書きあげてしまう型もあって、作文があまり好きでない男児に、比較的多く見られた。

#### 文字量から見た作文能力の型

遠足作文の方が、課題作文に比べると総体的に分量が多くなっているが、なお、個人別に文字量という点から見ると、次のような現象があることがわかる。

(1) 文字量が、多少いずれかの型に大体きまっているもの。

3回の遠足作文の個人別文字量を見ると、時期によって、分量にかなり出入があることがわかる。しかし、そういう中でも、どの場合でも多くかく方とか、その反対に、いつでもこの程度の分量であるといった、比較的、文字量がきまっているものがある。こうした型に属するものは、内容評価の方でも、常に4か5とか、あるいは、1,2といったように、作文成績がほぼ定まっている。これらは、自分の経験なり、感想を表現するに際して、多少の出入はあってもすでに、きまった叙述態度、叙述量ともいうべきものをもっているとみられる。もちろん、あとで見るように、作文を書く場合の、表現対象への興味や関心の度合によって、叙述に伸縮があり、その結果分量に増減があることは、いうまでもないが、そのような考慮をはらいながら見ると、そうした傾向が認められるのである。

(2) 文字量に増減のゆれのあるもの

(1)のような傾向に対して、書くたびに分量の増減の差がはなはだしいものがある。これらは、特別の例を除いては、中・下位クラスに多く、作文を書く時の関心の度合、気分によって非常に左右されるようである。

これら(1)と(2)の型を通して、さらに次のようなことがいえる。

経験なり感想なりを表現する場合に、どの場合でも、具体的描写や説明を多く使って、表現しようとするを全面的に精細に叙述しようとし、従って常に相当の分量を必要とするものと、表現しようとする対象に焦点をあてて、簡潔にまとめて書くものがある。これらは、今までに、文章表現における叙述

型と構想型という二つの型，特徴として，とりあげられたものであるが，中学年の段階で，すでに，そうした型の発生，あるいは，傾向が存することが認められる。なお，この現象は，傾向的にはあるが，男児に後者のタイプが多く，女児に前者のタイプが多い，また，男児でも，理数科系統の学科がすぐれているものに，後者のタイプが多く，他教科に比べて国語科がすぐれているものに，前者のタイプで特に優秀な者が見受けられた。

## 2. 主題意識の発達

作文を書くという言語活動の中で，最も中心的な力である主題意識が，中学年になっていちじるしくついてきたことは，課題作文の中で，認められたことであるが，遠足の作文を書かせた場合，次のように，興味ある結果が現われた。「〇日に行った遠足のことを作文にかいてもらう」という条件のもとに書いた遠足作文の題が年次を追うごとに分化し，その種類も増加していったことである。(比較のために，高学年(5年)の分もあけておく。)

### 4年1学期(春の遠足)

題(7種)	男20人	女24人	計44人	%
遠足	(男16人	女18人	計34人)	77.4
春の遠足	( 1	0	1 )	2.3
遠足の日	( 0	2	2 )	4.5
雨でのびた遠足	( 1	1	2 )	4.5
のびた遠足	( 0	2	2 )	4.5
村山貯水池	( 1	0	1 )	2.3
ユネスコ村	( 1	1	2 )	4.5

80%近くの者は，ただ遠足の題で書いている。ごく数人の子が遠足の中から何かもう少しぼって書きたいという意欲が出て，こうした題名をつけたと思われる。事実，「村山貯水池」と題して書いた子は，情景が躍如として，よく書けていた。

### 4年2学期(秋の遠足)

題(15種)	男17人中	女25人中	計42人	%
遠足	( 4	5	9 )	21.3
たのしい遠足	( 1	1	2 )	4.8
たのしい秋の遠足	( 4	7	11 )	26.2
秋の遠足	( 0	5	5 )	11.8

待ちに待った遠足	( 0	2	2 )	4.8
ぼくらの遠足	( 1	0	1 )	2.4
みんなの遠足	( 0	1	1 )	2.4
遠足の日	( 0	1	1 )	2.4
雨の遠足	( 0	1	1 )	2.4
雨の中の遠足	( 1	0	1 )	2.4
遠足の日朝	( 1	0	1 )	2.4
10月18日	( 1	0	1 )	2.4
高麗神社	( 2	2	4 )	9.5
高麗村	( 1	0	1 )	2.4
無題	( 1	0	1 )	2.4
(遠足不参加者)	( 1	3	4 )	

### 5年1学期(春の遠足)

題(17種)	男20人中	女24人中	計44人	%
遠足	( 3	2	5 )	11.4
春の遠足	( 2	0	2 )	4.5
楽しい春の遠足	( 1	1	2 )	4.5
楽しい遠足	( 3	13	16 )	36.3
楽しい遠足相模湖	( 0	1	1 )	2.3
楽しかった遠足	( 0	2	2 )	4.5
ぼくらの遠足	( 1	0	1 )	2.3
待ちに待った遠足	( 2	2	4 )	9.0
楽しかった郊外教授	( 1	0	1 )	2.3
春の郊外教授「相模湖」	( 1	0	1 )	2.3
つかれた遠足	( 1	0	1 )	2.3
相模湖	( 2	1	3 )	6.8
弁天島	( 1	0	1 )	2.3
弁天島でのひととき	( 1	0	1 )	2.3
学校から弁天島まで	( 1	0	1 )	2.3
電車の中	( 0	1	1 )	2.3
遠足の日	( 0	1	1 )	2.3
(遠足不参加者)	( 2	2	4 )	

5年2学期には、さらにこれが、27種になっている。

題	男17人中	女27人中	計44人	%
遠足(えんそく)	( 3	2	5 )	11.3
秋の遠足	( 1	6	7 )	15.8

秋の遠足醤油見学	(	0	1	1)	2.3
楽しい遠足	(	0	3	3)	6.7
たのしかった遠足	(	0	2	2)	4.5
たのしかった秋の遠足	(	0	2	2)	4.5
たのしい秋の遠足	(	0	1	1)	2.3
たのしい野田の遠足	(	0	1	1)	2.3
遠足の日	(	0	1	1)	2.3
つまらない遠足	(	0	1	1)	2.3
秋の校外教授	(	1	0	1)	2.3
野田市へ校外教授	(	1	0	1)	2.3
清水公園	(	1	1	2)	4.5
清水公園の事	(	1	0	1)	2.3
醤油工場見学	(	1	0	1)	2.3
キッコーマン醤油見学	(	1	1	2)	4.5
野田醤油作見学	(	1	0	1)	2.3
野田醤油見学	(	1	0	1)	2.3
醤油工場見学	(	1	0	1)	2.3
野田醤油工場見学	(	0	1	1)	2.3
しよゆ(しょうゆ)見学	(	1	0	1)	2.3
第七工場見学	(	0	1	1)	2.3
しょうゆのできるまでの見学	(	0	1	1)	2.3
野田市見学	(	1	1	2)	4.5
醤油の知識	(	1	0	1)	2.3
一会(回)で行った遠足	(	0	1	1)	2.3
こまっていた先生	(	1	0	1)	2.3
(遠足不参加者)	(	2	2	4)	

このように、同じ、遠足の文を書くにあたって、はじめは、大ざっぱな題「遠足」で書いていたものが、だんだん、固有な題を欲するようになるということは、主題意識が培われてきた一つの証明ではなからうか。朝起きて顔を洗ってごはんを食べてからに始まる、遠足の経験を、時間を追って、ただ平板に羅列していく、低い段階では、題はなんでもよかったのであるが、そうした平板な叙述にあき、何か、まとめて書こうとする気持が、この遠足文を書かせた際の題のつけ方に現われていると思われるのである。これらの題では、大体において、はっきりした題名をつけたものが、叙述もたしかであった。



ただ、せっかく、新しく題を選んでおきながら、その主題をもりあがらせるような構想や叙述の力が伴わないものもあり、「たのしい遠足」がたのしそうに書かれていないという、主題の展開力の貧しさ、叙述力の不足をあらわしているものがある。課題作文にみられた主題を展開する力の足りなさが、遠足文の中にも具体的に示されている。(書くにあたって、教師は、特別、個々に題をつけるようにとは、指示していない。)このことの裏づけとなると思われるものに、夏休みが終了した2年の2学期初め、自由作文を書かせたところ、題をつけて書いたもの25人(男子17人中10人、女子29人中15人)で、他の21人の者は、題なしの作文を書いたことである。

そういう無題の作文はただ、なんとなく遊んだことや、したことが書き流されていて、主題意識はきわめて低く、叙述にもまとまりがないものであった。なお、題をつけたもので、「あそんだこと」「おまつりのこと」「うみへいったこと」「いなかに入ったこと」など「……すること」という形式の題が半分ほどあったが、「おまつり」「ぶうる」「さつえい」という題目形式で書いた作文内容と比べた場合、やや劣り、主題意識のつく過程を表わしているように思われた。

これら、主題意識による題目と叙述展開との関係をみると次のようになる。

#### 4年1学期 題目7種

このうち、「村山貯水池」(G. A.)は、主題に即してみごとに展開されており、「のびた遠足」(S. K.)「ユネスコ村」(N. H., H. C.)の作は、一応主題にふれているが、ただ叙述力がそれに伴わない。「雨でのびた遠足」(N. K.)は、主題にややふれている。

#### 4年2学期

「遠足の日の朝」(O. S.)、「高麗神社」(H. H.)は主題に即してよく書けている。

しかし、「雨の遠足」(K. E.)「雨の中の遠足」(T. I.)では、文中に、雨の降ったことなど一言もふれていないというものもある。最初、主題をきめて書こうとしながら、叙述を重ねるうちに、題を書いた時の意識がうすれ、文中に、展開されずに終わってしまうのである。このことは、課題作文の中で、たとえば、「わたくしの家」などで、最初に家族の紹介を始め、「うちのおねえさんは

デパートにつとめています。」と書いて、次には、デパートの方に意識が流れてしまい、あとはデパートに遊びに行った叙述で終わってしまって、結局、主題外れの文になってしまう過程と同じ現象であろう。

比較のために、5年1学期の遠足文を見ると、「弁天島でのひととき」(O. S.)「学校から弁天島まで」(H. A.)「つかれた遠足」などをはじめとして、題目に即してよくまとめて書かれているものが目立って多くなっている。まだ中には、題目に即して書かれてはいるが、叙述性に乏しいうらみのあるもの、主題とははなれている、または、主題の気分が表現されていないものなどが、数人あったが、しかし、全体としては、題目の数が示すように、意識としては、目立ってついてきていることがわかる。なお、概して、「たのしい遠足」とか「待ちにまった遠足」とかというような概念的なきまりきった題を選ぶの方がいきいきした主題の展開がみられないという現象があった。

中学年にみられた主題意識の発達に関連して、この期になると、主題に即して、重点的に表現をあんばいする能力も、上位の子にはついてくる。たとえば、4年の2学期(31.10.)秋の遠足では、せっかくの昼休みのころから雨が降ってきて、その前後はただ歩いただけ。見たものは、朝鮮の若光王の墓とか、天下大將軍、地下女將軍の將軍標とか、二千年前のつりがねとかで、遊びたいさかりの男児たちにはおもしろくない遠足であつたらしい。「遠足の作文を書いてもらいます。」といった時に、(31.10.23. 火)「つまらない遠足」という声もかかたっくらいである。

言語能力が上位で、作文もいつも5の評価をとる男児Oは、書くことに気がしないので、最初の15分ぐらいは、鉛筆をけずったり、周囲をながめたりいたずらをしていて書かない。そのうち、「うん、たくさん書かなくてもよい事を思いついたぞ。」と私語して、書きだした。題は「遠足の朝」。そして、15分もかからないうちにまとめてしまった。400字たらずの短い文であったが内容は、前の晩から、弟と早起きの競争をしようとして約束し、うまく、弟にだしぬかれ、あわてて、遠足に行くために、学校へ出かけて行くという、遠足の朝のはずんだ気持と情景がいきいきと書かれてあつた。

ぼくは、遠足の前のばん一年の弟に「明日どっちが早く起きるか競争しようよ。」という、『よしきた』とっていせよく引き受けた。

いよいよ朝になった。飛び起きて見ると、弟のふとんは、ふくれあがっていた。(しめた)と思ってよく見ると頭が出ていない。もぐっているのだろうと思つてのぞいてみると、中は、もぬけのからだ。(しまった)と思つた時に、だれかがぼくの頭をだれかがふいにポカリと、なぐつた。

「いてっ。」とって、げんこつげんこつの飛んできた方を見ると、弟が、『えへっ。』とわらつて立っている。

にくらしくなつてなぐり返そうとしたが、自分が、きめたことなので、しかたがない。ぼくは、(あんなやくそくするんじゃなかつた)と思つた。

そして、いそいでき返(着か)えて、顔をあらつた。そして、ごはんを食べて家を、飛び出した。

O児は、どちらかというと構想型に属するタイプで、いつも、比較的簡潔にきびきびとまとめているが、この時は、とりわけ短く、まとめあげてしまつている。このことは、作文能力の発達を、量的に見た場合、従来、3・4年で、すでに中たるみあるいは、頭うちが見られるというような説が行われていたことと関連して、おもしろい現象であると思われる。作文能力がかなりついてきている児童では、与えられた主題・題目に対して、このような反応を鋭敏に自在に示すことができるからであつて、そう見てくると秋の遠足文は、4年1学期と5年1学期の前後の遠足文に比べて総体的に文字数が減少しているのも、共通の理由からであらうと思われる。

### 3. 叙述面に見られる発達

叙述面における発達は、変化の多い課題作文においてよく見られたが、同一経験の表現である遠足文からも、いくつかの発達の徴候が認められた。

#### (1) 羅列的表現から包括的表現へ

児童は、自分の経験したことを叙述する場合、それを整理して、大事なことと、そうでないことをえりわけて表現することがなかなかできない。そこで細大となく羅列してかいてしまうという段階が低学年のころには見られた。それが、中学年では、だんだん重点的に表現できるようになってきている。

遠足に行くと、目的地に着いて、そこで記念写真をとるのが、この学校の習慣であるが、この場合の叙述を通して、それを見ることができる。

4年の1学期では、比較的下位のものに、まだこの傾向が残っている。(以下いずれも実験学校)

#### M女

貯水池のところでしゃしんを一組からしゃしんをとりました。こんどは二組になりました。そのつぎが三組になりました。やっと四組になりました。四組がすんだら下のほうにいったおべんとうをたべますから、かくはんをつくりました。

#### T女

えきにつくとこんどは村山貯水池まであるきました。そこで三年生がしゃしんをとってから四年生の一組、つぎが二組、そのつぎが三組、いよいよ四組がしゃしんをとってからしたにおいておべんとうにしました。

なお、4年の2学期の秋の遠足でも、

#### U女

そして一組からしゃしんをとりました つぎは二組です 二組が終ってこんどは三組です。三組がすんでこんどは四組です みんな写真をとってからじゃっこうのはかにきました。

#### S女

写しんを写す時一二三四組やっと私たちのばんがきました。うつすのがやがて終ってみんなで、じゃっこう(若光)のはかお見ました。

#### T女

お寺にきてから一組、二組、三組、四組としゃしんを取ってからじゃっこう王のおはかを見てからかいたんをのぼってからつりがねをみてからおりてきてこんどは神社にいきました。

(このT女は、春の遠足の時よりやや進歩したが、相かわらずである。) というふうにまだ痕跡をとどめているが、大部分は、

#### A女

こまの駅から「一時間」ほど歩いた所に「聖天院」というお寺がありました。そこで一組から順々に写真をとりました。

#### M女

神社の前で写真を一組から順々に写しました。

#### W女

一組二組の順に、しょうてんいんの前で写しんをうつした。 というふうに整理した表現がとれるようになっている。1学期にただだと羅

列したM女（前掲）も、

一組から写真をとりました。やっとな組のぼんになし(り)ました。

というようになっている。

これは、下位者の間にみられる叙述上の一つの発達の型であって、上位者では、早くから、

（4年1学期）

O男

ちよすいちのていぼうをわたって、そばの平やの所でしゃしんを組べつにとりました。

（4年1学期）

M女

私たちは湖の近くでしゃしんを取りました。この時先生が「みんなわらって」といったので私たちは思わずわらってしまいました。

（4年1学期）

H女

やっとな村山ちよすいちのていぼうが、おわたったのでおべんとうだと思っていると、先生が「しゃしんをとります。」というのでがっかりしてしまいました。

一組二組三組が終るまでちよすいちを見ていると白いさかながいましたので、びっくりしてしまいました。ちよすいちにもさかながいるなんてふしぎでたまりません。向こうで男の子たちがちよすいちの中に足をいれたのでびっくりしてしまいました。私たちがのむ水はだいなしになってしまうと思いました。「四組」と先生がいったのでしゃしんをとりました。

というように、上位者では同じ事がらや場面を、このように、簡潔に書いたり具体的描写を加えて、いきいきと情景を描き添えたりして、叙述上の個人差の大きさを現わしている。

この叙述の羅列は、この段階では次のような形でも多く現われる。

（4年1学期）

S男

そしてみを飼わったら先生のところへ行ってみたらまだじかんがあるからじんぼうくんたちと木をさがしていたらみんながやまのした(に)いっているからぼくもしたえ(へ)いってじんぼうくんとくしはしくんとはせがわくんとさとうくんとすずきくんとたかはしくんとにし(の)くんとみやのくんとならとく(ん)だけでたんけんたいをしてあそんでいたらまたふえがなったのであつまってでんしゃにのってかえりました。

これも下位者に多く見られる傾向であるが、自分と遊んだり、行動を共にしたりする友人の名の列挙羅列である。これは、課題作文において、低学年の段階では、中位クラスにはもちろん、上位クラスにも時に見られる現象であった

が、中学年になっても下位クラスには、これがまだ残存しているのである。

つぎのは、同じく春の遠足（1学期）でみられた、中位クラスの作文の一部である。

雨でのびた遠足

4年1学期 A女

だんだん27日、28日、29日、30日、四月も終わりました。1日、2日、3日、4日、5日、6日、7日、8日とだんだん日がたちました。いよいよあしたは遠足です。

叙述の上で、どこに重点を置いて、他は省略するか、というような選択と省筆とがまだ十分できない段階であることがわかる。

この選択と省略する能力が、成人の場合では、もっと作品全体の構成や大きな叙述面に多く表われるのであるが、児童のこの段階では、それらはもちろんのこと、細部の叙述のこうした面にまでも現われているのである。

必要なことと、不必要なことを選択して、書きわけるといことは、さらに、会話をうつす場合にも現われている。会話を叙述の地の文に挿入して、文に具体性をもたせるということは、書く能力の発達の上では、ただの叙述文よりも、一段と高い段階であり、低学年の後期あたりから徐々に使用され始めてきた。

しかし、その会話も、その叙述に具体性を与え、精細な描写とするためには、やりとりされた会話のうち、最も叙述に効果のある部分だけを選び出して加えることであるが、低い段階では、それができない。そこでとりかわされた会話が細大となく書き出されてしまうのである。これは、前のいくつかの例にみられた羅列型と共通する、中学年に残っている、叙述力の不足の現われであると思われる。

楽しい秋の遠足

4年2学期 S女

きょうはたのしいえんそくですあさはやくおきておべ(ん)とうお(づ)つくってそのつき(ぎ)はりく(リュック)のなかえ(い)れましたそれからおかしやくだものをいれました。ちょうどのときでいちゃんがむかえにきましたあたしいまかお(お)あらうからま(て)ててねといいましたでいちゃんがいまとけいお(お)みてはやか(た)たらま(て)てあげるおそかったらまてないといいましたわたしわ(わ)いまとけいお(お)みてくるからま(て)ててねわたしはとけいお(お)みにいきましたいまちょうど6時でした

わたしはていちゃんにいまちょうど6時よあと一時間あるわよといったらうんま(て)てあげるといいましたわたしわ(わ)よかったとおもいました

かおお(笑)あらってからあたまお(笑)とかしながらいいましたいまいくからま(何)いてねといいましたていちゃんがいわといいました。(以下省略)

以下、こうした会話が538字(17字詰32行ほど)も書かれている。出発まで50行、最後の1枚(17×25)に、目的地についたことと、かえりまでのことが書いてあるのである。こうした叙述上の省筆ができないことは、文の構想とも密接な関係があることは、いうまでもない。

#### 「そして」の多用

このほか、「そして」の多用、と「から」「ので」の多用とが、低い段階で目につく。

「そして」の多用とは、簡単な単文形式の文を「そして」をつけていくつも重ねて行く叙法である。この場合の「そして」は接続詞としての用法・役目というよりむしろ話しことばにおける、「ええ」といったはさみことばのように、文表現(書く表現)を続けていく間に出てくる、問投詞的な性質をおびて使われていると思われる。

4年1学期 N女

そしていろいろのいえをみました。

そしてどのくらにできたか、かんじょうしたら三じゅうなんことありました。(略)

そしてビリビリとふえがなりました。

そしていそいでかけてきました。

そしてならんであるきました。

#### 「ので」「から」の多用

これと対照的なのが、「ので」「から」を伴うながながと続く複文形式で、文にきれめがなく、主述の関係、照応も乱れて、何をのべようとしているかわからないものがある。

4年1学期 S男

う(何)らやまちょすいちについてがけにのりました。そしてがけのとこと(で)しゃしんをうつしてがけのしたて(へ)いっておべんとうをたべてみんなとあそんでいたらさとうくんがおたまじゃくしをとってきたのでどこでとってきたのときいたらいけでとってきたんだよといったからほくもいけへいっておたまじゃくしをとっていたらいけのうしろでみんながなんかをやっているからほくもいってみたらみんながみづをのん

でいたのでほくもみ(ず)をのんでみんながいるところへ(へい)ってあそんでいたらふえをならしたのでまたならんでおとぎでんしゃのりばえいってみたらすいどうがあったからまほうびんにみづをいれておとぎでんしゃにのりました。

これらは、ともに、低い段階の者にみられる二つの大きな対照的な型である。

#### 4. 語いのひろがり

課題作文で、学年ごとに語いのひろがりが見られたが、遠足の作文でも、児童が、だんだん、読みもの等からの影響を受けて、語彙が拡充して行く状況がみられた。

空は日本晴れです。(4の1。O男 上位者)

「朝」お日さまにここに日本ばれだった。(4の1。S女 下位者)

というふうには、上位者でも、下位者でも、既成の語を利用している。S女は特殊の障害から言語能力は低い方であるが、非常な読書好きで、ひまさえあれば、本ばかり読んでおり、この時の作文「遠足」は総体的には、低かったが部分的にはすぐれた所もあった。「お日さまにここに日本ばれです」など、児童らしい自然のことばと既成の概念語とをうまく組みあわせて用いているといえる。このほか、「からりとはれたいいお天気になった。」(W女、上位者)というような、修飾語も使うなど、語いのひろがりが目につく。

4年1学期の遠足の文から、従来作文能力が上位ではなかった児童の使用した語いを拾ってみても

しょんぼり学校へ行きました。

ずいぶんたかい所ですから、下に歩いている人があるのように見えます。

ですからもうおおさわぎ、おまつりのようでした。(S女)

雨がふってとりやめでしたが

やがておべんとうができました。

心ほそく思いました。

国々の家を見ているうちに (M女)

まもなく西武園のえきにつきました。

かえりの電車はきゅうくつで、もうつぶされてしまいそうです。

電車の中で、ほくがしんぼうになりました。みんなほくにつかまっていました。

(S男)

というように、中学年になって作文能力の発達に伴ない、新しい語いのじょうずな使用が目につくのである。



これが上位者になると、おとなのように自由に使用している。

戸があいたらみんなおし合いで「わあ」と言って入って行った。私はその中にもま  
れていっしょに入った。(4の1 W女)

私たちがのむ水はだいなしになってしまうと思いました。(4の1 H女)

と中のふうけいはすばらしいながめだ。

麦畑がありそのそばに小川がある。ぼくはいつもそのような所に住みたいと思っ  
ていた。

十五分ぐらいあるくとついに もくてき地多摩湖 (村山貯水池) についた。

(4の1 O男)

まどから見ていると、ゆきの時とはんたいにいなかから東京のけしきになりました。

(4の1 O男)

語い拡充ということは、中学年で一つの発達を示す特徴であるが、しかし  
他面次のような現象もある。

#### 4年2学期 K女

そうしたら、四年生の人がいっばいきてうんどうばであそんでいました。そうしたら  
ら先生たちが、いっばい、ちょうれいだいのまえにきて、川上先生が、ふえをピリピ  
リーとふいたら四年生が、いっばいあつまってきました。

「いっばい」という語は、この場合、この子にとって実感なのではあろうが  
同じ語をくり返している語いの乏しさが、この文を低いものにしてている。この  
子は、作文の時は、いつも非常に早く、そして、大量に書くが、内容が伴なわ  
なくて、よい作文にならないのは、一つに、この語いの乏しさがあるからであ  
ろう。その情景や自分の気持ちに適した語いを考えたり、選んだりして使うとい  
うことなしに、思いつくまま、筆の走るままにどんどん書き流していくせいか、  
書くわりに進歩のあとが見られないのである。

#### 5. 文法・句読点・表記などにみられる傾向

作文能力の基礎な要素の一つである、文法、句読点、表記などの中学年にみ  
られる発達は、課題作文の方で、くわしくのべられるはずであるから、ここ  
では省略する。

ただ、文法上では、

(1) 助詞の誤用、とりわけ、「を」と「に」の使いわけ

(例 電車をのりました。)

## (2) 主語・述語・修飾語の重複

私が起きたのは五時半に起きました。(4の2 U女)

KさんとSさんとNさんと私とおべんとうおたべましたが、雨がぼとりぼとりと雨がふってきました。(4の2 U女)

わたくしは、K子ちゃんとWさんと、Hさんと、わたくしと、四人でごはんをたべました。(4の2 M女)

私ははじめて見たひこうじょうなのでひこうじょうってこういうところかなとはじめてわかりました。(4の2 H女)

## (3) 主述の脱落や混乱

それから三十分ぐらい歩いていると、高麗の駅まできてから、電車に乗って半のう(飯能)の駅でのりかえて所沢のえきまできてのりかえてしんじゆく(嶺)の駅では(わ)かれた。(4の2 N男)

こまの駅からあるくのであるいていきました。そのとちゆうはし(橋)のところで話しました。(先生が川について話したことが、他の作文からわかる。)こわれているはしもとをりました。(4の2 N女)

などの誤りが目立ち、これらは、すでに一般に指摘されているところである。

句読点が正しく使用できないものも、案外にまだ多く、誤字や脱字もまだ多い。かたかな表記も徹底して行われていない、かなづかいの誤りが目につくなど、中学年の段階では、まだいろいろの問題があるが、しかし、低学年のころに比べると、表現内容の発達とともに、総体的に、しっかりと読みやすく書けるようになってきている。

## C いろいろな目的に応じて文を書く能力の発達

作文教育の目標は、手紙、記録、報告、日記など、いろいろの目的に応じて適当な形式や内容の文が自由に書けることであり、コミュニケーションのための書く力が重くみられている現在、課題の生活作文「ともだち」「私のうち」「先生」の結果だけから、児童の文を書く能力のすべては把握しにくいし、また、4年ごろになると、現実の書く活動や作業も、もっと多岐にわたってくる。

従来の課題作文での自己中心の経験や行動の記述のほかに、目的をもった作文、たとえば通信文や記録文を書く力ほどの程度ついているかということを見るために、4年の2学期末には手紙文を、3学期末には記録文を書かせてみた。

(作文Bテスト)

1. 手紙文を書く能力

問題の構成

(1) 目的に応じて文を書く能力をみる。

一定の条件を与えて、手紙文を書かせ、内容、形式両面から評価する。

(2) 手紙文の良否の判断力テスト

二つの手紙文を読んで、どちらが、手紙文としてよいかを弁別させるテスト。

すなわち、(1)誕生日に友だちを招く手紙文を一定の条件を与えて書かせ、(2)招かれた友だちに、断りの手紙を書いた二つの手紙文を読み比べさせて、どちらがよいかを問ひ、さらにその理由をたずねるといふ、手紙文を書く力と、その良否を判別する力との二つがみられるように問題を作成した。

作文 Bテスト もんだい (1)

たろうさんの たんじょう日は、12月9日です。その日は、ちょうど日曜日なので、おとうさんや おかあさんが、お祝いの会をしてくださることになりました。たろうさんは、その日に、学校のなかよしのお友だちに来てもらって、みんなでごちそうをたべたり、そのあとで 歌をうたったり、かみしばいをしたりして、たのしくあそぶつもりです。

まさおさんは、たろうさんのいちばんなかよしの友だちですが、少しはなれた町におひっこしをしたので、今はちがう学校にいます。

たろうさんは、まさおさんにも、おたんじょう日にきてもらいたいので、さそいのでがみを書こうとおもっています。

それから、てがみの中には、つぎのことも、わすれないで、書かなくてはいけないと思います。

○ごちそうのしたくのために、12月6日までに、こられるかどうかのへんじをもらうこと。

○11時までに、みんなにあつまってもらうようにすること。

○たろうさんはこのあいだ、まさおさんから「おもしろい かみしばいをつくった」というてがみをもらいました。それで、たんじょう日には、ぜひ、そのかみしばいをもってきて、かみしばいのじょうずな まさおさんにやってもらいたいということ。

たろうさんにかわって、あなたが、まさおさんにてがみを書くとしたら、どう書いたら、いいでしょうか。

つきのかみに、てがみを<sup>か</sup>書いてください。(手紙文を書く用紙は、別に配布する。)

てがみを出す日は、11月30日です。

(例) 女兒の場合は、たか子さん、まさ子さんにした。

作文 Bテスト もんだい (2)

まさおさんは、たろうさんから、たんじょう日にあそびにくるよという、さそいのでがみをもらいました。

まさおさんは、なかよしのたろうさんのうちですから、ぜひ行きたいのですが、こまったことに、ちょうど、12月9日は、いなかのおばあさんが、じょうぶでながいきしているのを、お祝<sup>いわ</sup>いする日になっています。

まさおさんは、8日から、とまりがけで、おとうさんと、いなかに行かなくてはなりません。

それで、せっかくの たろうさんのたんじょう祝<sup>いわ</sup>いには、行けなくなってしまいましたので、そのおことわりのでがみを、書<sup>か</sup>くことにしました。

しかし、せっかくたのしみ<sup>たのしみ</sup>にしているかみしばいをしないと、みんなもつまらないだろうと思<sup>おも</sup>って、かみしばいをとどけてあげようと思<sup>おも</sup>いました。

つぎに、まさおさんのへんじのでがみが二つあります。どちらのでがみが、よいと思<sup>おも</sup>いますか。よいと思<sup>おも</sup>うのに、○をつけなさい。そして、どうしてよいのか、そのわけを<sup>か</sup>書いてください。

①

たろうさん、おたんじょういわいに、さそってくれて ありがとう。

みんなが、せっかくまっているのに、ぼくがかみしばいをしないと つまらないでしょうから、かみしばいを とどけます。

おいしいごちそうが たべられるし、うたをうたったり、かみしばいをしてあそべるから、行きたいけれど、その日は おとうさんと いなかへ行かなければならないので、行かれなくなりました。

いなかでも、おばあさんのお祝<sup>いわ</sup>いなので、ごちそうがあったり、にぎやかだということ です。

汽車<sup>きしや</sup>のって、とまりがけなので、今<sup>いま</sup>からのしみにしています。

かえってきたら、いなかのお話<sup>はなし</sup>をしましょう。

では、みなさんによろしく言<sup>い</sup>ってください。 さようなら

12月4日

まさお

たろうさんへ

②

たろうさん、おたんじょういわいに、さそってかれて ありがとう。  
 きみや、みんなにあえるので、とても行きたいのだけれど、行かれなくなりました。

それは、いなかのおばあさんの お祝いわいが、ちょうど12月9日にあるので、ぼくは 前まへの日から、とまりがけで、おとうさんといなかへ行かなければならぬいからです。

せっかくのたのしみがだめになって、ほんとうにざんねんです。

それで、行けないかわりに、かみしばいを、9日にまにあうようにとどけますから、みてください。きみは、おはなしがうまいから、きっとみんなよろこびますよ。

では、おじさんやおばさんによろしく。みんなにもよろしく言ってください。

さようなら

12月4日

まさお

たろうさんへ

どうしてよいかのわけ ( )

- 所要時間 (1) 説明の時間を除き 30分
- " (2) " 15分
- 実施の手続
- 1) (1)をやってテスト用紙を回収したら、つづいて(2)をやる。一連のテストとして扱う。
- 2) もんだい(1)では、なまえがたろう、まさおで、男児に書きやすいと思われるから、女児には、たかこ、まさこというように適当に名前をかえて、書きやすい条件にしてもよい。

(実験学校では、板書して、女児には、女の名まえにして扱った)

なお、このテストは、手紙を書くことを学習したかどうかによって結果がちがうので、学習経験の有無を記入用紙に、先生に記入してもらった。(協力学校)

### 手紙文の学習経験の調査

( )学校( )学年	記 入 欄
<p>今までに手紙文を書くことを学習したことがあるかどうか。あるとすればいつごろか。(何年の何学期とか、現在やっている)</p>	

か、なるべくくわしく。)学習しない場合はしないことを明記しておいて下さい。	
手紙文を書かせたことはないが手紙文を読んで、その際手紙についての知識的な学習をして来たかどうか。	
教室では手紙文を書かないが、手紙を書いた経験があるかどうか。	あるとすれば 何人で何%ぐらいか ( )人 ( )%

(1)の手紙文を、次の、五つの観点

1. 相手の立場を考慮して書いているか
2. 用件をきれいに伝えているか
3. 順序よく書いているか
4. 手紙文としての形式ができているか
5. かなづかい、文法、句読点、文字などの基礎的な面が、正しく書いているか

からみると次の表のような結果が示される。

実験学校 4年生

		男 (19人)	女 (28人)	計 (41人)	%
相手の立場を考慮してかく		15	22	37	78.7
用件を伝える	イ 誕生日	18	24	42	89.4
	ロ 時間	13	17	30	63.8
	ハ 紙芝居	18	21	39	83.0
	ニ 返事	9	10	19	40.4
順序よくかく		10	12	22	46.8
形式をふまえてかく		11	15	26	55.3
基礎的な力	イ 句読点が正しく使える	18	16	34	72.3
	ロ 文法的に正しい	13	17	30	63.8
	ハ 文字を正しくかく	17	20	37	78.7

自分勝手な立場で相手に用件を押しつけようとしなくて、相手の安否をたずねたり、誕生日の説明をして来てくださいと願ったり、通信文という性質の目的を考えて、相手の立場に立ってものを書く態度は、4年生になると80%近くできていることがわかる。

また、用件を伝えることも大体できるようになっている。ただこの場合、用件がいくつかあって、やや複雑なためか、用件を全般にわたって伝ええたものの数は、案外少なく、男8人女9人、計17人(36.2%)であった。

誕生日の日や説明、紙芝居をもって来るようにという大きな用件は大体忘れずに伝えられるようであるが、当日集る時間については伝え落した者が多く、ことに、あらかじめ返事をもらうということを忘れないで、加えて書けたものは、40%という数に減じている。中には、「6日にちょっと来てください」といったような問題文の読解が不十分と思われるものもかなりあった。このことは児童が実際生活の中で、用件を伝える手紙文を書く機会が案外少ないという現実

に即した結果とも思われる。  
しかし、とにかく、相手の立場を考えながら一応用件を伝えるという通信文を書く力は、中学年になるとかなりついていることがわかった。それが、相手にわかりやすいように、順序よく書くということになると、案外できなく、さらに、年月日や発信者、受信者の名をかくといった書式上の知識は、たとえば形式上のまちがいで、

- あてながない
- あてなの位置が逆になる
- 発信人の名がない
- 日付がない
- 日付の位置が一番最後にくる

というように、案外身についていないということもわかった。これを同時に実施した3年生と比べてみると、次のようである。

実験学校 3年生

		男 (29人)	女 (21人)	計 (50人)	%
相手の立場を考えてかく		21	12	33	66.0
用件を伝える	イ 誕生日	23	12	35	70.0
	ロ 時間	23	11	34	68.0
	ハ 紙芝居	21	14	35	70.0
	ニ 返事	15	7	22	44.0
順序よくかく		15	12	27	54.0
形式をふまえてかく		9	7	16	32.0
基礎的な力	イ 句読点が正しく使える	24	12	36	72.0
	ロ 文法的に正しい	19	8	27	54.0
	ハ 文字を正しくかく	25	15	40	80.0

用件を伝えること順序よく書くことでは、学年的な差は認められないが、相手の立場を考えて書くというような通信文独自の目的に添った書く態度の上では学年差があるし、手紙文の形式には、いっそうそれが現われている。この相手の立場にたって書くことと、手紙の書式をふまえてかくということにみられる学年差は、協力学校も大体同じように現われている。判定を統一するために集計整理はすべて研究所が行った。ただ、実験学校と協力学校との間には、相当学校差が見られる。

		相手の立場	用件				順序	形式	句読点	文法	誤字
			誕生日	時間	紙芝居	返事					
4年	実験学校 47人	78.7%	89.4	63.8	83.0	40.4	46.8	55.3	72.3	63.8	78.7
	協力学校 7校 299人	77.3	93.3	68.6	74.6	66.2	73.6	62.5	75.6	70.6	86.0
3年	実験学校 50人	66.0	70.0	68.0	70.0	44.0	54.0	32.0	72.0	54.0	80.0
	協力学校 8校 385人	62.3	58.7	61.8	63.9	41.8	53.8	32.2	71.4	65.5	84.4

しかし、これは、手紙文の学習経験、手紙文を書いた経験の有無によるものではなからうか。次は、学校別の手紙文の整理結果とその評価表である。

### 手紙文の結果 4年生

学校	内容 相手の 気持	用件				順序	形式	手紙文の評価				
		誕生日	時間	紙芝居	返事			5	4	3	2	1
実験学校 (47人)	78.7%	89.4	63.8	83.0	40.4	46.8	55.3	21.3	19.1	31.9	12.8	14.9
N (30人)	60.0	73.3	40.0	46.7	20.0	66.7	36.7	3.3	23.3	16.7	36.7	20.0
C (47人)	95.7	63.8	51.0	44.7	80.9	93.6	95.7	2.2	14.9	40.4	34.0	8.5
O (41人)	82.9	90.2	65.9	78.0	78.0	70.7	65.9	2.4	29.3	36.5	22.0	9.8
H (32人)	75.0	81.2	53.1	75.0	21.9	65.6	87.5	3.1	25.0	25.0	25.0	21.9
K (42人)	71.4	92.9	85.7	81.0	64.3	66.7	38.1	7.1	38.1	28.6	21.4	4.8
G (46人)	65.2	56.5	73.9	78.3	73.9	65.2	10.9	2.2	13.0	47.8	26.1	10.9
A (61人)	82.0	93.4	90.2	91.8	88.5	78.7	90.2	11.5	29.5	44.3	9.8	4.9



手紙文の結果 3年生

学 校	内 容 相手の 立場	用 件				順序	形式	手紙文の評価				
		誕生日	時間	紙芝居	返事			5	4	3	2	1
実験学校 (50人)	66.0	70.0	68.0	70.0	44.0	54.0	32.0	14.0	24.0	20.0	26.0	16.0
N (60人)	48.3	58.3	41.7	51.7	6.7	40.0	31.7	1.7	11.7	30.0	26.6	30.0
C (49人)	59.2	40.8	69.4	65.3	38.8	65.3	0	0	2.4	44.8	26.4	26.4
O (56人)	69.6	66.1	58.9	60.7	53.6	57.1	5.4	1.9	7.1	42.8	25.0	23.2
H (52人)	51.9	50.0	50.0	57.7	15.4	25.0	55.8	5.8	7.7	15.4	32.7	38.4
K (52人)	65.4	53.8	75.0	69.2	71.2	57.7	51.9	1.9	15.4	36.5	25.0	21.2
G (36人)	66.7	55.6	72.2	66.7	55.6	66.7	25.0	2.8	19.4	19.4	33.3	25.1
A (55人)	76.4	74.5	69.1	76.4	58.2	67.3	29.1	1.8	14.5	40.0	38.2	5.5

\* 右表、手紙文の評価は、手紙文を五つの観点から評価して5段階に評点化したもの。ただしこの場合の5段階評価は、相対的のものでなく、絶対的評価である。

大きく分けると学年差が見られるが、この表でもわかるように、地域差、学校差、(そして学年差よりも、)むしろ学級差が大きく出ているようであって、このことは、手紙文の学習や経験の有無が作用している結果であると考えられる。このテストを実施した時、用紙を配布して先生には学習経験の有無等を記入してもらったが、結果としては、記入校(N. C. H. K. G校)と不記入校(O. A校など)とが、厳密にその差がわからなかった。ただ、何も記入してもらえなかった学校より、記入してもらえた学校の方が、それだけ、積極的に学習したのではないかと思われるふしがないでもなく事実、記入校の方が、ならして成績がよいようである。ただ、おもしろいことは、学習したためか、非常に全体的によい手紙文が書けた学校と、学習したわりには、それほど効果の見られない学校とがある。教科書で、手紙文が出ていて、それを読んだ場合など、手紙文の読解として終わってしまって、児童の方には、手紙文を書く力としては、身につかないということと、中学年の段階では、まだ実際生活上、今回の手紙文のような、かなり複雑なものは、書く必要もないし、実際書いてもいないということもあろう。

手紙文に見られる具体例

書かせた手紙文には、完全にこの場合の通信文として書けているものと、い

ろいろな不備なもの、かなりの個人差が見られた。(以下、実験学校児童)

〔上位のもの〕

4年 H女

だんだん寒くなりました。

まさ子さんお元気ですか。

わたしも元気です。

12月9日はわたしのおたんじょ(う)日です。

日曜なので、お母さんや、お父さんがお祝いの会をしてくださることになりました。ごようがなければ、来てください。ごちそうのしたくのために12月6日までに、こられるか、どうか返事をしてください。

あつまる時間は11時までです。

まささんは(から)このあいだ「おもしろいかみしばいを作った」という手紙をもらいましたね。ほかのお友だちもよぶのでまささんが作ったかみしばいをぜひ見たいと思いますから、かみしばいをもってきてまささんのじょうずな所をやってください。

おたんじょう日にはぜひ来てくださいね。

返事をまっています。

さようなら

たか子より

まさ子さんへ

4年 O男

まさおくん、12月9日はぼくのたんじょう日です。そこでまさおくん、きみにもぜひ来てもらいたいものです。

すこしとおいかもしれませんが、つごうがよければ来てください。

ほかにもぼくのなかよしの、友だちを、よびます。そしてみんなでたのしくあそびましょう。それからもう一つおねがいがあります。きみは、紙しばいがじょうずなので、きみがこのあいだつくった紙しばいを持って来て、みんなの前で、してください。

それから11時までにかならず来てください。それに12月6日までにこられるかどうかの、おへんじをください。

では、おまちしております。

さようなら

31年11月30日

たろうより

上位者になると、この程度に、実用と社交性とをこめた手紙文がかかるのであるが、同じ条件でかいた手紙文も実にまちまちで、中にはひどいものもある。

4年 S女

まさおくん、おてがみありがとう。12月9日は、ほくのおたんじょうびです  
どうかおいで下さい。時間は、11時までに来て下さい、それから、12月6日  
までにこられるかこられないかのおへんじを下さい そうだ、まさおくん、お  
もしろいかみしばいとゆうのをもってきて下さい

さようなら

11月30日(金) (はれ)  
まさおくんへ

これなどは簡潔によくまとめられているが、発信人の名まえが欠けている。  
手紙の全文はよく書けているが、つぎのK男のように

(前略) こられるんだったら12月9日の11時までにはほくの家にあつまってください。  
まっています。

さようなら

11月30日  
たろうより

まさおさんへ

と、書式が逆になっているものもある。

次の2例は最下位のものであるが、こうなると、用件を相手に正しく、気持よく伝える通信文の目的から、全く逸脱してしまっている。

4年 H女

きょうわたか子さんの、たんじょうびの日です。そのひを(はち)ようど日よ  
うびだったので、おとうさんおかあさんがおいわいの会お(を)してくださるよ  
うになりましたその日がこう(がっこう)のおともだち(に)きてもらあ(っ)てご  
ちそ(5)お(を)たべたりしてたのしくあそぶつもりです だか(ら)かみしばいの  
じょ(う)ずなまさ子さんにや(っ)てもらいたいのです

ごちそうわ(は)12(月)6日しますからぜひきてください

さようなら

たか子さんより

まさおくん いよいよぼくのたんじょうびです。まさおくんのつくったかにか  
(み)しばいもってきてかにかしばいしてください。その日はうんとごちそうしま  
 すからきてください。きっとわすれないでください。

2. 記録文を書く能力

生活作文、手紙文を書くこととともに、中学年の段階では、記録文を書く力  
 もある程度要請されている。そこで、記録文を書く能力は、どの程度にあるの  
 かを見るために、4年の3学期に、記録文を書くテストを行った。

記録文にも、実験作業記録、観察記録、読書記録などいろいろあるが、集団  
 テストで、いっせいにいう場合での困難性を除くために、前の日に学習  
 したことがらを翌日書かせるという形で試みてみた。

作文 Bテスト

きのうは 学校で、どんな ことを べんきょう しましたか。

きのう かねで 休んだ お友だちが あったとして、その お友だちに 教えて  
 あげたいと 思います。

それで きのうは、

どの 時間に 何を、どんな ふうに べんきょう したか という ことを 書  
 いてください。

その 時に、あなたは どんなふうに 感じたか、あなたの かんそう (感じたこ  
 と)も 書いてあげると、お友だちに きのう べんきょう した ことが いっそ  
 う よく わかります。つぎの ところに 書いて ください。

評価の際の参考にするために、教師にも、(1)前日に学習したことを記録しておいて  
 もらい、あわせて、(2)記録文の学習経験の調査もしてもらおう。

(1)

先生の学習事項のメモ ( 小学校 ) ( 学年 )	
年 月 日 ( 曜日 )	
時 限	学習事項

記録文の学習経験の調査

(2)	<p>今までに記録文（または記録ふうの文）を書くことを学習したことがあるかどうか。あるとすれば いつごろか。(何年 何学期とか、現在やっているとかなるべくくわしく。)学習しない場合は しないことを明記しておいてください。</p>	
	<p>記録文を書かせたことはないが、記録文を読んで、その際、記録のしかたについての知識的な学習をして来たかどうか。</p>	
	<p>教室では記録文を書かないが記録文を書いた経験があるかどうか。</p>	<p>(あるとすれば 何%ぐらい)</p>

実施上の注意としては、教師にも、前日に学習したことの記録と記録文の学習経験の調査をしてもらうこと。

評価の観点

1. 学習したおもなことが正確にとりあげられているか。(細部はかまわない)
2. どの時間に何をしたか、時間に即して、学習事項がまちがいに伝えられているか。
3. 記録文であるという意識で相手にわかるように、要領よくわかりやすくまとめられているか。
4. 句読点、文法的な問題、文字、かなづかいなどの形式面ができているかもあわせてみる。
5. 感想が加えられているか。(これは、傾向的に調べたものであるから、必ず、なくてはいけないというものではない。)

テストの実施状況

前日に学習したことを書かせようとする時、児童は、意外に抵抗を訴えた。(実験学校4年)

それは、一つは、前日の学習事項が、

1 時間め 自習（職員朝礼の打合せで、相当遅れて教室に来る）

2 時間め 教師から生徒に注意事項を伝える。

(1) 本日の予定を話す。授業は午前中だけ（図工研究のために）

(2) 明日、新1年生に身体検査実施。従って、授業は午前中であること。

近所の新1年生に身体検査のあることを伝える。

(3) P・T・Aの会費集金の日、27日のこと。

このあと、「天下一の馬」(T書本)を読んで、あらすじをノートに書かせる。

途中、国語研究所のテスト実施。

(読書速度、語いテスト、文法テスト)

3 時間め 算数の練習問題しらべ。

教師、新学年の教科書を買に行き、そのるす中、O君がかわってしらべる。

(以上、教師の記録による)

といった、比較的まとめにくい学習内容であったためにもよろう。何をしたか忘れたという声が多い。

速足の作文など、日をおいても相当鮮明に書けるのに、学習したことに対し、興味がないのか、あるいは一つの連続した経験でなく、断続的な経験のために、記憶や印象が稀薄になるためなのであろう。

(なお、実験学校では、4年の1学期に学習日記をつけさせたが、以後はなにも書かせてない。)

実験学校 4年

	学習した ことが正 しくか いである	どの時間 に何をし たかか いである	要領よく まとめる	記述性 にすぐ れている	表の形	感想が 加えて ある	記録文の評価				
							5	4	3	2	1
男 19人	17人 %	17人 %	11人 %	7人 %	4人 %	4人 %	4	4	6	5	0
	89.5	89.5	57.9	36.8	21.1	21.1	21.1	21.1	31.6	26.3	0
女 27人	19	13	11	3	4	7	3	2	9	8	5
	70.4	48.1	40.7	11.1	14.8	25.9	11.1	7.4	33.3	29.6	18.5
計 46人	36	30	22	10	8	11	7	6	15	13	5
	78.3	65.2	47.8	21.7	17.4	23.9	15.2	13.0	32.6	28.3	10.9

その結果は、実験学校で、何を学習したかという学習事項を、もれなく正しく書くことは、70%近くはできる。しかし、学習事項は一応正しく書けても、どの時間に何をしたかということ、時間の観念をもって書くことは案外できない。ことに、女兒に、あいまい、でたらめに書くのがあった。

また、記録する場合、何はとりあげて、何は捨てるという取捨選択の力がない。不必要な学習以外のことを書いて、肝心のことが抜けるといった、記録文を書くという立場で、要領よくまとめる力が足りない。これは、記述態度ができていない証拠で、いつもの生活作文にみられるのだらだらと書く調子が、ここにも見出される。これも、女兒の方に多い。もっとも、中には、表でまとめているものも、8人(男・女4人)いて、記録文として、効果的にまとめて書くという態度もみられる。

これを、3年生(実験学校)と比べてみると、手紙文においてみられた、学年差以上に差が認められる。

実験学校 3年

	学習したことが正しくかいてある	どの時間に何をしたかかいてある	時間をい	要領よくまとめる	記述性にすぐれている	表の形	感想	記録文の評価				
								5	4	3	2	1
男 29人	14	9	19	8	1	2	5	3	10	10	1	
%	48.3	31.0	65.5	27.6	3.4	6.9	17.2	10.3	34.5	34.5	3.4	
女 20人	7	4	10	3	0	0	1	3	3	10	3	
%	35.0	20.0	50.0	15.0	0	0	5.0	15.0	15.0	50.0	15.0	
計 49人	21	13	29	11	1	2	6	6	13	20	4	
%	42.9	26.5	59.2	22.4	2.0	4.1	12.2	12.2	26.5	40.8	8.2	

なお、協力学校では、次のようであり、

実験・協力学校 4年

学校	学習したことが正しくかいてある	どの時間に何をしたかかいてある	時間をい	要領よくまとめる	記述性にすぐれている	表の形	感想	記録文の評価					学習経験の有無
								5	4	3	2	1	
四谷第六小(実験)	78.3	65.2	47.8	21.7	17.4	23.9	15.2	13.0	32.6	28.3	10.9	○	
C	85.4	72.9	72.9	75.0	2.1	93.7	4.2	41.7	58.3	10.4	6.2	◎	

M	97.6	78.0	75.6	53.7	19.5	78.0	7.3	19.5	43.9	26.8	2.4	○
H	81.3	56.3	75.0	62.5	3.1	87.1	6.3	15.6	50.0	21.9	6.3	
K	100.0	86.7	91.1	80.0	26.7	95.3	13.3	46.7	31.1	8.9	0	

総合的に、実験学校よりは、よくなっている。なお、実験学校と協力学校を比べた場合、実験学校では評点5にあたるもの（絶対評価で）の数と2以下の数が多い型であるのに対し、協力学校では、山を中心にして上位に傾きが多い型であることである。これは、学校における学習経験との関係の現われであろう。学習経験の有無に関らず、読書や環境などの影響から、常に上位を占める数人がいる実験学校では、それらの数人を除くと、学習経験の消極さを如実に表した低い結果を示しており、学習経験が積極的だった協力学校、とくに、教科書で記録文の知識について学習し、さらに、学級日記や理科の継続観察をして、まとめ、任意に記録文をかいた経験者80%ぐらいがいるという協力校〇校では、全体の水準が高くなっていることに気づくであろう。

#### 4年

	手紙文					記録文				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
実験	21.3	19.1	31.9	12.8	14.9	15.2	13.0	32.6	28.3	10.9
N	3.3	23.3	16.7	36.7	20.0					
C	2.2	14.9	40.4	34.0	8.5	4.2	20.8	58.4	10.4	6.2
O	2.4	29.3	36.5	22.0	9.8					
H	3.1	25.0	25.0	25.0	21.9	6.3	15.6	50.0	21.9	6.3
K	7.1	38.1	28.6	21.4	4.8	13.3	46.8	31.1	8.9	0
G	2.2	13.0	47.8	26.1	10.9					
A	11.5	29.5	44.3	9.8	4.9					
M						7.3	19.5	43.9	26.9	2.4

なお、上の表によって、次のようなことが考えられる。

手紙文のように生活経験が主になるものでは、都会的な地域性が多く作用するが、記録文のように、学習の経験の有無が作用するものでは、地域性はあまり関係しない。



## 4年

	ともだち		私のうち		先生		43人中 遠足(春)		45人 遠足(秋)		47人 手紙文		44人 記録文	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
5	1	2.1	5	10.9	2	4.4	9	20.9	6	13.3	10	21.3	7	15.2
4	11	23.4	10	21.7	11	24.4	2	4.7	8	17.8	9	19.1	6	13.0
3	23	48.9	19	41.3	20	44.4	16	37.2	16	35.6	15	31.9	15	32.6
2	10	21.3	8	17.4	8	17.8	7	16.3	9	20.0	6	12.8	13	28.3
1	2	4.3	4	8.7	4	8.9	9	20.9	6	13.3	7	14.9	5	10.9

なお、実験学校の場合、4年に書かせた作文のすべてを、5段階に品等評価(絶対的)して整理してみると、前表のようになった。

以上、課題作文以外の作文を書く力をみてきたが、最後に、それぞれの作文能力と他の言語能力との相関を、参考までにあげておく。

## 種類別作文能力と他の言語諸能力との相関

	課題作文 *(4の3)		手紙文 (4の2)		遠足の作文 (4の2)	
漢字力(読字数・書字数)と	5	0.49	4	0.55	1	0.77
語い力と	3	0.57	3	0.59	4	0.59
読解力と	2	0.60	2	0.62	5	0.51
読速(黙読行数3分間)と	4	0.55	5	0.32	3	0.60
文法能力と	1	0.62	1	0.69	2	0.62
聞く力と	7	0.18	6	0.26	6	0.45
話す力と	6	0.21	7	0.25	7	0.35

\* 課題作文は4年2学期のをとるべきだが検査の結果大差ないので、4年3学期を使用した。

相関係数の前の数字は相関の順位を示す。

## 2. 記録文に見られる具体例

具体例を示すと、次のようである。

(1) 学習したことが、正しくとりあげられていない。

4年 H女

算数(算数)の時(時)間には百(百)四ページのところの練習3 お(を)しらべて  
まとめお(を)やって練習4 お(を)しらべておわりにしました。

国語はHさんと私しところころ地蔵のところのかんじのべんぎょ(う)して、  
 と中からけんぎゅ(う)じょのしけんで2時間めでおわった  
社会もたいく(体育)もやらなくてけんぎゅ(う)じょのしけんでした

次のは、前のよりは内容、時間ともに整理されてはいるが、まだ、はっきりしていないところがある。

4年 N女

1時間	めにわ(は)じしゅうをやりました、すこしやったら研究所の人がきたので2時間めのおわりまでやりました。研究所のときはとても <u>やさしか(っ)た</u> とおもいます。
2時間	めには <u>算数</u> をやりました先生がなにか <u>よ(う)</u> があったのでいきましたOさんがしらべました。算数のときは先生がおこったようでした。

(2) 時間に即して書かれていない。

4年 S女

きのうは1時間目わ(は)こくごではじめのほ(う)はおかおやPTAをあつめてはんぶんごらけんぎゅ(う)じょのテストおやってそれがおは(わ)ったらさんすうお(を)すこしやってきゅ(う)しゅくお(を)たべてかえりましたきのうのテストはおもしろかった。そいできのうのきゅ(う)しゅくのまえに5年の教科書お(を)かいいきましたさんすうはまとめとれんしゅう4とれんしゅう3お(を)しました。さんすうのじかんせんせいがちよ(っ)としたえ(へ)いってくるといっていったそのあいだOさんがれんしゅう4お(を)しらべたれんしゅう4がおわったときせんせいがきましたせんせいがまちが(っ)たし(ひ)とちよ(っ)とたごらんなさいといつてまちが(っ)たしとはたちましたせんせいがと(ど)こがちがっていたかわかりますかとききました。まちがっているひとわ(は)せんせいにきかれました。

お終り

句読点が、満足にうってないこの文は、時間が、あいまいなばかりでなく、どこに叙述の焦点があるか、ぼやけている。(この児童の作文は、課題作文でも遠足文でも、概してこうした傾向のものが多い。)これがもっとすぎると、次のようになる。

(3) 必要でないことが書かれていて、記録文としてのまとめができない。

4年 T女

1時間めは国語です算数や国語のじしゅうをしました。とちゅうで、けんきゅうじょ(う)をやりました。2時間めのとちゅうまでしました。けんきゅうじょは声をださないでよむのです。

わたしは9ばんまでやりました。3回やりました。

けんきゅうじょ(う)がおわるとリンーリンと、べるがなりました。川上先生がでてよろしいといったのででした。わたしは、おてだまをしました。すこしすると、またリンーリンとべるがなりました。先生がせきについて(と)いいました。2時間めは国語が算数をしました。

記録文を書くために必要な記述が乏しくて、 unnecessaryな叙述がながながと、全文をしめているといった傾向は、課題作文や遠足文にもよく見られたが、学習したことを記録する場合にも、いぜんとして現われている。この傾向は下位の女兒に多いが、男児にも見かけられる。

4年 M男

1時間めには先生がくるあいだ国語のじ習で天下一の馬のところをよんでいと研究所の先生がきてテストをして1時間めのなかほどからはじまって2時間めのおわりまでテストをして1ばんはじめのは□(く)の中に字をいれてぼくは2つだけかけませんでした。

2かいめのは声をださないでよんで(で)きのうよりどのくらい多くよめたかと先生がいったので、ぼくは2まい半までかいたときやめといったときぼくはびっくりしました。

あつめる人は上田さんでした 3かいめは小さいのが1まい大きいのが1まいでぼくはやはり声をださないで、よむのだとおもいました研究所のテストがおわると算数をしました。

(4) 叙述力にはやや欠けるが、記録文を書こうとする態度はついている。

4年 T男

1時間目	算 数	ぼくは算数の本の125 Pをやりました。大槻君が116 Pをしらべました。
2時間目	研究所のテスト	2時間目は研究所のテストをやりました。3つやっていたうさいごのは□のなかにことばをいれなさいというも

3時間目	研究所のテストはどんなふうによ(つ)たか5年生の教科書くれました。	んだいでした。ほくは5つできませんでした。
		研究所のテストのわかんないことをおしえてくれました。それから5年生の教科書をくれました。

4年 S男

1時間	とちゅうまでじしゅう じしゅうはこくごのまとめ
1時間 2時間	それから研究じょ(う)のテストを3まいやりました。
3時間	算(算)数はOくんが練習4をやりました。
給食	あとは給食パンバターカレーじる。
あそび	運動場で中ぶつけをしました。
かんそう	研究じょのテストはとてもおもしろかった。

学習したことを簡潔にまとめようとして、表の形にしたものに、このタイプが多く、男児に多く見られた。ただ、学習事項に正確さが欠けていたり、だれが何をしたということが、はっきりしない、文法的に欠点のある文が案外あることがわかった。

(5) 上位者では、この程度にまとめられる。

4年 O男

<p>ほくたちは、1時間め、先生がいらっしゃらないので、自習をしました。ほくは、国語の宿題の、字のまちがいがいがかさがしました。そしたら、5ぐらいまちがった字を見つけました。2時間めは、国語研究所のテストをしました。1ばんはじめのはよい、どんではじめて、みじかい文を、読んでといに答えます。そして、時間がくると、先生がやめ、と言います。そしたら読んでいた所に、かぎをつけます。それをするまえに先生は、やめっと思ったらかならずやめることとおっしゃいました。先生が2ばんめのは、時間があるからおちついて、ゆっくりやりなさいと、おっしゃいました。それは、みじかい文になっていて、と中がぬけています。その中にことばを入れて、ちょうどいい文にします。そのつぎのは、やはり同じよう、と中がぬけていますが、字を1つし</p>
---

か入れてはいけません。それが終ると、今日のテストは終わりです。3時間めは、算数です、練習3は、先生がしらべましたが、練習4は大つき君が、しらべました。しらべ終わったら、ちょうどベルがなりました。今日は、3時間なので、きゅう食を食べて、コーラスの練習をして帰りました。

## D 作文を書く能力と鑑賞する能力

書く意欲が、主題を展開させる力や、叙述力と一致しないこの段階の児童の  
できあがった作文を鑑賞する能力はどうか、その関係を見るために、作文鑑賞  
テストを行ってみた。

### 1. 遠足文について

遠足参加児童が同じように経験した遠足について書いた作文2例を、

A文 すじが通り、遠足を喜ぶ気持や情景が具体的に書けている。

B文 日常的な朝の行動などの記述に重点があって、主題にはずれ、「そして」を多く使っている。

この2文を与えて、どちらが遠足の作文としてよいか、またその理由はなぜかを書かせた。

### 作文テスト

ここに えんそく の ことを かいた ふたつの さくぶんが あります。  
たのしい えんそくの 日の あさ、おきた ところから、とちゅうの 電車に  
のったところ までです。

あなたはこの(1)、(2)の ふたつの さくぶんのうち どちらが よいと思いますか。  
どちらがわるい と思いますか。よいと 思うものの ばんごうと そのわけ、わる  
いと 思うものの ばんごうと その わけを かいて ください。

よいと 思うものの ばんごう

よいと 思った わけ


わるいと 思うものの ばんごう

わるいと 思った わけ


(1)

きょうはえんそくです。うれしくて5時に目がさめました。

おかあさんがおすしをつくっていました。

「ねえ、おかあさん、もう起きてもいい。」という、「まだ早いわよ。」といったのでここにもぐりましたが、起きたくてたまりません、リュックをおろして、おかしをだしたり、いれたりしていました。

時間より早く家を出ました。学校へ着くとまだ30人ぐらいしか来ていませんでした。こない人を門までむかえに行ったりしているあいだに、だんだん大ぜい集まって来ました。

運動場にならんで、先生のお話をききました。それから人づうをしらべていよいよ出発です。学校の門の前にバスが3台来ていました。私たちは1ばんはじめのバスに乗りました、少し話をしている間に、西武新宿につきました。4年生はもう先に行っていて、私たちをまわってくれました。

たくさんまたせたので、なんだかわるいような気がしました。みんなそろいました。それから西武電車に乗りました。

外を見ていると、けしきがだんだんと畑が多く、いなからしくなってきました。

青い妻畑があり、そのそばには小川が流れていました、ふじ山もときどき見えました。

私は、いつもこんなところにすんでい

(2)

きょうはえんそくです。

朝、6時に起きて、はをみがいてかおをあらいました。

それから、おかしやくだものをリュックにいれました。

そして6時30分にごはんをたべました。そのよこでおかあさんが、おすしをこしらえています。おいしそうなおすしです。わたくしは、おすしが大きいです。

まほうびんに水をいれました。そして学校へ行きました。学校にくるとちゅうで、先生にあいました。そして先生といっしょに学校に来ました。学校へ行ったらもうみんな来て、あそんでいたの、私もあそびました。そして少したってから、ふえがなりました。それで、運動場にあつまりました。あつまれといって、先生が1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8とにんづうをかぞえました。そして、学校から、バスに乗って西武新宿まで行きました。

4年生が、西武新宿のえきで私たちのくるのをまわっていました。

3年生がだんだんとあつまってきました。

そして、西武新宿のえきの所で電車をまわっていました。かしきり電車が来ました。その電車にのって行きました。

そして、電車の中ではみんなと話したりあそんだりしました、あたりのけしきはとてもきれいでした。

たいと思いました。

(註) 作文の分量は、比較の際の、量的な差をなくすため、なるべく、(1)・(2)同量になるように、つとめた。

作品は実際の児童の作品に多少手を加えたもの、筆者にすぐ、自分の書いたものだと思わせないようにした。

その結果は、

	男(21人中)	女(28人中)	計(49人中)	%
(1)をよしとしたもの	11	20	31	63.7
(2)をよしとしたもの	10	8	18	36.3

31人(63.7%)のものが、(1)の遠足らしい作文の方をよいと鑑賞することができた。そして、(1)を支持する者のうち、「けしきがよくかけている。気持もよくかけている。」「ことばの使い方がうまい」「あたりまえのことは書かないで、いかにも遠足に行ったという気持がかけているのがいい。」「(2)に対しては「はやかおの所はいらない、当りまえのことが書いてあって、遠足の気持が出ていない。」「そしてが多すぎる」といった、作文評価の観点から正しい理由づけのできたものは、男9人、女12人計21人(43.7%)、「そして」の多いのに気づいたものは、男1人、女2人計3人6.1%という数字であった。(2)をよしとした36.3%の者の理由の中には、「朝起きて、顔を洗って歯をみがいている。(2)はしたことが詳しくかいてある」という理由が圧倒的に多く、(1)を退けた理由としては、「喜んで朝早く起きすぎるとあとで疲れるからいけない。」「先生といっしょに行けば学校におくれない」といったような、作文鑑賞以前の日常生活の常識で、作文の価値判断をしているものが、大半であった。(1)をよしとしながら、その理由の方で、「3年生の来るのをまっていたからよい。」「車内で遊ばないからよい」というような、日常生活の道徳的な価値づけからしかとりあげられないものがあった。

これが、同時に行った3年生の実験学校では、

(1)をよしとしたもの	男	女	計	%
	(25人)	(23人)	(48人)	
	12	14	26	52.3

正しい理由で、(1)をよしとするもの      男      女      計      %  
    6人    5人    11人 22.8

と減少し、「そして」の多いのに気づいたもの0というような減少ぶりになっている。

これらの結果から、4年の1学期では、まだ、作文の鑑賞力は十分ついていないということがわかった。したがって、(2)のような作文を書く児童がいるのは当然といえる。

それでは、この鑑賞と、具体的な作品春の遠足の作文との間にはどのような関係がみられたかという点、

#### 4年      (実験学校)

遠足作文の評価	(1)をよしとしたもの				(2)をよしとしたもの			
	男	女	計	%	男	女	計	%
5の段階	5人	3人	8人	17.8	1	1	2	4.4
4 "	1	0	1	2.2	1	0	1	2.2
3 "	1	11	12	26.7	3	2	5	11.1
2 "	3	0	3	6.7	2	2	4	8.9
1 "	1	4	5	11.1	2	2	4	8.9

作文能力の方で評価3以上のもの21人が(1)をよしとしているのに対し、(2)を推したものは8人であり、2以下の16人のものは、それぞれ半数ずつ、(1)と(2)とを推している。したがって、作文を鑑賞する力と、作文を書く力との関係はよく鑑賞できるものが、すべてすぐれた作文をかけるとは限らないという、成人の場合の鑑賞と創作との関係が、現われているわけであるが、成人の場合よりも、鑑賞力と書く力との間により高い関係のあること、中学年の初めより、後期になってからの方が一段と鑑賞力、よい作文を見分ける力がついてきたことがわかる。

## 2. 手紙文の良否の判別

与えられた条件で、目的に応じた手紙文を書く能力は、前にみたようであるが、それでは、実際に書かれている手紙文の良否を判別する力はどうかを見ると、実験学校では、相手の立場を考え、用件ももれなく伝えている手紙(2)の方



をよしとするもの、男子16人（88.9%）女子27人（96.4%）計46人（93.3%）という数であり、相手の立場を無視して自分勝手に書かれている手紙(1)の方には、ごくわずかしか、反応が示されていない。手紙文を書く方で、かなり書けたが良否の判別力はいっそう、ついていることがわかる。そしてこれは、実験学校だけでなく、協力学校にも、共通してみられた。ただ、協力学校の方では、実験学校より、やや劣っている。

4年生

	(2)をよしとするもの	(1)をよしとするもの
実験学校 (46人)	93.5%	6.5%
協力学校 (168人)	77.4%	22.6%

この判別能力を、3年生と比べた場合には、書く時に見られたと同様、かなりの学年差が認められた。実験学校3年生では、(2)をよしとするもの30人、60%（男子18人62.1%、女子12人57.1%）というふうに減少している。3年では協力学校

の方が、ややよい結果をみせているが、しかし、実験学校・協力学校いっしょに4年と比べると、やはり、大きな学年差がみられる。(1)、(2)二つの手紙文の良否はこのように判別できるようになっているが、その判別の理由をどこにおいているかを見ると、実験学校4年では、

(1)をとりあげなかった理由では、

いなかに行くことをたのしんでいるようで失礼である。ごちそうのことはあまり書かない方がよい。誕生日に行きたくなさそうだななどがあり、

(2)をとりあげた理由では、

ともだちにあいたい気持ちがよくでていいる。誕生日に行けないのをほんとうに残念に思う気持ちがよく出ている。

たべものことなど書いてないからよい。はっきり通じることばで書いてあって大事なこともぬけていない。詳しく書いてある。文もしっかりしている。ことばづかいがきちんとしているなどである。

(1)の文をよいとした3名（男2、女1）は、順序よくきちんと書いてある。帰ったらみんなにお話するというのがよい。というのであって、一部の者を除いては、評価観点と作文との照応がみられた。

これが、3年になると、

3年

	(2)をよしとするもの	(1)をよしとするもの
実験学校 56人	60.0%	40.0%
協力学校 213人	64.3	33.8

実験学校・協力学校

	(2)をよしとするもの	(1)をよしとするもの
4年 (214人)	80.8%	19.2%
3年 (263人)	63.5	35.2

(1)をよしとするもの20人(男11人, 女9人)

(2)をよしとするもの29人(男17人, 女12人)

という数で, (1)(2)の開きが少ないが, 理由の方でも,

(1)を取り上げた理由

文章が長くていなかへ行くことが詳しく書いてある(6人)。帰ってきていなかの話をしてくれるからよい(3人) 紙芝居を届けてあげる心づかいがよい(3人)。太郎さんが紙芝居がじょうず

とは書いてない(テストB1のもんだい文をさす)から(1)の方が正しい(3人)。その他, おばあさんの家に行くから(1人)。おばあさんの長生きの様子が詳しく書いてある(1人)。などがおもなものであった。

(2)を取りあげた理由では,

誕生会に行きたい気持ちがうまくかけている。太郎さんががっかりしないようにかけている。話がていねいだし行かれない事情が詳しく書けている。余分のことがなく短いがまとまってよく書いてある。9日に間にあうように紙芝居を届けるのがよいなどをあげている。

(2)を支持しえたものは, 4年生と同様の理由づけができていますが, (1)を支持しえた者は, 理由が非常に分散しており, また, 「いなかのたのしい話がしてもらえるから」など, 手紙文の評価と現実の場面想像が混乱しているという点も見られるのであって, 実際に手紙文を書く能力の上で現われたと同様に, 手紙文評価の上でも, かなりの学年差があることがわかる。したがって中学年のうちでも, かなりの発達段階のあることが認められたのである。

実験学校・協力学校, 3・4年生の手紙文の判別力と実際の手紙文との関係をみるために, 次のような表に整理してみた。判別の理由は, 気持, 用件, その他の三つに分けた。気持とは, 相手の立場を思いやる態度, 気持の上に着眼

したもの、用件は、必要な用件がとりあげられていることに着限したもの、その他は、用件、気持以外の理由、たとえば、いなかの話がきかれる、おばあさんにあえる、いなかに行くのはたのしい、などといったことである。(次の表参照)  
これによって、次のようなことが、考察される。

- ① 実験学校の4年生を除いて、総体的に、相手の立場でものを書こうとする態度よりは、用件の方に着眼されていること。

手紙文の判別力と実際の手紙文との関係

4年

学校	評価 判別 正答率 %	判別の理由				作品(手紙文の評価)					学習経験		
		用件	気持	その他	無答	5	4	3	2	1	手紙文 をか く 学 習	手紙文 の知 識 の 指 導	手紙文 をか いた 経 験
実験	93.5	34.7	56.5	8.8	0	21.3	19.1	31.9	12.8	14.9			○
N	89.1	60.8	13.0	24.0	2.2	3.3	23.3	16.7	36.7	20.0	○	○	
C	78.7	46.8	32.0	17.0	4.2	2.2	14.9	40.4	34.0	8.5	○	○	○
O	62.8	25.6	39.5	30.3	4.6	2.4	29.3	36.5	22.0	9.8			44.0%
H	81.3	40.6	43.8	15.6	0	3.1	25.0	25.0	25.0	21.9	○	○	○
G	73.3	42.2	42.1	13.3	2.3	2.2	13.0	47.8	26.1	10.9			38.0%
A	100	85.2	11.5	3.3	0	11.5	29.5	44.3	9.8	4.9			

—は学習経験のないことを示す。

無答は空白。

3年

学校	評価 判別 正答率 %	判別の理由				作品(手紙文の評価)					学習経験		
		用件	気持	その他	無答	5	4	3	2	1	手紙文 をか く 学 習	手紙文 の知 識 の 指 導	手紙文 をか いた 経 験
実験	60.0	36.0	22.0	42.0	0	14.0	24.0	20.0	26.0	16.0			○
N	76.3	44.1	8.5	40.7	6.7	1.7	11.7	30.0	26.6	30.0	—	○	
C	76.6	34.1	25.6	36.1	4.2	0	2.0	45.0	26.5	26.5	—	○	○
O	54.5	36.3	25.4	27.2	11.1	1.8	7.1	42.9	25.0	23.2			87.5%
H	50.0	34.7	38.5	26.8	0	5.8	7.7	15.4	32.6	38.5	—	—	18.0%
K	75.0	30.7	42.4	23.1	3.8	1.9	15.4	36.5	25.0	21.2			
G	77.8	44.4	30.6	19.4	5.6	2.8	19.4	19.4	33.4	25.0	○	○	80.0%
A	87.3	43.7	32.7	23.6	0	1.8	14.5	40.0	38.2	5.5			

これは、実際に手紙文を書いた場合には、かなり相手の立場でかけたのとは対照的であった。児童には友人同志の手紙文として、それほど社交性といった

ものには、気がつかずにいるのであろう。都会での実験学校に、比較的、気持の方の着眼が多かったのは、都会性を表わしているものといえよう。

- ② その他の低い理由に、学年差が現われて発達を示している。
- ③ 判別の正答率と、児童が書いた実際の作文の成績との関係は、遠足の文の鑑賞と実際作品の間よりも接近がみられる。
- ④ 学習経験の有無は、各学校からの記入がそろわなかったので、いちがいにはいえないが知識的な学習をしたと記入した所の方が、判別力はがいして高い。しかし、具体的な作品となると、むしろ、経験の方がきいているようである。(声 沢)

## E 作文能力の発達の要因

作文能力は、これをさらに小分けにして、題材のとらえかた、文のまとまり、記述上の誤り、書かれた分量、よい作文の見わけかた、について、それぞれの観点から、作文能力の発達をみている。

また、言語発達を規定する諸要因として、われわれが考え、調べたものは、知能の状態、身体の状態、家庭環境の状態、社会性、家庭での読書の状態である。どういう調査をして、それを調べたかは、1のEでふれておいた。

われわれが、この報告でとくに相関をみるためにとりあつかった作文能力はつぎのものである。

1. 一般的な作文能力(題材のとらえかた、文のまとまり、記述上の誤り、を総合した能力)

この能力をさらに小分けにして、題材のとらえかた、文のまとまり、記述上の誤り、のそれぞれと各要因との相関をみることはしなかった。

2. 作文の分量
3. よい作文の見わけかた

### 1. 一般的な作文能力を規定する要因

これは、作文の種類を、生活文、記録文、手紙文と分けて考えてみる。

#### 生活文

生活文の作文能力を、題材のとらえかた、文のまとまり、記述上の誤り、の

それぞれの観点から総合して評価した。そうして、作文能力と諸要因との相関をみた。

生活文は低学年から継続して、学期ごとにつぎの課題で書かせてきた。

- 1学期 ともだち
- 2学期 わたくしのうち
- 3学期 せんせい

中学年の各学期でみた作文能力と各能力との相関係数をだしてみると、第1表のとおりになる。

第1表 生活文の作文能力と諸要因との相関

学期 要因	3—1	3—2	3—3	4—1	4—2	4—3
知能	0.55	0.62	0.73	0.36	0.39	0.26
身体	0.22	-0.03	0.12	0.09	0.00	0.13
環境	0.21	0.18	0.17	0.22	0.29	0.27
社会性	0.24	0.21	0.25	0.15	-0.02	0.07
読書	0.48	0.41	0.46	0.42	0.54	0.50

第1表によれば、

生活文の作文能力と関係の深い要因は、

知能の要因

読書の要因

である。いちばん関係のない要因は、

身体の要因

である。

3年のときと4年のときとで、相関のしかたに変化があらわれている。知能や読書は作文能力と相関が深いけれども、3年のときは知能の要因のほうが読書の要因よりもきいている。逆に、4年になると、読書の要因のほうがきいている。知能の要因は4年になると、作文能力と少ししか相関がない、とでている。4年3学期では、0.26という係数である。

環境と、社会性の要因は、中学年を通じて、作文能力との相関はあまり高くない。しかし、3年よりも4年になると、環境の要因はだんだんと相関が高ま

る傾向にあり、社会性の要因は、だんだんと下がりつつある傾向がみえる。

同じ生活文でも、課題は学期によって、それぞれちがうけれども、課題によって、とくに、要因のかかりあいがちがってくる、ということは、この表にかんするかぎり出ていない。

「ともだち」という課題で書いた3年1学期の作文能力と交友関係との相関係数をみたところ、 $r=0.27$ という係数がでた。

#### 記録文

4年3学期に書いた記録文は「きのうのおべんきょう」という課題作文である。各要因と記録文の作文能力との相関係数をだしてみると、第2表のようになる。

第2表 記録文の作文能力と諸要因との相関

要因	相関係数
知能	$r=0.46$
身体	$r=0.05$
環境	$r=0.24$
社会性	$r=0.16$
読書	$r=0.39$

ここでも、知能と読書の要因は記録文の作文能力と相関が高いというようにでている。知能の要因との相関は、0.46、家庭読書の要因との相関は0.39である。

いちばん相関の低いものは身体の要因である。

環境と作文能力との相関は0.24である。係数としてはあまり高いものではないが、環境の要因をさらに小分けしてみると、つぎのようになる。

要因	相関係数
家庭の一般的状態	$r=0.13$
子どものための施設	$r=0.40$
家庭の文化的状態	$r=0.25$
家庭の一般的ふんいき	$r=0.10$
両親の教育的関心	$r=-0.16$

これによれば、こういう記録文の作文能力は子どものための施設とか、家庭

の文化的状態とかいう、いわゆる家庭の経済的・文化的状態のよしあしと関係が深い。両親の教育的関心と記録文の作文能力とは逆相関がでている。

家庭の読書の要因と記録文の作文能力とは相関が第2表のように比較的高いが、家庭の読書の中から、とくに新聞の接近の度合いをみると、

$$r=0.36$$

になった。

### 手紙文

4年2学期末の作文は手紙文を書かせた作文である。手紙文を書く能力と各要因との相関をみたものが第3表である。

第3表 手紙文を書く能力と各要因との相関

要因	相関係数
知能	r=0.47
身体	r=0.10
環境	r=0.61
社会性	r=0.29
読書	r=0.54

第3表によれば

「手紙文」を書く能力と相関のいちばん高い要因は環境の要因である。係数としては、かなり高いものである。そのつぎに高い相関のでている要因は読書、知能の順になっている。

「手紙文」を書くという能力は読書や知能の関係よりも、環境の関係の方が大きいことを示している。

そこで、手紙文を書く能力といちばん相関の高かった環境の要因をさらに小分けしてみると、つぎのようになる。

要因	相関係数
家庭の一般的状态	r=0.54
子どものための施設	r=0.68
文化的状態	r=0.66
家庭の一般的ふんいき	r=0.38
両親の教育的関心	r=0.34

これによると、環境の要因の中でも、子どものための施設、文化的状態がとくに、手紙を書く能力と関係が深いことがわかる。

読書の要因の中で、新聞への接近の度合いと、手紙文を書く能力との相関は  
 $r=0.42$

であった。

## 2. 作文の分量を規定する要因

子どもがある課題について書く作文の分量は、学年が進むにつれてふえていく。もちろん、ある時期までくると、たくさん書くよりも、もっと内面的な記述に移向するけれども、一般的には、ともかく作文の分量はふえていく。これは作文の分量と生活年齢との相関があることを示している。

第4表 作文の分量と諸要因との相関

学期 要因	3—1	3—2	3—3	4—1	4—2	4—3
知能	-0.21	0.10	0.21	0.01	0.12	0.06
身体	0.19	0.10	0.20	0.20	-0.14	0.18
環境	-0.10	0.02	0.05	0.17	0.16	0.28
社会性	0.12	-0.05	0.26	-0.09	0.06	0.09
読書	-0.26	-0.02	0.18	0.29	0.19	0.04

われわれは中学年の時期に、子どもが書いた生活文の作文の分量と知能、身体、環境、社会性、家庭読書との相関をみた。それが第4表である。

第4表によれば、

中学年の時期に書いた生活文の分量にたいして、恒常的に相関の高いと認められる要因はない。また、そうした中でも、比較的、生活文を書く分量と相関の高い要因から順位をつけようとしても、各期に変動があって、いちがいはきめられない。

したがって、中学年の子どもの書く生活文の分量は知能、身体、環境、社会性の要因とはほとんど関係のないことがわかる。

知能や読書の要因は読む力、あるいは一般的な作文能力と相関が高かったがこの作文の分量にかんするかぎり、きいていない。

しかし、第4表で、3年と4年の相関の変化をみると、環境の要因はわずかに



ながら規則的に学期をおうにしたがって、作文の分量との相関が高くなっている。つまり、 $-0.10$  から  $0.28$  にと高くなっている。

家庭の読書の要因は4年1学期までは相関が高くなっているが、4年の後期は作文の分量との相関は低くなってきている。

### 3. よい作文の見分けかたを規定する要因

4年の1学期には、よい作文を見わかる力をテストした。これは「えんそく」という課題で書いた、内容は同じであるが表現に巧拙のあるふたつの生活文を子どもに与え、どちらがうまいかを調べたものである。結果は正答か、誤答かという反応になっててくる。

そこで、その結果と各要因との定性相関係数をだしてみたのが、第5表である。

第5表 よい作文を見わかる力と各要因との相関

要因	相関係数
知能	$r=0.38$
身体	$r=0.18$
環境	$r=0.35$
社会性	$r=0.31$
読書	$r=0.43$

第5表によれば、

よい作文を見わかる力は家庭での読書の要因といちばん相関が高い。とくに家庭読書の中の、新聞への接近の度合いは、よい作文を見わかる力と相関が高かった。

$$r=0.46$$

読書の要因につづいて、相関が高いものは知能、環境、社会性の順である。こういう相関のかかりあいは、黙読理解力と各要因との相関と似ている。

ここで、社会性の要因をさらに小分けしてみると、つぎの結果がでた。

要因	相関係数
家庭における子どもの習慣	$r=0.22$
道徳性判断	$r=0.35$
社会的常識	$r=0.29$
パーソナリティ、交友関係	$r=0.27$

これによると、社会性の中でも、道徳性判断、社会的常識というものが、習慣やパーソナリティよりも、よい作文を見わける力にきいている。道徳性判断の発達はある面では子どもの情操の発達とも関連がある。そのところが文章表現のニュアンスなり、美的鑑賞能力に働いているように思われる。

#### 要約

1. 作文能力と関係の深い要因は知能と家庭読書の要因である。もっとも、それは読む力にたいする知能、読書との関係で考えられるほど一般性はない。知能の要因は題材のとらえかた、文のまとまり、記述上の誤りなどからみた生活文の作文能力との相関はだんだんとうすくなっていく。
2. 作文の分量の発達には、中学年では、知能や家庭での読書の要因もとくべつきいていない。どの要因が作文の分量にきいているかは、きめかねるというのが中学年の、作文の分量というものが示す特徴である。
3. 比較的、作文のどの能力にも、安定した姿で相関をもつ要因は環境の要因である。中学年では学期が進むにつれて、環境の要因がだんだんときいていく傾向がみえる。

環境の要因の中でも、とくに家庭の経済的、文化的状態が子どもの作文能力と相関が高い。家庭の教育的関心はあまり相関がない。

4. どういう種類の作文を書かせるかによって、要因の働きかたがちがってくる。つまり、生活文や記録文は知能や家庭での読書の要因が強く働くが、手紙文では環境の要因が強く働く。

(村石)

## F 作文能力の発達の事例的研究

〔事例〕 木村 勇二 (仮名) 昭和21年8月22日生まれ

### 1. この事例研究をとりあげた理由

木村勇二の言語能力は、1年の時から学級の中で、総体的に劣っていた。最下位に近いところから出発して、中学年では、読解力・読書速度(音読・黙読)・文法力・話す力は、時によっては、学級平均のできを示すこともあるようになった。しかし作文能力・文字力がいつも劣っている。ことに作文能力では、低

中学年の言語能力

学年 学期 能力	3年			4年		
	1	2	3	1	2	3
書字力	欠	1	2	2	2	2
読字力	1	2	2	1	/	2
文法力	3	4	欠	3	3	2
語い力	欠	2	3	2	2	2
読解力	3	3	2	3	1	3
読速	3	2	3	黙3 音3	黙3 音3	黙3 音3
聞く力	欠	C	B	3	3	3
話す力	欠	B	B	3	B	4
音読技能	/	/	/	2	1	/
作文(A)	2	2	2	2	2	1
作文(B)	/	/	/	/	2	2
作文(遠足)	/	/	/	1	1	/

A, B, C は3段階評価

りながら、時によって上下の差があることがわかる。

学級の平均に相当する能力——文法力、読解力、読速、話す力

学級の平均より劣る能力——作文能力、文字力、語い力である。

話す力、読解力が学級相応にある場合もあるのに、作文能力が、それに伴わない原因は、どこにあるか。まず、かれの実際の作品によって、作文能力の実態を見ることにしよう。

(3年1学期)                      ともだち

きのうのよるぼくがうちであそんでいたらまこちゃんがしらたくんちのおじさんが  
てれびいみしてやるよってしらたくんがまええいけよといったのでぼくわまええ  
いきましたそうしてぼくわなんのてれびいやるんだらうとおもっ手たらプロ↓スリン  
ぐのてれびいがはじまりましたそいてぼくわすはってみていましたそいしたらリング  
の上にてきたのはなまえがわすれていましたそいでみていたら日本人のしとがまけ  
ましたこんどは、えんどうとあづまふじがでてきましたそれも日本人のしとがやられ

学年のころは最下位であり、中学年でも、あまり進歩が示されない。こうした木村勇二の言語能力の特徴の原因はどこにあるかを、調べてみたいからである。

## 2. 木村勇二の言語能力

木村勇二が中学年にうけた、いろいろの言語能力テストの結果を、学級内の5段階の評点で分けて表にすると、次のようになる。

この表をみると、かれの言語能力は、学級相当の成績を得ることもあるのに、ある能力は劣っていること、また、相当の能力があ

ましたこんどはりきどうさんとかるめらができましたそうしたらやられそうになりました  
ましたそうしたら二かいともりきどうさんがかちました。そうしたら かるめらわ  
おこってきりとうさんおなぐりました そうしたらりさどうさんわかえっていきま  
した。そうしたらしらたくんがもうおわりだよといいましたそいでさようならっとい  
ってかえました。」 (傍線は、声沢がつけた。)

(4年1学期) ともだち

きょうの朝学校にいく前すこし時かんがあったのであそんでいきました。そいで  
え子ちゃんにまりをかしてもらってなげっこうやってあそんでいました。そうしたら  
ぼうやかきていれてっていったのでいれてやりました。そうしてしばらくするとぼう  
やがこんななげっこなんかもしろくないやって行ってまりおもって行ってはんだ  
ん つうだん おやろうといったのてぼくはやろうといいました。そうしたらおれとつ  
んちゃんとゆきちゃんとしげるちゃんとぼうやがいました。そうしておれたちがい  
ちばんでいいだろうとぼうやがいました。そうしてぼうやがまし(り)を石のへいえ  
なげたらあんましたかくなげたのであめりかじんの おくじょうみたいのところにま  
し(り)があが(っ)ちゃったからそのましをとろうとしてかいだんにあかりかかったと  
きたっちゃんちのくにちゃんがだめだそんなところの(っ)ちゃっておこち(ち)ゃ  
ったらどうするんだといいました。そうしたらえこちゃんがまりがあがっちゃったの  
そうしたらいいからっといいましたそうしたらえこちゃんがやだといいましたそう  
したらぼうやが学校からかえってきたらとってやるからいいだろうといいました。そう  
して学校にいくとちょうに学校がおくれたってぼうやの悪ぐちをゆきちゃんといいま  
したそいで学校についたってまだ悪口をいっていました。

(4年3学期) 先生

K先生は23日まではやさしかったんだけど23日の4時間めにきゅうにこわくなりま  
した。そいからは、ぼくはべんきょうをしたくなくなりました。それからはみんなは  
べんきょうのじかんはみんなしいんとしてだれもしゃべりませんでした。そいだI先生  
は本を読(む)ときは小さなこえでよむようになし(り)ました。だからぼくらは少し  
ま(も)きこえませんでした。

それからそのことが27日ごろまでつづきました。それから27日の1時間めにすこし  
こえが大きくなりました。それがきょうまでつづきました。それからは、声がきこえ  
ようになりました。

S先生は冬にそりいをつくってくれました。S先生はK先生よりS先生の方がお  
っかないがしんせつでした。そのすきいであそんでいました。そいで1年1組にそ  
りいをとられたのでぼくらは、とりかえそうとしたゆきをなげて 1組のがらすを わ  
ってしまいました。そいで先生し(に)しかられました。 終り

これらの課題作文をみると、まず主題に即して文章を構成する能力がないこ

と、叙述の能力がきわめて低いこと、語いが乏しいこと、文法的に正しい文が書けないこと、単純な文を、接続詞をいくつも使用して平板につみ重ねていること、句読法が不完全なこと、使用文字に誤字が多いこと等が目につく。

3年1学期の「ともだち」と4年1学期の「ともだち」の間には、文字量の増加と、句読点がうてるようになったこと以外には、本質的な進歩があまり見られないほどである。4年3学期の「せんせい」になると、ある時期の受持の先生の様子について書こうという主題意識と、それを展開させる叙述能力がややつきはじめ、文法的な誤りも少なくなり、誤字の使用もへって、やや読みよい文章になってきたが、まだ、一つのまとまった作文にはなっていない。

この傾向は、他の作文の場合にもみられる。次の作文は、4年1学期の遠足の作文であるが、課題作文でみられた、短い単文を接続詞でいくつもつみ重ねる形が、くどいほど繰り返されていることに気づくであろう。

(4年1学期) 遠足

5月9日はたのしいえんそくなのではやくに(ね)ました。

そいであさはやくおきました。そいでしたくをして学校えいきました。そいでりんがなって4年だけあつまりました。

そいからバスにのっていきました。そいでせいぶしんじゅくで電車にのっていきました。そいでしゅうてんまできておりました。そいでむらやまし(ち)ょすいちにいておたまじゃくしとかえびがにお(を)とってあそびました。

そいでしばらくしてピリピリと先生がふえをふきました。そいでならんでま(お)とぎでんしゃにのってゆねすこ村にいきました。おとぎでんしゃのうったところでいちばんおっかなかったのはてっきょうみたいのところがおっかなかった……(略)

そいであつまれといいました。そいでえきへいったら電車がすぐこんでいました。

そいで電車にのっていきました。

そいでこのつき(ぎ)のえきでおりました。

そいでそのでんしゃはこんでいなかった。

そいでいすにすは(わ)れました。その電車はいけぶくろまでです。いけぶくろからしょうせんのに(り)ました。

遠足の作文を書いた4年1学期末の作文Bテストでは、このような平板な遠足文と、遠足文にふさわしい作文の2例を出して、どちらがよいかをたずねたのであるが、かれはその時『おかあさんもう起きてもいい』と、『青い麦畑』のところがよい(遠足の感じが出ているから)」としてよい方の作文をとり、悪い

方は、「すこし細かすぎる」としりぞけて、鑑賞力は、十分あることを示した。ただし、「そして」の多用には気づかなかった。（遠足文の鑑賞力の問題 141 ページ参照。）

4年2学期の手紙文では、友人を誕生日に招くという、一定の条件のもとに手紙文を書く力を見るものであったが、

まさおさん12月9日の11時までにごてくたさいぼくのを(お)たんじょう日だからぜひきてください。

くるときに、まさをさんが、この前、つくったかみしばいを物(持)ってきて、かみしばいを、やって(だ)さい、ぼくもいっぱ(ば)いごちそうします。

さようなら 12月9日をたのしみにしています。

さようなら

たろうより

まさを(お)さんえ

12月9日(日曜)

というのを書いている。手紙の書式(なまえの書き方日付けなど)ができていないことと、大切な用件の一つである返事をもらうことを忘れており、唐突な書きだして、相手の立場を考えて書く通信文としてどうかと思われるが、前の生活作文に見られた冗漫さがなくて、みじかくまとめられている。

同時に行った、二つの手紙文の良否の判別、鑑賞力テストでは、相手の立場を考えない手紙文に対して「いなかのおばさんのごちそうのことを書いては太郎さんにわるい。いかにもがっつきみたい。」とよい方を支持することができた。

また、4年3学期の記録文では、前日に学習したことを書かせたものであるが、次のように書いている。

30分めは国語の108ページの天下一の馬(と) ゆうとこのあらすじお(を) やりました。あとの30分と2時間めを研究(所)のテストをやりました。テストは三つやりました。その中の一つはくいずみたいのもやりました。15分間によんで○をつけるのもやりました。(実際は3分間)あと一つはなん分んでもよいからよむのもありました。

3時間めは算数をやりました。算数はしらべるのです

先生がはじめのうはしらべていましたが先生はようじがあってこんどは大つきくんがしらべることになりました。大つきくんがしらべたのは練習4です。大つきくんが練習4をしらべたらすこしたって先生がきて1ばんまちがったしと(ひと)とか2ばんまちがったしと(ひと)とかききました。そいできゅうしよくお(を)、たべておかえり

になりました。

部分的にはどうかと思われる点もあるが、いつ何を学習したかが一応書けている。

以上、中学年でのかれの作文能力を整理してみると、

1. 主題意識は中学年の終りにはついてきたが、それを展開させる構想力や叙述力に乏しい。
2. それぞれの目的に添った文章の鑑賞力、判別力はあるが、自身で表現する能力は乏しい。これは、読解力は学級相応にあるときもあるが、作文能力の低いのと関連がありそうである。
3. 表現力の乏しさは、文法力の不足、語い力、とくに文字力などの基礎能力の不足に起因している。
4. 生活作文よりも、はっきりとした目的のもとに書く作文の方が、比較的よく書ける。このことは、問いかけに対して答えるという形での話す力（テスト結果）が学級相応にあることとなんらかの関連がありそうである。

なお、1年～4年の作文を評点と分量の上でみると、次のようになる。

学年 学期 評価	1年			2年			3年			4年						
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1 (遠足)	2 (遠足)	(手紙)	(記録)
	1	1	1	3	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	2
文字量	18字	191	187	296	297	301	548	91	305	548	348	386	1043	596		
学級平均 文字量	66字	198	244	375	346	345	418	422	331	575	578	511	859	736		

ここで、低学年のころの木村勇二の言語能力を参考までにみておこう。

### 3. 低学年のころの言語能力

#### 1年 言語能力評点（平均）

読字	書字	読解	語い	発音	文法	作文	話す	総点	評点
2.2	2.4	1.4	2.8	1.5	2.0	1.0	3.0	16.3	1

このときの学級全員の言語能力評点で、最高は総点33.9点、(評点5)であり最低は、女児の総点13.1点(評点1)。かれの16.3点は次位であった。評点1をとったもの学級3名中、男児ではかれがひとりである。

能力別にみると、読字力・書字力・読解力・作文・発音が、学級平均より劣り、中でも、発音・読解力と作文は最低である。学級平均に近いときは、語いと話すことであった。それが、2年になると、

2年 言語能力評点（平均）

ひらがな よみ	かたかな よみ	漢字 よみ	ひらが なかき	かたか なかき	漢字 かき	読解	語い	文法	作文
3.7	1.7	1.8	4.3	1.6	1.8	2.2	2.4	3.0	2.3

となっており、かたかなよみ、漢字よみ、かたかなかき、漢字かき、読解力・作文が、学級平均より劣り、なかでも、かたかなと漢字の書字力が特に劣っている。作文は1年の時のように、最下位ではないが、最下位すれすれの線とどまっている程度、読解力も劣っているが、1年よりは進歩のあとがうかがえる。

比較的良好なのが、語い、ひらがなのよみかき、文法である。

これによると、文字力を中心として、基礎学力が1年の時から劣っていたこと、それと相まって、読解力、作文能力がひどく悪かったこと、それが2年になってひらがなのよみかき能力が少しずつついてくるのに伴ない、まず読解力がつき始め、作文能力も前よりは好転しそうなところにあるということがわかる。そして、これらが今までみたように、中学年の段階にうけつがれていったわけである。

以上が、木村勇二の言語能力のおもな様相である。このような特徴ができたのはどういう要因がはたらいているためかを、次に調べてみよう。

#### 4. 言語能力を規定する要因

##### 知能の状態

4年(32.2.13)に行った知能検査(京大式9NX知能検査による)の結果では知能指数は104。

学級の他の児童に比べてふつうである。

なお、1年1学期(28.6.10)に行った(新式団体知能検査)場合は、知能指数は94(平均知の下)であったが、1年3学期(29.2.26)の検査(低学年用団体知能診断テスト)では、102で、順次にな高くなっている。ただ、われわれの作った記憶力、推理力テストの結果では、劣っていた。



## 身体の状態

毎学年始めに行う学校の身体検査によると、かれの身体の発達状況は左のよ

学年 \ 身体	身長 cm	体重 kg	胸囲 cm	座高 cm
3年	125.4	22.8	59.0	69.6
男子平均	(123.3)	(23.4)	(60.2)	(69.2)
4年	131.6	26.6	62.5	72.1
男子平均	(128.7)	(25.8)	(63.9)	(71.6)
5年	137.4	29.9	65.8	75.0
男子平均	(133.6)	(28.3)	(66.4)	(73.9)

うである。これによると、身長は、学級の男子平均より上回り、体重も平均より徐々に多くなっているが、胸囲が常に足りない。健康児という印象はうけない。そのためか、出席状態はあまりよい方で

はない。

3年の5月から6月にかけて27日（自転車事故で骨折，入院），10月に2日，12月・1月にそれぞれ1日ずつ計31日（249日中）も休んでいる。4年になってからは，6月に3日，11月に4日，計7日（247日中）の休みである。

学校に入るまでの生育歴をみると，安産，母乳で育ち，歩行は生後12か月，意味のあることばを言い始めたのは，16か月後で，あまり早くない。それは，生後2年たつまで離乳しなかったことにもよるであろう。それと生後1歳～2歳の間に重い病気をしている。かかりやすい病気は，へんとうせん，中耳炎，胃腸障害である。母親は，耳が遠くて正しく聞きとれないと報告している。

運動能力は，ふつうなみにある。

## 社会性の状態

社会性のテストの結果は，

家庭での生活習慣	3
道徳性判断	3
社会的常識	2
パーソナリティ	1
総合評点	3

で，パーソナリティを除いては，ふつうである。そして，これは母親からの報

告や、かれの実際の行動の観察によっても、一応うなずかれよう。

食事のあとかたづけ、買物に行く、など、家事の手伝いはかなりするようであり、親やきょうだいとも仲よくやっているようである。ことに、母親に対しては、愛情をもっている。近所の子どもたちともよく遊んでいると、母親は見ている。ただ、この友人関係に関してだけは、学校と家庭とで、くいちがいがあ

#### 友人関係

4年(31.4.17)の時、交友関係をしらべるために仲のよい友だち5人をあげさせた。かれは5人の男児を友だちとしてあげたが、その5人からは友人として扱ってもらえず、たった1人からしか、友人としてあげてもらえなかった。また、同時に行った、学校内での親切な人、がまん強い人、明朗な人、よくできる人、礼儀正しい人、運動のできる人などの10項目中、どの項にも0反応で、学級中たった1点(前記の友人の項)という最も悪い反応状態であった。このように、学級のだれからも認められず、愛されてもいないという点に、パーソナリティに何かの欠点があると思われる。しかも、こういう友人関係は、今に始まったことではなく、2年(29.6.11)に行ったソシオグラムでも、彼がひとりあげた男児からは反応がなく、だれからも好かれぬのみか、きらいな人として、3人の学友から指摘されている。また、かれも、学級内の腕力が強く、あばれん坊の男児3人をきらいな人としてあげている。

こういう友人関係であるためか、かれの作文「ともだち」には、いつも近所の友人と、きょうだいが登場していて、学級の友だちについては書かれていない。

しかし、先生に対する関係は好ましい。

#### 教師関係

2年になるとき、担任の先生がかわったが、  
……まだ(た)せんせい**が**ほくだぢ(たち)のくみにくればい**ん**だける(ど)もしこな**か**コ(っ)だ**か**(たら)ほく**わ**(は)かなしいですける(ど)しょがない。  
というように先生に対しては思慕の情をよせている。2年に行った調査(29.6.11)でも、新しい受持の先生を大好きと答えている。

### 家庭環境の状態

父の職業はペンキ屋、学歴は、両親とも小学校卒で、同じく東京都(新宿区)の出身、かれも東京で生まれ、以来、両親から離れて生活したことはない。

家庭環境診断テスト(田研式、日本文化科学社)によって、それぞれの項目に、つぎの評点を得た。

家庭の一般的状态	3
子供のための施設	2
文化的状態	3
家庭の一般的ふんいき	2
両親の教育的関心	2
総評	2

これによると、家庭の一般的状态と文化的状態がふつうのほかは、他は平均より悪い。

しかも、この調査をした4年の終りごろの家庭状況はよくなっているのであって、以前はもっとひどい状態にあった。

父親は結核を患って寝たり起きたりしている。両親、70歳をすぎた父の叔母、姉妹、弟2人という家族構成で、九畳の家に生活している。したがって本人のための勉強机もないという状態である。ラジオも最近兄のはたらきで買ったもので3年のころまでは家になかった。経済状態がどんなであるか想像がつかう。父親は酒好きで、酔うと母親や子供たちを叱りつける。かれは「おっかなくて、びくびく」している。両親はよくけんかをする。かれが1の年ころ、母がしばらく家を出ていたということもあった。

こういう状態だから教育的関心が低くなるのも当然である。病弱で、酒飲みの父は、すぐ叱りつけたり、たたいたりして子供たちからおそれられている。母親は、子供の教育についても関心があり、そういう点でも、父親と意見が合わないで、口げんかは絶えまがないと、かれは訴えている。子供の教育にまで手が届かないというのが実状であろう。学級の80%の者が保育園経歴をもっているのに、かれは、保育園にいかなかった。そして就学時までには、なまえ以外の文字は教えてもらえなかった。

こういう状況の中で、かれの学校生活が始まったわけである。かれの言語能力が低いのは、こういう環境と切り離しては考えられない。

#### 学習態度

木村勇二の学習態度はあまり積極的ではない。しかし、教室での態度はそれほどふまじめなものではない。ことに中学年になってからはよくなっている。ただ、家庭での学習があまりなされていない（家人にみてもらわないで、自分でする）から、学習効果はそれほどあがらない。観察記録から、かれの学習態度を拾ってみよう。

29年11月5日（金） 第1校時 算数

算数の時、うちで調べて来た者として手をあげたし、いっしょうけんめいに学習していた。

30年9月27日（火） 第2校時 国語

送りがなということばやことがらを教えた後、教師が、「ながれている しらないとおりすぎる なげた おちてきた」といって、それらの語を児童にノートに書かせる。次に「流ている 知らない 通すぎる 投た 落て来た」と板書して、各自が書いたノートと比べて誤りを気づかせていわせる。ノートに送り字をしないでいたものに、木村勇二、H・O・S(男)、U(女)などがいた。

31年4月21日（土） 第1校時 国語

きのうだされた宿題のかきとりを書かせたが、木村勇二は20字中正答6字、誤答14字という成績であった。

29年12月3日（金） 第2校時 テスト

かたかな書字力テストの時、隣のM女のをよくぬすみ見をする。ついに、ノートを机の上に持ちだしてぬすみ見をしようとした。周囲の者に注意されて、いまいましそうにしまいこむ。

30年1月27日（木） 第1校時、国語

指名されて答えるとき、「ね、ぼくのうちでね、ね……。」というように、「ね」を連発するくせがある。

30年12月9日（金） 第2校時 国語

Nが欠席で、返してもらったテストの紙が机の上においてあったのを「Oくん」と呼んで「その紙を机の中へ入れてやれよ。」と注意して机の中へしまいこませた。

31年6月8日（金） 第2～3時 休み時間 屋上

友人がいない。集団の遊びの中に加えてもらえない。M児をひっぱりこんで遊ぼうとするが、Mは集団の遊びに加わりたいため、「よせよ、お前なんかきらいだよ。」といった。

30年6月9日（木） 第2～3時 休み時間

休み時間で、男の子はたいいてい屋上や外へ遊びに出ているが、ひとり残ってクレヨンで絵をかいていた。「絵が好きなの。」ときいたら、「うん」と答えた。「絵を見せて」といったが、はずかしがってみせてはくれなかった。

32年9月28日（土）

2週間前全校生徒が神宮外苑に行って写生会をした。審査の結果、木村勇二はS女とともに、学年の優秀作として発表された。

これらの観察行動記録によっても、木村勇二の学習態度を中心に、かれの能力、性格などが浮かび上がってくる。これらは今まで種々な面から見てきたかれの特徴の原因や結果として興味深くみられる。最後に、家庭での読書の状態をみよう。

#### 家庭での読書の状態

低学年のころから読書は好きな方であったが、まんがや雑誌が主で読書内容はあまり高くはなかった。3年になっても同様で、1日に2時間ほど読む。童話も少しは読むようになったがすぎなものはいかかわらず雑誌と漫画で、学習向きの雑誌や、娯楽雑誌をかりて読む。4年になると読書はとても好きになって、読む本の種類も冒険・探検・作文文集と広がってきたが、やはり雑誌が主であり、柔道やちゃんばらの本を読みたいと思っている。ひとりでさびしい時やおもしろくない時に読書をするというかれにしては、こういう興味本位の読書になるのは当然であろう。

新聞・ラジオ・テレビには、3年のころまでは接近していなかった。おとなの新聞は、家でもとっていたが、文字力の劣るかれには見る興味もなかったらしい(子供新聞はとらない)。ラジオは家になかった。しかし、4年になってラジオを買ってからは、毎日喜んで聞いており、新聞も時々見る程度になり、テレビも近所の家を見に行くようになった。子供のための蔵書はふつうの本5冊、絵本10冊、雑誌5冊、計20冊程度である。

以上のことを中心にして、木村勇二の作文能力について次のような診断がで

きると思う。

## 5. 診断

木村勇二の作文能力の特徴は、次のような要因が連関しあって生じたのではなからうか。

1. 作文能力が不振なのは、文字力、語い力、文法能力などの基礎能力が低いためである。構想力や叙述力以前のところで、すでに問題がある。
2. それらの基礎能力の不備は、家庭の貧困と不和、教育的な関心の低さなどのかれの入学前後の家庭環境によるところが多い。ことにひらがな文字力の習得期として最も大事な入門期を、母の家出という事件があって、精神的な不安の中に過し、学習に身が入らなかったことは、致命的な結果となって、文字力に表われている。4年になっても、まだ、ひらがなが満足に書けていない状態である。

3. 文字力に付随して、語い力、文法能力が低いことは、これらの原因の外に、学校の集団生活からはみだしている孤独な生活、パーソナリティにもよろう。それらを読書でまぎらそうとしたかれであったが、漫画や娯楽雑誌などの読書内容では、語い力や文法能力の望ましい習得にはならない。

中学年になってから、文法能力も学級なみの時もあったが、しかし作文での使用状況は前にみたとおりであって、文法意識はあっても、実際の使用力は低い。

4. 表現能力の不足に対して、読解力・鑑賞力はふつうにある。作文鑑賞力は、道徳性判断との相関がみられたがかれの道徳性判断もふつうであった。（なお、のことは、読解力や鑑賞力をしらべるテスト文では、むずかしい漢字をあまり使わない、また、使ってもルビをふってあるためであろう）。よいもの、すぐれたもの、美しいものなどに対する判別力・鑑賞力はあっても、かれは、それを表現するのに、文字にたよらないで、線や面や色彩にたよろうとしたのであろう。さびしさをまぎらす手段は、読書や文字表現でよりは、かれの場合、絵画表現として成功したのである。同じく言語表現でも、話す力の方が高いのも、文字を直接媒介しないめではなからうか。

5. 生活作文に比べると、手紙文や記録文の方がよく書けている。作文能力を規定する要因の一つとして出ている知能は、それほど低くない。これら目的がはっきりした実用的な文の方が書けるといえるのは、一つは、かれの生活内容の貧しさ、単調さにも起因していると思われる。低・中学年を通じての三つの課題作文では、いつも同じような内容のことがくり返されていて、内容思想的に、ほとんど発展がみられない。5年になってから「わたくしのうち」で、はじめて、家の父や兄のこと、ラジオのことなどを回想的にふれて、かれとしては、まとまった作文が書けているのである。
6. 入学時の家庭環境の欠陥、精神的不安、家庭の教育的無関心などの地盤で、始まったかれの学校生活が、極度に基礎能力の欠如をきたし、それが家庭環境からくるパーソナリティと相まって、今日の段階に至っているものと思われる。

最近になって、家庭も以前よりは、経済的にもよくなり、環境が好ましくなっているから、今後、かれの学習意欲のいかんによっては、作文能力ものびていくのではあるまいか。現に低学年の時よりは中学年の方がよくなっている。木村勇二の作文能力の発達のすがたは、今後の発達の状態と関連してみた時、もっとたしかにさぐることができよう。 (芦沢)

## Ⅲ 文字能力の発達

### A かたかな能力の発達

#### 1. 全体的考察

低学年におけるかたかなの文字力は、2年3学期末までに、使用教科書で未習の文字（N書濁音7字、C書は清濁各1字ずつ、T書16字、G書28字、M書26字）があるにもかかわらず、文字一字ずつの習得状況は、世に低下をいわれるほど、ひどいものではなかった。

実験学校	清音よみ	88.7%	かき	70.7%
	濁・半濁音よみ	87.5%	かき	68.8%
協力学校	清音よみ	91.8%	かき	84.0%
	濁・半濁音よみ	88.7%	かき	82.0%

（国立国語研究所報告10 低学年の読み書き能力）

しかし、国語教室でかたかなが学習される場合、読みでは、確かに上の数字を裏づけるような状況であるが、読みと比べて書く機会が生活の上で乏しいから、作文・ノートなど、実際の使用面では、上の数字が示すほど習得されてはいないというのが、低学年におけるかたかな能力の実態であった。

また、かたかな書きの語に多い、促音、拗音、長音を含む語について、その読み書きの力をテストしてみたら、読みでは、一字ずつの正答率に劣らないほどの好率を示したが、書きでは、いずれも50%以下、（30%台が多い）という率で、相当低く、それも児童の生活に密接に結びついていない語ほど成績が悪かった。

2年までに学習しなかった新しいかたかなをさらに学習するようになった3年の1学期ではかたかなの文字力に、2年と比べて、どのような発達があるかをみるために、3年の1学期のかたかな文字力テストでは、2年終了時と同じ問題でためした。

3年1学期の問題



- よみ ① かたかな清音, 濁・半濁音71字 } 個人別テスト  
 ② 促音, 拗音, 長音を含む単語4語 }  
 かき ① かたかな清音, 濁・半濁音71字 } 集団テスト  
 ② 促音, 拗音, 長音を含む単語4語 }

テスト実施法も従来どおり。書字力テストを先にし、数日おいて読字力テストを行う。

1 キャラクター	ペ	バ	ネ	テ	タ	ヨ	ル	カ	ス
	ヲ	デ	ヘ	パ	ゴ	モ	ヤ	セ	イ
2 ニュース	ブ	ワ	ポ	グ	ロ	ヒ	ハ	コ	シ
	ゾ	ホ	ビ	ソ	ラ	ニ	エ	マ	ン
3 チョコレート	プ	ベ	ザ	ピ	ダ	ツ	ク	オ	ミ
	チ	ヅ	フ	ゲ	リ	メ	ア	サ	ウ
4 ラッパ	ホ	ゼ	ド	レ	ギ	チ	ジ	ズ	キ
		ム	ヌ	ユ	ナ	ケ	ノ	ガ	ト

かたかな書字力テスト用語表

A表 書かせる文字の順序と文字を含む単語

1 スキー	ス	9 カード	カ	17 ガラス	ガ	25 もう一つの むずかしい	チ
2 インキ	イ	10 セルロイド	セ	18 レール	ル	26 ノート	ノ
3 シンデレラ	シ	11 コップ	コ	19 タイヤ	ヤ	27 ヨット	ヨ
4 パン	ン	12 マスク	マ	20 ハンケチ	ハ	28 モーターボ ート	モ
5 ミカン	ミ	13 オレンジ	オ	21 エプロン	エ	29 ヒント	ヒ
6 ウィスキー	ウ	14 もう一つの むずかしい	ヲ	22 クリスマス	ク	30 ニッケル	ニ
7 キリスト	キ	15 サーカス	サ	23 アメリカ	ア	31 ツベルクリ ン	ツ
8 トンネル	ト	16 ホテル	ホ	24 ジープ	ジ	32 メートル	メ

33チフス	チ	43テーブル	テ	53ポンプ	ポ	63もう一つの むずかしい	ツ
34ケーブルカ	ケ	44パン	パ	54ビスケット	ビ	64ゼンマイ	ゼ
35ターザン	タ	45グリム	グ	55ターザン	ザ	65ゴム	ム
36ゴム	ゴ	46ソース	ソ	56フットボー ル	フ	66ペンキ	ペ
37ロンドン	ロ	47ピストル	ピ	57ドラマ	ド	67ブラッシ	ブ
38ラジオ	ラ	48ゲスト	ゲ	58ヌガー	ヌ	68コップ	プ
39ダリヤ	ダ	49レコード	レ	59バナナ	バ	69ワット	ワ
40リレー	リ	50ユニホーム	ユ	60デパート	デ	70アマゾン	ゾ
41ギター	ギ	51ネクタイ	ネ	61ベル	ベ	71ボール	ボ
42ナイフ	ナ	52ヘリコプタ ー	ヘ	62ズック	ズ		

B表 拗音、促音の書字力をみるもの

1. キャラメル    2. ニュース    3. チョコレート    4. ラップ

その結果、

実験学校	清音	よみ	94.3%	かき	85.2%
	濁・半濁音	よみ	95.6%	かき	80.0%
協力学校(7校)	清音	よみ	93.0%	かき	81.8%
	濁・半濁音	よみ	93.5%	かき	80.7%

というように、読み書きともに相当の発達が見られる。ことに、読みにおいては、数人の誤答者を除いては、完全もしくは、1字誤読といった程度になっている。

また、同時に行った促・拗・長音を含むかたかなの単語の読み書きでは、

実験学校	促・拗・長音(4語)	よみ	97.5%	かき	57.5%
協力学校(7校)	〃	よみ	93.8%	かき	53.4%

という結果を得た。したがって3年初期の段階では、かたかな文字1字ずつは、その後、教科書などを通して新たに学習したために、読み書きともに一段の進歩がみられるが、促・拗・長音を含む単語になると、1字ずつに劣らないほどよく読めるが、書く方はかたかなを実際に書く生活から遠いために、2年のころと比べて、それほど発達が見られないことがわかった。

3年の2学期末、1学期と同様、(A)かたかな文字71字及び、(B)促音、拗音、長音を含む単語10語の読字・書字力をみた。

3年2学期テスト問題

- (A) かたかな文字71字の読み書きについては、3年1学期と全く同一の問題とテスト方法。(169ページ参照)
- (B) 促音、拗音、長音を含む語だけ、従来の単語を単独に出す方法から、文脈中に提出して、その読み書きをしらべた。読みでは、当然個別テストである。書きでは、かたかなを含む文を読んできかせ、文脈の中から、かたかなで書くべき語を弁別させ、しかもそれが正しく書けるかどうかの一段と高度な作業を用いてみた。

かたかな読字力テスト問題

(次の文を読ませながら、かたかなの語の読み方を、下の欄の該当の語に記入する。)

- ① よごれた コップを きれいに あらいました。
- ② きょう ラジオで リンカーンの こどもの ころの おはなしを ききました。
- ③ どうぶつあそびを しましょう。ニャンと なくものは なんですか。
- ④ おじさんの おみやげに キャラメルと ビスケットと チョコレートを もらいました。
- ⑤ はるに になると、チューリップが きれいに さきます。
- ⑥ ニュース によると、アメリカから かわいい しかの こどもが おくられる そうです。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ニ ヤ ン	ラ ジ オ	ア メ リ カ	リ ン カ ー ン	キ ャ ラ メ ル	ニ ュ ー ス	チ ョ コ レ ー	チ ュ ー リ ッ	ビ ス ケ ッ ト	コ ッ プ

(判定欄)

かたかな書字力テスト問題

教示用表

- ① ねこが ニャン となく。
- ② ぼくは キャラメルと チョコレートと ビスケットが すきだ。
- ③ チューリップの はなが きれいだ。
- ④ ラジオの ニュース をきく。
- ⑤ コップに みずを 入れて ください。

⑥ リンカーンは アメリカの ひとです。

(単語10語は、読み書き共通であるが、記憶をさけるために、提示の文脈はかえてある。)

### 実施上の注意

- ① 一問ずつ読んで書かせ、次に進む。
- ② すぐに書かせないで、「次に読む一つづきの文の中には、かたかなで書くことばがはいっています。どれをかたかなで書いたらよいかよく考えながら聞いて下さい。」といって、最初の一回は、読み終るまでよく聞くようにし、ひらがなとかたかなを使い分けて書くということをよくのみこませてから、もう一度ゆっくり読んでやって書かせる。ただし、どの語をかたかなで書くといって、教えてはいけない。

3年2学期末テストの結果では、1学期とほぼ同じ正答率であった。従来のテスト結果と比べると次のようになる。

かたかな読字・書字力平均正答率

学校	時期 かたかな	テスト時期	2年 3学期		3年 1学期		3年 2学期		3年 3学期	4年 1学期	4年 3学期
		かたかな	よみ	かき	よみ	かき	よみ	かき	かき	かき	かき
実験学校	清音(46字)	%	%	%	%	%	%	%	%	—	—
	濁・半濁音 (25字)	88.7	70.7	94.3	85.2	95.4	80.5	91.2	—	—	
	促・拗・長音	94.0	39.1	97.5	57.5	96.5	51.0	55.0	(一)単語 65.9 (二)文脈中 67.6	63.0	
協力学校	清音(46字)	91.8	84.0	93.0	81.8	95.9	87.8	93.8	—	—	
	濁・半濁音 (25字)	88.7	82.0	93.5	80.7	95.6	86.4	92.6	—	—	
	促・拗・長音	90.1	54.7	93.8	53.4	93.3	61.6	63.6	(一) 71.4 (二) 69.2	55.3	

かたかな文字71字及び、促・拗・長音を含む語も、よみでは、3年の中期ごろまでには完全ではないが、実験・協力学校とも95%以上の者が正しく読めるようになっており、教科書で、71字全部学習されていないにもかかわらず、一応習得の水準にまで達していることがわかった。1学期にやや低かった協力学校では一段の進歩が認められ、実験学校では横ばい状態、むしろ下降を示しているが、これは、学級のある数人の下位者のための結果であって、全体としてはやはり上昇を示している。ことに読みでは、特定の誤読されやすい文字を除く

と、ほぼ習得できているという状態に達しているといえよう。実験学校での3年1・2学期末かたかな読字力テストの結果を、整理してみると次のようになる。(次のページの表参照)

この表でもわかるように、読みに関しては順調な発達をみせている。100%読めないというのは、特定の数人のためであって、特に最下位の児童によって共通的に誤答無答が占められているということが目立っているが、それも、1学期より2学期の方が、無答が急激に減って、誤答または正答にかわり、その誤答も、数が減ってきている。ただ、現在の国語表記法の上で、かたかなとしての使用度の少ない、ヲ、ワ、ヌヤ、字形のまぎらわしいソゼザヅゾヂなどは教科書でも提出しにくいのためか3年では出てないのが多い(実験学校では、ヲ、ゲ、ゾ、ヂ、ヅは未習)。その上無作為文字1字ずつとして提示されるためか、20%近く誤っている。しかし、実際使用面ではこれらのかたかなが1字だけポツンと出される場合はほとんどない。国語教科書でのかたかなの語の読みでは、文脈の上で、前後の関係からわかるためか、総じて文字一字ずつにみられるほどの抵抗は少なかった。3年2学期のかたかなを単語の形で出した10語でも、ほとんどの者が正しく読め、誤答の最も多かったリンカーン(8人)は、みなカーンの長音の読みができずに、リンカンと読んだためであった。

ひらがな表記が一応習得された児童では、カーンは、カアンとありたいところで、長音の棒引き符号には、まだ習熟できないむきがあるのである。したがってかたかな読字力の問題点はむしろ、これらのかたかな表記上の知識や習慣にあるといえよう。

前表の2年3学期、3年1学期・2学期のかたかな文字力テストの平均正答率(実験学校・協力学校)を見ると、読みが比較的順調に発達しているのに比べると、書きの方は、一応の進歩はみられるが、低学年における、ひらがな文字力の読みと書きが接近したような発達はみられない。文字一字ずつの場合でも誤答反応が相当著しく、平均正答率も80%を上下している。ことに実験学校では、前期より下降しているという不安定な習得状況である。促・拗・長音にいたっては、平均正答率も低く、まだ、この時期では、未発達である。中学年のかたかな文字力の問題は、書字力、ことに、促・拗・長音を含む語の書字力

		3年1学期				3年2学期			
	清音 (46字) 計 (19人) (29人)	濁・半濁音(25字)		(46字) 清音		濁・半濁音(25字)		(46字) 清音	
		男 (19人)	女 (29人)	男 (19人)	女 (29人)	男 (20人)	女 (29人)	男 (20人)	女 (29人)
全部読めたもの 1字(1語)だけで なかったもの	人 11 人 4	人 17 人 5	人 31 人 8	人 27 人 2	人 44 人 3	人 15 人 3	人 19 人 3	人 34 人 5	人 23 人 5
誤答の最高	8字 1人	13字 1人	4字 1人	2語 1人	1語 2人	6字 1人	4字 1人	8字 1人	2語 2人
無答の最高	26字 1人	14字 1人	9字 1人	0	0	16字 1人	11字 1人	5字 1人	3語 1人
学級平均	43.4字	23.9字	3.9語	43.9字	23.8字	9.7語			
読みやすい字(数字は正答の人数)	ウカキストニモヤリ(48人) 他の字もアを除いてはほとんどのものが読めている。	ガラ(48人) 他の字もほとんどのものが読めている。	キラメル(48人) チヨコレート(47人) ラッパ(46人) ニュース(46人)	カキストナニホキモヤリ(49人) 他の字もアを除いてはほとんどのものが読めている。	ガドスベバビ(49人) 他の字もソ(38人)ツ(38人)を除いてはほとんどのものが読めている。	ラジオ・アメリカ・ニユース・チユップ(48人)			
読みにくい字(数字は誤答・無答の人数)	ヲ(6人) ヲ(5人) 川(1人) セ(5人) 3(3人) 8(8人) ス(3人) 4(4人) 7(7人) ゾ(6人) 1(1人) 7(7人)	誤答無答計 ヅ(7人) 3(3人) 10(10人) ゼ(5人) 3(3人) 8(8人) ズ(2人) 2(2人) 4(4人) ヂ(2人) 2(2人) 4(4人) ヂ(3人) 1(1人) 4(4人)	誤答2人 ラッパ ニュース チヨコレート 2人	誤答無答計 ヲ(5人) 5(5人) 10(10人) ヲ(7人) 2(2人) 9(9人) ヌ(4人) 4(4人) 8(8人) ワ(2人) 6(6人) 8(8人) ソ(5人) 0(0) 5(5人)	誤答無答計 ツ(10人) 1(1人) 11(11人) ソ(7人) 4(4人) 11(11人) ダ(2人) 2(2人) 4(4人) ヂ(3人) 1(1人) 4(4人) ブ(3人) 1(1人) 4(4人)	リソカン 誤答無答計 (8人) 0(0人) 8(8人) ニヤン (4人) 0(0人) 4(4人)			

誤答・無答の最高の男児は同一人。女児にも最下位者2人が誤答・無答の数を多くしている。

このうち誤答・無答の最高者の女児は同一人。

にあることがわかった。このような発達状況から3年3学期末には、清、濁・半濁音71字及び、促・拗・長音を含む10語について、書字力のみを検した。

テスト問題及び方法——71字の文字ごとのテストは、全く従来と同じ。単語10語は前回同様、文脈中にあるものを弁別して正しく書く方法。

#### 教示用表

- (1) ぼくは アフリカへ たんけんに 行ってみたい。
- (2) わたしは ビスケットと チョコレートが すきです。
- (3) どうぶつえんの おさるが キャッ キャッ となっていました。
- (4) ことしも なつに なったら、プールに およぎに いこう。
- (5) チューリップの はなが きれいに さいた。
- (6) これから ニュースの じかんです。
- (7) この本は リンカーンの こどものころの ことを かいいたものです。
- (8) わたしの うちから 学校まで、100メートル あります。
- (9) この コップを おぼんの 上に のせて ください。

その結果、71字の文字1字ずつの書字力は、

	実験学校	協力学校( 校)
清音	91.2%	93.8%
濁・半濁音	89.9	92.6
促・拗・長音を含む単語	55.0	63.6

正答率が上昇し、読字力とほぼ同じ力がついてきたことが認められ、3年終末時ごろまでに、読める字の大半は書けるという段階にまで達していることがわかった。実験学校・協力学校で、使用している教科書は、T・N・G・M・C書であるが、これらはそれぞれ、4年にもちこしのかたかなが、2字～13字もある。しかし、児童は、かたかな五十音図表で学習するためか文字1字ずつの書字力はこのような状況であり、その習得状況はむしろ高いと思われるほどである。しかし促音、拗音、長音を含む単語は、前回よりやや進歩のあとが見られる程度である。3年終了時までには、かたかな一字ずつの書字力は一応身につくが、実際の使用面としての単語を正しく書く力はまだ十分といえないというのが、かたかな書字力の実態である。

実験学校における、3年1・2・3学期の書字力テストの結果を整理すると、次のようになる。

	3年1学期								
	清音 (46字)			濁・半濁音(25字)			促・拗・長音を含む語(4語)		
	男 (18人)	女 (29人)	計 (47人)	男 (18人)	女 (29人)	計 (47人)	男 (18人)	女 (29人)	計 (47人)
全部書けたもの	6人	4人	10人	4人	4人	8人	4人	3人	7人
1字(1語)だけで できなかったもの	1人	6人	7人	1人	2人	3人	3人	12人	15人
誤答の最高	5字 1人	14字 1人		5字 1人	6字 1人		4語 1人	4語 1人	
無答の最高	12字 1人	21字 1人		18字 1人	14字 1人		3語 1人	2語 1人	
学級平均	39.2字			20.0字			2.3語		
	このうち誤答・無答の最高者の女兒は同一人。								
書きやすい字 40人(85.1%)以上 のものが書けた字 (促・拗・長音 を含む語は別)	カキストイノハリン アウオクエシタナヒ ヘマメモラル			ギガゴジダドバビブ バブベ			キャラメル (37人) ラッパ (32人)		
書きにくい字 (数字は誤答・ 無答の人数)	誤答 ヌ(3人)	無答 15人	計 18人	誤答 ヅ(14人)	無答 13人	計 27人	ニュース 誤 (31人)	無 2人	計 35人
	ワ(3)	12	15	ヅ(8)	17	25	チョコレート (18	5	23
	ヲ(4)	11	15	ザ(10)	9	19			
	サ(9)	5	14	ゲ(7)	9	16			
	テ(6)	7	13	ヂ(0)	14	14			
	ソ(2)	11	13	デ(4)	8	12			
	ホ(2)	11	13	ゼ(4)	7	11			
				ポ(2)	9	11			
	3年2学期								
	清音 (46字)			濁・半濁音(25字)			促・拗・長音を含む語(10語)		
	男 (20人)	女 (29人)	計 (49人)	男 (20人)	女 (29人)	計 (49人)	男 (20人)	女 (29人)	計 (49人)
全部書けたもの	3人	3人	6人	5人	6人	11人	0人	0人	0人
1字(1語)だけで できなかったもの	0人	0人	0人	1人	1人	2人	3人	1人	4人
誤答の最高	8字 1人	13字 1人		6字 1人	6字 1人		8語 5人	9語 2人	
無答の最高	31字 1人	17字 1人		19字 1人	14字 1人		6語 1人	2語 1人	
	このうち、誤答・無答の最高者の男児は同一人。								



学級平均	37.0字	19.6字	5.1語
書きやすい字 40人(85.1%)以上 のものが書けた字 (促・拗・長音) (を含む語は別)	カキイストノコヘラ リタヤレンアオクシ ナウテマロ	バギドダベグゴバベ ガ	ラジオ (38人) アメリカ (35人) キャラメル (34人) ニャン (31人) コップ (30人)
書きにくい字 (数字は誤答・ 無答の人数)	誤答 無答 計 ワ(9人 19人)28人 ヲ(9 17 )26 サ(11 7 )18 ヒ(4 14 )18 ミ(13 5 )18 エ(5 12 )17 ヌ(3 13 )16 フ(5 11 )16 セ(13 2 )15 ホ(3 12 )15 ニ(2 12 )14 ツ(4 8 )12 ル(2 10 )12	誤答 無答 計 ヅ(6人 19人)25人 ゼ(14 7 )21 ゾ(5 15 )20 ヂ(4 15 )19 ザ(12 6 )18 ピ(3 12 )15 ポ(3 11 )14 ビ(4 9 )13 ブ(3 10 )13 ズ(2 10 )12 ボ(5 7 )12 プ(3 9 )12 ジ(5 5 )10	チューリップ 誤 無 計 (44人 2人)46人 リンカーン (34 0 )34 チョコレート (27 3 )30 バスケット (22 3 )25
3年3学期			
	清音 (46字)	濁・半濁音(25字)	促・拗・長音を含む 語(10語)
	男 女 計 (20人) (28人) (48人)	男 女 計 (20人) (28人) (48人)	男 女 計 (20人) (28人) (48人)
全部書けたもの 1字(1語)だけで きなかったもの	8人 6人 14人 1人 7人 8人	8人 14人 22人 1人 2人 3人	0人 1人 1人 3人 1人 4人
誤答の最高	7字 13字 1人 1人	5字 7字 1人 1人	8語 10語 3人 3人
無答の最高	26字 11字 1人 1人	16字 7字 1人 1人	1語 1語 1人 1人
学級平均	42.0字	22.5字	5.5語
誤答・無答の最高者の男児は同一人。			
書きやすい字 40人(85.1%)以上 のものが書けた字 (促・拗・長音) (を含む語は別)	オクスタナホマカコ ヤンアウチニメエケ テハユラシツミモヨ レサネヒルムロ	ギゴダバガバボグゲ ドベデビボビザブ ジ	プール (38人) アフリカ (37人) ニュース (32人) コップ (32人) バスケット (30人)

書きにくい字 (数字は誤答・ 無答の人数)	誤答 無答 計	誤答 無答 計	チャーリップ	誤答 無答 計
	ワ(6人 9人)15人	ヅ(5人 12人)17人	(38人 0)38人	
	ヲ(6 8)14	ゼ(10 4)14	キャッキャッ	(34 0)34
	セ(9 2)11	ゾ(5 7)12	チョコレート	(33 0)33
	ソ(4 6)10		リンカーン	(21 0)21
	ヌ(3 7)10			
フ(5 5)10				

この整理表での目立つ現象は、

- (1) 教科書で2年から持ちこしのかたかなの文字提出がその後追加されてはいるが、まだ未習の文字をいくつか残す3年であるためと、ひらがなのように絶えずくり返し提出されて、反復練習されないから、書字力の方では、誤答、無答の多い書きにくい字が、テストの度にかなりゆれをみせ、誤答反応もさまざまであること。
- (2) 読字の場合と同様、無答から誤答へ、誤答から正答へと徐々に進歩しつつあること。
- (3) 3年になると、文字学習の中に漢字の占める部分が多くなるためか、低学年の場合に比べると文字負担が多くなる。したがって、現行のかたかな表記を要求される程度のかたかな使用範囲、必要範囲という現実面では、特に、かたかな学習をていねいに、効果的に行わない限り、この程度の習得状況なのではあるまいかということ。
- (4) 読みにくかった文字が、大体書きにくい字であることなどが考察される。

なお、単語では、読みの場合にみられたように、直音からなる単語は正答率が高いが、チャーリップ、キャッキャッ、チョコレートなど、促・拗・長音を含む語がやはり書きにくい。かたかな表記をしなければならない外国語、外来語、地名、人名、擬声語などに多い促・拗・長音表記に、意外の抵抗がみられたことであった。

「かたかなが、書けない」と言われるのは、前記のように、特定のいくつかの文字に対しても言われるが、実際には、かたかなの語、かたかな表記をされるべき語の表記法が身につけていないということがわかった。

4年1学期では、ここに問題をしばって、これらの学習困難な音をまじえた語の書字力についてみることにした。

### 問題の構成

#### (1) かたかなの語 10語

前回のテストで、成績の悪かった促・拗・長音を含む語なども含めたもの。いずれも、教科書に提出され、学習ずみの語。単語として提出。

#### (2) 文章中のかたかなの語 10語

かたかなの語を含む文章を読んで聞かせて、文中、かたかな表記をすべきところを正しくかたかなで書けるか、さらに、そのかたかなは正しいかをみるためのもの。

#### かたかな書字力テスト語表

- (1)① リレー ② ट्रラック ③ スイッチ ④ チョキチョコキ (きる音)  
⑤ ニュース ⑥ オーバー ⑦ ピンポン ⑧ ページ ⑨ ニューヨーク ⑩ ポチャン (水におちる音)

#### (2)① わたくしのせいはい、一メートル三十センチあります。

- ② あなたは、さくらの花と、チューリップの花とでは、どちらがすきですか。  
③ ぼくは、やきゅうがすきです。いつも、キャッチャーになります。  
④ エジソンはイギリスの人ですか。いいえ、アメリカ人です。  
⑤ テーブルの上に、コップをおいてください。  
⑥ かぜがふくたびに、チリンチリンと、ふうりんのすずしい音がします。

### 実施上の注意

#### ① (1)(2)ともに集団テスト

調査者が、かたかな書字力テスト語表を読んで、児童に、かたかな書字用紙に書かせる。

#### ② (1)は一問ずつ読んで書かせ、次に進む。

(2)の方は、すぐに書かせないで、「次に読む一つづきの文の中には、かたかなで書くことばがはいっています。どれをかたかなで書いたらよいか、よく考えながら聞いてください。」といて、最初の一回は読み終るまでよく聞くようにし、ひらがなとかたかなを使い分けて書くということをよくのみこませてから、もう一度ゆくり読んでやって書かせる。(ただし、どの語をかたかなで書くのだといて教えてはいけない。)

#### ③ メートル、センチは、m, cmと書かないようにあらかじめ注意しておく。

4年1学期テスト結果  
(実験学校)

		書 字 %	教科書 (T書) で既習	
(1)	1 リレー	71.4	年 4	巻 (1)
	2 トラック	73.5	2	(2)
	3 スイッチ	59.2	2	(2)
	4 チョキチョキ	71.4	4	(1)
	5 ニュース	69.4	3	(2)
	6 オーバー	57.1	3	(2)
	7 ピンポン	81.6	3	(2)
	8 ページ	81.6	3	(1)
	9 ニューヨーク	42.9	3	(1)
	10 ポチャン	51.0	3	(1)
	平 均	65.9		
(2)	1 メートル	77.6	2	(1)
	センチ	65.3	3	(2)
	2 チューリップ	38.8	3	(1)
	3 キャッチャー	36.7		
	4 エジソン	67.3		
	イギリス	89.8	4	(2)
	アメリカ	83.7	3	(1)
	5 テーブル	59.2	2	(1)
	コップ	71.4		
	6 チリンチリン	85.7	3	(1)
	平 均	67.6		

テストの結果、実験学校では左表のような結果を得た。これによると、まず、単語として書かせた場合と、文脈中から、かたかなで書くべき語を判別して書かせた場合とでは、結果において、ほとんど大差はない。むしろ、実験学校の場合では、(2)の文脈の中からかたかなの語を判別し、書かせた方がやや優位である。

協力学校での結果は、M校を除いて、テスト(1)の単語として与えた方が、逆に、やや優位である(同一の教科書使用校N・C校も同じ)が、それととも、大した差でない。これらの結果から、この期の児童は、かたかなで書くことを意識しさえすれば、既習語はもちろん、未習語でも生活上親しいものは、かたかなで書くべき語の判別能力はかなりついていることがわかった。

作文などにみられる、かたかなの語のひらがな書きは、ある程度、かたかなで書こうという心構え・意識の欠如の問題であろうとみられる。

学(使用教科書)	実験校 (T書)	N校 (T書)	C校 (T書)	G校 (N書)	H校 (C書)	M校 (N書)	計平均
かたかな (1)	65.9%	72.3%	78.2%	68.8%	63.0%	74.8%	70.5%
かたかな (2)	67.6	70.2	72.9	65.5	61.8	75.4	68.9

なお、(1)(2)のテストの結果と、それらの語の学習の有無(既習・未習)の関

係とをみると、学習の有無、学習時期の遠近などにかかわらず、直音から構成されている語は書きやすく、促・拗・長音からなる単語は、それが、学習されたものであり、前回のテストで書かされたものであったり、日常生活に親しい語であったりしても、成績が悪く、かつ、数回のテストの結果に、相当ゆれがあって、安定して習得されていないことがわかった。このようにして、かたかな書字力の問題点は、促・拗・長音の複雑にからみ合った単語にあるといえる。それらは、後述の誤答反応をみるといっそうよくわかる。

#### 4年1学期テストの結果整理

	かたかな書字力 テスト(1) 10語			かたかな書字力 テスト(2) 10語		
	男 (21人)	女 (28人)	計 (49人)	男 (21人)	女 (28人)	計 (49人)
全部できたもの	5人	8人	13人	4人	4人	8人
1語だけできなかつたもの	2人	3人	5人	4人	5人	9人
誤答の最高	7語 (4人)	9語 (2人)		10語 (1人)	10語 (1人)	誤答、(1)(2)の 最高者は男女 とも同一人。
無答の最高	3語 (1人)	1語 (1人)		1語 (1人)	0	男女とも誤答 の最高者と共 通。
学校平均	6.6語(65.9%)			6.8語(67.6%)		
書きやすい語 (数字は正答の人数及び 正答率)	ピンポン(40人 81.6%)	ページ(40 81.6%)	トラック(36 73.5%)	リレー(35 71.4%)	チョキチ ョキ(35 71.4%)	イギリス(44人 89.8%) チリンチ リン(42 85.7%) アメリカ(41 83.7%) メートル(38 77.6%)
書きにくい語 (数字は正答の人数及び 正答率)	ニューヨ ーク(21人 42.9%)	ポチャン(25 51.0%)	オーパー(28 57.1%)	スイッチ(29 59.2%)	キャッチ ャー(18人 36.7%) チューリ ップ(19 38.8%) テーブル(29 59.2%)	

なお、4年3学期末では、中学年における総合的な書字力テストを実施したが、その中に、かたかな書字力問題も含まれている。従来、問題のあった、チューリップ、ニュートン、キャッチャーなどに、イギリス、リンカーンなども加えた5語であるが、その結果は、実験学校平均正答率63.0%で、4年1学期

末に比べると、むしろ下降の気配がみられるのである。（協力学校は、55.3%でこれも下がっている。）

これは、4年後期ごろになると、文字力として漢字力の負担の方が多くなること、他教科への学習量の増大などのために、かたかな文字学習が、あまり身につかないからであろう。また、現実生活でも、それほど書く必要に迫られていない実情にもよろう。

4年3学期末のテストを整理すると、次のようになる。

	促・拗・長音を含む語(5語)		
	男 (20人)	女 (27人)	計 (47人)
全部できたもの(5語)	6人	6人	12人
1語だけできなかつたもの	5人	7人	12人
誤答の最高	4語 (3人)	5語 (1人)	
無答の最高	0語	0語	
学校平均	3.1語		
書きやすい語 (数字は、正答の人数及び正答率)	イギリス	43人	(91.5%)
	ニュートン	31	(66.0)
書きにくい語 (数字は、正答の人数及び正答率)	キャッチャー	20人	(42.6%)
	チューリップ	27	(57.4)
	リンカーン	27	(57.4)

なお、かたかなを語として書かせた場合の書字力を2年の終りから4年の終りまでのテスト別に、正答率からみると次の表のようになり、直音からなる語（例、アメリカ、アフリカ）などは別として、促音、拗音、長音を含む語の習得状況が、いかに不安定なものであるかということがわかる。

なお、文脈中に提出されたかたかなの語を、ひらがなと区別して、かたかなに書こうとすること、かたかなの語としての意識・弁別する力は、どの程度にあるかという、これは、案外にあることがわかった。

3年3学期では、かたかなの語をひらがなで書いたものは、8.33%、  
びすけっと（男1） りーかん（女2） こっぶ（男1）

かたかな（促・拗・長音を含む語）書字力一覧表（学期別）

2年3学期		3年1学期		3年2学期		3年3学期		4年1学期		4年2学期		4年3学期	
4語	正答率 %	4語	正答率 %	10語	正答率 %	10語	正答率 %	10語	正答率 %	10語	正答率 %	5語	正答率 %
キャラメル	47.8	キャラメル	78.7	キャラメル	69.4	キョッキョ	8.3	ボチャ	51.0	チリンチリ	85.7	カーン	57.4
ニュース	39.1	ニュース	29.8	ニュース	42.9	ニュース	27.1	ニュース	69.4	テープル	59.2	ニュートン	66.0
チョコレート	37.0	チョコレート	51.1	チョコレート	38.8	チョコレート	31.2	チョコレート	42.9	キョッキョ	36.7	キョッキョ	42.6
ラップ	32.6	ラップ	66.0	チョコレート	6.1	チョコレート	20.8	キョッキョ	71.4	テープル	38.8	チョコレート	57.4
				ビスケット	49.0	ビスケット	62.5	スイッチ	59.2	イギリス	89.8	イギリス	91.5
				コップ	61.2	コップ	29.2	トラック	73.5	コップ	71.4		
				リンカーン	30.6	リンカーン	22.9	オーバー	57.1	エジソン	67.3		
				アメリカ	71.4	アメリカ	77.1	ピンポン	81.6	アメリカ	83.7		
				ラジオ	77.6	ボール	79.0	ペーシ	81.6	センチ	65.3		
				ニヤン	63.3	メートル	22.9	リレー	71.4	メートル	77.6		
平均正答率	39.1		57.5		51.0		55.2		65.9		67.6		63.0

で、あとは、ビスケシと(1) チョコレいと(1) プーる(1) ぶる(1) ちょりプ(1)  
メーとる(2) メとる(1) めイトル(1) コッぷ(1)

などにみられるように、かたかなで書こうとする意識はあるが、かたかな文字  
がまだ正しく書けないか、またはひらがな文字との混乱による誤りである。

4年1学期でも、Bの(2)の文脈中のかたかなの語を、ひらがなで書いたもの  
は16.3%、

せんち(1) えじそん(5) えりそん(1) ていぶる(1)

で、他は、

文字の誤りや、ひらがなとかたかなの混同によるまぜがき

センチ(4) きゃチャー(1) きゃっチャー(1) いぎりす(1) いギリス(1)

アメリカ(1) アメリカ(1) アメリカ(1) テえブル(1) テブる(1) コップ(1)

であった。

この傾向は、問題提出の方法によって、児童が、かたかなで書かなくてはと  
いう意識を持ちすぎたからとみることができよう。3年3学期、4年1学期の  
テストでは、ひらがなの語まで、逆にかたかながきにした例が、かなり見うけ  
られるのである。

### 3年3学期末（文脈中の10語）

(1) ひらがなの語をかたかながきにしたもの。

タンケン(18) オサル(サル)(11) オボン(6) ボク(4) オヨギ(3) スキ(1)  
コレカラ(1) ナシノハナ(1) ハナ(1) ヒャク(1) ガツコウ(1)

(2) ひらがな（漢字）とまぜがき

おサル(3) オサル(1) (動物エン)(1) アリます(1) なったら(1)

(3) 助詞までかたかながき

リンカーンノ } (1) アフリカエ (1)  
コップオ } 同一人 キャッキャット(1)

ビスケットト (2)

全体の傾向としては、(3)は比較的低い段階の児童に見うけられる。

上位者では、ひらがなの語とかたかなの語の区別がはっきりできる。ひらがなの語  
をかたかなで書いているのは、中位の児童に多い。

男児に比べて女兒の方が、かたかなで書く率が多く、オサル(10人)タンケン(18人)  
なかには、上位の者にも見受けられた。下位の児童の中には、全文をひらがなとかた  
かなの混じた書き方をしている者もいた。(2人)



4年1学期末（文脈中の10語、もんだい2）

- (1) ひらがなの語をかたかながきにしたもの。  
フーリン(9) フウリン(7) フーリン(1) フリン(1) サクラ(5) ハナ(2) ヤキ  
ュー(4) ヤキウ(3) ヤキョ(1) ボク(1) スキ(1)
- (2) 漢字やひらがなの部分までかたかながきにしたもの。  
アメリカジン(3) ミジウ(1) ミジュー(1) ふうリン(1)
- (3) 助詞までかたかながき。  
フリン(フーリン)ノ(2) イギリスノ(1) アナタワ(1)

全体の傾向として、3年3学期末よりかなりよくなったが、まだ語によっては混同が見受けられる。もっとも最近では、表外の文字など、新聞雑誌でも、かたかなの語が多くなっているから、一概に、これらをすべて正しくないと決めてしまうことはどうかと思われる。また、教科書によっては、動植物名はかたかながきである。ただし、実験学校の使用教科書はひらがな。ただ4年になってからの方が、語意識がそれだけ正確になったのか、ひらがな(漢字)とかたかなのまぜがきなどは減ってきている。なお、3年に引きつづいて、4年になっても、次のような混用文字を使うものがあった。その具体例。

- (1) アナたわさくらの チャリブ花トでわドチラがスキデスカ。
- (2) ボク スキ イツモ やちゃ(キャッチャー)ニナリます
- (4) ユジソソわ イギリスのひとでスカ イユカメリカジンでス
- (5) テブるのうエニコブオオイアクださい。
- (6) カゼガふくたびに クリリガ チリンチリソフウリソノズしいオトがします。  
(最下位の女兒。なお、同女の誤答は上の計では除外してある。)

文章中にかたかなの語を見出すという場合、大体正しく書けるが、まだ、中学年では、このように、両者の区別を完全に判別して書きわけることのできないものもいるのである。

## 2. かたかな文字力発達の問題点

〔誤答の傾向〕

### (1) 読字力

中学年の段階では、かたかなの読みは、かなり順調に発達しているから、誤答も少なく、低学年に比べると、誤答反応もずっと狭められている。

誤答の傾向（読字力）

( )内の数字は誤答の人数を示す。ただし1人の場合にかぎり省略。

3年1学期	3年2学期
ヲ(6)→ヨ(5)    ワ	ユ(7)→ヨ(3)    ウ   チ   エ   ギ   ュ
ソ(6)   ソ(3)   リ   シ   ツ	ヲ(5)   ヨ(3)   ウ   グ
ス(3)   ノ        メ   ネ	ソ(5)   ソ(3)   シ   ウ
	ツ(4)   シ(2)   ジ   ソ
	テ(4)   ケ(2)   ス   マ
	ス(4)   フ        ズ   ネ   マ
ヅ(7)→ジ(5)    ゴ(2)	ヅ(10)→ジ(5)   ゴ(4)   グ
ゼ(5)   ザ(4)   ビ(1)	ゾ(7)   シ        シ        グ   ソ   ヅ   ド   ギ
ヂ(3)   デ(2)   ズ(1)	ヂ(3)   ザ        デ        ゼ
	ヅ(3)   ウ        ズ        ギ
ニュース(2) → ニース    ニス	リンカーン(8)→リンカン(8)
ラッパ(2)        ロッパ    パン	ニャン(4)        ニヤン    ニャーン
チョコレート    チョコヒト	ニャア    キャン

清音・濁・半濁音では低学年に見られた、類似字形のひらがなの混同、同行の他の音との混同、漢字との混同、原因のつかめない、でたらめ読みが、ほとんどなくなって、字形の混同がその大半を占めている。それだけ、かたかな文字に即した誤りであるともいえよう。

促・拗・長音を含む語の読みとしては、かたかなの音を表わす、長音符号がよく読めないのが最も目立つ。ひらがな読みによくやくなれ、習熟してきたこの期の児童には、棒引き長音符号と、ひらがなでの長音表記との違いを、手とり早く使い分けるのが困難なのであろう。促音、拗音の読みでは、それほど問題がなかったが、リンカーンなど、誤答8人が8人ともリンカンと読むほどであった。

## (2) 書字力

読字力に比べると、清音、半濁音の書字力の方は、さまざまな誤答反応が見られる。低学年における誤答傾向の、①類似字形のかたかなとの混同、②ひらがなと混同、③同音のあやまり、④清濁を誤って書く(濁音化、濁・半濁音の混同、清音化)⑤字形の不足、⑥漢字と誤って書く、⑦同行中の他の音と書き誤る、⑧逆書、⑨原因不明のでたらめがきが、中学年にも、まだ持ちこされて

いる。ただ、逆書や漢字と誤って書くこと、原因不明のでたらめがきはさすがに影をひそめているが、無答から誤答への発達に即して、さかんに誤って書いている。ことに、目立つことは、一度誤って覚えこんだ文字が、そのまま、正されることなしに、引き続いて誤り書かれること、いつのテストの時でも正しく書けるように、身につかない文字は、一度、正しく書けても、また、誤るといふふうに、相当ゆれが激しいこと、読みでは、字形の混同が誤答の最大原因であったが、書きでも、類似字形の混同は、誤答の大きな原因となっていることなどである。

清音、濁・半濁音にみられる、書字力の誤答傾向

( ) 内の数字は誤答の人数を示す。ただし1人の場合にかぎり省略。

3年1学期	3年2学期	3年3学期
サ(9)→セ(5) ナワオラ	セ(11)→セ(4) セ(4) セ(3)	セ(9)→セ(4) セ(4) サ
ケ(7) ケ+1モチテ、 ケ	セサ ミ(13) め(12) 三	ワ(6) ク(2) ク(2) フブ ヲ(6) ヲ(2) タモ(2) ヲ
ツ(7) シ(3) ツ(2) ソフ	サ(11) セ(4) ヤラサ(2)	ツ(5) シ(5)
テ(6) チ(5) 手	ギ十井	フ(5) プズス(2) ペ
セ(6) セセ(2) サゼセ	ワ(2) ク(4) ハ(2) ワ <sup>o</sup> ワ	ミ(5) め(5)
ウ(5) う(4) ろ	フ	
ネ(5) 不(2) ネネヌ	ヲ(9) ヲ(3) をタヲオ アエ ウ(8) う(4) ラ(2) ワラ ツ(8) シ(3) ソ(2) つ(2) ツ <sup>o</sup> シ(6) ツ(4) リレ モ(6) も(4) チレ エ(5) ネ(2) レ(2) ユ フ(5) フ(2) クサラ メ(5) ナ(2) めセヨ	

ゾ(14)→ド(2) ケソ	ゼ(14)→セ(7) ぜ(4) ぜ`セ	ゼ(10)→ゼ(2) ぜ(4) ザ(2)
ザ(10) ぜ(5) ざ サザフ	ヂ	セテ
ナ	ザ(2) ぜ(3) セ(2) ぜ`ザ	ゾ(5) ジ(3) ゴ`ギ
ヅ(8) ジ(3) ゴ`ヅ`ヅ`ゴ	ササザ`ナ`ナ	ヅ(5) ジ(4) サ
ユ	ガ(7) が(5) が(2)	
ゲ(7) チ(2) げ`べ`ブ`ケ	ヅ(6) ジ(4) `ヅ`ヂ	
ナ	ゲ(5) げ(3) テ`ム	
	ジ(5) `ヅ(2) シ(2) ヒ	
	ゾ(5) `ソ(2) `ゾ(2) `カ	
	ホ(5) `ホ(3) オ`ホ	

促・拗・長音を含む語の書字力が、中学年のかたかな能力の中心問題であることは、前に述べたが、数回のテストに現われた、これらの語の誤答反応を見ると、これらの音を含む語の書字力が、この段階の児童にとって、いかに困難であるかということが実証されよう。

( ) 内の数字は誤答の人数を示す。ただし1人の場合にかぎり省略。

### 3年1学期

ニュース(31)

ニュース(3) ニュウス(9) ニュウス ニウス ニューウス ニューフス  
 ニョース ニュウスー ユース(3) ニーユス(2) ニーユース ニユス(3)  
 ニース ニッス ヌース ジウス

チョコレート(18)

チョコレイト(5) チョコレイト チョーコレート チコレイト チョコレト(2)  
 チョコレレ チョコルート チョコーイト チェコレート チュコ`イト  
 コレト 七マユト チ

### 3年2学期

チューリップ(44) (○印は、児童が、自分で書けない字につけたもの)

チューリップ チューウリップ チーユウリップ チューリッ チュウリップ  
 チユウリップ(18) チュウリシブ チュリブ(3) チュリップ(4) チュリッ  
 チュイツボ チュイシフ チュワリブ チュフリブ チュリシ チュ`フリブ  
 チウリップ(2) ちようりワ ちやうりブ チ○ウリぶ チ○リッ○

リンカーン(34)

リンカン(21) リンカン リンカーン りんかん んかん リンカー(4)  
リッカーン リーカン リソかあり リカー リーカ

チョコレート(27)

チョコレート チョコレイト(6) チョコレイト(6) ちょコレイト チョコレト  
チョコしいと ちょコレいと ちよコレいと チョコシーと チョコレー  
チョコレン チュコシと チョユレイと ヨコレイト ケヨ子と チレイ  
チョコ○イト

ビスケット(22)

ビスケット(4) ビスケシト(2) びすけっと ビスケシと ビスケト(3)  
びすけ ビスッヒ びッケと びユけト ビス スケト スット ビスセK  
ビス○ット ○スケット ビス○ト

### 3年3学期

チューリップ(38)

チューーリップ チューリシブ チューリップ(5) チューーリップ チュウリブ  
チユウリップ(11) チュリップ(3) チュリブ チュウリップ チュラリップ  
チュリップ チョウリップ チョーリップ チヨリブ チーユリブ チウリップ  
チユリシブ チユチシブ コーウリップ ヨエリヨぶ チリッ り

キャッキャ(34)

キャッキャッ キャッキャ(2) キャッキャシ キャシキャシ キャッキン  
キャキャ(24) きゃきゃ キャキア キカキャ キッキッ

チョコレート(33)

チヨコレート(4) チヨコルート チエコレート チョコレイト(10)  
チヨコレイト(6) チョコレト チヨヨレート チョユレーイト(2)  
チヨユれいと チョコレット チコレイト チユコしいと(2) テヨコレイト  
不

リンカーン(21)

リンカーン(4) リンカーン リンカーン(2) リンカーアん リンカーン  
リンカン リーカーン リンカン(3) リンカー(2) リーカン リーかん(2)  
リンカ リンン

メートル(19)

メートル(2) ナートル(4) メイトル めイトル メトル(4) メトル  
ナトル(2) メトル m 入る リンカン

### 4年1学期(テスト1)

ニューヨーク(28)

ニユーヨーク(3) ニューヨク(3) ニュウヨーク ニューウヨーク

ニユウオオク ニウヨウク ニウヨウマ ニョヨク ニョクー ニーユオウク  
ニークト ニューエーグ ニュヨーク(3) ニュヨウク(2) ニュウユオク  
ニユヨウク ニユヨク ニヨウク ニューグ ニーユウ ユークヨウク

ポチャン(24)

ポチャン(13) ポッチャン(2) ポヤン ホ ポチアン ポッヤン ポチヤン  
ポツン ポチヤン ポチヤ ポン

オーパー(21)

オーバ(14) オウバア オオーバ オーバア オオバア アヨア オウバー  
オオパー

スイッチ(19)

スイツチ(2) スイシチ(2) スーイチ スイーチ(2) スイッシ スーチ  
スイチ(9) ストツチ

(テスト2)

キヤッチャー(31)

キヤッチャー(3) きヤッチャー キヤチャア キヤッチャー(2) キヤチャ  
キッチャ キヤチー キヤッチャ(3) キヤッチャー(2) キヤツチー  
キヤチャーア きヤチャー キヤチャーア キヤチャニ キヤチ キヤッチャア  
キヤツチャマ キヤチーア キヤンチャー キチャアニ チャーチ  
キヤーツチャー キヤツチャニ キヤシチャニ ヤチャ

チューリップ(30)

チューリップ(2) チューリブ(2) チュウリップ(4) チュウリシブ  
チューリップ(2) チョリップ チューリシブ(2) チューリッ チューリ  
チュウリップ チュウーリップ チョウリブ チュウップ チョリブ  
チュリップ(3) チューリプー ナマウノワナイマ チュリシブ(2)  
チュリップ チーリシブ

テーブル(20)

テエブル(3) ていぶる テブる チブル テウブノ テエブル テューブル(2)  
チュエブル テーブル モウブ テイブル テブル(3) チーブル テール  
イブノ

センチ(17)

センチ(3) センチ(3) ナンラ せんち 七ンチ(5) ンチ セソち(2) セチ

これらの誤答を分析してみると、

- (1) 該当のかたかなの文字が書けない。
- (2) 該当のかたかなの文字を誤って書く。
- (3) 促音表記の脱落。
- (4) 促音表記ができない。
- (5) 拗音表記の脱落。
- (6) 拗音表記ができない。
- (7) 長音表記の脱落。
- (8) 長音表記ができない。

などであるが、中でも、長音を書きあらわす際の抵抗が、いかにひどいものであるかは、ニュース、チューリップ、ニューヨークなどの例についてみるとわかる。実にさまざまな反応である。この原因の大半は、ひらがなにおける、長音の書きあらわし方と、かたかなの場合のそれとの相違によるものであることが、その誤答傾向から察せられる。いったい、ひらがなでも、促・拗・長音を含む語は書きにくく、2年2学期末テストで、清・濁・半濁音71字の読み書きの正答率がほとんど100%に達した時でも、まだ、問題があった。ただ、ひらがなの場合、くり返し学習されるので、文字1字ずつの読み書きの力との差はかたかなほどひどくない。同期の促・拗・長音を含む15語のテストでは、

読字力平均正答率	実験学校	93.5%	協力学校	93.1%
書字力	"	77.7	"	83.9

音別にみると、

	促音(つ)	拗音(や)	(よ)	(ゆ)	長音(う)
読字力	95.0%	91.6%	92.5%	90.9%	93.0%
書字力	88.1	87.7	82.8	76.9	87.0

となっていて、書字力平均正答率は80%近い状態である。長音は、2年の2学期ごろになると、ア・イ・エ・オ列のものは大体正しく書け、ウ列の長音、とくに拗音と結びついたものに問題が残っているが、それも87%まで書けるようになっていく。2年末ごろまでによりやく習熟したこれらのひらがな長音表記が、かたかなでは、チューリップ、リンカーン、チョコレートと書かなければならないので、この段階での児童には、書く上での混乱を来させる原因となるのではあるまいか。ニュース(9人)チュウリップ(18人)チョコレイト(6人)チョコレイと(6人)リンカン(21人)といった大量の誤答は、表記混乱の結果であると思われる。このように国語表記法の複雑さからくる児童の負担が、意外に多いこと、「かたかなが書けない」のではなく、かたかな文字が本質的にこれらの問題になる音を多くもっている以上、ひらがな、かたかなの両字の表記法が二様になっている現在では、こうした書けない実態が当然繰り返されるであろうことを、つけ加えておく。

### 3. 個人別かたかな文字力発達一覧表

かたかな、清音、濁・半濁音71字、促・拗・長音を含む語の読字力・書字力テ

ストの結果を個人別に整理した一覧表を次に掲げておく。これによって、個人のかたかな文字力の発達の状況が数量的にわかる。

読字力

かたかな清音 (46字)      濁音・半濁音 (25字)      促・拗・長音

男子 No	3年 1学期			3年 2学期			3年 1学期			3年 2学期			(4語) 3年 1学期			(10語) 3年 2学期		
	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答
	1	46	0	0	46	0	0	25	0	0	24	1	0	4	0	0	10	0
2	43	1	2	45	1	0	24	1	0	23	1	1	4	0	0	10	0	0
3	38	8	0	42	1	3	22	3	0	23	1	1	2	2	0	9	1	0
4	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	9	1	0
5	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
6	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
7	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
8	欠	—	—	46	0	0	欠	—	—	25	0	0	欠	—	—	10	0	0
9	44	2	0	46	0	0	24	1	0	25	0	0	4	0	0	8	2	0
10	45	1	0	46	0	0	24	1	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
11	46	0	0	45	1	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	9	1	0
12	16	4	26	24	6	16	3	4	18	10	4	11	4	0	0	5	2	3
13	45	1	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
14	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
15	45	1	0	46	0	0	23	2	0	24	1	0	4	0	0	10	0	0
16	46	0	0	45	1	0	25	0	0	25	0	0	3	1	0	10	0	0
17	45	1	0	46	0	0	24	1	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
18	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
19	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
20	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0

読字力

かたかな清音 (46字)      濁音・半濁音 (25字)      促・拗・長音

女子 No	3年 1学期			3年 2学期			3年 1学期			3年 2学期			(4語) 3年 1学期			(10語) 3年 2学期		
	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答
	1	46	0	0	45	1	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0
2	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
3	46	0	0	46	0	0	21	4	0	25	0	0	4	0	0	9	1	0



4	45	1	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
5	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
6	45	0	1	45	0	1	25	0	0	24	1	0	4	0	0	10	0	0
7	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
8	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	9	1	0
9	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
10	39	3	4	42	2	2	24	1	0	23	1	1	4	0	0	10	0	0
11	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
12	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
13	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
14	46	0	0	45	1	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
15	38	5	3	40	3	3	18	1	6	23	1	1	4	0	0	9	1	0
16	43	3	0	45	1	0	24	1	0	24	1	0	4	0	0	10	0	0
17	19	13	14	27	12	7	15	1	9	16	4	5	3	1	0	9	1	0
18	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
19	41	5	0	39	5	2	19	3	3	21	4	0	4	0	0	9	1	0
20	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
21	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
22	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
23	43	3	0	41	4	1	24	1	0	23	2	0	4	0	0	10	0	0
24	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
25	45	1	0	46	0	0	24	1	0	25	0	0	3	1	0	10	0	0
26	欠	—	—	24	18	4	欠	—	—	15	8	2	4	0	0	8	2	0
27	45	1	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	4	0	0	10	0	0
28	39	6	1	38	5	3	25	0	0	24	1	0	4	0	0	10	0	0
29	46	0	0	46	0	0	21	3	1	21	4	0	4	0	0	10	0	0

書字力

かたかな清音 (46字)

濁音・半濁音 (25字)

男子 No	3年 1学期			3年 2学期			3年 3学期			3年 1学期			3年 2学期			3年 3学期		
	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答
1	34	5	7	30	4	12	43	3	0	19	2	4	18	3	4	23	2	0
2	38	4	4	31	1	14	34	0	12	18	2	5	18	0	7	17	1	7
3	欠	—	—	20	3	23	42	4	0	欠	—	—	10	6	9	20	5	0
4	34	3	9	40	1	5	46	0	0	23	1	1	22	2	1	23	2	0
5	46	0	0	42	3	1	46	0	0	23	2	0	24	1	0	25	0	0
6	46	0	0	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	25	0	0
7	32	0	14	35	5	6	46	0	0	14	0	11	23	0	2	24	0	1

8	欠	—	—	43	0	3	46	0	0	欠			25	0	0	25	0	0
9	43	3	0	40	6	0	43	3	0	20	5	0	23	2	0	23	2	0
10	46	0	0	39	3	4	42	1	3	23	2	0	20	3	2	22	1	2
11	41	1	4	23	3	20	37	3	6	21	1	3	15	2	8	17	3	2
12	31	3	12	7	8	31	13	7	26	8	3	14	5	1	19	7	2	16
13	32	4	10	39	0	7	42	1	3	14	3	8	21	2	2	21	1	3
14	46	0	0	46	0	0	46	0	0	25	0	0	25	0	0	25	0	0
15	37	1	8	37	3	6	44	2	0	19	3	3	21	4	0	25	0	0
16	45	1	0	30	5	11	33	4	9	25	0	0	15	5	5	18	2	5
17	44	2	0	44	1	1	46	0	0	24	1	0	19	3	3	25	0	0
18	46	0	0	44	2	0	45	1	0	25	0	0	25	0	0	25	0	0
19	34	5	7	34	2	10	37	2	7	16	0	9	15	0	10	20	0	5
20	46	0	0	46	0	0	46	0	0	23	2	0	25	0	0	25	0	0

書字力

かたかな清音 (46字)

濁・半濁音 (25字)

女子 No	3年 1学期			3年 2学期			3年 3学期			3年 1学期			3年 2学期			3年 3学期		
	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答
1	43	0	3	44	2	0	43	0	3	19	4	2	22	2	1	24	0	1
2	44	1	1	42	4	0	45	1	0	23	2	0	25	0	0	25	0	0
3	45	1	0	43	2	1	45	1	0	22	2	1	20	2	3	24	1	0
4	45	1	0	42	4	0	46	0	0	23	2	0	23	2	0	25	0	0
5	38	0	8	39	1	6	44	1	1	16	1	8	16	1	8	23	1	1
6	31	0	15	37	1	8	46	0	0	19	0	6	23	0	2	25	0	0
7	46	0	0	46	0	0	46	0	0	24	1	0	25	0	0	25	0	0
8	39	7	0	36	5	5	45	1	0	24	1	0	17	5	3	25	0	0
9	45	1	0	46	0	0	46	0	0	23	1	1	25	0	0	25	0	0
10	29	4	13	36	5	5	33	13	0	15	1	9	14	4	7	19	4	2
11	46	0	0	46	0	0	46	0	0	23	1	1	25	0	0	25	0	0
12	44	2	0	44	2	0	45	1	0	25	0	0	24	0	1	25	0	0
13	43	3	0	42	2	2	45	1	0	25	0	0	23	2	0	25	0	0
14	34	2	10	37	4	5	42	2	2	17	0	8	20	3	2	23	1	1
15	17	5	24	24	6	16	32	3	11	9	2	14	11	3	11	15	3	7
16	45	1	0	37	3	6	45	1	0	25	0	0	17	4	4	25	0	0
17	11	14	21	19	10	17	27	10	9	5	6	14	7	4	14	18	2	5
18	34	5	7	42	2	2	44	2	0	18	3	4	22	0	3	22	2	1
19	44	2	0	30	3	13	44	0	2	21	4	0	17	1	7	21	1	3
20	41	3	2	35	8	3	43	2	1	20	4	1	18	5	2	23	2	0

21	43	2	1	39	6	1	44	2	0	22	2	1	20	2	3	22	2	1
22	43	2	1	34	2	10	44	2	0	18	2	5	13	1	11	25	0	0
23	36	8	2	40	4	2	45	0	1	20	2	3	20	4	1	18	7	0
24	46	0	0	44	2	0	43	3	0	22	2	1	25	0	0	25	0	0
25	46	0	0	41	3	2	46	0	0	25	0	0	23	2	0	25	0	0
26	36	10	0	22	13	11	33	9	4	10	2	13	9	5	11	20	1	4
27	45	1	0	43	2	1	44	1	1	21	4	0	25	0	0	25	0	0
28	45	1	0	42	1	3	40	3	3	21	4	0	22	2	1	22	2	1
29													16	6	3			

かたかな拗・促・長音（書字力）

男子 No	(4語)			(10語)			(10語)			(10語)			(10語)			(5語)		
	3年1学期			3年2学期			3年3学期			4年1学期			4年3学期					
	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	文脈中(三)	誤答	無答	単語(-)	正答	誤答	無答	文脈中	誤答
1	3	1	0	6	4	0	7	3	0	7	3	0	7	3	0	4	1	0
2	1	3	0	2	8	0	2	8	0	5	5	0	7	3	0	4	1	0
3	欠	—	—	0	8	2	2	8	0	3	7	0	3	7	0	2	3	0
4	2	2	0	6	4	0	3	7	0	5	5	0	3	7	0	1	4	0
5	4	0	0	7	3	0	8	2	0	9	1	0	10	0	0	5	0	0
6	3	1	0	8	2	0	8	2	0	9	1	0	10	0	0	5	0	0
7	0	2	2	7	3	0	4	6	0	9	1	0	7	3	0	2	3	0
8	欠	—	—	8	2	0	5	5	0	9	1	0	9	1	0	4	1	0
9	2	2	0	2	8	0	3	6	1	2	8	0	4	6	0	1	4	0
10	2	2	0	5	5	0	4	6	0	4	6	0	7	3	0	4	1	0
11	0	4	0	2	8	0	5	5	0	3	6	1	5	5	0	3	2	0
12	0	1	3	0	4	6	1	7	2	0	10	0	0	7	3	0	5	0
13	1	2	1	2	8	0	4	6	0	4	6	0	6	4	0	5	0	0
14	4	0	0	9	1	0	8	2	0	10	0	0	10	0	0	5	0	0
15	1	3	0	3	7	0	6	4	0	8	2	0	6	4	0	4	1	0
16	1	3	0	4	6	0	2	8	0	8	2	0	6	4	0	2	3	0
17	3	1	0	8	2	0	9	1	0	10	0	0	9	1	0	5	0	0
18	4	0	0	9	1	0	9	1	0	10	0	0	10	0	0	5	0	0
19	2	1	1	3	7	0	6	4	0	6	4	0	4	6	0			
20	4	0	0	9	1	0	9	1	0	10	0	0	10	0	0			
21																2	3	0
22																3	2	0

かたかな拗・促・長音（書字力）

女子 No	(4語)			(10語)			(10語)			(10語)			(10語)			(5語)		
	3年1学期			3年2学期			3年3学期			4年1学期						4年3学期		
	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	正答	誤答	無答	文脈中(二)			単語(一)			文脈中		
1	3	1	0	7	3	0	8	2	0	7	3	0	10	0	0	2	3	0
2	3	1	0	6	4	0	8	2	0	10	0	0	10	0	0	5	0	0
3	1	3	0	5	5	0	3	6	1	5	5	0	5	5	0	1	4	0
4	3	1	0	2	8	0	7	3	0	8	2	0	9	1	0	4	1	0
5	2	2	0	4	6	0	6	4	0	8	2	0	8	2	0	5	0	0
6	3	1	0	7	3	0	9	1	0	10	0	0	9	1	0	2	3	0
7	3	1	0	7	3	0	8	2	0	9	1	0	8	2	0	4	1	0
8	2	2	0	3	7	0	4	6	0	6	4	0	2	8	0	1	4	0
9	2	2	0	9	1	0	8	2	0	9	1	0	5	5	0	3	2	0
10	3	1	0	1	9	0	10	0	0	4	6	0	2	8	0	1	4	0
11	3	1	0	7	3	0	10	0	0	10	0	0	8	2	0	5	0	0
12	3	1	0	8	2	0	6	4	0	10	0	0	10	0	0	3	2	0
13	4	0	0	8	2	0	8	2	0	9	1	0	10	0	0	3	2	0
14	3	1	0	4	6	0	5	5	0	8	2	0	5	5	0	4	1	0
15	1	3	0	3	7	0	4	6	0	3	7	0	3	7	0	欠	—	—
16	2	2	0	6	4	0	7	3	0	9	1	0	7	3	0	5	0	0
17	0	4	0	0	9	1	0	10	0	0	10	0	0	9	1	1	4	0
18	2	2	0	8	2	0	4	6	0	7	3	0	3	7	0	3	2	0
19	2	2	0	2	8	0	5	5	0	3	7	0	1	9	0	1	4	0
20	4	0	0	6	4	0	8	2	0	5	5	0	8	2	0	4	1	0
21	4	0	0	5	5	0	6	4	0	9	1	0	10	0	0	4	1	0
22	3	1	0	5	5	0	6	4	0	6	4	0	8	2	0	1	4	0
23	2	2	0	4	6	0	5	5	0	7	3	0	5	5	0	2	3	0
24	3	1	0	6	4	0	7	3	0	7	3	0	9	1	0	4	1	0
25	2	2	0	8	2	0	6	4	0	8	2	0	10	0	0	4	1	0
26	2	2	0	2	8	0	0	10	0	2	8	0	2	8	0	0	5	0
27	3	1	0	7	3	0	6	4	0	8	2	0	10	0	0	5	0	0
28	2	2	0	8	2	0	5	5	0	8	2	0	10	0	0	5	0	0
29	0	2	2	2	8	0												

B 漢字能力の発達

1. 全体的考察

低学年の漢字テストの結果、文部省の学年配当案による低学年までに提出される漢字の能力は、それが学校での学習の有無を含めて、ほぼ70%読め50%書けるといふこと、漢字の能力は、地域差よりも、この段階ではむしろ教科書の提出漢字との関係の方が深いこと、一度学習した文字でも、それが生活的でなく、頻度が低く、学習活動がくり返されない場合には習得度が不安定であること、したがって、習得漢字数は上昇するが、同時に、誤答反応が活発になってきたことなどが確かめられた。中学年ではこのような漢字能力が、どのように受けつがれ発達するかを見る必要があるが、中学年の段階では、文字力そのものよりも、文字力を媒介とする読解能力や表現能力の発達をみることに重点をおくことになった。したがって、中学年における漢字能力は問題点だけを重点的にとりあげて、発達の様相をさぐる程度にとどまっている。

3年2学期では、低学年でみられた文字力がその後、どのようにのびているかを見るために、2年終末時までのテストで正答率の低かった文字30字、

地汽読毎分家合時馬早半走切用多黒向雲鳥入玉近所歩来知考波夜行

文部省学年配当案による3年生用漢字170字中から、なるべく各社教科書に共通に出ている（T・N・G・M・Cの五社共通のものから選ぼうとしたが、五社共通の漢字は意外に少なく、中には、四社共通程度のものもある。）文字、70字

動物乗船進島面葉落発終新聞拾使妹受取安同住者集食注意太短客送荷平運病  
苦弟野球遊曜晴広庭楽歌買売世界王様橋流絵開遠岸記暗急婦魚死場通語度答  
着役

計100字について、その読み書き能力をみた。問題は、従来どおり、漢字力テストでは文脈のたすけをかりて読めないように単語として出し、書字力テストでは、文脈の中に入れて、語の意味を明確にし、書きやすいようにした。

実施方法や、採点は、低学年での漢字力テストの場合と同じ。

その結果、実験学校では、読字力平均正答率73.9%、書字力平均正答率40.6%という数を得た。2年3学期末の2年生用漢字110字のテストでは、読字63.5%書字42.0%という正答率であったから、低学年の漢字力テストの結果に比べて、読みは総体的に上昇しているが、書きでは、むしろ、低下の気味がある。

	読字		書字	
	2年3学期	3年2学期	2年3学期	3年2学期
地	8.9%	91.8%	0%	59.2%
汽	88.9	100	82.6	87.8
読	17.8	91.8	0	53.1
毎	6.7	98.0	0	36.7
分	77.8	89.8	21.7	98.0
家	48.9	73.5	76.1	85.7
合	48.9	73.5	0	34.7
時	82.2	98.0	70.0	93.9
馬	28.9	91.8	6.5	28.6
早	86.7	95.9	47.8	65.3
半	77.8	95.9	6.5	69.4
走	86.7	91.8	56.5	38.8
切	15.6	81.6	0	42.9
用	77.8	91.8	39.0	57.1
多	80.0	91.8	21.7	73.5
黒	37.8	98.0	0	87.8
向	13.3	55.1	0	34.7
雲	11.1	83.7	0	49.0
鳥	24.4	89.8	2.2	71.4
入	77.8	87.8	41.3	49.0
玉	24.4	71.4	15.2	34.7
近	13.3	71.4	10.9	65.3
所	55.6	89.8	54.3	73.5
歩	22.2	81.6	4.3	26.5
知	24.4	79.6	0	24.5
考	6.7	89.8	0	75.5
波	2.2	20.4	0	2.0
夜	15.2	100	15.2	63.3
行	88.9	98.0	71.7	61.2
来	55.6	77.6	23.9	73.5
平均	44.5	85.9	22.2	57.2

協力学校(8校)の結果は読字71.8%、書字43.5%であるから、書字力がやや上回るという程度で、全体としては実験学校と大差ない。これは、2年3学期のテストと共通の30字を除いた70字については、まだ学習されていない文字があったからであって、実験学校で、2年3学期末テストと共通の30字について両回のテストの間に、どういう発達があるかをしらべたところ、2年3学期末の読字44.5%書字22.2%に対して、読字85.9%、書字57.2%というふうに、かなりの発達があることがわかった。もっとも、2年終末時テストで成績の悪かった30字の中には、考、波など、実験学校での未学習文字も含まれていたから、3年になってからのこの発達は、当然であろうが、それにしても、倍

近い上昇ぶりです。漢字に対する文字意識が高くなったことがわかります。

3年の3学期では、この3年2学期末テスト100字のうち、正答率の高かった20字を除いた80字、

食注意太役進短船客新聞送集安拾発遊荷病平運苦弟広野球楽庭曜歌王様晴世界買橋流売絵遠波開記急岸魚帰場死高度語通着答動物乗面終葉使妹落歩受同者取住合暗走考向切近知所

と、それに、新たに、3年用漢字（文部省国語課の学習漢字学年別配当試案）から20字（子供のよみもの等にも多く採られている字）

感勝駅追級店返事台親深待肉助負寒投主形旅

を加えた計100字について、読む力、書く力をみた。（提出方法は、前学期に同じ。）

その結果、

実験学校 平均正答率 読字 83.6% 書字 49.6%

協力学校（8校）平均正答率 読字 73.2% 書字 51.0%

というように、3年2学期末のテストに比べると、やや上昇を示している。なおこのテストでは、2学期の正答率の高かった文字20字が除いてあるから、確実性のある上昇である。前学期との共通文字80字について、両期のテストによる発達の関係をみると、次のようになって、一段の発達が認められる。（実験学校）

		食 注 意 太 役 進 短 船 客 新 聞 送												
読 字 率	3年2学期	95.9	32.7	53.1	59.2	79.6	65.3	4.1	93.9	42.9	95.9	93.9	4.1	
	3年3学期	100	66.7	77.1	93.7	72.9	83.3	4.2	97.9	97.9	100	100	8.3	
書 字 率	3年2学期	69.4	0	51.0	65.3	36.7	20.4	0	26.5	0	75.5	69.4	0	
	3年3学期	68.7	4.2	58.3	97.9	47.9	39.6	0	81.2	72.9	79.1	72.9	2.1	

		集 安 拾 発 遊 荷 病 平 運 苦 弟 広												
読 字 率	3年2学期	75.5	53.1	63.3	55.1	38.8	18.4	61.2	71.4	44.9	71.4	95.9	85.7	
	3年3学期	85.4	83.3	81.2	70.8	97.7	97.7	81.2	91.7	70.8	79.1	91.7	93.7	
書 字 率	3年2学期	24.5	10.2	49.0	18.4	4.1	0	0	38.8	14.3	10.2	81.6	67.3	
	3年3学期	29.2	52.1	58.3	41.7	72.9	64.6	4.2	66.7	33.3	22.9	79.1	64.6	

		野 球 楽 庭 曜 歌 王 様 晴 世 界 買												
読 字 率	3年2学期	89.8	89.8	85.7	83.7	100	95.9	55.1	49.0	73.5	89.8	89.8	65.3	
	3年3学期	77.1	70.8	93.7	100	100	97.9	97.9	100	85.4	79.1	79.1	91.7	
書 字 率	3年2学期	57.1	42.9	53.1	53.1	22.4	63.3	79.6	2.0	42.9	89.8	85.7	8.2	
	3年3学期	56.2	33.3	75.0	68.7	33.3	56.2	97.9	77.1	68.7	79.1	62.5	35.4	

		橋	流	売	絵	遣	波	開	記	急	岸	魚	焔
読字率	3年2学期	87.8	98.0	75.5	71.4	69.4	20.4	75.5	98.0	18.4	49.0	63.3	81.6
	3年3学期	100	95.8	85.4	93.7	87.5	91.7	89.6	97.9	87.5	79.1	68.7	95.8
書字率	3年2学期	28.6	49.0	36.7	49.0	14.3	2.0	36.7	42.9	2.0	10.2	4.1	49.0
	3年3学期	39.6	41.7	37.5	72.9	60.4	14.6	27.1	79.1	62.5	39.6	77.1	75.0

		場	死	島	度	語	通	答	着	動	物	乗	面
読字率	3年2学期	91.8	75.5	61.2	28.6	83.7	81.6	91.8	83.7	61.2	65.3	42.9	91.8
	3年3学期	100	100	97.9	87.5	97.9	89.6	91.7	89.6	95.8	95.8	95.8	95.8
書字率	3年2学期	20.4	10.2	24.5	2.0	18.4	32.7	65.3	12.2	16.3	40.8	2.0	77.6
	3年3学期	29.2	77.9	72.9	43.7	54.2	37.5	54.2	43.7	64.6	83.3	43.7	47.9

		終	葉	使	妹	落	歩	受	同	者	取	住	合
読字率	3年2学期	91.8	89.8	28.6	85.7	98.0	81.6	30.6	61.2	32.7	73.5	67.3	73.5
	3年3学期	95.8	95.8	93.7	91.7	93.7	79.1	93.7	79.1	95.8	91.7	77.1	87.5
書字率	3年2学期	69.4	49.0	2.0	69.4	34.7	26.5	0	12.2	0	28.6	30.6	34.7
	3年3学期	62.5	37.5	47.9	58.3	20.8	31.2	43.7	27.1	43.7	68.7	35.4	54.2

		暗	走	考	向	切	近	知	所	計
読字率	3年2学期	81.6	91.8	89.8	55.1	81.6	71.4	79.6	89.8	69.3
	3年3学期	89.6	85.4	93.7	50.0	100	93.7	87.5	95.8	87.2
書字率	3年2学期	65.3	38.8	75.5	34.7	42.9	65.3	24.5	73.5	34.5
	3年3学期	75.0	41.7	85.4	10.4	60.4	68.7	29.2	81.2	52.8

このように、

3年2学期(80字) 平均正答率 読字 69.3% 書字 34.5%

3年3学期(80字) " " 87.2% " 52.8%

という上昇ぶりが認められた。

1年の3学期からの漢字正答率を比較してみると、次のように、3年3学期

実験学校

	1年3学期 50字	2年1学期 50字	2年2学期 60字	2年3学期 110字	3年2学期 100字	3年3学期 100字
読字	60.0%	71.6%	70.5%	63.9%	73.9% (85.9)	83.6% (87.2)
書字	46.8	42.7	40.0	41.8	40.6 (57.2)	49.6 (52.8)



が、よみかきともに、最高になっていることがわかる。2年2学期以後は、テストのたびに、前回の上位の文字を除いて、新しく学年用の文字が加えられているから、実際の習得率は、この数字よりもさらに上回るものとみななければならない。( )内の数字は、それぞれ、そうした意味をもっている。

このことは、3年の中ごろから、作文を書く場合、一つ一つ漢字を聞いて、漢字をあてて書かないと気がすまないような児童が、中位クラスに多く出はじめてきたこと、この漢字を使ってものを書こうという、文字意識とも、関連がありそうである。ひらがな、かたかなの文字負担がようやくとれてきた(かたかなは、前に見たように、まだ十分に習得されたとはいえないが、現在の国語表記におけるかたかなの使用度からいって、それほど密接ではなくなっている。)この期の児童に、ようやく漢字という文字意識が強くはたらき始めた結果ではあるまいか。

3年までの漢字力が、漢字の学習につれて総体的に、発達上昇を示していることが、わかったが、中学年での文字力の問題には、学校での学習のほかに、だんだん盛んになってきている一般読書との関連があると思われるので、4年では、そうしたことを中心にして、漢字能力の発達の問題点発見に留意した。

4年1学期では、テスト問題を次のように構成してみた。テスト漢字50字。  
(一) 4年1学期中、しかもなるべく近いころに学習した10字。

数働駅緑植茶調係加公

(二) 学習された漢字に対して、読みもの等を通して、4年生で、常識的に知っていそうな文字、または、ちょうど選挙期にあたっており、ポスターその他で目にしそうな20字。

相談順序以上決定反対説明最初質問選挙投票

(三) 3年生の学年末に実施したテストの結果読み書き、特に実験・協力学校ともに書く成績の悪かった文字20字。

返事走流台通寒落待着波売者受旅住使岸苦球

その結果

(一)(二)(三)を総合した全体の平均正答率は、読み81.7%、書き44.4%で、3年までの上昇率に比べるとやや落ちている。しかし、(一)(二)(三)それぞれの正答率には

下表のように、かなりのひらきがある。

4年1学期 漢字 実験学校

(一)			(二)			(三)		
	読字 %	書字 %		読字 %	書字 %		読字 %	書字 %
茶	93.9	44.9	相	100	55.1	波	93.9	40.8
駅	100	63.3	談	100	63.3	岸	85.7	49.0
数	100	63.3	決	14.3	6.1	球	95.9	24.5
加	75.5	53.1	定	28.6	8.2	流	100	83.7
係	87.8	53.1	順	59.2	40.8	寒	100	36.7
調	83.7	28.6	序	32.7	0	着	91.8	38.8
働	79.6	36.7	反	95.9	40.8	返	73.5	44.9
植	95.9	61.2	対	98.0	24.5	事	89.8	63.3
緑	95.9	69.4	最	71.4	22.4	待	51.0	22.4
公	85.7	57.1	初	67.3	14.3	落	95.9	16.3
平均	89.8	53.1	説	93.9	69.4	売	87.8	36.7
			明	95.9	93.9	住	83.7	32.7
			質	91.8	49.0	台	81.6	32.7
			問	98.0	71.4	走	95.9	55.1
			選	14.3	2.0	苦	89.8	26.5
			挙	6.1	0	旅	93.9	16.3
			投	87.8	51.0	通	98.0	40.8
			票	73.5	46.9	者	95.9	30.6
			以	81.6	55.1	受	98.0	14.3
			上	79.6	53.1	使	93.9	34.7
			平均	69.5	38.4	平均	89.8	37.1
						総平均	81.7	44.4

(一)の平均正答率 よみ 89.8% かき 53.1%

(二)の平均正答率 よみ 69.5% かき 38.4%

(三)の平均正答率 よみ 89.8% かき 37.1%

(一)(三)の結果から、一度学習した文字の読みは、特殊の文字群を除いては、学習の時期が近いか遠いかの区別があまりみられず、一様に習得される。習得がかなり安定しているということがわかる。なお、それが文字の性質によって、教科書に提出される頻度が高ければ、いっそう完全習得になるわけである。それに対して、書字力の方は、低学年の段階でもみられたが、忘却度が高く、一

度の学習が、読みほど強くきいていない。きわめて不安定な状態であることが、文字意識がついてきているこの時期でもたしかめられた。

(二)の読みもの、ポスター等から自然に習得されると思った常識的な漢字は、予想外に低い結果であったが、ここでの漢字は、読みものといっても、子供たちが多く読んでいる童話、伝記、探検・冒険記、漫画等には、やや縁の遠い、むしろ、時局向きの新聞用字であることにあとで気づいた。また、児童の読書量の多くを占める漫画は、かながきが多いから、読書からの漢字の直接習得はそれほど期待されないようである。なお、このテスト実施のころはちょうど選挙時期にあたっていて、選挙、投票などの文字はポスターその他で目にとまるはずであるが、既習の投票がかなりのできばえであるのに対して、未習の選挙では、その読みでさえも、ごく優秀な児童2、3名しか正しく答ええなかった。選挙等は、児童の生活と直接の結びつきがないための無関心さによるものと思われる。同時にこれらの掲示物が、ことがらの内容を示す力はあっても、文字力として身につくほど、強く作用はしないということなどがわかった。

なお、もんだい(三)の前学期にあまりできのよくなかった文字20字についてだけのテスト結果を比較してみると、ここでも、文字によっては、多少の出入があるが、全体としてはわずかながら、正答率の上昇が認められる。

正答率(%) 実験学校

	読字			書字		
	3-2	3-3	4-1	3-2	3-3	4-1
波	20.4	91.7	93.9	2.0	14.6	40.8
岸	49.0	79.1	85.7	10.2	39.6	49.0
球	89.8	70.8	95.9	42.9	33.3	24.5
流	98.0	95.8	100	49.0	41.7	83.7
寒	—	93.7	100	—	39.6	36.7
着	83.7	89.6	91.8	12.2	43.7	38.8
返	—	72.9	73.5	—	37.5	44.9
事	—	75.0	89.8	—	43.7	63.3
待	—	39.6	51.0	—	27.1	22.4
落	98.0	93.7	95.9	34.7	20.8	16.3
壳	75.5	85.4	87.8	36.7	37.5	36.7

住	67.3	77.1	83.7	30.6	35.4	32.7
台	—	75.0	81.6	—	12.5	32.7
走	91.8	85.4	95.9	38.8	41.7	55.1
苦	71.4	79.1	89.8	10.2	22.9	26.5
旅	—	87.5	93.9	—	43.7	16.3
通	81.6	89.6	98.0	32.7	37.5	40.8
者	32.7	95.8	95.9	0	43.7	30.6
受	30.6	93.7	98.0	0	43.7	14.3
使	28.6	93.7	93.9	2.0	47.9	34.7
平均	65.6	83.2	89.8	21.6	35.4	37.1

なお、協力学校(6校)の結果では、平均正答率が、(一)≡総平均読み71.4%、書き45.7%で、実験学校よりも、読みにおいて劣り、書きにおいて、ややまさっている。これを、学校別、問題別に整理すると、次のようであって、正答

	実験学校 (T書)		N校 (T書)		C校 (T書)		G校 (N書)		H校 (C書)		K校 (G書)		協力学校 平均			
	読字	書字	読字	書字	読字	書字	読字	書字	読字	書字	読字	書字	読字	書字		
(一)	%	%	89.8	53.1	86.0	62.3	79.0	84.7	72.4	32.7	67.9	36.1	68.0	61.3	76.7	55.4
(二)	69.5	38.1	77.8	43.3	66.5	65.0	68.2	30.7	43.2	15.9	35.6	17.9	58.3	34.6		
(三)	89.8	37.1	84.5	37.9	85.9	70.3	88.0	39.0	61.2	32.4	76.7	55.4	79.3	47.0		
総平均	81.7	44.4	82.1	44.9	76.8	71.1	75.3	34.5	55.5	24.5	60.6	41.6	71.4	45.7		

\* 同一教科書使用のC校で、書字力が読字力を上回ったのは準正答の問題である。

の率に、多少の出入はあっても、実験学校でみられたと同様の傾向を示している。もんだい(一)に特に学校差のあるのは、使用教科書との関係であって、もんだい(一)が、実験学校を中心として作られたものであるから、その使用教科書での学習文字が選出されたためである。協力校のN・C校が実験校に近いのもそのためであろう。

中学年後期の段階では、文字力発達の問題発見のためのテストが主となったが、4年3学期では、中学年の最後なので、3、4年の間に学習した漢字から、従来のテストで、問題のあったもの、できの悪かったもの、また、問題になりそうに思われるもの等、50字

昭和希望反終勇結横喜族以種類港調加写真対散械芽親葉旅苦急  
 練習短説明家世界問題賛成果観察編集

を選んで、正しく読み書きができるかを見た。（もんだいの提出方法は、従来どおり）。

実験学校での結果は、

平均正答率 読字 94.7% 書字 42.0%

で、読字は、従来の80%台から、一躍、90%台に上昇しているが、書字の方はあまり伸びていない。

		実験学校	N校	H校	K校	C校	M校	A校	O校	協力学校平均
漢字	読字力	94.7%	82.4%	77.1%	90.3%	88.1%	83.6%	85.4%	69.7%	82.0
	書字力	42.0	52.9	47.8	80.0	—	64.0	—	40.2	57.2

協力学校は、O、H校を除いては、読字力もかなり上昇している。書字力の方は、実施しなかった学校が2校あり、テスト実施校ではかなりの差があるが、総体的には、従来どおり、実験学校より読字率に接近している。

実験学校の文字別の正答率一覧表によると、文字ごとの読字書字の正答率がわかるが、これらのうち、従来までに、テストされた文字についての発達状況を見ると、次のようである。

4年3学期 正答率(%)

漢字 実験学校

	読字	書字		読字	書字
芽	97.9	57.4	写	100	59.6
苦	100	46.8	真	97.9	46.8
機	97.9	70.2	終	100	74.5
械	97.9	17.0	希	95.7	17.8
散	91.5	19.1	望	95.7	17.0
急	97.9	59.6	昭	95.7	48.9
反	97.9	36.2	和	100	66.0
対	97.9	17.0	加	95.7	48.9
拾	95.7	6.4	調	97.9	53.2

港	97.9	14.9	問	95.7	76.6
種	93.6	36.2	題	95.7	55.3
類	100	22.5	開	97.9	48.9
練	100	83.0	賛	91.5	21.3
習	97.9	95.7	成	93.6	23.4
短	95.7	27.7	横	100	36.2
説	91.5	55.3	結	95.7	27.7
明	100	89.4	果	93.6	31.9
旅	97.5	38.3	勇	97.9	40.4
以	97.5	29.8	観	36.2	0
葉	100	57.4	察	38.3	0
家	100	68.1	残	93.6	27.7
族	95.7	4.3	編	97.9	2.1
喜	93.6	6.4	集	100	27.7
世	100	89.4	親	95.7	53.2
界	100	68.1			
深	97.9	23.4	平均	94.7	42.0

	4—3		4—2		4—1		3—3		3—2	
	よみ	かき	よみ	かき	よみ	かき	よみ	かき	よみ	かき
急	97.9	59.6					87.5	62.5	18.4	2.0
苦	100	46.8		26.1	89.8	26.5	79.1	22.9	71.4	10.2
旅	97.5	38.3	正誤判別 (8.7)	93.9	16.3	87.5	43.7			
葉	100	57.4					95.8	37.5	89.8	49.0
深	97.9	23.4		17.4			12.5	2.1		
親	95.7	53.2					91.7	64.6		
開	97.9	48.9					89.6	27.1	75.5	36.7
機	97.9	70.2		58.7						
散	91.5	19.1		13.0						
対	97.9	17.0			98.0	24.5				
拾	95.7	6.4					81.2	58.3	63.3	49.0
写	100	59.6								
真	97.9	46.8		17.4						
加	95.7	48.9			75.5	53.1				
調	97.9	53.2		10.9						
以	95.7	29.8		21.7	81.6	55.1				
族	95.7	4.3		8.7						
勇	97.9	40.4		4.3						
残										

反	97.9	36.2		95.9	40.8				
終	100	74.5				95.8	62.5	91.8	69.4
短	95.7	27.7				4.2	0	4.1	0
説	91.5	55.3		93.9	69.4				
明	100	89.4		95.9	93.9				
家	100	68.1							
世	100	89.4				79.1	79.1	89.8	89.8
界	100	68.1				79.1	62.5	89.8	85.7
集	100	27.7				(訓) 85.4	29.2	75.5	24.5

これによると、読みでは、たいてい新出の場合よりも、月次を重ねることによって、だんだん正答率が高くなり、習得がたしかになっていくが、書く方では教科書に提出され、学習した時は書字率が高まるが、その文字が、字形や字画が複雑だったり、その後の頻出度が低い場合は、また低下するという不安定な習得状態が低学年に引きつづいて、中学年にもあることがわかる。

〔漢字力テスト問題〕

かんじ よみ (3年2学期)

( ) のなかに よみかたを かなで かいて ください。

- |            |            |            |           |
|------------|------------|------------|-----------|
| 1 ( ) 食べる  | 12 ( ) 弟   | 23 ( ) 世界  | 34 ( ) 急ぐ |
| 2 ( ) 注意   | 13 ( ) 野球  | 24 ( ) 王様  | 35 ( ) 帰る |
| 3 ( ) 太い   | 14 ( ) 遊ぶ  | 25 ( ) 橋   | 36 ( ) 夜  |
| 4 ( ) 短い   | 15 ( ) 日曜日 | 26 ( ) 流れる | 37 ( ) 金魚 |
| 5 ( ) お客   | 16 ( ) 晴   | 27 ( ) 絵   | 38 ( ) 死ぬ |
| 6 ( ) 送る   | 17 ( ) 広い  | 28 ( ) 開く  | 39 ( ) 工場 |
| 7 ( ) 荷もつ  | 18 ( ) 庭   | 29 ( ) 違い  | 40 ( ) 行く |
| 8 ( ) 平気   | 19 ( ) 楽しい | 30 ( ) 波   | 41 ( ) 通る |
| 9 ( ) 運ぶ   | 20 ( ) 歌   | 31 ( ) 海岸  | 42 ( ) 国語 |
| 10 ( ) 病気  | 21 ( ) 買う  | 32 ( ) 日記  | 43 ( ) 三度 |
| 11 ( ) 苦しい | 22 ( ) 売る  | 33 ( ) 暗い  | 44 ( ) 答  |

( )  
45 着る  
( )  
46 役  
( )  
47 動物  
( )  
48 乗る  
( )  
49 船  
( )  
50 進む  
( )  
51 鳥  
( )  
52 地面  
( )  
53 葉  
( )  
54 落ちる  
( )<sup>しゃ</sup>  
55 発車  
( )  
56 終る  
( )<sup>しゃ</sup>  
57 汽車

( )  
58 新聞  
( )  
59 読む  
( )  
60 拾う  
( )  
61 使う  
( )  
62 妹  
( )  
63 受ける  
( )  
64 取る  
( )<sup>しん</sup>  
65 安心  
( )  
66 同じ  
( )  
67 住む  
( )  
68 者  
( )  
69 集まる  
( )<sup>にち</sup>  
70 毎日

( )  
71 三十分  
( )  
72 家  
( )  
73 合う  
( )  
74 七時  
( )  
75 馬  
( )  
76 早い  
( )  
77 半ぶん  
( )  
78 走る  
( )  
79 切る  
( )  
80 用じ  
( )  
81 多い  
( )  
82 黒い  
( )  
83 向く

( )  
84 雲  
( )  
85 鳥  
( )  
86 入れる  
( )  
87 玉  
( )  
88 近い  
( )  
89 所  
( )  
90 歩く  
( )  
91 来る  
( )  
92 知る  
( )  
93 考える

かんじ かき (3年2学期)

のなかに かんじを かいて ください。

1  <sup>た</sup>べすぎないように  <sup>ちゅうい</sup>する。 2  <sup>ふと</sup>くて  <sup>みじか</sup>いなわ。 3 お  <sup>きゃく</sup>さ

<sup>おく</sup>る。 4 おもい  <sup>に</sup>もつを  <sup>へい</sup>きで  <sup>はこ</sup>ぶ。 5  <sup>びょう</sup>きで  <sup>くる</sup>しむ。

6  <sup>おとうと</sup>と  <sup>やきゅう</sup>をして  <sup>あそ</sup>ぶ。 7 あすの <sup>にち</sup>日  <sup>よう</sup>日は  <sup>はれ</sup>でしょう。 8

<sup>ひろ</sup>い  <sup>にわ</sup>。 9  <sup>たの</sup>しい  <sup>うた</sup>。 10 しなものを  <sup>か</sup>う人がおおぜいいるのに、

<sup>う</sup>る人がひとりでいそがしそうだ。 11  <sup>せ</sup>  <sup>かい</sup>で いちばん わかい  <sup>おうさま</sup> 。

12  <sup>はし</sup>の下を  <sup>なが</sup>れている <sup>かわ</sup>川。 13  <sup>え</sup>の てんらん会を  <sup>ひら</sup>く。 14  <sup>とお</sup>く



の 方<sup>はう</sup>から  <sup>なみ</sup>が、おしよせてきて 海<sup>うみ</sup>  <sup>かん</sup>に うちあげる。 15 日<sup>にち</sup>  <sup>ぎ</sup>をつける。

16  <sup>くら</sup>い よみちを  <sup>いそ</sup>いで  <sup>かえ</sup>る。 17 き<sup>ぎ</sup>のうの  <sup>よる</sup>の さむきで  <sup>ぎん</sup>金  <sup>ぎょ</sup>が

<sup>し</sup>んだ。 18  <sup>じょう</sup>工  <sup>い</sup>に  <sup>とお</sup>く人が  <sup>と</sup>る。 19  <sup>こ</sup>函  <sup>ご</sup>のじかにに 三  <sup>ど</sup>も  <sup>こた</sup>え

<sup>(ば)</sup>た。 20 きものを  <sup>き</sup>る。 21  <sup>ひと</sup>人の  <sup>やく</sup>にたつ  <sup>どうぶつ</sup>。 22 わたくしたちの

<sup>の</sup>  <sup>ふね</sup>  <sup>すゝ</sup>が  <sup>し</sup>むにつれて  <sup>しま</sup>が  <sup>み</sup>見えてきた。 23  <sup>じめん</sup>  <sup>は</sup>に 木  <sup>は</sup>の  <sup>お</sup>

<sup>お</sup>ちる。 24  <sup>はっ</sup>車  <sup>おわ</sup>のベルが なり  <sup>き</sup>って、  <sup>き</sup>車  <sup>き</sup>が うごきました。

25  <sup>しんぶん</sup>  <sup>よ</sup>を  <sup>ひろ</sup>む。 26  <sup>ひろ</sup>どんぐりを  <sup>つか</sup>って、まゝごとあそびに  <sup>つか</sup>った。

27  <sup>ほん</sup>あの本は  <sup>いもうと</sup>  <sup>う</sup>  <sup>と</sup>が  <sup>あん</sup>け  <sup>しん</sup>りましたから  <sup>おな</sup>心して  <sup>じ</sup>ください。 28  <sup>おな</sup>

<sup>す</sup>町に  <sup>もの</sup>  <sup>あつ</sup>でいる  <sup>ま</sup>は、こちらに  <sup>まい</sup>  <sup>じ</sup>  <sup>にち</sup>七  <sup>じ</sup>四十

<sup>ぶん</sup>には  <sup>いえ</sup>  <sup>あ</sup>を  <sup>うま</sup>  <sup>はや</sup>  <sup>はし</sup>  <sup>は</sup>る。 30  <sup>うま</sup>  <sup>はや</sup>  <sup>はし</sup>  <sup>は</sup>る。 31  <sup>か</sup>

<sup>はん</sup>みを  <sup>ぶん</sup>  <sup>き</sup>に  <sup>き</sup>る。 32  <sup>よう</sup>おかあさんは  <sup>おお</sup>  <sup>くろ</sup>  <sup>くも</sup>  <sup>きた</sup>  <sup>が</sup>

<sup>ほう</sup>の方に  <sup>む</sup>  <sup>む</sup>かっ  <sup>とり</sup>  <sup>い</sup>て  <sup>い</sup>く。 34  <sup>なかに</sup>  <sup>を</sup>  <sup>い</sup>れる。 35

<sup>たま</sup>  <sup>ちか</sup>  <sup>ところ</sup>  <sup>ある</sup>  <sup>く</sup>  <sup>し</sup>  <sup>ら</sup>  <sup>ない</sup>

<sup>た</sup>  <sup>ば</sup>  <sup>こ</sup>。 36  <sup>い</sup>  <sup>だ</sup>  <sup>か</sup>  <sup>ら</sup>  <sup>か</sup>  <sup>ん</sup>  <sup>が</sup>  <sup>いて</sup>  <sup>る</sup>  <sup>で</sup>  <sup>し</sup>  <sup>ょう</sup>。 37  <sup>ら</sup>  <sup>ない</sup>

ことでも、人<sup>ひと</sup>に きく  <sup>かん</sup>  <sup>が</sup>  <sup>ま</sup>えに  <sup>え</sup>て  <sup>み</sup>ましよう。

かんじ よみ (3年3学期)

( ) の なかに よみかたを かなで かいて ください。

- |                 |             |             |             |
|-----------------|-------------|-------------|-------------|
| ( )<br>1 食べる    | ( )<br>3 太い | ( )<br>5 進む | ( )<br>7 船  |
| ( ) ( )<br>2 注意 | ( )<br>4 役  | ( )<br>6 短い | ( )<br>8 お客 |

9 ( ) ( ) 新聞  
 ( )  
 10 送る  
 ( )  
 11 集まる  
 ( ) しん  
 12 安心  
 ( ) しん  
 13 感心  
 ( )  
 14 拾う  
 ( ) しゃ  
 15 発車  
 ( )  
 16 遊ぶ  
 ( )  
 17 荷もつ  
 ( ) き  
 18 病気  
 ( ) き  
 19 平気  
 ( )  
 20 運ぶ  
 ( )  
 21 苦しい  
 ( )  
 22 弟  
 ( )  
 23 広い  
 ( ) ( )  
 24 野球  
 ( )  
 25 楽しい  
 ( )  
 26 庭  
 ( ) ( ) び  
 27 日曜日  
 ( )  
 28 歌  
 ( ) ( )  
 29 王様  
 ( )  
 30 晴

31 ( ) ( ) 世界  
 ( )  
 32 買う  
 ( )  
 33 橋  
 ( )  
 34 流れる  
 ( )  
 35 売る  
 ( )  
 36 絵  
 ( )  
 37 遠い  
 ( )  
 38 波  
 ( )  
 39 開く  
 ( ) ( )  
 40 日記  
 ( )  
 41 急ぐ  
 ( ) ( )  
 42 海岸  
 ( ) ( )  
 43 金魚  
 ( )  
 44 帰る  
 ( ) ( )  
 45 工場  
 ( )  
 46 死ぬ  
 ( )  
 47 鳥  
 ( )  
 48 勝つ  
 ( ) ( )  
 49 三度  
 ( )  
 50 駅  
 ( ) ( )  
 51 国語  
 ( )  
 52 通る

( )  
 53 答  
 ( )  
 54 着る  
 ( ) ( )  
 55 動物  
 ( )  
 56 乗る  
 ( ) ( )  
 57 地面  
 ( )  
 58 追う  
 ( )  
 59 終る  
 ( )  
 60 葉  
 ( )  
 61 使う  
 ( )  
 62 妹  
 ( )  
 63 落ちる  
 ( )  
 64 歩く  
 ( )  
 65 受ける  
 ( )  
 66 同じ  
 ( )  
 67 者  
 ( )  
 68 取る  
 ( )  
 69 級  
 ( )  
 70 住む  
 ( )  
 71 店  
 ( ) ( )  
 72 返事  
 ( )  
 73 合う  
 ( )  
 74 台

( )  
 75 暗い  
 ( )  
 76 走る  
 ( )  
 77 親  
 ( )  
 78 考える  
 ( )  
 79 深い  
 ( )  
 80 待つ  
 ( )  
 81 肉  
 ( )  
 82 助ける  
 ( )  
 83 向く  
 ( )  
 84 切る  
 ( )  
 85 負ける  
 ( )  
 86 寒い  
 ( )  
 87 投げる  
 ( ) ( )  
 88 主人  
 ( )  
 89 形  
 ( )  
 90 近い  
 ( )  
 91 知る  
 ( )  
 92 旅  
 ( )  
 93 所

□の なかに かんじを かいて ください。

- 1 あすの <sup>よう</sup>にち□ <sup>はれ</sup>びは□ <sup>おとうと</sup>でし<sup>ょう</sup>う。 2 □ <sup>と</sup>□□ <sup>あそ</sup>をして□ <sup>ぶ</sup>。
- 3 □ <sup>た</sup>べすぎないように□□ <sup>ちゅうい</sup>する。 4 お□ <sup>きゃく</sup>さまを□ <sup>えき</sup>まで□ <sup>おく</sup>る。
- 5 □ <sup>ふと</sup>くて□ <sup>みじか</sup>いなわ。 6 □ <sup>やく</sup>人の□ <sup>どうぶつ</sup>にたつ□□。 7 わたくしたちの□ <sup>の</sup>
- <sup>ふね</sup>が□ <sup>すす</sup>むにつれて□ <sup>しま</sup>が□ <sup>み</sup>えてきた。 8 □ <sup>れつ</sup>をつくって□ <sup>ま</sup>つ。 9 □ <sup>う</sup>
- <sup>あつま</sup>り<sup>じょう</sup>に□ <sup>る</sup>。 10 □□ <sup>しんぶん</sup>をよむ。 11 □ <sup>か</sup>り<sup>り</sup>に□ <sup>あ</sup>ったので、□ <sup>あ</sup>
- <sup>ひろ</sup>んだ。 12 □ <sup>かん</sup>った おかね <sup>をとどけた</sup>□ <sup>しん</sup>心な人。 13 □ <sup>きしや</sup>汽車の □ <sup>じかん</sup>に
- <sup>あ</sup>まに□ <sup>う</sup>。 14 □ <sup>はつ</sup>車の □ <sup>ベル</sup>が □ <sup>お</sup>なり□ <sup>わ</sup>る。 15 □ <sup>おも</sup>い□ <sup>もつ</sup>を□ <sup>へい</sup>気
- <sup>はこ</sup>で□ <sup>ぶ</sup>。 16 □ <sup>びよう</sup>気で□ <sup>くる</sup>しむ。 17 □ <sup>か</sup>川に□ <sup>ちた</sup>人 <sup>を</sup>□ <sup>たす</sup>ける。 18 □ <sup>せ</sup>
- <sup>かい</sup>の □ <sup>あちこち</sup>に□ <sup>たび</sup>をして □ <sup>みたい</sup>。 19 □ <sup>たの</sup>しい□ <sup>うた</sup>。 20 □□ <sup>おうさま</sup>と
- <sup>おひめ</sup>さまの □ <sup>はなし</sup>。 21 □ <sup>おつか</sup>いで、□ <sup>にく</sup>を□ <sup>か</sup>い<sup>に</sup>行<sup>った</sup>。 22 □ <sup>あ</sup>の□ <sup>みせ</sup>の
- <sup>しゅ</sup>人は、□ <sup>いつも</sup> □ <sup>にこにこ</sup>しながら、□ <sup>う</sup>っています。 23 □ <sup>え</sup>の□ <sup>てんらん</sup>会を
- <sup>ひら</sup>く。 24 □ <sup>はし</sup>を □ <sup>わた</sup>る。 25 □ <sup>は</sup>ささの□ <sup>の</sup> □ <sup>ふね</sup>を □ <sup>なが</sup>川に□ <sup>して</sup> □ <sup>あそ</sup>ぶ。
- 26 □ <sup>ふか</sup>い □ <sup>か</sup>川。 27 □ <sup>ぼく</sup>の □ <sup>う</sup>ちは、□ <sup>ちか</sup>学校に□ <sup>い</sup>が、□ <sup>まさ</sup>おくんの □ <sup>う</sup>ちは、
- <sup>とお</sup>ところ □ <sup>い</sup>□ <sup>に</sup> □ <sup>ある</sup>。 28 □ <sup>うみ</sup>□ <sup>が</sup> □ <sup>が</sup> □ <sup>よ</sup>せて □ <sup>くる</sup>。 29 □ <sup>じょう</sup>工□ <sup>に</sup> □ <sup>行く</sup>
- <sup>ひと</sup>が□ <sup>る</sup>。 30 □ <sup>きれ</sup>いな □ <sup>き</sup>ものを□ <sup>る</sup>。 31 □ <sup>く</sup> □ <sup>なら</sup>ないうちに□ <sup>い</sup>そ
- <sup>かえ</sup>りま<sup>しょう</sup>。 32 □ <sup>に</sup>日□ <sup>き</sup>をつける。 33 □ <sup>おや</sup>と□ <sup>こ</sup>。 34 □ <sup>がく</sup>学□ <sup>ぶん</sup>交<sup>ま</sup>車。

35 かけっこで いっしんに <sup>はし</sup>  ったが、 <sup>ま</sup>  けて しまった。 36 <sup>こ</sup> 国  の <sup>じかん</sup> 時間。

37 あまり <sup>さむ</sup>  かったので、 <sup>ぎん</sup> 金 <sup>し</sup>  が  んだ。 38 もんだいと <sup>こたえ</sup> 。 39 たずね

られたら はっきりと <sup>へんじ</sup>   を しましょう。 40 まえの <sup>くるま</sup> 車を <sup>お</sup>  いこす。

41 まるい <sup>かたち</sup>  に紙を <sup>き</sup>  る。 42 <sup>おな</sup>  じ <sup>まち</sup> 町に <sup>す</sup>  む。 43 あわてて <sup>さん</sup> 三  も

ころんだ。 44 かくれんぼ <sup>もの</sup> する  よって おいで。 45 しなものを <sup>う</sup>  <sup>と</sup>

って <sup>つか</sup>  ってください。 46 じどう車 <sup>しや</sup> が <sup>だい</sup> 二  とまっている。 47 <sup>いもうと</sup>  が

やっと <sup>ある</sup>  けるようになった。 48 <sup>し</sup>  らない ことでも、 <sup>ひと</sup> 人に <sup>まへ</sup> きく まえに

<sup>かんが</sup>  えて みましょう。 49 あおい <sup>そら</sup> 空に <sup>む</sup>  かって ボールを <sup>な</sup>  げてみる。

50 たかい <sup>き</sup> 木から <sup>ち</sup> 地  に とびおりた。 51 <sup>ひろ</sup>  <sup>にわ</sup> 。

かんじ よみ (4年1学期)

( ) のなかに よみかたを かなで かいて ください。

(1) 1 数。 2 働く。 3 駅。 4 緑。 5 植 林。 6 茶。 7 調べる。 8 係。

9 加える。 10 公 平。

(2) 1 相 談。 2 順 序。 3 以 上。 4 決 定。 5 反 対。 6 説 明。

7 最 初。 8 質 問。 9 選 挙。 10 投 票。

(3) 1 返 事。 2 走る。 3 流れる。 4 台。 5 通る。 6 寒い。 7 落ちる。

8 待つ。 9 着る。 10 波。 11 売る。 12 者。 13 受ける。 14 旅。 15 住む。

16 使う。 17 岸。 18 苦しい。 19 野 球。

かんじ かき (4年1学期)

□のなかに かんじを かいて ください。

(1) 1 お<sup>ちゃ</sup>□<sup>を</sup>の<sup>を</sup>む。 2 汽<sup>き</sup>車<sup>しや</sup>が□<sup>え</sup>き<sup>に</sup>つ<sup>い</sup>た。 3 □<sup>か</sup>ず<sup>を</sup>□<sup>く</sup>わ<sup>を</sup>え<sup>ら</sup>る。 4 か<sup>り</sup>

たい<sup>ほん</sup>本<sup>が</sup>あ<sup>る</sup>か、□<sup>か</sup>か<sup>り</sup>の<sup>ひと</sup>人<sup>に</sup>□<sup>し</sup>ら<sup>べ</sup>て<sup>も</sup>ら<sup>う</sup>。 5 い<sup>っ</sup>し<sup>ょう</sup>けん<sup>めい</sup>に□<sup>は</sup>た<sup>ら</sup>

く。 6 木<sup>を</sup>□<sup>う</sup>え<sup>て</sup>、□<sup>み</sup>ど<sup>り</sup>い<sup>ろ</sup>の<sup>やま</sup>山<sup>に</sup>す<sup>る</sup>。 7 □<sup>こ</sup>う<sup>へい</sup>平<sup>な</sup>や<sup>り</sup>か<sup>た</sup>。

(2) 1 よ<sup>く</sup>□<sup>そ</sup>う<sup>だ</sup>ん<sup>し</sup>て<sup>か</sup>ら、□<sup>け</sup>っ<sup>てい</sup>□<sup>し</sup>る。 2 □<sup>じ</sup>ゅ<sup>ん</sup>じ<sup>ょ</sup>よ<sup>く</sup>な<sup>ら</sup>ぶ。 3 こ

の<sup>い</sup>けん<sup>に</sup>□<sup>は</sup>ん<sup>たい</sup>□<sup>の</sup>人<sup>は</sup>□<sup>て</sup>手<sup>を</sup>あ<sup>げ</sup>て<sup>く</sup>だ<sup>さ</sup>い。 4 □<sup>さい</sup>し<sup>ょ</sup>□<sup>か</sup>ら<sup>う</sup>ま<sup>く</sup>で

き<sup>た</sup>。 5 □<sup>せ</sup>つ<sup>めい</sup>□<sup>を</sup>き<sup>い</sup>て、わ<sup>か</sup>ら<sup>な</sup>か<sup>っ</sup>た<sup>ら</sup>□<sup>し</sup>つ<sup>も</sup>ん<sup>し</sup>て<sup>く</sup>だ<sup>さ</sup>い。

6 □<sup>せ</sup>ん<sup>き</sup>ょ<sup>に</sup>は、よ<sup>い</sup>人<sup>を</sup>え<sup>ら</sup>ん<sup>で</sup>□<sup>と</sup>う<sup>ひ</sup>ょ<sup>う</sup>し<sup>よ</sup>う。 7 三<sup>さん</sup>百<sup>びやく</sup>円<sup>えん</sup>□<sup>い</sup>じ<sup>ょう</sup>

か<sup>う</sup>と、ふ<sup>く</sup>び<sup>き</sup>けん<sup>が</sup>つ<sup>く</sup>。

(3) 1 □<sup>な</sup>み<sup>が</sup>□<sup>き</sup>し<sup>に</sup>よ<sup>せ</sup>て<sup>い</sup>る。 2 野<sup>の</sup>□<sup>き</sup>ゅう<sup>を</sup>し<sup>て</sup>あ<sup>そ</sup>ぶ。 3 川<sup>が</sup>□<sup>な</sup>が<sup>れ</sup>る。

4 □<sup>さ</sup>む<sup>い</sup>ので<sup>う</sup>わ<sup>ぎ</sup>を□<sup>き</sup>る。 5 て<sup>が</sup>み<sup>の</sup>□<sup>へ</sup>ん<sup>じ</sup>□<sup>が</sup>く<sup>る</sup>の<sup>を</sup>□<sup>ま</sup>つ。

6 木<sup>か</sup>ら□<sup>お</sup>ち<sup>る</sup>。 7 お<sup>か</sup>し<sup>を</sup>□<sup>う</sup>る<sup>み</sup>せ。 8 む<sup>か</sup>し<sup>か</sup>ら<sup>こ</sup>の<sup>まち</sup>町<sup>に</sup>□<sup>す</sup>ん

で<sup>い</sup>る。 9 う<sup>ん</sup>ど<sup>う</sup>ば<sup>の</sup>ご<sup>う</sup>れ<sup>い</sup>□<sup>だい</sup>に<sup>あ</sup>が<sup>っ</sup>た。 10 □<sup>は</sup>し<sup>っ</sup>た<sup>の</sup>で、い<sup>き</sup>

が□<sup>く</sup>る<sup>し</sup>い。 11 と<sup>お</sup>い<sup>と</sup>ころ<sup>に</sup>□<sup>た</sup>び<sup>を</sup>し<sup>て</sup>み<sup>た</sup>い。 12 こ<sup>の</sup>み<sup>ち</sup>を□<sup>と</sup>お<sup>る</sup>人<sup>。</sup>

13 か<sup>く</sup>れ<sup>ん</sup>ぼ<sup>す</sup>る□<sup>も</sup>の<sup>よ</sup>っ<sup>て</sup>お<sup>い</sup>で。 14 て<sup>が</sup>み<sup>を</sup>□<sup>う</sup>け<sup>と</sup>る。 15 こ<sup>の</sup>き<sup>か</sup>

い<sup>を</sup>□<sup>つか</sup>う<sup>人</sup>は<sup>ち</sup>ゅ<sup>う</sup>い<sup>し</sup>て<sup>く</sup>だ<sup>さ</sup>い。

かんじ よみ (4年3学期)

( ) の なかに よみかたを かなで かいて ください。

なお、つぎのように、ちがう よみかたで ならった 人は、下の 方にその よみかたを かいて おいて ください。

(例) <sup>(しん)</sup> <sup>(ねん)</sup>  
新 年  
あたらしい とし

1 草の芽。 2 苦しい。 3 機 械。 4 散る。 5 急ぐ。 6 反 对。 7 拾う。

8 写 真。 9 終る。 10 希 望。 11 昭 和。 12 加える。 13 調べる。 14 港。

15 種 類。 16 練 習。 17 短い。 18 説 明。 19 旅 行。 20 以 上 21 葉。

22 家 族。 23 喜ぶ。 24 世 界。 25 深い。 26 問 題。 27 開く。 28 賛 成。

29 横。 30 結 果。 31 勇ましい。 32 観 察。 33 残る。 34 編 集。 35 親 切

### かんじ かき (4年3学期)

□ の なかに かんじを かいて ください。

1 <sup>ほん</sup>本を□く。 2 <sup>もんだい</sup>□□の□□<sup>せつめい</sup>をする。 3 <sup>みじか</sup>□<sup>い</sup>いお話。 4 <sup>くま</sup>草の

□<sup>め</sup>がでる。 5 □□<sup>せかい</sup>で いちばん <sup>つよ</sup>強い <sup>せんしゆ</sup>選手。 6 □□<sup>しょうわ</sup>三十二年。

7 <sup>かい</sup>会が□る。 8 木の□が□る。 9 □<sup>ふか</sup>い川。 10 ぼくは、きみの

いけんに□□<sup>さんせい</sup>だ、わたくしは□□<sup>ほんたい</sup>です。 11 □<sup>いそ</sup>いで帰る。 12 二に三を

□<sup>くわ</sup>える。 13 □□<sup>きかい</sup>のまわるおと。 14 うたの□□<sup>れんしゅう</sup>があるので、おそく

まで学校に□<sup>この</sup>る。 15 □□<sup>しん</sup>切な人。 16 学級新聞を□□<sup>へんしゅう</sup>する。 17 □<sup>しゃ</sup>

□<sup>しん</sup>をとる。 18 おたまじゃくしが 大きくなるのを□□<sup>かんざつ</sup>した。 19 これ□<sup>い</sup>

上<sup>じょう</sup>のると ボートがしずむ。 20 大きな□□<sup>きぼう</sup>をもつ。 21 □<sup>みなと</sup>に ふね

がつく。 22 □<sup>よこ</sup>をむく。 23 うちの□□<sup>かぞく</sup>は おおぜいだ。 24 □<sup>いさま</sup>しい

- はなし 話をきくのを  よろこぶ。 25 はしったので、いきが  くるしい。 26 どんぐりを  
 ひろ  う。 27 さかなにも いろいろの   しやるいがある。 28 うつくしいけしきの  
 ところ  りよ  行してみたい。 29 それでよいか もう一ど  しらべてごらんなさい。  
 30 はなし   けっか   話したいの   こんどの会に出る人がきまった。

## 2. 具体的考案

全体的考察で、読字・書字力の全体の発達状況を傾向的にみてきたが、それらを整理してさらに、具体的状況についてみることにしよう。

### (1) 3年のテスト結果

3年の漢字力テスト結果を整理すると次のようになる。

3年2学期 漢字100字 実験学校(49人)

	読字			書字		
平均正答率	73.9%			40.6%		
S. D	16.7			13.0		
全部できたもの	男 1人	女 0人	計 1人	男 0人	女 0人	計 0人
90字以上できたもの	3人	6人	9人	最高76字 1人	75字 1人	
誤答の最高	28字 1人	24字 1人		38字 1人	32字 1人	
準正答の最高	7字 2人	14字 1人		1字 9人	1字 12人	
無答の最高	42字 1人	55字 1人		73字 1人	65字 2人	
おぼえやすい字  よみ (学級で40人(81.5%) 以上のものが読めた) 字	曜夜汽家流記行 落毎時黒食歌弟 新早半船開場答 地面終読馬走用 多野球世界業分			分時世汽界家弟 全面新考所来入		
かき (学級で35人(71.5%) 以上のものが書けた) 字	鳥所考橋入広楽 妹庭話着雲暗帰 通切歩					

<p>おぼえにくい字</p> <p>よみ (学級で30人(61.2%) 以下のものしか読め なかつた字)</p> <p>かき (学級で20人(40.8%) 以下のものしか書け なかつた字)</p>	<p>短送波荷注度使 受者急遊客乗運 様意王発安向太 病動島同</p>	<p>者注短客送荷病 乘使波急度遊魚 買安苦遠岸死同 着運発語進躍集 知島歩船取馬葉 橋住遠通合向玉 落毎売開投走平 庭物</p>
<p>準正答の多かつた字</p>	<p>動太岸米魚広遠 知</p>	<p>毎</p>

3年3学期 漢字100字 実験学校(48人)

	読字			書字		
<p>平均正答率</p>	<p>83.6% 学級平均 (83.6字)</p>			<p>49.6% 学級平均 (49.6字)</p>		
<p>S. D</p>	<p>13.3</p>			<p>21.8</p>		
<p>全部できたもの</p>	<p>男 1人</p>	<p>女 0人</p>	<p>計 1人</p>	<p>男 0人</p>	<p>女 0人</p>	<p>計 0人</p>
<p>90字以上できたもの</p>	<p>7人</p>	<p>15人</p>	<p>22人</p>	<p>最高91字 1人</p>	<p>82字 1人</p>	
<p>誤答の最高</p>	<p>21字 1人</p>	<p>29字 1人</p>		<p>37字 1人</p>	<p>46字 1人</p>	
<p>準正答の最高</p>	<p>7字 1人</p>	<p>6字 1人</p>		<p>0</p>	<p>0</p>	
<p>無答の最高</p>	<p>34字 1人</p>	<p>26字 1人</p>		<p>59字 1人</p>	<p>56字 1人</p>	
<p>おぼえやすい字</p> <p>よみ (学級で39人(81.2%) 以上のものが読めた 字)</p> <p>かき (学級で35人(72.9%) 以上のものが書けた 字)</p>	<p>食新聞感庭曜様 橋場死切船客遊 荷歌王記島語流 婦動物乗面終葉 者店所絵太楽使 落受考寒近平弟 買波答妹取親投 開通着遠急度合 知旅晴売走助形 主</p>			<p>王太感考物所船 弟記新世様魚死 楽帰暗客聞遊絵 島主</p>		
<p>おぼえにくい字</p> <p>よみ (学級で30人(62.5%) 以下のものしか読め なかつた字)</p>	<p>短送深負勝待駅 向肉追注級</p>			<p>短勝送深負注病 駅肉向台追波落 苦開同待知集場</p>		



かき (学級で19人(39.6%) 以下のものしか書け なかった字)		歩 選 球 躍 買 住 売 通 葉 返 進 橋 字 岸 寒
準正答の多かった字	魚 向 遠	

3年2学期と3学期の整理表をみると、全体的考察でみられた発達の状態が具体的に裏づけられていることがわかる。

よみでは、全部できたものは、両テストとも1人であるが、90字以上の正答者が、9人から22人という上昇ぶりであり、誤答・無答・準正答の数は反対に順次に減っていることがわかる。

また、(1)誤答、無答などの最高反応者は、同一人が共通に誤っているか、もしくは、ある特定の下位者の群れによって占められており、こうしたグループも徐々に発達を示すとしても、きわめて上昇率が緩慢であるから、全体の発達率を抑制している場合があること、(2)おぼえやすい字を、80%ほどの者が読める字として整理してみると、2学期と3学期の間では、かなり文字別にも発達が見られるが、60%以下のものが読めない字を読みにくい字とした場合には、その逆の現象がみられ、読みやすい字、読みにくい字はそれぞれ、共通性をもっていることなどが目立つ。書字の場合にも、読みと同じ傾向がみられ、書きやすい字と書きにくい字の関係も、同様の発達の関係がみられる。

## (2) 文字の正否の判断力と再生力

4年1学期のテストで、読字力の方は、学習した時期が、比較的近いころのものでも、昔、学習したものでも、一度学習すれば、かなりまで、それが身につくことがわかったが、書字力になると、昔、学習し、その時によく書けなかったものは、やはりよく書けない。あまり、毎日の学習に縁のない文字は、こうして、書く方からだんだん脱落して行くものと思われる。また、3年の漢字書字力でみられたおびただしい誤答の実態などとにらみ合わせて、この段階での書字能力の問題発見のために、4年2学期では次のようなテストを試みてみた。

### 漢字の書字能力を見るテスト

書かれている漢字の正否を弁別して、それを正しく書くことができるかどうか

かをみる。従来のテストの誤答にみられた(1)字画の過不足からくるもの、(2)字形の類似からくるもの(3)意味の連関からくるもの、(4)同音からくるものを取りあげて問題を作った。テスト文字は30字、このうち13字は、4年1学期末テストで書字力の非常に悪かったもの、他は、4年2学期末テストまでに一応学習するはずのものである。

(一) 字画の過不足からくるもの(5字) ( )内が正しい字。

球(球) 落(落) 受(受) 序(序) 決(決)

(二) 字形の類似からくるもの(10字)

送(返) 待(特) 注(住) 動(働) 便(使) 討(計)  
置(真) 似(以) 旅(族) 浅(残)

(三) 意味の連関からくるもの(11字)

熱(温) 数(調) 強(弱) 寒(冷) 買(売) 吹(散)  
流(深) 貸(借) 元(勇) 病(苦) 頭(顔)

(四) 同音からくるもの(4字)

法争(放送) 汽間車(機関)

#### 漢字テスト

次の文で、まちがっている漢字の右よこに――を ひき、下の□の中に正しい字を書いてください。(原文たてがき)

あしたは、たのしい 日用日だ。	曜
例 みんなで ラジオ休そうを する。	休
もう じき お小学が くる。	正 月

1 てがみの 送事を だす。□

2 ともだちが あそびに くるのを 待つ。□

- 3 わたくしは、この町に注いでいる。□
- 4 いっしょうけんめいに動く。□
- 5 やおやさんまで、お便りに行く。□
- 6 時討が9時をうった。□
- 7 10から3ひくと7浅る。□
- 8 みんなで、きねんの写置をとった。□
- 9 野球をしてあそぶ。□
- 10 ボールが川に落ちた。□
- 11 てがみを受けとる。□
- 12 順序よくならぶ。□
- 13 これ似上のと、ふねがしずむ。□
- 14 めずらしいさかなを見に、水旅館に行きました。□
- 15 そらがくもってきました。えんそくに行くのかどうかはやく決定してください。□
- 16 きょうの熱度は、30度もあった。□
- 17 ただしく書けたかどうか、もう一度教べてみよう。□
- 18 ひつじはとらにくらべると、強い動物だ。□
- 19 寒いかぜがふいてきた。□
- 20 おかしをやるみせ。□
- 21 木の葉が吹る。□
- 22 流い川。□
- 23 本を貸りる。□
- 24 元気をだしてがんばる。□

25 病<sup>くさ</sup>しいのを がまんする。□

26 頭<sup>かぶ</sup>を あらう。□

27 ラジオの 法<sup>ほう</sup>争<sup>そう</sup>ばんぐみ。□□

28 でんき<sup>でんき</sup>汽<sup>か</sup>間<sup>かん</sup>車<sup>しゃ</sup>。□□

その結果、実験学校では、

文字の誤りを認識できたもの 86.5%

正しい文字を書き得たもの 32.9%

という反応を示した。この数字は、従来の学期ごとのテストでの正答率に接近している。そして、文字の正否の弁別をしえたもののうち、さらに、それを正しく再生しうるものは、38.0%という割合であることがわかった。

協力学校6校の結果は、学校によって、非常に差があるが、全体として、文字の正否を弁別しうるもの74.4%、正しく書けたもの41.6%、弁別して正しく書ける割合54.9%というようになっている。

学校		学校							協力学校 総計
		実験 学校	N校	H校	K校	G校	C校	O校	
漢 字	正しく線の引けたもの	86.5%	68.1%	54.3%	91.7%	73.5%	90.8%	67.7%	74.4%
	正しく書けたもの	32.9	40.6	26.0	45.2	48.5	68.3	21.2	41.6
	正しく線の引けた中で正しく書いたもの	38.0	59.7	47.9	49.3	66.0	75.2	31.4	54.9

この実験学校と協力学校との、文字の正否の判別力と再生力との関係は、従来の漢字力テストで、実験学校が、読字力ではいつも上位にありながら、書字力では中位以下ということが多かったのと連関があると考えられる。これらの読字、書字力の問題は後にふれることにして、さらにこれらの判別力と再生力が、もんだいの四群の上では、どのように現われているかを考察してみよう。

実験学校 (46人)				協力学校 6校 (256人)		
弁別と再生文字	正しく線の引けたもの	正しく書いたもの	正しく線を引いたもの の中正しく書いたもの	正しく線の引けたもの	正しく書いたもの	正しく線を引き、正しく書いたもの
球→球	97.8%	32.6%	33.3%	89.5%	70.3%	74.7%
落→落	95.7	54.3	56.8	89.5	57.0	60.7
受→受	87.0	15.2	17.5	78.1	34.8	43.5
序→序	89.1	8.7	9.8	74.6	49.6	63.4
決→決	63.0	45.7	72.4	67.2	42.6	60.5
平均	86.5	31.3	38.0	69.7	50.9	60.9
送→返	84.8	54.3	64.1	82.4	53.9	64.0
特→待	84.8	34.8	41.0	85.2	35.2	40.4
注→住	91.3	60.9	66.7	80.1	53.1	64.4
動→働	84.8	60.9	71.8	87.2	67.2	74.7
便→使	91.3	23.9	26.2	84.0	61.3	69.8
討→計	58.7	43.5	74.1	78.5	73.0	86.6
浅→残	93.5	8.7	9.3	69.1	22.7	32.8
置→真	87.0	17.4	20.0	85.2	41.8	47.7
似→以	67.4	21.7	32.3	75.4	45.3	58.0
旅→族	60.9	8.7	14.3	56.6	11.3	20.0
平均	80.5	33.5	42.0	78.4	46.5	57.3
熱→温	100	52.2	52.2	86.7	40.2	45.9
数→調	76.1	10.9	14.3	66.4	22.7	33.5
強→弱	100	70.0	69.6	87.1	54.7	59.6
寒→冷	97.8	19.6	20.0	78.9	34.4	43.1
買→売	93.5	54.3	58.1	81.3	53.5	63.0
吹→散	89.1	13.0	14.6	75.8	21.9	27.8
流→深	97.8	17.4	17.8	76.6	24.6	31.1
貸→借	84.8	10.9	12.8	74.2	31.3	41.1
元→勇	91.3	4.3	4.8	69.1	25.8	36.7
病→苦	95.7	26.1	27.3	72.7	41.0	55.9
頭→顔	82.6	54.3	65.8	85.5	67.6	76.3
平均	91.7	30.3	32.5	77.7	41.8	49.5
法→放	93.5	28.3	30.2	83.2	47.7	54.9
争→送	93.5	47.8	51.2	82.4	60.2	68.7
汽→機	78.3	58.7	75.0	64.8	24.2	37.3
間→関	84.8	28.3	33.3	71.5	24.6	33.9

平均	87.5	40.8	47.4	77.7	39.2	49.9
総平均	86.5	32.9	38.0	74.4	41.6	54.9

まず正否の判別力であるが、実験学校では協力学校に比べて、いずれの群もかなり高い。そしてそれらの中でも意味の関連による誤りに対して、いちばん強く表われている。協力学校では、極めてわずかの差で類似の字形に劣るが、強く作用していることは実験学校と同じである。これは中学年の段階の読みの誤答傾向で、意味の近似のものが、低学年の時よりも減少していることと関連がありそうであり、同時に、中学年における読字力の発達、その習得力によるものと思われる。意味の連関について、同音異字に対する判別度が高い。作文などで、低学年には、多くみられた同音のあて字が、だんだん少なくなってきているのと関連があろうが、他のテストの場合では、まだこの誤答傾向はかなりみられた。今回のテストでは、問題数が少ないためでもあろう。点画の過不足と類似字形とでは、点画の過不足の方に多く判別できたが、協力学校では、逆になっている。両群とも、字形が中心になっていることに変わりはないが、書字力の誤答傾向では、点画の過不足、文字としての体をなさない誤りが、一番多かった実験学校としては、ややおかしい。しかし、一方、読字力では、他の学校より優位を見せた実験学校であったから、字形の点画の過不足を見逃さずに判別できるのだとも言えよう。しかし正しく書くという段になると、判別できたわりには書けていない。総じて、実験学校では、正否の判別は非常によくできていながら、正しく再生する力との差が大きく、その40%近くのものしか再生しえない。協力学校では、両者の差がずっと接近して、50%以上のものが正しく再生しうるのもあって、書字力が真に身につけていることを物語っている。そしてこれらのことは、従来テスト結果、読字力・書字力の正答率の割合と一致しているので、全体的にみた場合、従来テスト結果が、相当確実にそれぞれの文字力を現わしていると見ることができる。

実験学校におけるこの読字力と書字力のアンバランスの原因はどこにあるであろうか。

### (3) 読字力と書字力との関係

漢字の読字力と書字力との関係は、最初、読める字は大体書けるという、両者接近した状態で始まったが、低学年の終りごろから、その関係が開きはじめていることは、すでにみてきたとおりである。この漢字力対書字力の関係は中学年になると、下表にみられるように、テスト問題の文字提出のしかたによって多少の出入はあるが、いっそう開いてくる。

読字率と書字率との比

		1年	2年	2年	2年	3年	3年	4年	4年
		3学期 (50字)	1学期 (50字)	2学期 (60字)	3学期 (110字)	2学期 (100字)	3学期 (100字)	1学期 (50字)	3学期 (50字)
実験学校	よみ	61.4%	71.6%	70.5%	63.5%	73.9%	83.6%	81.7%	94.7%
	かき	48.6%	42.7%	40.0%	42.0%	40.6%	49.6%	44.4%	42.0%
	書字対読字率	79.2%	59.6%	56.7%	66.1%	54.9%	59.3%	54.3%	44.4%
協力学校 7校 5校	よみ	72.9%	69.0%	79.0%	75.8%	71.8%	73.2%	67.5%	82.0%
	かき	66.5%	62.0%	65.0%	53.7%	43.5%	51.0%	40.3%	57.2%
	書字対読字率	91.2%	89.9%	82.3%	70.8%	60.6%	69.7%	59.7%	69.8%

実験学校では最初の80%近くが40%台、書字能力の高い協力学校でも、60%台という、割合になっている。

実験学校では、すでに今までにもふれたが、両者の差がことにはなほだしい。書字力が実験学校に比べて高い協力学校の読字力を、この限りにおいて一応自然な読字力とすれば、実験学校の読字力は、何かの原因によって、特別に発達しているものと思われる。使用教科書の差によるということも考えられるが、同種の教科書を使用している他の二校に比べても、この読字書字の関係は、ことさら際立っている。もし使用教科書によるとすれば、書字力の方が、学習効果のみられるものであるから、両者の関係はもっと接近するはずである。原因としては、書字力の学習方法、練習の強化、特別指導などが考え合わされる。

	実験学校			N校			H校			協力学校 (総計)		
	正しく 線をひく	正しく かく	正しく 線をひく 正しく かく	正しく 線をひく	正しく かく	正しく 線をひく 正しく かく	正しく 線をひく	正しく かく	正しく 線をひく 正しく かく	正しく 線をひく	正しく かく	正しく 線をひく 正しく かく
(一)	86.5%	31.3%	38.0%	72.6%	41.4%	57.1%	60.7%	44.0%	61.5%	69.7%	50.9%	60.9%

(一)	80.5	33.5	42.0	75.1	39.8	52.9	53.0	27.3	44.0	78.4	46.5	57.3
(二)	91.7	30.3	32.5	74.0	34.9	47.1	56.1	15.8	24.3	77.7	41.8	49.5
(四)	87.5	40.8	47.4	86.6	57.6	66.4	45.0	28.3	44.4	77.7	39.2	49.9
	86.5	32.9	38.0	68.1	40.6	59.7	54.3	26.0	47.9	74.4	41.6	54.9

これらが文字力の習得と大きな関係があるのは今さら言うまでもなく、協力学校C・K校などの、読字・書字力ともに高いのは、おそらくそのためであろうと思われるが、しかし、一方では、漢字のドリル学習を実施しているH校のように、それほど高くないところもある。これは、使用教科書や農村という地域性にもよるので、種々な要因がからみ合っているから、一がいに、指導法と結びつけて解釈できない場合もある。

実験学校での漢字力と書字力の不均衡の理由として、都会という地域性、学校での学習指導法などのほかに家庭における読書の影響ということが考えられはしないであろうか。単行本、ルビつきの雑誌など、むさぼるように少しの時間でも読んでいる児童が多い学校である。

読書ずきで、文字力がよみ・かきともに高く、他の言語能力でも、バランスがとれた上位の児童も、もちろんいるが、中には、非常に好きで、多読しているわりに、言語能力全般としては低く、ことに書字力には劣るというものがある。多読、乱読するから読みの力がつく（読解力も総じて高い）わりに、練習効果の大きい、書字力との差が大きく開くのではあるまいか。4年2学期の正否の弁別力と正しく書く力をみたテスト結果は、そうした読書の偏向をあらわしていると思われる。

実験学校における家庭読書調査の結果の読書点数と読字力・書字力との相関は、

漢字読字力 0.60

漢字書字力 0.44

読解力 0.55

というように、読字力との相関が高く、つづいて読解力という順序になっている。



また、読解力テストの結果が、実験学校は、協力学校に比べて、相対的に高いことも、実験学校の読字力の優位と関係がありそうである。

読解力テスト 正答率(平均)

学期 学校	3—1	3—2	3—3	4—1	4—2	4—3
実験学校	38.8	30.0	54.6	58.6	66.1	56.1
N	31.3	36.6	58.6	49.0	65.0	51.8
C	—	39.4	—	54.9	64.5	78.5
O	28.8	33.0	47.3	32.4	60.9	—
H	30.0	19.2	49.7	41.2	52.3	42.7
K	31.3	29.8	46.8	45.7	64.5	72.1
G	41.2	30.7	64.8	46.9	61.0	—
M	40.0	37.0	65.2	63.0	—	67.7
A	—	—	—	51.2	—	66.8
T	—	36.2	49.0	38.8	—	—
協力学校計 平均	34.3	33.3	54.5	47.0	61.4	63.3

このように、中学年の段階になると、文字力の発達、とくに、読字力の発達が、学校での学習以外の文字環境によって、影響されることが多くなっていることが認められるのである。

#### (4) 誤答の傾向

漢字能力の発達という時、正答数が増加し、正答率が上昇するのは当然であるが、発達にともなって、無答数が減少し、誤答数が増加するという現象が既に低学年の後期にあった。そしてこの誤答の傾向が、児童の文字意識の増大、文字習得の過程、文字能力などを反映し、文字力の発達を見る一つの大きな要因と考えられるということについては、「低学年の読み書き能力」で、ふれておいた。

漢字の誤答は、中学年になると、学習する漢字の増加、それを受け入れる習得力の不足のために、さらに増加している。しかし、その誤答の傾向を分析してみると、低学年とは、おのずから異った誤答傾向があることがわかる。

この表によってもわかるように、漢字の誤答率は、読みでは、低学年までは漸次上昇、中学年では漸次下降、書きでは、低・中学年を通じて、漸次上昇

実験学校

	1年3学期 (50字)			2年1学期 (50字)			2年2学期 (60字)			2年3学期 (110字)		
	正	誤	無	正	誤	無	正	誤	無	正	誤	無
よみ%	60.0	5.6	34.4	71.6	6.2	22.2	70.5	9.3	20.2	63.9	10.1	26.0
かき%	46.8	5.9	47.3	42.7	13.2	44.1	40.0	15.8	44.2	41.8	11.3	46.9

	3年2学期 (100字)				3年3学期 (100字)				4年1学期 (50字)				4年3学期 (50字)			
	正	準正	誤	無	正	準正	誤	無	正	準正	誤	無	正	準正	誤	無
よみ%	73.9	2.3	8.1	15.7	83.6	1.2	7.9	7.3	81.7	0.8	8.6	8.9	93.0	1.7	3.0	2.3
かき%	40.6	0.3	18.7	40.4	49.6	0	22.4	28.0	40.9	0	29.4	29.7	42.0	0	24.2	33.8

(4年末ではさがっている)という傾向がみられる。また、無答の率は、時にジグザグコースをとりながらもだんだん下降しているのである。

① 読字

前表でもわかるように、低学年では、漢字を読むという文字生活と、ようやくきはじめてきた文字意識と文字習得力との関係がまだ不均衡であったから、読みの誤答数がふえ、また、その種類も、

a 形態上の誤り

- 1) 類似字形によるもの      2) 字形の一部認知によるもの

b 熟語構成文字上の誤り

- 1) 熟語と構成文字との未分化によるもの      2) 熟語を構成する他の文字との読み誤り      3) 熟語としてわかっている、それを構成する単位としての文字の読みがわからないために生ずるもの

c 意味上の誤り

- 1) 意味内容の連環、類似によるもの      2) 反対概念によるもの

d 文脈上の誤り

e 音の類似による誤り

f 不注意やあわてよみ

g でたらめよみ

h ある程度許容できる読み

- 1) 発音の誤りによるもの      2) 表記上の誤りによるもの(不完全な表記、送りがな)      3) 音訓無視のもの

というように数えあげることができた。「国研報告書10」低学年の読み書き能力)すでにみてきたように、中学年では、読字力が、発達してきた。しかし、発達現象の一つの現われとして正答できないもののうち、無答が減っているから、誤答の数は、文字によってはふえてくる。また、文字領域が拡大されているから、誤答反応もなかなか活ばつである。

3年2学期末のテストでは、新しく3年用の漢字70字を加えたテストであるから、誤答反応が活ばつで、中学年の段階での誤答の傾向をよくあらわしている。

実験学校での、誤答反応を示すと、次のようになる。

3年2学期

(49人中)

提出文字	提出語形	誤答数	( )内は誤答人数。数字のないのは1人。
度	三度	19人	すう(14) せい(3) ぶん てん
者	者	15	と(5) き(3) おと(2) かんがえる(2) わか くび いま
受	受ける	13	あ(4) わ(3) か いい と ま が がく
発	発車 <sup>しや</sup>	13	でん(3) は(3) れ(3) はっし じど しんぶん おい
急	急ぐ	11	およぐ(7) す(2) さかな あお
運	運ぶ	9	と(5) あそ おそ さく き
太	太い	9	おも(4) ふ うと いた たん だ
役	役	9	うしろ(6) うつ あっ さお
進	進む	9	す(5) よ(2) やす し
島	島	9	とり(6) うし いわ いね
拾	拾う	9	あ(4) もら たすけ か に い
絵	絵	8	えはがき(3) はがき(3) えは(2)
送	送る	8	はし(2) はい(2) おち とう く と
晴	晴	8	あお(4) あおい(3) なつ
玉	玉	8	おう(5) おお お た
平	平氣 <sup>き</sup>	7	へ(6) ま
乗	乗る	7	く(2) き こね は まも こま
取	取る	7	たすけ(2) わける きこ ふと ち み

向	向く	7	とう(5) のぼ な
短	短い	6	ほし(2) しらな(2) し よい
客	お客	6	みや(3) みせ(3)
遠	遠い	6	はや(5) にわ
魚	魚 <small>いしな</small> 金魚	6	いろ(2) きん きょう けん こ
安	安心 <small>しん</small>	6	じ(2) しょう ねつ かん おん
同	同じ	6	なん(3) しょう お よう
雲	雲	6	ゆき(5) で
使	使う	6	おも(2) うた うたう とう れ
注	注意	5	い(2) よう ちゅ ちゅう
遊	遊ぶ	5	よ(3) と ど
橋	橋	5	たか(2) たかい た わたし
帰	帰る	5	く(2) かり ながれ おわ
通	通る	5	かえ(2) はし く と
物	動物	5	く(2) おち き も
妹	妹	5	あね(4) おとうと
住	住む	5	すす(2) ゆる と よ
集	集まる	5	た おつ き と まと
近	近い	5	ただし とう つかい ちこい な
考	考える	5	こた こたえ か かん きこ
苦	苦しい	4	さがわ うる うつ お
野	野球	4	やき(2) やくり
球	野球	4	ゆう(2) う か
楽	楽しい	4	もうい うつ ただ くつろぐ
暗	暗い	4	うすくら(2) はれ こえ
走	走る	4	あ(2) あし かけ
意	注意	3	いけん けん み
世	世界	3	せか(3)
界	世界	3	い(3)
開	開く	3	き(2) せき

場	工場 <small>こうじょう</small>	3	さく(2) しょう
動	動物	3	ちから(2) とう
面	地面	3	ん(2) とう
所	所	3	とおい ほう あたらしい
荷	荷もつ	2	さく(2)
弟	弟	2	いもうと おとこ
庭	庭	2	いは たわ
王	王様	2	お こう
様	王様	2	い ば
地	地面	2	じめ こめ
終	終る	2	お(2)
聞	新聞	2	あい ぼん
分	三十分	2	ふ(2)
馬	馬	2	しま(2)
早	早い	2	おそ はつ
半	半ぶん	2	心 なん
多	多い	2	とおい お
鳥	鳥	2	うま より
歩	歩く	2	はやく ながい
来	来る	2	と(2)
病	病 <small>ま</small> 気	1	はし
広	広い	1	ひる
買	買う	1	うり
売	売る	1	み
流	流れる	1	なか
波	波	1	いけ
死	死ぬ	1	れつ
着	着る	1	きも
葉	葉	1	はな
新	新聞	1	たすけ

読	読む	1	みる
毎	毎日 <small>にち</small>	1	ま
合	合う	1	か
切	切る	1	ちかよ
用	用じ	1	おな
知	知る	1	き
入	入れる	1	そ

- (注) 1. 誤答数はおぼえにくい字の順位と必ずしも一致していない。  
おぼえにくい字には、無答数も加えられているからである。(書字力の場合も同様)
2. 準正答の傾向はこの表から除く。

これらの誤答反応をみると、一つ一つでは低学年の場合と共通であるが、特に次のような大きな傾向のあることが目立つ。

- (1) 類似字形に関連した誤りが、集団的に多くなっている。

この誤答傾向は、低学年でも多かったが、文字領域が拡大し、類似の字形が多くなるから、ますます増加する傾向をとる。

鳥—鳥—馬 雲—雪 役—後 玉—王 客—宮 安—字 者—音—考—若  
死—列 取—助 同—何などはその例。

これらのうちでは低学年でも誤られたものが引きつづいて行われているものもある。

「受ける」を、「あける」と読んだ4人は、受と愛とを混同し、それを提示されている活用語尾「ける」と結びつけた場合、「あいける」ではおかしいので、「あける」と読んだのではあるまいか。

文字の正否の判別力と、正しい書字能力との関係をみた4年2学期のテストで、実験学校が、類似字形文字群の正否の判別が、他の文字群に比べて誤っていたのは、この誤答傾向の反映であったことがわかった。なお、これに関連した形態上の誤り——字形の一部認知も、低学年に引きつづいてある。

1年の学年末には、自分の名前の晴男の連関から、「青」を「はる」と読んだ男児が1名いたが、今回は、逆に、「晴」を「あお」、「あおい」と読んだ若

が7名もいるという現象がみられた。(誤答の合理性・共通性というか、誤答にもある種のシステムがあることがわかっておもしろい。)

「者」の「と」なども、東京都の都の一部認知であろうし、南一はん(半)、拾一あう(合)なども同様の誤りとみられる。

(2) 意味の連関による誤りも多い。

問われた文字がはっきりしないために、記憶の中から近似の意味や反対概念を想起したり類推したりして読む誤りであるが、文字や語いが拡大するから、この誤りも多くなる。

客一みせ 考一こたえ 楽一くつろぐ 読一みる 取一わかる 帰一くる  
遠一はやい 妹一あね 弟一いもうと・おとこ 早一おそい 暗一はれ  
葉一はな 波一いけ

などの例がそれである。

(3) 語形・語脈(文脈)によるあて読み。

はっきり読めない文字に対して、自分の観念の中で、ある語脈、文脈を考えそれにあてて読む誤りで、ことに単一に漢字だけが提示されていないで、活用形まで示されている用言には、この誤りが多い。低学年のころは、はっきり読めないと、無答にしてしまった文字に対して、語彙が増大している中学年ではめいめい、自分の語彙範囲の中から読みをさぐりあてようとするからであろう。

度を「ずう」と読むものが14人もいるという、驚くべき数字も出ている。

受ける一わかる 急ぐ一およく 運ぶ一とぶ 太い一おもい 乗る一くる  
向く一とうく 通る一かえる など任意に読んでいる。

このほか、熟語と構成文字との未分化による誤りもまだ残っており、

世界一せか い 野球一やき ゆう

地面一じめ ん 絵はがき一えはがき

などと読むもの、さらに、構成文字をとり違えて 注一い(注意) と読むものなどが、まだ時々いるが、低学年に比べると、さすがにへっている。

このほか準正答に属する、活用形・活用語尾までよみがなをつけたり、音訓を無視する読みもある。

## ② 書字

低学年での書字力の誤りでは、次のような傾向と種類が認められた。

- a 逆書
- b 字形が正しくとれない誤り  
点画その他が多かったり少なかったり、また、位置等の乱れるもの。
- c 文字の一部しか想起再生できないもの。bの誤りのさらに不完全な型である。bとcの誤りは、未習漢字の場合は優秀児に、既習漢字の場合は下位者に多くあらわれる。
- d 類似字形の混同による誤り
- e 意味の如何を問わず、既知の同音の字をあてるもの
  - 1. 同音からくるもの
  - 2. 近い音や訓にかえて書く
- f 不正確な意味内容を想起して書く誤り 同じ種類のものや、反対概念、またはその文字の連想などによるもの。
- g 熟語または語脈の中で覚えていて、文字として分化できないもの。
- h 乱脈で、でたらめな誤り
- i 字体が古いもの——準正答

これらの低学年の傾向は、そのまま中学年にももちこされたが、ただ、量的に、また、現われ方には、中学年としての特徴がある。

実験学校での誤答反応を示すと、次のようになる。

3年2学期 ( )内の数字は誤答の人数を示す。ただし1人の場合は省略。

者(40) → 物(28) 物(8) 物(2) 持物

注(30) 中(25) 住(3) 任用

流(22) 長(8) 遠(3) 流(2) 流(2) 川流流流流表

球(18) 理(4) 野(4) 球(2) 来球球球球球球

平(18) 平(9) 来(5) 未(2) 半米

着(17) 来(4) 着(4) 着(4) 着着着着着

落(17) 落(5) 落(2) 落落落落落落落

雲(17) 雲(4) 雪(3) 雲(2) 空(2) 雲雲雲雲雲

夜(17) 夜(2) 夜(2) 夕(2) 前(2) 夜夜夜夜夜夜夜

記(16) 気(4) 読(2) 記(2) 木(2) 記(2) 記記記記



開(15)→閱(10) 閉闕開合週

苦(14) 来(6) 苦行車葦苦葦借

橋(14) 桐槁橋僑槁高走橋枋喬樁橋喬造

走(14) 速(4) 步(3) 走(2) 步表步速𠂔

入(14) 人(5) 行(6) 何外上

歌(14) 歌(3) 歌(2) 歌歌歌歌歌歌歌哥鼻

步(13) 步(6) 走(2) 走步表足足

馬(13) 馬(4) 馬鳥馬馬馬鳥島鳴馬

地(13) 地(2) 地(2) 地(2) 地地也土分地批

食(13) 食(6) 食(4) 食食立

半(13) 分(7) 半(4) 半本

多(13) 大(13)

鳥(12) 鳥(2) 鳥(2) 岸鳥岌岩鳥馬鳥鳥

葉(12) 葉(5) 葉(3) 葉葉草葉

役(12) 投(3) 所(3) 早(2) 役(2) 役飛

野(12) 球(4) 理(2) 野(2) 球埋切枉

妹(12) 枚(2) 娵娵妹妹枚枚娵娵妍妍

遠(11) 速(3) 遠(2) 速通遠遠逞台

答(11) 声(4) 答筭答筭琴考名

詭(11) 詭詭詭詭詭詭詭詭詭詭

拾(11) 拾(2) 取(2) 美拾反瓜方撻特

鳥(10) 鳥鳥鳥鳥鳥鳥鳥鳥鳥

玉(10) 王(7) 王(3)

早(10) → 卓 束 走 走 車 速 表 遠 遠 遠  
 意(9) 意(3) 行(4) 竟 僥  
 晴(9) 晴(2) 青(2) 晴(2) 胆 時 朝  
 広(9) 拾(2) 白(2) 方(2) 広 返 人  
 庭(9) 庭(3) 庭 遮 庭 庭 庭  
 死(9) 紙(2) 花 死 方 列 歹 生 一  
 船(9) 船 船 舢 般 泐 舩 泐 蛤 己  
 進(9) 進(3) 住(2) 往 催 進 建  
 発(9) 走(2) 列(2) 発 早 表 啓 登  
 終(9) 終 終 紉 紉 終 絡 又 糸 捺  
 聞(9) 文(3) 間 間 間 紙 分 年  
 集(9) 集(2) 集 佳 集 集 集 集 夏  
 合(9) 会(3) 台 合 集 上 間 行  
 切(9) 来(3) 木 北 着 聞 物 聞  
 面(8) 土(2) 面 目 面 面 面 面  
 住(8) 往 柱 主 佳 借 在 任 夕  
 知(8) 知(3) 和(2) 吹(2) 天  
 通(8) 通(3) 週 遠 速 速 遠  
 繪(8) 給(3) 糸(3) 餘 繪  
 王(8) 主(4) 玉(2) 大(2)  
 弟(8) 弟(3) 弟(3) 弟 弟  
 客(8) 宀(2) 汽 百 氣 百 客 列  
 魚(7) 金(2) 魚 魚 色 所 形  
 場(7) 場 場 作 顯 工 上 揚

行 (7) → 來 (2) 入 (2) 竹竹行  
 動 (7) 重 (2) 道種物土全  
 乘 (7) 乘 (2) 來 (2) 谷菜辛  
 取 (7) 取 (2) 拾拾鳥攷止  
 家 (7) 冢 (3) 家 (3) 冢  
 用 (7) 曜 (2) 帛週日心時  
 考 (6) 莠 (3) 孝考割  
 新 (6) 睪所間自彥新  
 暗 (6) 暗 (2) 暗速黑拾  
 買 (6) 買 (2) 買請返誑  
 樂 (6) 樂 (2) 漿 (2) 漿新  
 汽 (5) 汽 (3) 汽气  
 安 (5) 思感上用毋  
 近 (5) 返 (2) 週中赤  
 所 (5) 近妒心戶所  
 語 (5) 話 (4) 話  
 歸 (5) 歸 (2) 割助津  
 急 (5) 色 (2) 裝速早  
 波 (5) 波海冰每嗎  
 樣 (5) 壬 (2) 日女木  
 壳 (5) 誑 (3) 買壺  
 運 (4) 通遊朝遊  
 遊 (4) 遊遊朝遊

界(4) → 界 思 界 界  
 每(4) 每 日 前 每  
 物(4) 物 (2) 物 物  
 受(3) 売 (2) 受  
 時(3) 時 時 間  
 度(3) 土 (3)  
 世(3) 世 世 也  
 荷(3) 訛 何 荷  
 短(3) 小 (2) 始  
 黒(2) 黒 裡  
 向(2) 向 王  
 同(2) 同 (2)  
 病(2) 薬 汰  
 太(1) 大  
 岸(1) 海  
 使(1) 使  
 分(1) 今  
 来(1) 行

今までのテスト結果でも見てきたように、読みの誤答が比較的少なくなってきたのに比べて、書きの誤答数は増加する一方であったから、誤答反応も実に活ばつになっている。しかも、文字や語彙の範囲が拡大増加され、それらが、書字能力と正確に結びつかない、発達途上にある段階であるから、誤答傾向は、上にあげた低学年の場合の傾向が児童によっていり乱れて現われていて、実に壯観を呈している。しかし、さすがに、1年の時に多かった逆書はほとんどなくなり、乱脈なでたらめがきもへってきていて、児童としては、何等かの意識

で書こうとした誤りになっている。また、誤答傾向の集団化もこの期の大きな特徴といえよう。中学年で、特に目立つ傾向を二、三あげてみる。

(1) 字形が正しくとれない

(i) その中でも、類似字形が集団的に多い。

注—住 平—来—半—米—末

開—閉 入—人 馬—鳥—島—鳴

役—投 野—理—埋 遠—速

聞—問 台—会 切—北 住—往—佳

知—和 絵—給 玉—王—主 早—車

目立つものを、いくつか拾ってみただけでも、これだけある。

(ii) これらの類似字形の誤りが、一段と不完全になると、扁傍の一部しか想起できない。文字の扁傍意識はだんだんついてくるから、こうした傾向も、低学年に比べると現われている。

読—売 絵—糸 晴—青

もっとも、晴—青の関係などは、読みの誤りと呼応したものであるが、「あおい」と誤り読んだもの7名に対し、青と書いたものは2名という関係である。

(2) 音の類似による誤り

(i) 同音文字の誤り

者—物 注—中 記—気—木 聞—文—分 合—行 場—上 動—土

これは、種類は少ないが、かなり集団的に誤る傾向があり、者を物と書いたもの28人というような数にのぼっている。もっとも、者と物の区別など意義上からいって、中学年で、まだ、ないのかもしれないが、注を中などとしたのも25人という数である。

(ii) 訓が似通っている文字の誤り

中学年の段階になると、一つの文字に対する音訓が、だんだん提出されそろってくるから、音訓の似通ったものにひかれる読み誤りがさかんになる。

着—来 苦—来 遠—通 答—声 拾—広 広—白 (ひとし、なまって音

通) 切—米—木—聞 橋—走 発—走—白 入—行 進—住

(3) 意味内容を不正確に想起して書く誤り

同種のもの、反対概念、またはその文字の連想などによる誤りが多くなる。

これも、文字と語彙の拡充増大による中学年に多い、誤りの傾向である。雲—雪—空 行—来—入 夜—夕 記—読 走—速 走—歩—足 地—土 拾—取 晴—朝 答—考 多—大 などの例である。また 島—岸—崖 早—走 など、連想による岩、走が、字形として正しくとれないという二重の誤りもいく種か見出される。

(4) 字形が正しくとれないための誤り

これも、中学年の誤りの傾向の一つの大きな特徴となっているが、字形が正しく想起できない、しかし、他の誤答に反応するよりも、その文字については、文字意識が強い。そこで、記憶にたよって、さまざまな形で、再生しようとしている。この誤りは、集団的というよりむしろ、個人別にめいめいの記憶の不確かさが反映されていて、よく、これだけの反応がみられると思うくらい、千差万別であることは、前に掲げたとおりである。

(5) 熟語や語脈での文字構成の上で、文字としてまだ分化できない誤りも相当にある。

半—分 役—所 野—球 合—集 魚—金 場—作 (工場→作の連想であろう) 動—物

しかも、これらの誤りが、相互に関連したり、組み合わせられたりして、入り乱れて現われている。たとえば、

「聞」が、問・間は類似字形、聞は点画の不足、分は同音、紙は、新聞紙の熟語構成の未分化、年は、意味不明といったぐあいである。旧字体—準正答に属する誤りは、非常に少ない。一般よみもの、家庭の協力などの学校外の文字環境による点も多いと考えられる。

### 3. 個人別漢字力発達一覧表

なお、参考までに、個人別の漢字の読字・書字力テスト結果一覧表をかかげておく。これによって中学年の個人別漢字力の発達状況がわかる。

男子 No	3年2学期						3年3学期						4年1学期						4年2学期						4年3学期													
	100字よみ			100字かき			100字よみ			100字かき			50字よみ			50字かき			30字かき			50字よみ			50字かき			30字かき			50字よみ			50字かき				
	正 答	誤 答	無 答	正 誤	無	誤	正 誤	無	誤	正 誤	無	誤	正 答	誤 答	無 答	正 誤	無	誤	正 誤	無	誤	正 誤	無	誤	正 誤	無	誤	正 誤	無	誤	正 誤	無	誤					
1	88(1)	7	444	20	3692(1)	5	2	62	22	1638(1)	3	8	16	21	13	28	9	10	0	48	1	1	14	10	26	25	0	9	146	2	2	7	18	25				
2	44(5)	9	4212	15	7370(2)	10	18	29	26	4536	6	8	7	11	32	25	0	9	146	2	2	7	18	25	0	9	146	2	2	7	18	25	0	9	146			
3	43(7)	28	2213	38	4967(3)	18	12	25	32	4327	16	7	5	31	14	26	4	10	0	44	5	1	10	22	18	25	0	9	146	2	2	7	18	25	0	9	146	
4	84(1)	7	832	20	4893	3	4	46	29	2543	1	6	9	18	23	29	6	7	150	0	0	0	12	17	21	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	78	8	1443	21	3687	12	1	48	29	2345	3	2	18	18	14	28	9	9	0	47	3	0	12	13	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6	86(1)	5	844(1)	11	4493(1)	3	3	57	21	2243(1)	4	2	29	15	6	28	13	7	147(1)	1	1	24	7	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19		
7	85(2)	9	422(1)	33	4484	11	5	37	27	3644	4	2	18	12	20	28	6	8	150	0	0	0	23	9	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	
8	94	2	465	15	2094(1)	1	4	80	11	949	1	0	39	5	6	2923	1	0	49(1)	0	0	0	37	10	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
9	60	10	3029(1)	25	4573(1)	4	12	33	22	4536(2)	5	7	12	14	24	24	8	5	443(2)	5	0	23	16	11	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
10	77	6	1731(1)	21	4777(2)	8	13	28	27	4533	10	7	21	15	14	78	5	10	0	47	1	2	20	16	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
11	67(4)	14	1538	29	3376(7)	16	1	49	37	1435(2)	7	6	11	21	18	26	5	7	247(3)	0	0	13	15	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	
12	34(4)	26	36	5	7244(1)	21	34	13	33	5425(1)	12	12	4	18	28	25	1	4	031(3)	7	9	4	24	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	
13	81(1)	4	1448(1)	22	2990	6	4	59	18	2346(1)	2	1	26	16	8	8	1	45(2)	1	2	14	19	17	14	19	17	14	19	17	14	19	17	14	19	17	14		
14	97(3)	0	069	7	2497(2)	1	0	82	7	1149	1	0	42	7	1	3022	6	0	50	0	0	42	6	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
15	80(2)	7	1128(1)	22	4985	7	8	30	17	5342	2	6	19	21	10	28	7	12	249	1	0	11	21	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
16	44(7)	10	3915	29	5663(2)	13	22	16	25	5936	12	2	6	12	32	25	2	13	147	3	0	16	15	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
17	68(1)	7	2422(1)	18	5984(1)	8	7	31	19	5036(1)	5	8	6	7	37	76	4	5	048	1	1	9	6	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
18	97	2	170	12	1897	3	0	83	4	1347(1)	0	2	35	11	4	2919	6	0	50	0	0	33	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
19	67(1)	6	2651(1)	12	3682	7	11	44	23	3341(2)	5	2	17	15	18	26	12	6	047	3	0	16	18	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
20	100	0	076(1)	18	5100	0	0	91	5	441	4	5	20	15	15	46(1)	3	0	46(1)	3	0	18	15	17	15	17	15	17	15	17	15	17	15	17	15	17	15	17
21											0	0	45	5	0																							

女子 No	3年2学期						3年3学期						4年1学期						4年2学期						4年3学期					
	100字よみ			100字かき			100字よみ			100字かき			漢字 50字よみ			50字かき			30字			50字よみ			50字かき					
	正	誤	無	正	誤	無	正	誤	無	正	誤	無	正	誤	無	正	誤	無	正	誤	無	正	誤	無	正	誤	無			
	意	答	誤	意	答	誤	意	答	誤	意	答	誤	意	答	誤	意	答	誤	意	答	誤	意	答	誤	意	答	誤			
1	71(4)	7	1842	19	3986(1)	6	7	52	16	3239	4	7	12	19	19	26	410	143	3	4	24	12	14							
2	94(1)	1	445(1)	20	3498(1)	0	1	66	19	1547	1	1	231(1)	9	9	29	12	7	147	2	33	5	12							
3	75(1)	8	1649(1)	20	3078(3)	14	5	62	21	1743	4	3	324	17	9	28	713	047	2	1	23	17	10							
4	72(3)	7	1852	17	3185(1)	6	8	66	14	2044	2	4	425	12	13	29	1214	045(1)	3	1	23	18	9							
5	76	10	1433	16	5190	5	5	38	22	4046	3	1	121	17	12	28	12	7	148	1	17	18	15							
6	66(3)	6	2532(1)	16	5194	0	6	39	17	4443	3	4	19	12	19	22	9	3	848	0	2	13	15							
7	94	2	475	4	2193(1)	2	4	69	7	2446	0	4	31	9	10	29	18	4	050	0	0	28	18							
8	52(3)	15	3032	20	4863	20	17	41	21	3828	6	16	12(1)	13	24	26	3	2	331(9)	2	8	18	12							
9	94(2)	4	069	14	1796	3	1	81	15	446(1)	2	1	141	4	5	29	22	5	150	0	0	33	14							
10	58(8)	11	2343	20	3769(5)	16	10	36	37	2738(1)	9	2	16	21	13	25	11	9	340(6)	2	2	26	16							
11	98	0	271(1)	14	1494	4	2	82	10	850	0	0	41	4	5	26	22	5	149(1)	0	0	42	5							
12	91(3)	4	253	12	3594	3	3	73	15	1244(1)	5	0	25	17	8	28	10	14	048	0	2	23	9							
13	88(1)	6	551	10	3996	2	2	48	25	2744(1)	1	4	16	14	20	25	7	6	149(1)	0	0	22	8							
14	67(1)	9	2334	14	5290(1)	6	3	45	17	3840(1)	3	6	19	13	18	24	9	8	548	1	1	15	8							
15	58(2)	9	3131(1)	19	4970(6)	13	11	26	31	4332	7	11	3	24	23	27	614	2	0	0	34	5								
16	88(3)	2	741(1)	7	5192	1	7	59	11	3044(1)	1	4	24	8	18	30	8	5	048	2	0	34	5							
17	51(4)	24	218	27	6531(5)	22	22	12	43	4528	10	12	2	15	33	22	213	541(3)	4	2	9	20								
18	81	2	347	17	3688(3)	5	4	51	30	1940(1)	7	2	28	13	9	27	12	6	249	1	0	23	16							
	(14)																													
19	61(5)	2	3240(1)	11	4860	14	26	28	16	5632	8	10	5	18	27	17	210	1043(3)	2	2	13	18								
20	59(2)	13	2611	24	6574(2)	20	4	17	46	3741	5	4	8	27	15	23	6	7	513(3)	2	2	12	30							
21	84(1)	5	1036(1)	17	4692	6	2	42	33	2545	4	1	19	22	9	22	8	13	048	1	1	25	12							
22	79(2)	9	1031(1)	32	3694	3	3	50	30	2045	2	3	22	14	14	24	8	8	550	0	0	22	17							
23	58(4)	20	1842	31	2781(2)	10	7	46	24	3041	3	6	19	16	15	20	16	7	247	1	2	20	17							
24	70(2)	13	1552	22	2689	5	6	68	18	1444	4	4	235	11	4	18	11	8	1047	1	2	24	6							
25	90	4	655(1)	17	2795	4	1	78	15	747	2	1	28	9	13	30	10	8	050	0	0	35	13							
26	89(2)	0	961(1)	10	2894	0	6	71	17	1247(1)	1	1	131	11	13	22	21	7	050	0	0	31	15							
27	68(2)	17	1335(1)	24	4065(3)	29	3	20	52	2832	9	9	8	22	20	19	2	9	1148	2	0	12	16							
28	82(2)	7	942	10	4893	5	2	70	19	1143(1)	2	4	29	16	5	30	19	6	047	2	1	29	14							
29	32(3)	10	5517	20	63																									



## C 表記能力の実態と問題点

中学年の文字力として、おもに、かたかなと漢字について、その読字・書字力を見てきたが、4年の作文をみると、中学年の文字力のうち、もっと他の問題があることに気づく。たとえば、まだ、ひらがなとかたかなの正しい使い分けや、ひらがなの、拗音、長音、促音などを含む語の正しい書き方ができていないものがある。かなづかいも、助詞とそれに関連するかなの正しい書き方ができない。送りがなもまちまちである。句読点も低学年に比べるとよくなってきたが、まだ、よくできるとはいいいがたい。中学年のまとめとして、このような問題を含んだ書字能力の実態を見ることにした。

問題の構成（かたかなや漢字の書字力に対して、Bテストを行う。）

### 書字力 Bテスト 教示

これから よむ お話を みなさんに 書いてもらいます。それで お話を 読みますが、すぐ 書かないで はじめは、どういふ 字を 書いたらよいか（ここは ひらがなにした方が よいか、あすこは かたかなに した方がよいか）など 考えながら 聞いて下さい。

次に 少しずつ くぎって 読みます。それを 聞いて、書くように しましょう。

- (1) きょう 学校の かだんに 行って みたら、チューリップが、土の 中から かわいい かおを 出していました。
- (2) 私が おとうとと あそんで いたら、おかあさんが、「みよ子ちゃん、ちょっと お使いに 行って きて ちょうだい。」と おっしゃいました。
- (3) ニュートンは イギリス人です。ある日 りんごが 木の枝から 落ちるのを見て、引力を 考えついたと いう ことです。
- (4) きのう、野球を して あそびました。ぼくは、キャッチャーに なりました。やまだくんの うった たまは、カーンと 大きな 音を たてて、遠くの方へ とんで 行きました。

### 書字力Bテスト (5)

次の文は、・や。のようなしるしが一つもついていないので、読みにくくなっています。この文に、文を読みやすくする、いろいろなしるしをつけて、だれが読んででもよくわかるようにしてください。

おかあさんがあしたはにちようびだからおひなさまをかざりましょうねとおっしゃったので私はうれしくてたまりませんはやくあしたになればよいなあと思いました

## 1. ひらがな

ひらがなの文字力は、低学年の段階で、テスト結果として、読字・書字力とも、ほとんど完全に近い程度に習得されていた。その後の作文やノートでも、大体それが実証されたが、ただ、あわてて書き誤るのか、時々誤字があり、また、助詞の「は」「へ」「を」や、促音、拗音、長音の書き誤り、書きもらしなどは、中学年の段階でも、相かわらず、見受けられる。このテスト結果では、次のようである。(実験学校)

### (1) 拗音

	正答	誤答
きょう(47人中)	38人 80.9%	今日 14.9% きょう 2.1% 京 2.1%
みよ子ちゃん	47 100.0	
ちょうだい	44 93.6	拗不正ちよだい 4.3 ちだい 2.1
やきゅう	42 89.3	カタカナ 4.3 拗不正 6.4

で、拗音は、かなり身につけていることがわかる。最も正答率の低かった「きょう」では漢字の今日をあてたものが、7人14.9%もあること、しかも、この今日の字をあてた児童の方が、クラスの言語能力が上位のもの、ことに、文字力、読書力の高いものであることは、おもしろい現象である。中学年のこの段階になると、児童は、教科書よりも、むしろ、一般読みもの、新聞などから文字力の影響を大きく受けることを物語っていると思われる。しかも、このことは、実験学校ばかりでなく、協力学校でも、

	きょう	今日	きょう	その他
N校	66.7%	28.9%	2.2%	2.2%
C校	79.2	10.4	10.4	
N校	68	26	4	2
O校	38.5	51.3		10.3
H校	79.3	10.3	10.3	
K校	80.0	17.8	2.2	

同様の現象がみられる。

### (2) 促音

	正答	誤答
行って(1)	43人 91.5%	行って 2.1% 行て 4.3% 行手 2.1%
(2)	43 91.5	行って 2.1 行て 4.3 行手 2.1

うった	45人	95.8%	うた	2.1%	無答	2.1%
ちょっと	31人	66.0	促不正	14.8	他音入レ	8.5
			かたかな	4.3	無答	6.4
おっしゃいました	39人	85.1	促不正	6.4	初不正	4.3
			いきました	2.1	おっしゃ行きました	2.1

促音も、かなり上成績である。「うった」「行って」など、どの学校でもみうけられる特殊な下位の子2名を除いては、皆が、注意すれば一応は書けるほどになっている。「行って」の方がやや悪いのは、漢字の行の字をあてて、「つ」を送ることをしなかった2児があるためで、これは、この段階の児童によくある送りがなの力とも結びついた問題である。単純に促音だけを含む語に比べると、拗音と結びついた複雑な語はできが悪い。

こうした傾向は、協力学校でも、あまり大差ない。

### (3) 長音

拗音と連合した場合の長音は、前例のように、脱落しやすい傾向があるが、その数も、この段階になると、だいぶ減ってきている。「ちょうだい」では、93.6%の者ができて、「ちょだい」と書いた者は、4.3%であった。

むしろ、今度のテストでは、かなづかいの上における長音表記の方に問題があることがわかった。

### (4) ひらがなとかたかなの書きわけ

文脈中における、ひらがなとかたかなを書きわけける力は、それが、児童たちに、身近な語であれば、案外できることが、今までのテストでも示された。このテストでも、前のかたかな文字力の発達で見たように、問題点は両者を書きわけける力がないというよりも、むしろ、拗・長・促音を含むかたかな文字表記力にあった。

	正答	ひらがながきにしたもの	かたかながきを誤ったもの
チューリップ	57.4%	2.1%(1人)	40.4%
ニュートン	66.0	4.3 (2)	29.8
イギリス人	95.8	(漢字のかたかながき	イギリス <del>ジン</del> 4.3)
キャッチャー	42.6	4.3	3.2
カーンと	57.4	10.6	32.0

外来語、外国語、外国の地名・人名などをかたかな書きにすることとも、

自分の理解語彙の範囲では、大体わかっているようである。ただ、これらのかたかな表記の中では擬音語をかたかなで書くことが、いちばんできていないようである。それと、ひらがなで書くべき語を逆にかたかなで書く傾向のあることである。これは、最初の教示に気をまわしすぎたためであろう。

花だん	かだん	63.8%	}	カダン	12.8%(8人)	カザン	4.3%(2人)
	花だん	17.0			庭だん	2.1 (1)	
りんご	りんご	51.1		リンゴ	48.9 (23)		
やきゅう	やきゅう	48.9	}	ヤキュー	4.3 (2)		
	野きゅう	40.4			拗不正	6.4 (3)	
ちょっと		66.0		チット	4.3 (2)	促不正	12.8 其他

というような数字であり、りんごなど、世間慣用の影響が目立っている。

協力学校でも、

	カダン	リンゴ	ヤキュー	チョット
N校	6.7%(3人)	40.0%(18人)	4.4%(2人)	6.7(3人)
C校	2.1 (1)	18.7 (9)	4.1 (2)	0
A校	2 (1)	60.0 (30)	0	6.0(3)
O校	20.5 (8)	66.7 (26)	7.7 (3)	0
H校	3.4 (1)	20.7 (6)	3.4 (1)	3.4(1)
K校	0	13.3 (6)	22.2 (10)	0

もっとも、りんごは、使用教科書によっては、かたかなで提出されている。

(5) かなづかい

(i) 助詞

……を、

	正答	誤答お	無答
かおを	87.2%(41人)	6.4%	6.4%
落ちるのを	89.4 (42)	10.6	0
引力を	91.5 (43)	8.5	0
野球を	80.8 (38)	10.6	4.3 無答
音を	85.1 (40)	8.5	6.4

……は、

ニュートンは	100		
ぼくは	93.6	わ	無答
		4.3	2.1

	正答	誤答	無答
たまは	93.6%	4.3%	2.1%
……へ、			
方へ	55.3	え 27.7	に 8.5
			無答 8.5

三つのうち、「へ」の使用がいちばん困難であるのは、低学年以来であるが、それでも2年2学期のテストの20.5%に比べると、正答率は上ってきている。低学年の「を」70.5%、「は」81.8%に比べると、これらもそれぞれ正しい使用率があがっている。

協力学校のテスト結果でも、同様のことがいえる。

正答率

	N校	C校	A校	O校	H校	K校
を1	84.4	93.7	100	79.5	93.1	73.3
2	86.7	95.8	100	82.1	86.2	75.6
3	86.7	93.7	92	92.3	100	80.0
4	84.4	100	100	92.3	96.6	80.0
5	88.9	95.8	100	87.2	72.4	80.0
は1	86.7	89.6	92	84.6	87.8	95.6
2	100	97.9	98	97.4	100	91.1
3	95.6	97.9	100	97.4	100	91.1
へ1	71.1	81.2	94.0	64.1	93.1	64.4

作文によく見かけるかなづかいの誤りを見たものでは、この段階では、すでに漢字を使用するために、むしろ、送りがなの問題になっているものもあるが、次のようになっている。

	正答	誤答	無答
かわいい	91.6%(44人)	かはいい 2.1%	2.1%
		かわい 2.1	
		かわ行 2.1	
かお	かお 42.6 (20)	か多 2.1	
	顔 51.1 (24)	頭 2.1	
いました	95.7 (45)	行ました 4.3	
いきました	いきました 48.9 (23)	ゆきました 12.8 (6)	
	行きました 27.7 (13)	ゆ来ました 2.1	

えだ	えだ	85.1%	} (40人)	へだ	2.1%	無答	2.1%
	枝	8.5		} (4)			
きのう	きのう	78.7	(37)		きのお	12.8	きのを
				今のう	2.1		
おとうと	おとうと	21.3	} (10)	おとおと	4.3		
	弟	68.0		} (32)	弟と	4.3	
					お弟	2.1	
とおくの	とおくの	40.5	} (19)	とをくの	6.4		
	遠くの	19.1		} (9)	とうくの	25.5	(12)
					無答	6.4	
おおきな	おおきな	8.5	} (4)	大な	2.1		
	大きな	83.0		} (39)	大気な	2.1	
					無答	4.3	
いうこと	いうこと	53.2	(25)	ゆうこと	36.2	(17)	
				言こと	4.3		
				いゆうこと	2.1		
				行こと	2.1		
				ユウコト	2.1		

このように、テストであるという心構えで書いた場合のせい、作文などに現われた結果より、全体としては、できがよく、低学年のころより、一段とよくなっている。

ただ、「ゆうこと」などは語源を知らないもので、表音式のかなづかいとなり大半のものが、誤って使用している。これらの状況は、協力学校でも、ほぼ同様である。「かわいい」「かお」「いきました」「いきました」「えだ」「きのう」などは、100%できている学校が二、三校ずつある。

#### 協力学校

	N校	C校	A校	O校	H校	K校
とおくの	35.7	12.5	10.0	38.4	10.3	11.1
遠くの	33.3	62.6	74.0	35.9	62.1	60.0
とうくの	20.0	10.4	8.0	17.9	20.7	15.6
その他	2.2	6.2	2.0	2.6		11.1
おくりがな	4.4	2.1	6.0	2.6	6.9	2.2
無答	4.4	6.2		2.6		

おとうと	13.3	8.3	28.0	38.5	31.1	28.9
弟	77.8	89.6	68.0	53.8	68.9	49.0
おくりがな	8.9			5.1		13.3
おとおと		2.1	2.0	2.6		4.4
無答			2.0			4.4
きのう	88.9	95.8	94.0	89.7	100	97.8
きのお	4.4	2.1	2	0	0	0
その他	6.7	2.1	4	10.3	0	2.2
おおきな	11.1	6.2	10.0	2.6	0	8.9
大きな	88.9	81.3	90.0	84.5	96.6	71.1
おくりがな				2.6	3.4	15.6
その他						
無答		12.5		10.3		4.4
いうこと	55.8	33.3	18.0	30.8	58.7	17.8
言うこと	15.6	14.6	26.0	30.8		31.1
ゆうこと	22.0	27.1	48.0	20.5	27.6	28.9
おくりがな		2.1	2.0			2.2
その他	2.2	8.3	6.0	17.9	3.4	8.9
無答	4.4	14.6			10.3	11.1

### (6) 送りがな

漢字の読み書きが、だんだん身についてくる低学年の後期のころから、送りがなの問題が出てくる。このことはわれわれの漢字の読字力テストで、動詞・形容詞などの活用語尾の送りすぎを、準正答として扱った場合にも、中位以下の児童に多く見出された。もっともこの場合には、児童は、<sup>(1)</sup>落ちるとあっても落の字一字に「おちる」、<sup>(2)</sup>深いに「ふかい」と読みがなをつけてしまうのであって、送りがなという意識は、ほとんど持っていないようである。作文などではまだ名詞以外には、漢字をあまり使用しないから、それほど送りがな問題は目立たない。しかし、中学年になって、知っている漢字を使用して書きたがるようになると、ある種の児童には、送りがなの誤用が目立って多くなってくる。今回のテストの結果では、次のようになった。

行って(1) 行って 55.3%(26人) 行て 4.3% 行手 2.1% 行って 36.2%  
 行って(2) 行って 38.3 (18) 行て 4.3 行手 2.1 行って 53.2  
 出して 出して 48.9 (23) だして 51.1

遊んで	遊んで	38.3%(18人)	遊で	6.4%	あそんで	53.2%		
落ちる	落ちる	21.3 (10)	落る	10.6	お落る	4.3	おちる	61.7
考えついた	考えついた	36.2 (17)	考ついた	21.3	その他(誤字)	4.3		
			カタカナ	2.1	かんがえついた	36.2		
うった	打った	14.9 (7)	うった	80.9				
とんで	飛んで	25.5 (12)	飛で	10.6	とんで	61.7		
行きました	行きました	27.7 (13)	行ました	8.5	いきました	48.9		
見たら	見たら	44.7 (21)	みたら	55.3				
いうこと	言うこと	0	言こと	4.3	行こと	2.1	いうこと	53.2
大きな	大きな	83.0 (39)	大な	2.1	大気な	2.1		
	おおきな	8.5 (4)						
私が	私が	10.6(5)	私くし	10.6	私たくし	2.1		
	わたくしが	72.3 (34)	私し	2.1				
枝	枝	8.5 (4)	枝だ	2.1	えだ	85.1		
お使い	お使い	2.1 (1)	お使いかい	2.1	おつかい	93.6		

なお、協力学校の結果をまとめると、次のようになる。

協力学校 (6校)

正 答	平均正 答率%	学校平均正当率		送りがなの 誤り	誤答率 %	最高%	最低%
		最高%	最低%				
行って (1)	55.1	(86.2—40.0)		行て	4.5	(13.3— 0 )	
行って (2)	48.2	(87.8—25.6)		行て	4.2	( 8.3— 0 )	
出して	57.1	(74.0—15.6)		出て	2.6	( 6.2— 0 )	
遊んで	53.2	(72.4—38.5)		遊で	12.2	(24.1— 2.0)	
落ちる	15.8	(25.0—10.3)		落る	27.8	(39.6—18.0)	
考えついた	54.1	(80.0—20.7)		考ついた	15.8	(26.7— 4.0)	
うった	17.4	(33.3— 2.2)		打た	6.1	(13.3— 0 )	
とんで	29.6	(51.7— 6.7)		飛で	8.8	(29.2— 2.2)	
行きました	43.6	(72.4—15.4)		行ました	6.6	(11.1— 3.4)	
見たら	50.3	(79.3—31.1)		見ら	0.7	( 4.4— 0 )	
言うこと	19.7	(31.1—14.6)		言こと	1.1	( 2.2— 2.0)	
大きな	85.4	(96.6—71.1)		大な	3.6	(15.6— 0 )	
私が	53.3	(89.7—15.4)		私くし } 私し }	19.3	(56.2— 2.0)	
枝	8.3	(20.0— 2.6)		枝だ	1.5	( 6.9— 2.2)	
お使い	11.6	(24.0— 2.6)		お使いかい } お使 }	10.8	(15.6— 2.2)	

これら、いくつかの送りがなを予想した問題も、かながきにした児童が、半数



近くあったから、送りがなの能力の実態はつかめえなかったが、この期の児童の送りがなの誤用に二つの傾向があることが目立った。なお、送りがなには、現行教科書と一般よみものとの差からくるものもあり、一概に誤用とはいえないものもある。

用言の場合には、行て、遊で、落る、考ついた、飛で、行ました、見ら、言こと、大なというように、活用語尾が落ちる傾向があるのに対して、体言の場合には、わざわざ、よみの最後の音もしくは、1・2音前までを送っていることである。「私」などにいたっては、私し 私くし など、種々の送りがながみられる。しかもこの傾向は全般的で、学級の56.2%(27人、C校)のものが、まちがっていた学校もあったほどである。

#### (7) 句読点の使用

低学年の段階では句読点の使用のし方と作文能力との関係がかなり高いこと及び、作文における句読点の使用状況の発達は、報告書10「低学年の読み書き能力」に報告されており、中学年のその後の使用状況も、こんどの報告書の作文の章で述べられるはずである。ここでは、自由に任意に書き綴る作文の場合の句読点使用というよりも、句読点やそれに関連する一切の符号をとり去った文を与えて、あらかじめ句読点を打つように指示した結果のもので、句読点使用の知識もわかるはずである。

元来句読法はむずかしく、そのよりどころとして、それが、はっきりと定められたものはまだないが、ここでは、一応、読み手に文意がまちがいなく、はっきり伝わる程度に打てればよいという、ごく常識的なところに目標をおいてみた。

次の文でも、文末の句点や、会話のかぎなどを除くと、まだ、いくとおりかの打ち方もあろうが、一応、次の8か所にくぎり符号が使えればよいとした。

おかあさんが<sup>①</sup>、<sup>②</sup>「あしたは、<sup>(1)</sup>にちようびだから、<sup>③</sup>おひなさまをかざりましようね。」と、<sup>④⑤</sup>おっしまったので、<sup>(2)</sup>私はうれしくてたまりません。<sup>⑦</sup>はやく、<sup>(3)</sup>あしたになれば、<sup>(4)</sup>よいなあと、<sup>(5)</sup>思いました。<sup>⑧</sup>

こちらで、予定した①から⑧までに、それぞれ、適当な符号を使い得た、正答率は、次の表のようである。なお、実験学校では、このほか、イロハニホの

場所に、それぞれ、次のような率で、読点をつけたものがあった。

	実験学校	協力学校 124名
①、	78.7	88.7%
②、	42.5	74.2
③、	48.9	54.0
④。	46.8	66.9
⑤、	53.2	84.7
⑥、	66.0	73.4
⑦。	63.8	74.2
⑧。	87.2	

(注) 協力学校では、問題をプリントする時、最後の8の句点をつけてしまったので、集計から除いた。

イ 27.7%

ロ 29.8

ハ 4.3

ニ 6.4

ホ 12.8

さらに実験学校での結果を整理してみると、次のようになる。

1～8全部正しくできたもの

男	女	計
3人	0人	3人

1箇所だけできなかったもの

4人	4人	8人
----	----	----

できなかった最高

5箇所	5箇所
-----	-----

1人	2人
----	----

つけやすいもの ⑧文末の句点 41人 87.2%

①文初の読点 37 78.7

⑥次に、私はがくる条件説明の句読点 31 66.0

つけにくいもの ⑤会話をとじるかぎ 25 53.2

③条件を説明する読点 23 48.9

④会話をとじる句点 22 46.8

②会話の最初のかぎ 20 42.5

この数字をみてもわかるように、句読点はなかなかつけにくいことがわかる。文末の句点が比較的つけやすいといっても、文章全体の最後の句点は87.2% (41人) のものがつけ得たが、文章中にある文末の句点(7)では、63.8%(31人)しか、正しくつけられていなかった。また、Bテスト(2)の総合書字能力の方で会話のかぎと句点とを正しく書きえたものはわずか14.9%(7人)にすぎなかったが、今度は、しるしをつけることを教示したせいか、(2)の場合よりはよいが、それにしても、会話のかぎ、句点ともにできたものは、14人(男9人、女5人)29.8%しかなかった。協力学校は総体的によいが、これは、指導の結果によるものと思われる。(次ページの表参照)

このほか、実験学校では、

「私はうれしくてたまりません。はやくあしたになればよいなあと思いまし

会話のかぎと句点

	実験学校		協力学校	
	テスト (一)	テスト (二)	テスト (一)	
「。」と正しくできたもの	% 14.9 (7)	% 29.8 (14)	% 60.2	最高 最低 (100~25.6)
「」とのみできたもの	4.3 (2)	12.8 (6)	29.4	(66.7~0)
無答	80.9 (38)	48.9 (23)	10.4	(35.6~0)

注 テスト(一) 書字力Bテスト もんだい 2 (241ページ)の会話の部分をさす。

テスト(二) 書字力Bテスト もんだい 5 の会話の部分をさす。

た」や、最初から最後までを、かぎでくくったもの(女児2名)「おかあさんが……かざりましようね」。(女児2名)「とおっしゃったので」(女児1名)など、誤答が多い。また、該当の箇所にも全然かぎをつけなかったものが23人(48.9%)もいる。

「はやくあしたになればよいなあ。」と感想に「」をつけた(男児1名)もあった。

なお、誤答の中には、文節全体に「、」をつけた男児もひとりあった。

児童の作文における句読点の使用状況は、全体としては、低学年より中学年へと著しくよくなっているが、まだ、全員が正しく使用しえない段階であることが、このテストによっても実証されている。(芦沢)

## Ⅳ 語い能力の発達

### A 行なった検査とその結果

#### 1. ねらい

語い能力の発達検査といえば、語いの広がりや発達のしらべるものが多いが、この検査では、次の三つの理由によってそれをしらべることには重点をおかなかった。

- (i) 児童の習得語は、非常に多く、大規模な検査を要するだけでなく、被検者の負担の面から、等質と考えられる何グループかにおけることが必要で、そのためには、実験学級は小さすぎる。特に環境による階層を考慮にいれた場合、なおさらである。〔消極的理由〕
- (ii) 広がりやの点に重点がおかれた従来の語い検査は、語の理解の度合に対する検討がじゅうぶんでなく、「ある語を知っている」とはどういうことか、という点に問題が残されているので、そのことを掘り下げてみるのが大切だと思われたこと。〔積極的理由〕
- (iii) (ii)をしらべるに際し、検査方法が問題になるので、それをまず調べようとしたこと。〔積極的理由〕

つまりこの検査は、次の三つのことをねらって行なったものである。

- (i) 中学年では語をどのように把握しているかをしらべること。
- (ii) そのためにはどんな検査があり得るかをしらべること。
- (iii) できれば、その検査でしらべた能力は、他のどのようなことと関連があるかを調べること。

#### 2. 検査法

検査は3年生(30年度)の2学期から4年生(31年度)の3学期にかけて、毎学期末に1～3種の検査を行なった。検査は全部ペーパー方式の団体検査で、その検査問題は後に示すとおりである。また各回とも、その1年下の学年の対照学級に同一または類似の検査を行なって比較した。

検査問題の形式は全部で4種である。各学期末に行なった検査問題の形式は次の表の通りである。

行なった語い検査の問題形式と問題数

学年	学期	問題形式				下の学年	備考
		定義法	用例法(1)	用例法(2)	完成法		
3年	2	30題				3年と同じ	
	3	20題				3年と同じ	2学期と同じもの5語
		15題				3年と同じ	2学期と同じもの7語
4年	1		15題			4年と同じ	} 3, 4, 5年の教科書(T書)から5語ずつ
				15題		2, 3, 4年の教科書から	
	2		15題			4年と同じ	} 10語は1学期と同じ
				10題		4年と同じ	
					10題	4年と同じ	
	3				24題	4年と同じ	
12題					4年と同じ	11語は完成法と同じ	

上の表の4種の問題形式は次のようなものを指す。

- (i) 定義法……その語の定義として最も適当なものを選び出させる。四枝選択。
- (ii) 用例法(1)……その語の使い方として最も適当なものを選び出させる。四枝選択。
- (iii) 用例法(2)……その語の使い方として適当なものを、四つの選択肢から二つ選び出す。採点の際には一つだけ合ったものに1点を、二つとも合ったものに4点を与えた。これは、もしでたらめに○をつけた場合、二つとも合うもの1/6、一つだけ合うもの4/6、二つとも合わないも1/6のとなることからである。
- (iv) 完成法……その語を使った文を一つ示し、その語は仮名書きで、1～2字をぬいておいて、そこになををおきなわせる。(選択法でなく、自由書き入れ法である。ただし、字数はきめてある。)

### 3. 検査問題とその結果

次に示すものは各学期末に行なった検査問題である。各問題、各問ごとに下に示した数字は実験学級における結果、( )内は1年下の対照学級における結果である。その数字は、定義法と用例法(1)においては、各選択枝を選択したものの数を示し、用例法(2)においては、二つとも合ったものの数と一つだけ合ったものの数とをそれぞれ示し、完成法においては、正答者の数を示す。各問題のまとめ(語の選び方など)は、いくつかの問題群ごとに、後にかかげる。

#### 30年度2学期末〔定義法〕

—数字はその選択枝の選択者数、( )の外は3年、内は2年を示す。○印が正答—

つぎの ことばの わけは どれでしょう。よいに ○を つけなさい。  
(くれんしゅう)

- せんめんき (1) ばけつ  
(2) かおを あらうとき、みずを 入れる どうぐ  
(3) おふる  
(4) セメントの きかい

- 1 のろい  
(1) はやい 0 (8)  
○(2) おそい 49 (37)  
(3) わるい 0 (3)  
(4) ねらう 0 (1)
- 2 すばらしい  
○(1) とても よい 47 (28)  
(2) すばしこい 2 (14)  
(3) ばからしい 0 (4)  
(4) やかましい 0 (3)
- 3 ゆれる  
(1) ゆうれいが できる 1 (8)  
(2) わからなくなる 0 (1)  
○(3) ぶらぶら うごく 48 (34)  
(4) めが まわる 0 (6)
- 4 はなざかり  
(1) はなが ちること 1 (7)

- (2) はなが いっぱい さいて いること 44 (37)  
(3) はなの ように きれいなこと 2 (3)  
(4) はなに ちょうちょうが とまること 2 (2)
- 5 ちかよる  
(1) けんぶつする 0 (2)  
(2) ちいさい こえで シャべる 1 (2)  
(3) よちよち あるく 1 (2)  
○(4) ちかつく 47 (43)
- 6 ようやく  
○(1) やつとの ことで 46 (37)  
(2) けっして 0 (1)  
(3) あしたに なって 0 (5)  
(4) はじめから しまいまで 3 (6)
- 7 ほんやり  
(1) おほん 1 (2)  
(2) ほんぼり 0 (12)  
○(3) ぼうと 46 (24)  
(4) ぼうや 2 (11)
- 8 がいこく  
(1) おおきい くに 6 (22)  
(2) つよい くに 0 (4)  
(3) せいようじん 5 (3)  
○(4) よその くに 38 (20)
- 9 ふりむく  
(1) あとへ もどる 0 (4)  
○(2) うしろを むく 49 (48)  
(3) たちどまる 0 (2)  
(4) おじぎを する 0 (1)
- 10 るすい  
(1) おばあさん 0 (2)  
○(2) るすばん 39 (32)  
(3) だれも いない いえ 9 (10)  
(4) さびしい 1 (5)
- 11 みはり  
(1) カチカチと ならすこと 1 (1)  
(2) よそみを すること 1 (4)  
○(3) ばんを すること 47 (38)

- (4) はりで さすこと 0 (6)
- 12 まちどおしい
- (1) 「はやく くれば よいのに なあ」と おもう 43 (32)
- (2) 「まちへ いきたい なあ」と おもう 3 (11)
- (3) 「いやだ なあ、いやだ なあ」と おもう 0 (3)
- (4) 「うれしい なあ、うれしい なあ」と おもう 3 (3)
- 13 さいしょ
- (1) さきほど 4 (12)
- (2) おととい 2 (2)
- (3) あさ 2 (7)
- (4) いちばん はじめ 41 (27)
- 14 よみせ
- (1) よる みちばたで ものを うって いる みせ 46 (33)
- (2) みせに みんなが あつまること 1 (4)
- (3) たいへん よい おみせ 1 (9)
- (4) よる みせること 1 (3)
- 15 まわりみち
- (1) こうえんの まわりみち 8 (25)
- (2) ゆっくり あるく みち 4 (2)
- (3) ぐるぐる まわっている みち 21 (16)
- (4) とおまわりの みち 16 (6)
- 16 はげしい
- (1) ひじょうに あぶない 12 (15)
- (2) ちんぽうで いじめる 4 (16)
- (3) すこし はずかしい 2 (7)
- (4) いきおいが つよい 31 (11)
- 17 ひみつ
- (1) みんなに しらせないこと 35 (18)
- (2) あまい みつ 0 (5)
- (3) やくそく 3 (4)
- (4) たからもの 11 (21)
- 18 よけいなこと
- (1) ひとが こまること 5 (22)
- (2) ひとが よろこぶこと 1 (4)
- (3) いらぬこと 43 (21)
- (4) よいこと 0 (2)
- 19 ひぐれ



- (1) ゆうがた 44 (39)  
 (2) よあけ 5 (3)  
 (3) ひがし 0 (4)  
 (4) おひさま 0 (3)
- 20 ふじでした  
 (1) げんきに なりました 13 (18)  
 (2) ふじさんが みえました 2 (12)  
 ○(3) なんとも ありませんでした 32 (18)  
 (4) その とおりでした 2 (1)
- 21 そまつにする  
 (1) ひとの ものを こわして しまう 6 (13)  
 ○(2) まだ つかえるのに すてたり こわしたり する 35 (15)  
 (3) ものを いつまでも とっておく 8 (21)  
 (4) おきゃくさまに ものを あげる 0 (0)
- 22 ゆくさき  
 ○(1) さいごに つくところ 22 (19)  
 (2) くさに ゆきが つもること 1 (7)  
 (3) ゆきが ふること 2 (3)  
 (4) がいこくへ いくこと 24 (20)
- 23 たどりつく  
 (1) かぶり つく 0 (7)  
 ○(2) やっと つく 47 (32)  
 (3) だきつく 2 (7)  
 (4) てで つく 0 (1)
- 24 さしずする  
 (1) 「あんなことを してるよ」と つげぐちする 0 (6)  
 ○(2) 「こうやれ、ああやれ」と めいれいする 35 (20)  
 (3) 「どうしようか」と かんがえる 3 (12)  
 (4) ものさしで はかる 1 (10)
- 25 十にんいじょう  
 (1) ちょうど 十にん 10 (25)  
 (2) 十にんより すくない 8 (3)  
 ○(3) 十にんより たくさん 25 (17)  
 (4) 十にんより もっと ずっと おおい 6 (4)
- 26 かてい  
 ○(1) うち 33 (11)  
 (2) しゅくだい 8 (19)

- (3) おかあさん 6 (9)
- (4) こどもたち 2 (10)

27 みぞれ

- (1) どろと つちの まじったもの 1 (9)
- (2) あめと ゆきの まじったもの 46 (22)
- (3) あめが ふって つよい かぜが ふく 0 (6)
- (4) くもっていて、ゆきが ふりそうだ 2 (12)

28 いたるところに

- (1) 行って みた ところに 30 (24)
- (2) いえの そとに 4 (8)
- (3) がっこうに いくところ 33 (8)
- (4) どこでも 11 (8)

29 ありのまま

- (1) ありの おかあさん 30 (31)
- (2) ありの ごはん 4 (10)
- (3) そのとおり 9 (7)
- (4) たくさん ある 6 (1)

30 とかい

- (1) いなか 1 (20)
- (2) まち 41 (9)
- (3) たかい 7 (11)
- (4) かたい 0 (8)

まとめは、3学期末用例法(1)の後に書く。

30年度3学期末〔定義法〕

—数字はその選択枝の選択者数、( )の外は3年、内は2年を示す。—

つぎの ことばの わけは どれでしょう。よいのに ○を つけなさい。

<れんしゅう>

せんめんき

- (1) ばけつ
- (2) おふろ
- (3) かおを あらうとき、みずを 入れる どうぐ
- (4) おちゃを 入れる どうぐ

1 はなざかり

- (1) はなが いっぱい さいてい いる こと 38 (34)
- (2) はなが さきはじめた こと 3 (4)

- (3) はなのように きれいな こと 2 (2)  
 (4) きれいな はなが さいて いる こと 5 (10)
- 2 がいこく  
 (1) おおきい くに 3 (17)  
 (2) つよい くに 0 (3)  
 (3) たくさんの くに 0 (1)  
 ○(4) よその くに 45 (29)
- 3 さいしょ  
 (1) さきほど 1 (5)  
 (2) はじめの ほう 7 (12)  
 (3) あさ 1 (3)  
 ○(4) いちばん はじめ 39 (30)
- 4 みぞれ  
 (1) あめが ふって どろんこに なる 1 (7)  
 ○(2) あめと ゆきが まじって ふって くる 44 (34)  
 (3) くもって ゆきが ふりそうだ 1 (5)  
 (4) あめが ふって つよい かげが ふく 2 (4)
- 5 とかい  
 (1) でんしゃの とおって いる みち 3 (8)  
 (2) いなか 2 (16)  
 ○(3) おおきな まち 42 (15)  
 (4) たかい ところ 1 (11)
- 6 かぞく  
 ○(1) うちの ひと 47 (42)  
 (2) たくさんの ひと 0 (4)  
 (3) しんるいの ひと 1 (2)  
 (4) いえで つかって いる ひと 0 (2)
- 7 よふけ  
 (1) ゆうがた 7 (10)  
 ○(2) よなか 21 (28)  
 (3) あさがた 18 (10)  
 (4) こんばん 2 (2)
- 8 あしもと  
 (1) あしの さき 21 (23)  
 (2) あしの ふとい ところ 0 (2)  
 (3) あし あと 1 (6)  
 ○(4) あしの すぐ ちかく 26 (19)

9 きもん

- (1) ふしぎに おもう こと 17 (18)
- (2) ころの なかに おもいついた こと 15 (19)
- (3) はなしあう こと 7 (3)
- (4) なかなか こたえられない こと 1 (10)

10 あふれる

- (1) いっぱいに なって こぼれる 42 (41)
- (2) いれものに みずを 入れる 1 (4)
- (3) たくさん ある 0 (2)
- (4) もう すこしで いっぱいに なる 4 (3)

11 はるさき

- (1) はやく はるが きた こと 3 (12)
- (2) はるの はじめ 42 (31)
- (3) はるの はなが さく ころ 2 (4)
- (4) はるよりも はやく くる ふゆ 0 (3)

12 すばらしい

- (1) とても よい 27 (31)
- (2) すこし よい 0 (4)
- (3) おおきい 1 (2)
- (4) うれしい 19 (13)

13 まちどおしい

- (1) 「はやく くれば よいになあ」と おもう 45 (45)
- (2) 「まちへ いきたいなあ」と おもう 1 (5)
- (3) 「まちは とおいなあ」と おもう 0 (0)
- (4) 「いやだなあ、いやだなあ」と おもう 1 (1)

14 さっそく

- (1) すぐに 47 (38)
- (2) だんだんに 1 (9)
- (3) ちょっと 0 (1)
- (4) たくさん 0 (4)

15 あてな

- (1) とどける さきの ひとの なまえ 33 (36)
- (2) なまえを あてっこ する 2 (3)
- (3) なまえが わからない 10 (5)
- (4) ともだちの なまえ 2 (6)

16 なみ木

- (1) みちに ならべて うえて ある 木 36 (23)

- (2) ふとい 木 3 (6)  
 (3) 木を きって ならべる 5 (6)  
 (4) なみに ういて いる 木 4 (15)
- 17 りょうしん  
 (1) さかなを とる ひと 25 (29)  
 ○(2) おとうさんと おかあさん 2 (12)  
 (3) おとなりの ひと 21 (5)  
 (4) いえの ひと 2 (4)
- 18 まんいち あめが ふったら  
 (1) つよく あめが ふったら 4 (15)  
 (2) すこし あめが ふったら 4 (4)  
 ○(3) もし あめが ふったら 18 (5)  
 (4) あしたも あめが ふったら 22 (26)
- 19 のはら いちめん  
 (1) のはらの むこうの ほうに 7 (10)  
 (2) のはらの どこかに 2 (2)  
 ○(3) のはらの どこにも みな 25 (15)  
 (4) のはらの つちの うえに 14 (23)
- 20 とうちゃく しました  
 (1) いって しまいました 0 (8)  
 ○(2) つきました 41 (30)  
 (3) きしゃで きました 5 (11)  
 (4) あるいて きました 1 (1)

この問題についてのまとめは、3学期末用例法(1)の後に書く。

### 30年度3学期末〔用例法〕

—数字はその選択枝の選択者数、( )の外は3年、内は2年を示す。—

つぎの ことばの つかいかたの よいと おもう ぶん<sup>ぶん</sup>に ○を つけなさい。  
 <れんしゅう>

はっしゃ

- (1) わたしは まいあさ がっこうに はっしゃ します。  
 (2) バスが はっしゃ しました。  
 (3) ふねが きしの ほうを はっしゃ して います。  
 (4) おかあさんは ゆうごはんの よういを はっしゃ しました。

#### 1 はげしい

- (1) わたくしは はげしい <sup>みづ</sup>水を のんだ。0 (5)

- (2) わたしは はげしい <sup>ちから</sup>力が あるので すもうが つよい。 5 (8)
- (3) そらには はげしい くもが うかんで いる。 1 (11)
- (4) はげしい かぜが ふいて へいが たおれそうだ。 41 (22)
- 2 ふじ
- (1) わたしは びょうきが なおって ふじに なりました。 8 (13)
- (2) にいさんは 大きく なって たいへん ふじです。 4 (3)
- (3) まちに <sup>おおみづ</sup>大水が でしたが わたしたちは ふじでした。 36 (31)
- (4) きのおの おてんきは ふじでした。 0 (3)
- 3 たどりつく
- (1) つかれた あしを ひきずって やっと まちまで たどりつきました。  
40 (27)
- (2) じどうしゃは スピードを だして すぐに いえまで たどりつきました。  
4 (11)
- (3) わたしは えんがわで まりを たどりつきました。 0 (3)
- (4) わたしたちは まいあさ げんきに がっこうに たどりつきます。 3 (9)
- 4 さしず する
- (1) わたしは べんきょうを どうしようかと さしずして います。 2 (6)
- (2) わたしたちは <sup>せんせい</sup>先生の さしずに したがって 大そうじを はじめました。  
37 (25)
- (3) ともだちが わたしの ことを さしずしました。 5 (7)
- (4) わたしは こうさくの ときに ものさしで きちんと さしずしました。  
4 (12)
- 5 いたるところに
- (1) うみには いたるところに <sup>みづ</sup>水が あります。 6 (14)
- (2) わたしの いえの もんの いたるところに さくらが さきました。  
10 (12)
- (3) こうえんの いたるところに さくらの 木が うえて あります。 23 (17)
- (4) きのお おとうさんと いたるところに 一ぼんの やなぎの 木が かれて いました。 9 (7)
- 6 まわりみち
- (1) その みちは まわりみちだから とおいよ。 30 (19)
- (2) その みちは まっすぐで よい まわりみちだ。 3 (11)
- (3) その みちは どこまでも まわりみちだから いつでも とおります。  
7 (9)
- (4) その みちは ちかいから まわりみちだよ。 8 (11)
- 7 しきりに
- (1) おとうさんは まいにち しきりに でんしゃに のって います。 6 (13)

- (2) ゆきが しきりに ふって います。 30 (15)
- (3) おつきさまが しきりに でした。 1 (6)
- (4) はなが しきりに さいて います。 11 (16)
- 8 ありのまま
- (1) 山には 木が たくさん あって ありのままでした。 10 (11)
- (2) みちを ありのままに あるいて いました。 7 (12)
- (3) まちは ありのままに なりませんでした。 1 (5)
- (4) ちっとも かざらずに ありのままの すがたを みせました。 50 (22)
- 9 けんがく
- (1) わたしは うちの ラジオを けんがく しました。 0 (10)
- (2) わたしたちは こうじょうを けんがく しました。 44 (24)
- (3) わたしたちは <sup>おがわ</sup>小川の きしに さいて いる くさばなを けんがく しました。 0 (4)
- (4) こうえんの さくらが きれいに さいたので けんがくに いきました。 4 (12)
- 10 やがて
- (1) けさは おそいので やがて がっこうに いきました。 2 (3)
- (2) あかんぼが うまると やがて おじいさんに なりました。 3 (4)
- (3) そらが くもって きて やがて あめが ふりだしました。 35 (26)
- (4) パッと でんきが きえると やがて まっくらに なりました。 7 (17)
- 11 いちもくさんに
- (1) みんなが いちもくさんに ならんで きました。 1 (8)
- (2) きしゃが いちもくさんに はしって います。 7 (12)
- (3) がっこうから かえると いちもくさんに べんきょう します。 4 (6)
- (4) てきは いちもくさんに にげました。 36 (24)
- 12 うなずく
- (1) いしに うなずいて たおれた。 3 (10)
- (2) 「あそぼう」と いったら、まさおさんは 「うん」と 言って うなずいた。 31 (25)
- (3) はなこさんは よそみをして、せんせいに うなずかれた。 5 (7)
- (4) せんせいに よばれて、「はい」と げんきに うなずいた。 9 (8)
- 13 めっきり
- (1) 12がつに なって めっきり さむく になりました。 27 (12)
- (2) おとうさんから おみやげを もらって めっきり うれしく になりました 3 (11)
- (3) さっき けがした ところが めっきり いたく になりました。 8 (13)
- (4) きょうは あめが めっきり ふって きました。 9 (7)

14 ささやく

(1) みちを きかれて はっきりと ささやきました。 7 (12)

○(2) だれかが ちいさな こえで ささやきました。 32 (18)

(3) 「おい」と おおごえで ささやきました。 2 (15)

(4) だれかが とおくから ささやきました。 6 (5)

15 あんない

(1) ぼくは みちが わからなくなって あんないした。 10 (10)

(2) きのうち みんなで 山に あんないして おもしろかった。 0 (7)

(3) ラジオで じょうずな せんたくの しかたを あんないした。 1 (8)

○(4) いなかから きた ともだちを どうぶつえんに あんないした。 36 (25)

〔まとめ〕 2, 3学期の検査問題の語は、次の2つのものから選んだ。

(i) 29年度の検査に提出した語。

(ii) 「国語学力標準設定に関する調査研究」における問題形式A (国立国語研究  
所年報2) のうち3年生の正答率が、あまり高くも低くもないもの。

三つの検査のそれぞれの総合得点の平均と標準偏差は次の通りである。( ) 内は  
標準偏差。

	3年	2年
2学期末定義法 (30点満点)	23.3(2.7)	14.3(5.3)
3学期末定義法 (20点満点)	14.5(2.9)	11.0(3.5)
3学期末用例法 (1) (15点満点)	10.7(2.9)	6.8(3.2)

31年度 1・2学期末〔用例法(一)〕

—数字はその選択枝の選択者数；( )の外は4年，内は3年を示す；{ }  
の外は1学期末，内は2学期末—

つぎの もんだいは、イロハニの四つのうち、正しいものが 一つあります。その  
正しいものに ○を つけなさい。

れんしゅう		
	イ じどうしゃが	} あるく。
1	ロ ひとが	
	ハ きんぎょが	
	ニ ひこうきが	
	2 はっきり	} {
イ こたえる。		
ロ ねる。		
ハ うまれる。		
ニ はしる。		

1	○イ すなほこりが	} まいあがる。	49(41)	} {	43(45)
	ロ おつかいに		0 (0)		0 (0)
	ハ たけのこが		0 (7)		2 (5)
	ニ でんきが		0 (0)		0 (0)



- 2  $\left. \begin{array}{l} \text{イ あたまの うえを} \\ \text{ロ あせを びっしょり} \\ \text{ハ おとうさんの かおを} \\ \text{○ニ おもしろかったことを} \end{array} \right\} \text{書きぬく。} \begin{array}{l} 0(4) \\ 5(4) \\ 6(0) \\ 38(35) \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 0(2) \\ 1(2) \\ 8(7) \\ 37(39) \end{array} \right\}$
- 3  $\left. \begin{array}{l} \text{せっせと} \\ \text{○イ わらいました。} \\ \text{ロ はたらきました。} \\ \text{ハ しっばいしました。} \\ \text{ニ 大きくなりました。} \end{array} \right\} \begin{array}{l} 0(1) \\ 49(48) \\ 0(0) \\ 0(0) \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 0(0) \\ 46(49) \\ 0(0) \\ 0(1) \end{array} \right\}$
- 4  $\left. \begin{array}{l} \text{イ めだかが} \\ \text{ロ 雨が} \\ \text{○ハ 身を} \\ \text{ニ ラジオたいそうを} \end{array} \right\} \text{かわした。} \begin{array}{l} 1(1) \\ 2(1) \\ 43(40) \\ 2(7) \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 1(4) \\ 1(0) \\ 41(40) \\ 2(4) \end{array} \right\}$
- 5  $\left. \begin{array}{l} \text{身のまわりを} \\ \text{○イ きちんとする。} \\ \text{ロ おいかける。} \\ \text{ハ 見つける。} \\ \text{ニ かける。} \end{array} \right\} \begin{array}{l} 43(43) \\ 0(1) \\ 5(4) \\ 1(1) \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 45(44) \\ 1(0) \\ 0(4) \\ 0(1) \end{array} \right\}$
- 6  $\left. \begin{array}{l} \text{斜面を} \\ \text{○イ のぼる。} \\ \text{ロ かぶる。} \\ \text{ハ 出す。} \\ \text{ニ ひらく。} \end{array} \right\} \begin{array}{l} 28(13) \\ 8(23) \\ 3(4) \\ 11(9) \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 23(12) \\ 4(24) \\ 2(5) \\ 17(8) \end{array} \right\}$
- 7  $\left. \begin{array}{l} \text{ゆかいに} \\ \text{イ うまれた。} \\ \text{ロ いそいだ。} \\ \text{○ハ あそんだ。} \\ \text{ニ くるしんだ。} \end{array} \right\} \begin{array}{l} 0(5) \\ 1(2) \\ 48(42) \\ 0(0) \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 0(2) \\ 0(0) \\ 46(48) \\ 0(0) \end{array} \right\}$
- 8  $\left. \begin{array}{l} \text{イ かさを} \\ \text{○ロ すこし前に} \\ \text{ハ ごみや石を} \\ \text{ニ 空を} \end{array} \right\} \text{かがんだ。} \begin{array}{l} 2(16) \\ 42(27) \\ 0(1) \\ 5(5) \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 7(8) \\ 38(30) \\ 0(6) \\ 1(6) \end{array} \right\}$
- 9  $\left. \begin{array}{l} \text{意味の} \\ \text{○イ あること。} \\ \text{ロ きれいな ひと。} \\ \text{ハ めいじん。} \\ \text{ニ ひとびと。} \end{array} \right\} \begin{array}{l} 39(24) \\ 6(14) \\ 4(6) \\ 0(5) \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 43(39) \\ 1(10) \\ 1(1) \\ 1(0) \end{array} \right\}$
- 10  $\left. \begin{array}{l} \text{イ ボートの} \\ \text{○ロ ゆうはんの} \\ \text{ハ どうぶつえんの} \\ \text{ニ だいがくの} \end{array} \right\} \text{こんだて。} \begin{array}{l} 1(3) \\ 43(20) \\ 2(11) \\ 3(14) \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 1(4) \\ 39(31) \\ 4(11) \\ 2(4) \end{array} \right\}$
- 11  $\left. \begin{array}{l} \text{根気よく} \\ \text{○イ つづけていた。} \\ \text{ロ だまされた。} \\ \text{ハ はれた。} \\ \text{ニ あえた。} \end{array} \right\} \begin{array}{l} 32(28) \\ 9(7) \\ 6(9) \\ 2(2) \end{array}$

- 12
- |    |      |      |         |        |
|----|------|------|---------|--------|
| イ  | はたが  | ひらひら | } ざわめく。 | 3 (4)  |
| ロ  | へいわな | くにを  |         | 8(13)  |
| ○ハ | みんなが | きゅうに |         | 34(29) |
| ニ  | あたりが | しーんと |         | 4 (3)  |
- 13 危険は
- |    |          |        |
|----|----------|--------|
| イ  | べんぎょうした。 | 3 (7)  |
| ロ  | 空をとんだ。   | 6 (7)  |
| ハ  | 食べた。     | 0 (7)  |
| ○ニ | ない。      | 40(28) |
- 14 費用が
- |    |        |        |
|----|--------|--------|
| イ  | 売ってある。 | 10 (6) |
| ロ  | 見える。   | 4(24)  |
| ハ  | 行く。    | 1 (3)  |
| ○ニ | かかる。   | 34(14) |
- 15 ありさまが
- |    |         |        |
|----|---------|--------|
| イ  | やってくる。  | 19(29) |
| ロ  | きれた。    | 0 (4)  |
| ○ハ | つたえられた。 | 7 (6)  |
| ニ  | おこった。   | 23(10) |
- 11' 手ごたえが
- |    |             |         |        |
|----|-------------|---------|--------|
| イ  | 元気よくあがる。    | } 4(16) |        |
| ロ  | はきはき のべられる。 |         | 4(14)  |
| ハ  | とりつけられた。    |         | 6 (5)  |
| ○ニ | まったく ない。    |         | 32(15) |
- 12' かがくは
- |    |      |        |          |        |
|----|------|--------|----------|--------|
| ○イ | かがくは | ずいぶん   | } しんぼした。 | 28(24) |
| ロ  | 私は   | べんぎょうを |          | 5 (9)  |
| ハ  | おにが  | 3ぼ     |          | 2 (3)  |
| ニ  | とても  | いたかったが |          | 10(14) |
- 13' 雨にも
- |    |       |             |        |        |
|----|-------|-------------|--------|--------|
| イ  | ぬれない  | } よゆうが ほしい。 | 2 (8)  |        |
| ○ロ | ゆっくり  |             | かんがえる  | 40(19) |
| ハ  | 山田さんの |             | きれいな   | 0(14)  |
| ニ  | あの    |             | おいしそうな | 3 (9)  |
- 14' 「今のうちに やってしまえ。」と
- |    |                   |          |        |
|----|-------------------|----------|--------|
| ○イ | 「今のうちに やってしまえ。」と  | } けしかけた。 | 40(23) |
| ロ  | 「あしたは えんそくです。」と   |          | 1 (9)  |
| ハ  | 「おとうさんは おられますか。」と |          | 2(10)  |
| ニ  | 「ふゆが来れば さむくなる。」と  |          | 1 (8)  |
- 15' 「まだ して くないの。」と
- |    |                      |           |        |
|----|----------------------|-----------|--------|
| ○イ | 「まだ して くないの。」と       | } さいそくした。 | 39(28) |
| ロ  | 「きのうは 雨だった。」と        |           | 0 (6)  |
| ハ  | 「きみは ぼくより せがたかい。」と   |           | 0 (5)  |
| ニ  | 「だれか わかる人は ありませんか。」と |           | 6(11)  |
- 〔まとめ〕 は用例法(2)のあとに書く。

— "2-" は2つとも正しいものの数, "1-" は1つだけ正しいものの数;  
 ( )の外は4年生, ( )内は3年生を示す; { }の外は1学期末, ( )  
 内は2学期末—

つぎの もんだいは、イロハニの四つのうち、正しいものが 二つあります。それ  
 は、どれと、どれですか。その 二つに ○を つけなさい。

〈れんしゅう〉		
1	ひこうき	○イ ひこうきが空をとんでいます。
		□ わたくしは、毎あさ ひこうきに みずを やります。
		○ハ ひこうじょうに ひこうきが おりてきました。 ニ ひこうきは、海のそこを はやく はしります。
2	けっして	イ ぼくは けっして はやおき します。
		□ この いぬは りこうだから、けっして 人を かみま せん。
		ハ 「これから けっして わるいことは いたしません。」 と いいました。 ニ このあいだから けっして 三日に なります。
3	うまれる	イ ぼくは あしたは もっと はやく うまれます。
		□ あかちゃんが うまれました。
		ハ おとうさんが たばこを うまれています。 ニ このあいだ うまれた いぬに ベコという なまえを つけました。

1	話しこむ	○イ おいそがしいときに、すっかり 話しこんでしまっ すみませんでした。	(2-22) (1-26)
		○□ げんかんで おかあさんと おばさんが さっきから 話しこんでいます。	
		ハ あまりはやく 話しこんだので よく わからなかつ した。 ニ 大田さんは、大ぜいのまえでも はずかしがらず、す らすらと じょうずに 話しこみました。	
2	道ばた	イ この道は せまいので 大きなじどうしゃは 道ばたに あたって とおれませぬ。	(2-11) (1-30)
		○□ 道ばたに はえている 草をつみました。	
		○ハ 道ばたに やおやさんが みせを 出していました。 ニ とうきょうの 道ばたから よこはまの 道ばたまで 26キロメートル あります。	
		イ 川には はしが よりかかって います。	
		○□ そんなものに よりかかっていたら たおれるよ。	

- 3 よりかかって ○ハ 女の人が かいだんの てすりに よりかかって (2-29)  
立っていました。 (1-19)  
ニ はえが てんじょうに よりかかって いました。
- 4 それにしても ○イ 「とけいが 20ぶん おくれて いたのだよ。」  
「それにしても、ちょっと おそすぎるね。」  
ロ キのう、みずたにさんが それにしても がっこ (2-13)  
うへ きました。 (1-34)  
ハ なつは あつい。それにしても、ふゆは さむい。  
○ニ すんだことは しかたがないが、それにしても  
さんねんだ。
- 5 はね出す。 ○イ おとうとは 口を はね出して いっしょうけんめ  
いに シャベった。  
○ロ ふとんを めくると いなごが たくさん はね出  
したので びっくりした。 (2-21)  
ハ なつには すいかが やおやさんに はね出しま  
す。 (1-24)  
○ニ たいへんだ。きんぎょが はちから はね出した。
- 6 はつね 発見 ○イ ちきゅうの いんりょくを 発見したのは ニュ  
ートンです。  
ロ 100年まえには、まだ じどうしゃも 発見され 2-20 (2-19)  
て いなかった。 1-29 (1-28)  
○ハ ちかしつに かくしてある じどうしゃを 発見 {2-30 (2-16)}  
した。 {1-16 (1-31)}  
ニ こんどの えんそくは、はくらん会を 発見に  
行きます。
- 7 なにしろ ○イ 「ずいぶん あついね。」「なにしろ かんだん  
けいは、30どを こえて いるのだからね。」  
○ロ なにしろ こんなに 大きな 石が あたっ 2-39 (2-29)  
ただから たまりません。 1-10 (1-19)  
ハ 春が すんだら なにしろ なつが やって {2-4 (2-33)}  
きた。 {1-3 (1-17)}  
ニ きみも 行くね。なにしろ ぼくも 行くけ  
れど。
- 8 こうたい ○イ 大山さんが クラスいいんを こうたいして  
かわりに 大川さんが になりました。  
○ロ 大川くんが 大山さんと こうたいして、ク 2-11 (2-8)  
ラスいいんに になりました。 1-35 (1-33)  
○ハ 小川さんと 小山くんは 五ふんずつの こ {2-20 (2-8)}  
うたいで にもつを もちました。 {1-22 (1-36)}

- ニにもつが おもくて ひとりでは うごかないので ふたりが こうたいで もちあげました。
- 9 ふるくさい {
 ○イ 「男が 女より えらい」というのは ふるくさい まちがった <sup>ぶんがく</sup> 考えです。
 □ まんじゅうを 1しゅうかん おいて おいたら、ふるくさい においが しました。 2-10 (2-2)
 ハ このお話は 300年も まえに できて、いまの 人の ためにもなる ふるくさい よいお話です。 { 1-31 (1-30)
 { 2-10 (2-7)
 { 1-31 (1-28)
 ○ニ ふるくさい かの おんぼろバスが はして きました。
- 10 わけ {
 ○イ まったく わけが わからない。
 □ きのは ひじょうに わけの よい <sup>はな</sup> お話を きいた。 2-32 (2-17)
 { 1-17 (4-46)
 { 2-42 (2-33)
 ハ 1+1= の わけは 2です。 { 1-3 (1-15)
 ○ニ わけを きいて なるほどと 思いました。
- 11 しゅるい {
 ○イ これは ひじょうに めずらしい しゅるいの <sup>はな</sup> 花だ。
 ○□ 犬には いろいろの しゅるいがある。 2-30 (2-21)
 { 1-27 (1-18)
 ハ 「はな」という ことばは、「は」と「な」の 2つの しゅるいに わけられる。 { 2-31 (2-25)
 { 1-15 (1-24)
 ニ ここにある いろいろの 花を 2つにしゅるい しなさい。
- 12 りょう <sup>りょう</sup> 利用 {
 ○イ こうこくの うちを 利用して ちょうめんをつくりました。
 □ ひよこが 大きくなつたので、木で とりごやを 利用しました。 2-26 (2-15)
 { 1-22 (1-29)
 { 2-32 (2-21)
 ハ おなじものなら、やすい方が 利用になる。 { 1-13 (1-24)
 ○ニ 本を よみたい人は としょかんを 利用しなさい。
- 13 しぜんに {
 イ 水を しぜんに のまないで 一度に たくさんの むと おなかを こわす。
 □ よその きょうしつの まえは、しぜんにあるかなければ なりません。 2-36 (2-18)
 { 1-13 (1-22)
 ○ハ たねさえ まいて おけば しぜんにはえってくる。 { 2-37 (2-21)
 { 1-8 (1-27)
 ○ニ こんな けがぐらい、くすりを つけなくても しぜんになおるだろう。

- 14 ふりだし {
- イ もういちど ふりだしに もどって やりなおしなさい。
  - はじめから ふりだしまで やりとおした。 2-12 (2-11)
  - △ 先生を ふりだしにして、みんなが ならんで 歩きました。 { 1-35 (1-30)  
2-14 (2-13)  
1-30 (1-35) }
  - ニ かんじんの テストを ふりだしに いろいろの テストを うけました。

- 15 めんどう {
- イ まいにち 一つずつ 書くのは めんどうだから、一度に 書いて しまおう。
  - きょうの しゅくだいは むずかしくないが めんどうだ。 2-44 (2-21)  
1-5 (1-26)
  - △ あの人 は あたまで めんどうで べんきょうが よく できる。 { 2-38 (2-29)  
1-7 (1-17) }
  - ニ となりの ラジオが やかましいので、ぼくは めんどうだ。

- 1 み 身なり {
- イ その子どもは きたない 身なりを していました。
  - あの人 は 手や 身なりを つかって 話すので おもしろい。 2-31  
1-16
  - △ あの人 は 身なりを かまわない 人です。
  - ニ おとうとは 身なりを ぜんぶ ぬぎました。

- 2 なみだぐむ {
- イ その話をきいて なみだぐまない人は ありません。
  - いもうとが アーン、アーンと なみだぐみました。 2-26
  - △ しょうがが あまり からかったので おもわず なみだぐみました。 1-20
  - ニ ねえさんは、こころを うたれて なみだぐみました

- 3 こしょう {
- イ ぼくは よく こしょうして わらわれる。
  - 九九を まちがえないで 言おうとおもうが、いつも こしょうする。 2-44  
1-4
  - △ でんしゃの こしょうのために おくれました。
  - ニ ラジオが こしょうしたら、ラジオ屋さんで なおしてもらいなさい。

- 4 ほうほう 方法 {
- イ おいしゃさんは びょうきを なおす 方法を しています。
  - お日さまが うごくのではなくて、ちぎゅうが まわるのだという 方法を ならいました。 2-22  
1-14
  - △ わたくしたちは たしさんと ひきさんの けいさんの 方法を ならいました。
  - ニ この方法に まっすぐ 行くと、びょういんの 前に 出ます。

- 5 ころよく
- イ すずしいかぜが ころよく ふいてきました。
  - みんな わるいことばかり しないで、もっと ころよく なりなさい。
  - ハ きむらさんは、わたしが たのんだしごとを ころよく 2--19  
よく ひきうけてくれました。 1--26
  - ニ まんざいを きいていたら、あまり ころよくて、  
みんなが わらった。

〔まとめ〕 31年度1・2学期に行なった用例法(1)(2)に提出した語は、実験学級で使っている教科書であるT書「新編新しい国語」から選んだが、その出ている学年は次の表に示す通りである。次の表は、実施結果の得点を示すものである。空欄は実施していないものである。

被 検 者		検査問題												
		問題形式	用例法 (1)						用例法 (2)					
学 期	学 年	問題番号 (満点)	1~5 (5)	6~10 (5)	11~15 (5)	11'~15' (5)	合計 (15)	標準 偏差	1'~5' (20)	6~10 (20)	11~15 (20)	1~5 (20)	合計 1学期60 2学期40	標準 偏差
		出 所 教科書	3年 (I)	4年 (I)	5年 (I)	4年 (I, II)			2年 (I)	3年 (I)	4年 (I)	5年 (I)		
1	4		※ 4.5	※ 4.1	3.0		11.6	1.7		※ 11.6	※ 14.0	14.0	39.6	8.8
	3		※ 4.2	2.6	2.1		8.9	2.6	※ 10.5	※ 9.0	9.8		29.3	9.5
2	4		※ 4.6	※ 4.1		※ 3.9	12.6	1.8		※ 14.3	※ 14.5		29.0	5.3
	3		※ 4.3	3.2		2.2	9.7	2.3		※ 10.3	11.3		21.6	7.7

※はすでに教科書で習った語の場合

### 31年度2学期末〔完成法〕

—〔 〕内は答；数字は正答数；( )の外は4年（総数46名），内は3年（総数49名）を示す。—

つぎの 文の 一つの □ の 中に ひらがなを 一つずついれなさい。

(例) ふ □ には ゆきが ふります。ゆきが ふると みんなで ゆ □ たる  
ま □ をつくります。

れんしゅう 1 まさおさんは おつか □ に 行く とき、いつも ぼうしを

かぶっ□□ 行きます。

2 大山さんは えを て□□らんか□□に 出しました。

3 ぼくは からだが じょうぶだから けっして びよ□□きに  
ならない。

1 へやの そうじを した あとに だれかが ここへ きた ことは たしかで  
す。その しょう□□に 大きな あしあとが たくさん ついて います。〔こ  
じ〕 39 (32)

2 うんどうかいの ポスターの はしの ほうに 「う□□んの ばあいは ちっ  
うし」と 書いて ありました。これは「もし あめが ふったら やめる」と  
いう ことです。〔て〕 7 (4)

3 さかなを とる ふねは、けさも ならんで お□□の 方へ 出て 行きまし  
た。〔き〕 41 (39)

4 大山さんの にいさんは、きのう 自どうしゃの うんてんしゅの しけんを  
うけました。しけんの けっ□□は、あざって はっぴょうされるそうです。〔か〕  
40 (32)

5 きのもう、山田はかせと いう おいしゃさんの「けん□□□について」という  
お話を ききました。この お話の なかで 山田はかせは、「からだを じょう  
ぶに して おく ことが、なによりも たいせつである。」と なんども いわれ  
ました。〔こう〕 16 (11)

6 山川さんが、「ゆうべ ゆうれいを みた。」と 言いました。みんなか「うそだ  
うそだ。」と 言いました。しかし、山川さんは「ほんとうに みた。」と 言いはり  
ました。そこで、先生が「きっと なにかが ゆうれいのように みえたのだろ  
う。山川さんが ゆうれいを みた ときの ようすを、あり□□ま□□に 話  
して ござんなさい。」と おっしゃいました。〔の一ま〕 14 (15)

7 まがりかどから 自てん車が ふ□□に あられたので、びっくりしました。  
〔い〕 37 (30)

8 「3じかんも まえに うちを 出て、今ごろ つくなんて どうしたのですか。」  
「すみません。ちょっと ま□□りみ□□を したものですから。」〔わーち〕 26(24)

9 まちじゅう いた□□とこ□□で ねあげはんたいの えんぜつかいを やって



いました。〔るーろ〕19 (6)

10 だまって 出て 行きましたので、どこへ 行ったか わからないのです。ゆ  
□さ□が わかって いたら、 でんわでも かけるのですが。〔くーき  
(きーき)〕39 (32)

まとめは3学期末定義法の後に書く。

### 31年度学3期末〔完成法〕

—〔 〕内は正答；数字は、( )の外は4年(総数47名)、内は3年(総  
数50名)を示す。—

- 1 はがきには あて□を かかなければ なりません。〔な〕46 (45)
- 2 りょうしは きょう とった えも□を かたに かついで かえりました。  
〔の〕46 (49)
- 3 この 本の てい□は 120円です。〔か〕32 (28)
- 4 ぬかる□の 中を あるいて きたので くつが だるだるに なった。〔み〕  
26 (14)
- 5 100点まん点の しげんで 80点とったのですから 80パー□ント できた  
わけです。〔せせ〕34 (38)
- 6 このあいだの しげんの へいき□てんは 85点でした。〔ん〕38 (36)
- 7 「まあ まあ そんなに おこらないで。」と な□めました。〔だ〕22 (1)
- 8 みんなの いけんを まと□ると、 どういうことになり ますか。〔め〕46  
(42)
- 9 あなたが りっぱな ひとに なるのを きた□して います。〔い〕35(32)
- 10 げいのうかいを 3月24日に することか けて□しました。〔い〕43(38)
- 11 へい□いから よく れんしゅう して おかないと いざと いう ときに  
まに あいません。〔せ〕1 (0)
- 12 おばあさんは たくさん たからものを もらったので とても まん□くで  
した。〔ぞ〕31 (22)
- 13 よくばりじいさんは わるいことばかり した ことの む□いとして、めく

らに なって しまいました。〔く〕18 (13)

14 こんやは お月さまが 出ません。や□よです。〔み〕14 (17)

15 かいどうまるは おおかみに おいかけられて、大きな かきの 木に よ□  
のぼりました。〔じ〕33 (27)

16 びんぼうな メリーは み□ぼら□い みなりを して いましたが、心の  
うつくしい 少女でした。〔すーし〕27 (18)

17 この お話の さ□しゃは だれですか。〔く〕41 (27)

18 あの人の せん□は とよとみひでよしたそうです。〔ぞ〕29 (13)

19 はげしい うんどうを した 日の よく□つは ほんとうに きもちがよい  
〔じ〕40 (33)

20 川村さんは いつも れき□の本を よんで いるので、100年も 200年も  
まえの ことを よく しています。〔し〕42 (38)

21 あの おじさんは、おとなの くせに まんがを よんでいる。まったく あき  
□た 人だね。〔れ〕47 (44)

22 むかし あるところに まつばを たべて おもゆを す□る おじさんが  
ありました。〔す〕9 (0)

23 しらない人が へやの 戸を あけて、ぼくの ところへ つか□□と や  
ってきて、いきなり ノートを とりあげました。〔つか(いだ)〕36 (31)

24 みちを まがってから ふ□みると おかあさんが せんせいと たちばな  
しを して いました。〔と〕34 (35)  
まとめは定義法の後を書く。

### 31年度3学期末〔定義法〕

—数字はその選択枝の選択者数、( )の外は4年、内は3年を示す。—  
つぎのことばの わけは どれでしょう。よいのに ○を つけなさい。

<れんしゅう>

口

- 1 かおに あって、においを かいだり いきをしたり するもの。
- 2 かおに あって、たべたり、ものを 言ったり するもの。

- 3 ゆびのさきにある うすくて かたくて 光って いるもの。  
 4 字を書いたり、ものを つかんだり ながったり するもの。

(1) えもの

- 1 りょうしが とった しかや うさぎなど。 30 (27)  
 2 どうぶつえんの どうぶつ。 0 (1)  
 3 森に すんでいる いのししや うさぎなど。 17 (21)  
 4 りょうしが つれていく 犬。 0 (1)

(2) 決定

- 1 はじめに きめて おくこと。 5 (3)  
 2 国と国とが とりきめを むすぶこと。 8 (14)  
 3 うんどうかいや がくげいかいを すること。 1 (3)  
 ○4 はっきり きまること。 33 (27)

(3) せんぞ

- 1 おはかのこと。 0 (4)  
 2 だいぶつや かんの人などの ほとけさま。 5 (18)  
 ○3 おじいさんや おばあさんや、また その おじいさんや おばあさんや、  
 また その おじいさんや おばあさんなど。 41 (24)  
 4 こどもや まごや また その こどもや まごや また その こどもや  
 まごなど。 1 (3)

(4) ぬかるみ

- 1 水たまりのこと。 4 (5)  
 2 すこし ぬるい おゆ。 4 (3)  
 3 だいこんや やさいの つけもの。 6 (2)  
 ○4 みちや ひろばなどの どろどろに なっているところ。 33 (38)

(5) まんぞく

- 1 ひじょうに たくさん あること。 4 (4)  
 2 もう なにも たべられないほど おなか いっぱいになること。 9 (11)  
 ○3 「もう これいじょう なにも いらぬ。」と いう きもちになること。  
 29 (24)  
 4 めったにないこと。 5 (5)

(6) 歴史の本

- 1 むかしの 人が 書いた本。 7 (16)  
 ○2 むかしから 今まで どういうふうに かわって きたかを 書いた本。  
 24 (15)  
 3 おおむかしに あった お話のことを 書いた本。 16 (19)  
 4 「むかし むかし あるところに」と 書いてある本。 0 (7)

(7) 付近

- 1 ちかくの ところ。 44 (30)
- 2 がっこうの そば。 1 (9)
- 3 あそぶところ。 2 (5)
- 4 がっこうの かえりみち。 0 (5)

(8) やみよ

- 1 月の 出ない くらい 夜。 40 (33)
- 2 森の 中や 山の 上の 夜。 5 (9)
- 3 かぜが ふいて おそろしい 夜。 1 (2)
- 4 あめの ふる しずかな 夜。 1 (5)

(9) すする

- 1 すみを する。 5 (4)
- 2 すうすうと おとを たてて すう。 24 (19)
- 3 少しずつ のむ。 17 (21)
- 4 さるが 木に のぼる。 1 (5)

(10) まとめる

- 1 たくさんの 中から いちばん よいものを とりだす。 5 (6)
- 2 やくそくする。 0 (2)
- 3 たくさんの ものを、せいりして いっしょにする。 42 (37)
- 4 ほかの ことばで いいかえる。 0 (0)

(11) みすばらしい

- 1 みんなに 見せてられた。 3 (7)
- 2 見るのも ばからしい。 6 (9)
- 3 見たときに「これは すばらしいなあ」、「きれいだなあ」と 思われるような。  
3 (12)
- 4 見たときに「かわいそうだなあ」、「びんぼうだなあ」と 思われるような。  
35 (21)

(12) ふと

- 1 べつに なんと ということなく、ただ ちょっと。 26 (13)
- 2 よく ちゅうい して ながめて みると。 4 (6)
- 3 じろじろと。 1 (8)
- 4 あまり きゅうなので びっくりして。 16 (23)

[まとめ] 2・3学期末の完成法および3学期の定義法の問題に提出した語は、前記「国語学力標準設定に関する調査研究」から選んだ。2学期末はその「問題形式A」から3学期の両検査は「問題形式B」から選んだものである。また定義法12語のうちの11語は、3学期の完成法24語のうちの11語と重なっている。なお3学期の両検査は完成法を先に行なった。

3 検査の得点の平均は次の通りである。( )内は標準偏差。

	4 年	3 年
2 学期末完成法 (10点満点)	6.0(2.1)	4.6(2.1)
3 学期末完成法 (24点満点)	16.5(4.2)	12.8(4.3)
3 学期末定義法 (12点満点)	8.5(2.4)	6.3(2.6)

## B 結果の分析

検査結果の内容分析は、後に6か年を通じて行なうこととし、本報告では、問題形式の検討に当って問題になることを3つ拾いあげてのべる。

### 1. 定義法と用例法

ある語を定義できるということと、使用できるということは別ではないか、という疑問がある。このことを、30年度の検査結果から少し考察してみる。

(1) 定義法における3年生と2年生

2・3学期の定義法検査で、3年生と2年生にかなり成績の開きがあったのは、次の語問である。

2学期……2, 7, 8, 13, 15, 16, 17, 18, 20, 21, 24, 26, 30

3学期……2, 5, 16, 18

これらの問題で、2年生がなぜできなかったかを考えてみると、次のように分類できる。

(i) 発音の似ているものにひかれた……(≡) 2, 7, 13, 24; (≡) 16

(ii) 反対の意味のものをえらんだ……(≡) 21, 30; (≡) 5

(iii) 定義の形になってないものをえらんだ……(≡) 15

(iv) その語のとらえ方がちがっているもの……(≡) 8, 16, 17, 20, 26; (≡) 2, 18

以上のうち、(iv)はその語に対する理解のしかたの不十分さが成績の差となつてあらわれたものであるといえる。また(i)は、そのうちのあるものは、その語を知らないために、発音の似たものにひきつけられたと考えられる。従つてこの2種の成績差は語い力の成績差だといふことができる。

しかし(ii)と(iii)とは、定義はできなかったが、その語を知らなかったり、また使用できなかったりしたためだとはいへないかも知れない。つまり、定義法検査は、低学年にあっては、語い検査以外の要素を含んでいるというこ

とができそうである。

中学年になると、そういう要素はかなりへっている。しかしまだ定義法検査で調べた能力と用例法検査で調べた能力とが一致しているかどうかは疑問である。そこで次のようなことをしらべてみた。

(2) 同一語の定義法と用例法

2学期末の定義法検査に使った7語を学期末検査の用例法に使ったところ3年生の結果は次の通りであった。

なお・選択枝の右側の数字は、それをえらんだものの数。( )外は3年、( )内は2年。

- ・「ともに正答」の実測値は両検査とも正答をとったものの数。
- ・「ともに正答」の理論値は、もし両検査でためすものが全く独立であるとした場合に、両方とも正答になる者の数。つまり

$$\frac{(\text{定義法の正答者数}) \times (\text{用例法の正答者数})}{(\text{再検査をともに受けた者の数}=48)}$$

2学期末15「まわりみち」

- 1 こうえんの まわりみち 8 (25)
- 2 ゆっくり あるく みち 4 (2)
- 3 ぐるぐる まわっている みち 21 (16)
- 4 とおまわりの みち 16 (6)

3学期末用例法6「まわりみち」

- 1 その みちは まわりみちだから とおいよ。 30 (19)
  - 2 その みちは まっすぐで よい まわりみちだ。 3 (11)
  - 3 その みちは どこまで もまわりみちだから いつでも とおります。 7 (9)
  - 4 その みちは ちかいから まわりみちだよ。 8 (11)
- ともに正答：理論値 10.0, 実測値 12

2学期末16「はげしい」

- 1 ひじょうに あぶない 12 (15)
- 2 らんぼうで いじめる 4 (16)
- 3 すこし はずかしい 2 (7)
- 4 いきおいが つよい 31 (11)

3学期末用例法1「はげしい」

- 1 わたしは はげしい 水を のんだ。 0 (5)
  - 2 わたしは はげしい 力が あるので すもうが つよい。 5 (8)
  - 3 そらには はげしい くもが うかんでいる。 1 (11)
  - 4 はげしい かぜが ふいて へいが たおれそうだ。 41 (22)
- ともに正答：理論値 26.5, 実測値 27

## 2 学期末20「ぶじでした」

- 1 げんきに なりました 13 (18)
- 2 ふじさんが みえました 2 (12)
- 3 なんとも ありませんでした 32 (18)
- 4 その とおりでした 2 (1)

## 3 学期末用例法2「ぶじ」

- 1 わたしは びょうきが なおって ぶじに なりました。 8 (13)
  - 2 にいさんは 大きく なって たいへん ぶじです。 4 (3)
  - 3 まちに 大水が でましたが わたしたちは ぶじでした。 36 (31)
  - 4 きの中の おてんきは ぶじでした。 0 (3)
- ともに正答：理論値 24.0, 実測値 28

## 2 学期末23「たどりつく」

- 1 かぶりつく 0 (7)
- 3 だきつく 2 (7)
- 2 やっとつく 47 (32)
- 4 てでつく 0 (1)

## 3 学期末用例法3「たどりつく」

- 1 つかれた あしを ひきずって やっと まちまで たどりつきました。  
40 (27)
  - 2 じどうしゃは スピードを だして すぐに いえまで たどりつきました。  
4 (11)
  - 3 わたしは えんがわで まりを たどりつきました。 0 (3)
  - 4 わたしは まいあさ げんきに がっこうに たどりつきます。 3 (9)
- ともに正答：理論値 38.5, 実測値 39

## 2 学期末24「さしずする」

- 1 「あんなことを してるよ」と つげぐちする 10 (6)
- 2 「こうやれ、ああやれ」と めいれいする 35 (20)
- 3 「どうしようか」と かんがえる 3 (12)
- 4 ものさしで はかる 1 (10)

## 3 学期末用例法4「さしず」

- 1 わたしは べんきょうを どうしようかと さしずして います。 2 (6)

○2 わたしたちは 先生の さしず に したがって 大そうじを はじめました。  
37 (25)

3 ともだちが わたしの ことを さしず しました。 5 (7)

4 わたしは こうさくの ときに ものさしで きちん と さしず しました。  
4 (12)

ともに正答：理論値 26.8, 実測値 29

## 2 学期末28「いたるところに」

1 いって みた ところに 30 (24)      3 がっこうに いく ところ 3 (8)

2 いえのそとに 4 (8)      ○4 どこに でも 11 (8)

## 3 学期末用例法5「いたるところに」

1 うみには いたるところに 水が あります。 6 (14)

2 わたしの いえの もんの いたるところに さくらが さきました。 10 (12)

○3 こうえんの いたるところに さくらの 木が うえてあります。 23 (17)

4 きょう おとうさんと いたるところに 1ぼんの やなぎの 木が かれてい  
ました。 9 (7)

ともに正答：理論値 5.3, 実測値 7

## 2 学期末29「ありのまま」

1 ありのおかあさん 30 (31)      ○3 そのとおり 9 (7)

2 ありのごはん 4 (10)      4 たくさんある 6 (1)

## 3 学期末用例法8「ありのまま」

1 山には 木が たくさん あって、ありのままでした。 1 (5)

2 みちを ありのままに あるいて いました。 10 (11)

3 まちは ありのままに なりませんでした。 17 (12)

○4 ちっとも かざらず ありのままの すがたを みせました。 30 (22)

ともに正答：理論値 5.6, 実測値 5

用例法検査と定義法検査とのためすものが一致している場合は、実測値は理論値を上まわらなければならない。その点で、これらは、すべてがよく一致しているとはいいがたい。

ところで、3学期末の用例法・定義法両検査の相関係数をとってみると、0.59でかなりの相関がある。しかしこれはペーパーテスト全体に共通する因子が働いているとも考えられ、細部の点では、なお即物的な検討を要する。

## 2. 用例法(1)(2)と学習・読書



語の理解の深さは定義の正確さからもしらべることができる。しかし、定義することそのことの能力が完全でない場合に、高度な定義法検査をすることはその語に関して習得した知識や使用力を定義力のかけにかくしてしまうことにもなり得る。そういう意味で、語の使用力そのものを高度にすることによりその語に関する理解力・使用力をみようととして作成したのが用例法(2)である。

(1) 用例法(1)(2)と教科書語い

31年度1・2学期の用例法(1)、用例法(2)に提出した語は、すでにそれらの問題の後に示した通りである。その表で4年生と3年生をくらべてみると、(その表の限りでだが)次のようなことがいえる。

(i) 用例法(1)では、すでに習ったか、それともまだ習ってないかということが、4年生であるか、それとも3年生であるかということよりも大きく働いている。

(ii) 用例法(2)では、4年生であるか、それとも3年生であるかということが、すでに習ったか、それともまだ習っていないかということよりも大きく働いている。

今五つずつの総合得点の比較で言ったが、これを各問についてくらべてみても同じことがいえる。次の二つの表は1学期の用例法(1)および用例法(2)のそれぞれにおいて4年生と3年生の正答者(用例法(2)では二つとも正しく合った者)の数をくらべたものである。また、△印は、 $\chi^2$ 検定の結果、危険率0.5%で有意差のあったものである。

用例法(1)の場合

	ともに習った					4年生だけ習った					ともに習わぬ					総人数
	1 まる い あ が	2 書き ぬく	3 せ っ せ と	4 か わ す	5 身 の ま わ	6 斜 面	7 ゆ か い に	8 か が ん だ	9 意 味	10 こ ん だ て	11 根 気 よ く	12 ざ わ め く	13 危 険	14 費 用	15 あ り さ ま	
4年生	49	38	49	43	43	28	48	42	39	43	32	34	40	34	7	49
3年生	41	35	48	40	43	13	42	26	24	20	28	29	28	14	6	49
有意差	△					△	△	△	△	△			△	△		

用例法(2)の場合

	ともに習った					4年生だけ習った					総人数
	6 発見	7 なにしろ	8 こうたい	9 ふるくさ	10 わけ	11 しゅるい	12 利用	13 しげんに	14 ふりだし	15 めんどう	
4年生	20	39	11	10	32	30	26	38	12	44	49
3年生	19	29	8	2	17	21	15	18	11	21	49
有意差		△		△	△			△		△	

このことから考えて、教科書で習う語は、その語を知っているか知っていないかということには大きくひびくが、その語を高度に使用する能力は、もっと一般的な言語能力の発達にもなっているのではないかとという仮説が立てられる。

(2) 用例法(1)(2)と読書

4年生に行なった語い能力調査と個人読書点数（ⅥのD参照）との相関は次の通りである。

	用例法(1)	用例法(2)	定義法	完成法
1学期	0.23	0.49		
2学期	0.23	0.37		0.22
3学期			0.33	0.39

これらの相関は、ペーパーテスト間に見られるほど高くはないし、またこれだけから結論を出すこともできないが、ともかく、用例法(2)は用例法(1)よりも、読書との関係が深いのではないかと考えてみることもできる。

3. 完成法と定義法

ある語についてともかく知っているか、それとも全く知らないか、ということをしらべるのに、選択技法は不適である。それは、偶然に当たるばかりでなく、選択枝の方から逆に推察することができるからである。といってもふつうの自由解答方式で定義させたり、短文を作らせたりするのでは判定が困難である。

そこで選択枝からの影響をなくして、しかも判定を客観化するために、仮名書きにして欠字を補う完成法形式の検査問題を作って、31年度の2・3学期に実施した。

3学期には、定義法形式と同一の語を11語使って両者を比較してみた。その結果は次の通りであった。

		えも <sup>㉑</sup>	ぬかる <sup>㉒</sup>	まとめる <sup>㉓</sup>	けって <sup>㉔</sup>	まん <sup>㉕</sup> く	や <sup>㉖</sup> よ	み <sup>㉗</sup> い <sup>㉘</sup> ぼら	せん <sup>㉙</sup>	れき <sup>㉚</sup>	す <sup>㉛</sup> る	ふ <sup>㉜</sup>	受検者数
完成法	問題番号	2	4	8	10	12	14	16	18	20	22	24	
	4年生	46	26	46	43	31	14	29	29	42	9	34	47
	3年生	49	14	42	38	22	17	18	13	38	0	35	50
定義法	問題番号	1	4	10	2	5	8	11	3	6	9	12	
	4年生	30	33	42	33	29	40	35	41	24	24	26	47
	3年生	27	38	37	27	24	33	21	24	15	19	13	50

この結果をみると、完成法は定義法に比べて、0および50に近い数字が多いつまり選択枝からの影響が比較的少なくて、知っているか知らないかにある程度ははっきりした線が引ける。このことは、語を獲得したかどうかを見究める上に役立つ。

この完成法は、また、子供が興味をもち、検査が比較的速くできる点で、語の深い理解の度合を問わなければ、有効な方法だと考えられる。(高橋)

## V 文法能力の発達

### A 行なった検査とその結果

#### 1. ねらい

文法能力の発達検査としては、文法知識の発達検査と文法使用の発達検査が考えられ、また後者については表現における文法能力の検査と、解釈における文法能力の検査とがあり得る。今回の研究は、文の組み立てや助詞などの使い方を表現における文法能力という観点からしらべたものである。

特に中学年の文法能力として、次の事項を研究の対象とした。

(i) 格助詞を使用する能力（物・事と物・事との関係を表現する能力）。

(ii) (a) 副詞・係助詞（便宜上本報告では「副助詞」として扱う）、(b) 陳述の仕方を規定する副詞または副詞相当句を文全体と関連させて用いる能力（自分と物・事との関係を表現する能力）。

(iii) 代名詞およびコソアド系を使用する能力（自分と相手との関係を表現する能力）。

(iv) 複雑な文を組立てる能力。

（こうしたねらいに沿って、種々の問題を見出したが、本研究は、6か年継続計画の一部であるので、個々の問題についてはのべるが、結論を導き出すことはさしひかえた。）

#### 2. 検査法

検査は3～4年にかけて、毎学期末に行なった。検査は全部ペーパー方式の団体検査で、3年1学期（30年度）以外は、全部自由解答式を用い、選択枝法は使っていない。また3年1学期の一部以外は、各回とも、その1年下の学年を対照学年として同一の検査を行なって比較した。

検査問題の形式は次の通りである。

3年1学期は2種類で、第1種は傍線部訂正問題。第2種は接続詞補充問題。

3年2、3学期および4年1学期は、文中の誤りを発見して訂正する問題。3年2学

期および4年1学期は、多少の別の要求を出したが、それは、後に示す各回の問題の教示にある通り。

4年2,3学期は、空白部完成問題。

### 3. 検査問題とその結果の概要

検査問題は次に問題全文をかかげる。

この検査はほとんど全部が自由解答式であるので、答としての反応がさまざまである。そこで反応のおもなものだけを、各問の右に示す。また、同一、または同類の問題は関連問題の番号をそえる。

書き方の詳細はそれぞれの場所に注記しておく。

#### 30年度1学期

(1) —の ある ところは いいかたが まずいですね。どう なおしたら いい でしょうか。なおして ください。

(れんしゅう)

ほくは おじさんが ほんを よんで もらいました。

問題		3年・2年注1)
(0101) 注2) <u>おとうさん</u> から かわいい <u>おにんぎょう</u> と きれいな <u>ほん</u> を <u>かって</u> くださいました。 (参照0203)	が は (うち「わ」と書いたもの3年 に1) に 無応答	16・12 4・2 25・19 3・17
(0102) <u>おひる</u> を <u>たべて</u> から <u>3じ</u> <u>かんだけ</u> <u>たって</u> いません。	しか (うち「か」と書いたもの3年に3) も は (うち「はまだ」と書いたもの3 年に1) その他(誤)	20・ 7・ 5・ 16・
(0103) <u>ねこ</u> は <u>いぬ</u> に <u>くらべると</u> <u>ちいさい</u> が、 <u>ね</u> <u>ずみ</u> <u>から</u> <u>おおきい</u> 。(参 照0202)	より からみると なら その他(誤)	22・ 1・ 4・ 21・
(0104) <u>この</u> <u>パン</u> や <u>か</u>	まで(・までは)	32・

注1) 3年生は実験の中心的対象、2年生は参考のために同時にテストを行なったもの。2学期からは、3,2両学年とも全く同じテストを行なった。

注2) この数字は問題番号。千の位は、0が30年度、1が31年度；百の位は学期；終の2桁は各学期ごとの問題番号。

ら あそこの <u>さかな</u> やは 10メートルあります。	で その他(誤)	2・ 14・
(0105) あそんで <u>しか</u> いないで、もう <u>すこし</u> <u>べ</u> んきょうしなさい。(参照 0306.1109.1205.1305)	ばかり(ばっか) 無応答 その他(誤)	29・ 2・ 12・

(⇒) の ところに ことばを いれなさい。そのことばは 下にかいてあるの  
から えらびなさい。

(れんしゅう)

きのう さちこちゃんと かよこちゃんと おままごとを していました。

ふみこちゃんが きました。

だから そこへ それで そして

問題(接続詞は一括して下へ)		3年注1)
(1) みんな そろいまし たか。 <input type="text"/> べんきょうを はじめましょう。	それでは そうしたら その他(誤)	38 10 9
(2) あなたは ライスカ レーが すきですか。 <input type="text"/> てんぷらが すきですか。	それとも その他(誤)	26 20
(3) もうすこしすると なつやすみに なる。 <input type="text"/> みんなで かいがんへ いき ましょう。	そうしたら だから その他(誤)	19 5 24
(4) あの子は あまり けんかを しなない。 <input type="text"/> け んかを すれば つよい。	けれども しかし そして その他(誤)	15 11 2 20
(5) きのうは はやく ねた。 <input type="text"/> よく ねむった。 <input type="text"/> きょうは あたまが はっきりしている。	そして そのうえ そうしたら しかし その他(誤)	7 5 5 10 21
	だから そこで そうしたら そして その他(誤)	12 4 2 6 24
(6) きゅうに あめが	そのうえ	7

注1) この問題は中心的対象である3年生だけに行なった。

ふってきた。□かぜも	そして	8
つよい。これでは かえりが	その他 (誤)	33
たいへんだ。		
(7) きのうは 日が か	けれども	17
んかん てっていた。□	しかし	15
あつくは なかった。かぜが	その他 (誤)	26
あったから。		

そして そのうえ そうしたら  
 そこで それでは それとも  
 では だから しかし  
 けれども

### 30年度2学期

つぎの ぶんを よんで、まちがっていると おもったら、まちがっているところ  
 を なおしなさい。ただしとおもったら、なおさなくてもよろしい。

(れんしゅう)

- 1 小がっこうは 1ねんから 6ねんから あります。  
まで注1)
- 2 きょうは こくごの テストです。
- 3 ふゆは さむい。しかし オーバーを きます。  
だから
- 4 まさおさんは きしゃを のりました。
- 5 かめは うさぎに かちました。
- 6 ふゆは なつ さむい。

		3年・2年
(0201) 注2) こどもは おと	ママ	49・49
なより ちいさい。		0
(0202) ねこは ねずみか	<u>から</u>	39・35
らおおきい。(参照0104)	より(よりか)	
	ママ	0・6
	<u>から</u> <u>おおきい</u>	2・2
	より <u>小さい</u>	

注1) 「6ねん」から「しかし」はそれぞれ「から」「しかし」を消して「まで」「だから」を書いたことを示  
まで だから  
 す。なお、「一」の使い方として次のようなものもある。「ですが」は「が」を消しただけで何も書かなかったも  
 の。「こども 大きい」は「こども」と「大きい」の間に「より」を書き入れたもの。  
より

注2) この数字千の位は、0が30年度1が31年度。百の位は学期、終の2桁は問題番号。

(0203) ほくは にいさんが ほんを よんで もらい ました。(参照0101)	にいさん <u>が</u> に	41・34
	にい <u>さん</u> <u>が</u> から	7・0
	ママ	0・1
	その他	1・8
(0204) あきらくんは み ちこさんも ふたりとも よ く べんきょう します。 (参照0307, 1106, 1201, 1301)	あきらくんは も	20・6
	あきらくんは <u>みちこさん</u> <u>も</u> と <u>は</u>	13・4
	みちこさん <u>も</u> <u>ふたりとも</u> と <u>で</u>	0・2
	その他	16・37
(0205) まさおさんは き のう きっと ねて しまし た。(参照0304, 1208~9, 1308)	(問題不備のため考察から除外)	
(0206) あすの やきゅう には はたして かちましょ う。(参照0311, 1207, 1307)	<u>かちましょ</u> う 推量を疑問に	18・5
	<u>かちましょ</u> う「どちらが」と推量	0・3
	はたして	8・3
	きっと, かならず, 等 誤	23・38
(0201) あしたは たぶん あめでしょう。	ママ	48・40
	<u>たぶん</u>	1・5
	きっと, たいてい。	
	<u>たぶん</u> だいぶん	0・4
(0208) きのは あたま が いたかったので やすみ ました。	ママ	46・48
	直し(正)	2・1
(0209) そうは からだ は おおきいので おとなし い。	<u>おおきい</u> ので	6・2
	が, けれども, など	
	<u>からだ</u> は が	16・16
	<u>おとなしい</u>	2・4
	こわい, 力が強い, など その他(ママ21.22)	24・27



(0210) もし あめが ふ ったから、えんそくは やめ になります。(参照 0302, !102)	ふった <u>から</u> なら、ら、としたら	22・20
	ママ その他(誤)	22・24 4・5
(0211) おなかが すいた ら、ごはんを たべなさい。	ママ	42・39
	直し(正)	4・8
	直し(誤)	2・2
(0212) きょうは さむい から、くつしたを はいてい ないから さむい。(参照03 03, 1212, 1312)	さむい <u>から</u> のに、けど、が	4・3
	はいていない <u>から</u> いなければ、いなくちゃ、いな いと、など	10・5
	はいて <u>いないから</u> いても、きたが、など	2・2
	はいていない <u>からさむい</u> (「寒いから」欠) 6・14 いきなさい、いこう、いる、き ました、など	
	その他	27・25
(0213) わたしの うちか ら ゆうびんきょくまでは、 あるいて 10ぶんですが、び ょういん あるいて 20ぶん です。(参照0214, 0301)	びょういん <u>あるいて</u> まで(は)	22・16
	あるいて <u>まで(は)</u>	6・9
	ママ	11・15
	その他	10・6
(0214) わたしの うち がっこう あるいて 10ぶん です。(参照0213, 0301)	<u>がっこう</u> から <u>まで</u>	29・17
	ママ	2・14
	<u>がっこう</u> から	3・5
	その他	15・12
(0215) なかゆび こゆび ながい。(参照0308, 1101)	なかゆび <u>こゆび</u> <u>ながい</u> は <u>より</u>	7・3
	(ともかく「中指>小指」)	4・6
	その他(正)( <u>こゆび</u> など)	4・9
	は	
	その他(誤)	34・30

(0216) わたしは ゆめで カップに になりました。	ママ 直し(正) 直し(誤)	45・39 3・7 0・3
(0217) わたしは ゆめで せつこさんが <sup>じよおう</sup> 女王さまに になりました。(参照0314, 1112, 1314)	わたしは の, の見た ゆめで を見て ママ になりました なった ゆめを みました その他	8・3 0・3 29・34 6・3 5・6
(0218) 「あなたは まさ こさんですか。」「はい、あな たは まさこさんです。」 (参照0309~10, 1110~11, 0220, 1215)	はい あなたは, <u>まさこさん</u> です。 わたし まさこ 「あなた」「まさこさん」のうちの1 つを直したもの その他(正) その他(誤)	19・7 13・8 7・4 10・30
(0219) 「もしもし、そち らは たなかさんですか。」 「はい、こちらは たなかで す。(参照0309~10, 1110~ 1111, 1215, 0218)	ママ 直し(正) 直し(誤)	44・44 4・3 0・1
(0220) 「もしもし、あち らは うえださんですか。」 「はい、こちらは うえだで す。」(参照 0309~10, 1110~ 11, 1215, 0218)	<u>あちら</u> そちら <u>あちら</u> あなた <u>あちら</u> こちら その他(正) その他(誤)	18・9 4・0 4・1 4・4 18・34

### 30年度3学期

つぎのぶんは どこか まちがっています。まちがっている ところを なおしな  
さい。

(れんしゅう)

1. 小がっこうは 1ねんから 6ねんから あります。  
まで注1)

注1) 一の使い方は2学期問題教示の脚注で示す。

2. ふゆは さむい。しかし オーバー を きます。  
 だから
3. まさおさんは きしゃを のりました。
4. ふゆは なつ さむい。

問題		3年	2年
(0301) わたし の うち が、こう あるいて 10ぶん です。(参照0213~14)	がっ こう _____ から(は) _____ まで(往)	38・20	
	がっこう _____ から _____ へ(に)	3・11	
	がっこう _____ から _____	2・8	
	その他	5・9	
(0302) もし あめが ふ ったから えんそくは やめ になります。(参照021C, 1102)	ふったから _____ なら、ら、らば、など	41・35	
	ママ	8・13	
	ふったから _____ ○	1・0	
(0303) きょうは さむい から くつしたを はいてな いから さむい。(参照0212, 1212, 1312)	さむいから _____ のに、けど、が	7・0	
	はいていないから _____ いなければ、いなくちゃ、いな いと、など	18・16	
	はいていないから _____ いるのに、きたのに、など	0・11	
	はいていないからさむい(・「寒いから」欠) いきなさい、いこう、きました、など	8・13	
	その他	15・18	
(0304) まさおさんは き のう きっと ねて しまし た。(参照0205, 1209~8, 1308)	(問題不備のため考察から除外)		
(0305) みちこさんは め ったに がっこうを やすみ ます。	やすみます _____ やすみません _____	26・31	
	めったに _____ ときどき、ずうっと、その他	14・6	

注1) 一の使い方は2学期問題表示の脚注で示す。

	その他	8・21
(0306) となりの おじさん は へんな ことしか い って いる。(参照0105, 1109, 1205, 1305)	へんなことしか ばかり	3・4
	いっている いわない, 知らない, 言っていない, 知っていない	16・14
	ことしか を	23・17
	その他	6・13
(0307) あきらくんは み ちこさんも ふたりとも よ く べんきょう します。 (参照0204, 1106, 1201, 1301)	あきらくんは も	14・5
	あきらくんはみちこさんも と は	17・16
	みちこさんもふたりとも と で	5・8
	その他	12・19
(0308) なかゆび こゆび ながい。(参照0215, 1101)	なかゆび こゆび ながい は(の方が) より	14・7
	(ともかく「中指>小指」)	2・3
	その他(正) (「こゆび」など) は	6・4
	その他(誤)	26・34
(0307) 「もしもし あな たは まさこさんですか。「は い あなたは まさこさんで す。」(参照 0218~20, 1110~ 11, 0310, 1215)	はいあなたはまさこさんです わたし まさこ	28・16
	「あなた」か「まさこさん」を直す	7・18
	その他(正)	5・7
	その他(誤)	8・7
(0310) 「もしもし あち らは うえださんですか。」 「はい こちらは うえだで す。」(参照0220~18, 1110~ 10, 1215, 0309)	あちら	21・6
	そちら	
	あちら	9・16
	あなた	
	あちら	5・6
	こちら	
その他(正)	0・1	
その他(誤)	13・21	
(0311) あすの やきゅう には はたして かちましょ	かちましょう 疑問と推量	24・12
	かちましょう 「どちらが」と推量	2・5

う。(参照0206, 1207, 1307)	はたして	7・2
	きっと, ぜったいに, など 誤	15・29
(0312) どんなに あめか ふるけれども, ゆうびんやさ さんは きっとくる。 (参照1103)	ふるけれども	37・24
	ふっても, ふっていても, ふったっ て, など	
	ママ	9・16
	どんなに	1・5
	ざあざあ, こんなに, など その他(誤)	1・3
(0313) ボールもあるし, バットもあるし, ひろばしか あれば, やきゅうが できる のだが。(参照1203~4, 1303 ~4, 1108)	ひろばしか	5・0
	さえ	
	ひろばしか	29・28
	が	6・3
	ひろばしか も その他	8・17
(0314) わたしは ゆめで せつこさんが 女王さまに なりました。(参照0217, 1112, 1314)	わたしは	13・3
	の, が見た	
	ゆめで	2・3
	ゆめをみて	
	なりました	15・11
	なったゆめをみました その他(正) その他(誤)	6・4 12・27
(0315) あそこの うちで は, 大きい人のほうが, 小さ い人より かえって たくさ ん たべます。	「かえって」を生かす	18・4
	「かえって」を直す	4・5
	「かえって」を消す	2・4
	誤	24・35

### 31年度1学期

つぎの文は どこか まちがって います。まちがって いる ところを なおし なさい。ただし□のある ところを なおしては いけません。

(れんしゅう)

1. 小がっこうは 1年から 6年から注1) あります。  
まで

注1) 一の使い方は30年度2学期問題教示の脚注に示す。

2. ふゆは さむいけれど オーバーを きます。
3. まさおさんは きしゃを のりました。
4. ふゆ なつの方が あつい。
5. てつ わた どちらが おもいか。

問題		4年・3年注1)
(1101) おとな ことも <u>せがたかい</u> 。 (参照0215, 0308)	注2) ことも は (の方が) より (ともかく「大人>子供」) その他 (正) (「 <u>ことも</u> 」など) は その他 (誤)	29・18 6・4 3・7 11・20
(1102) もし雨が ふつ たから えんそくは <u>やめに</u> <u>します</u> 。(参照0210, 0302)	ふつたから ら, なら ママ その他 (誤)	45・37 3・9 1・3
(1103) どんなに 雨が ふるけれども, ゆうびんやさ んは <u>きとく</u> る。 (参照0312)	<u>ふるけれども</u> ふつても, ふつていても, など ママ, (または「ふつたけれど」) その他 (誤)	45・37 3・8 1・4
(1104) あさって <u>ひょ</u> つ <u>とすと</u> あめが ふるに ちがいない。(参照1206)	<u>ふるにちがいない</u> ふるか (も) しれない, ふるか (も) わからない あさって <u>ひょ</u> つとすと は, も あさって あした その他	33・7 4・23 4・0 8・19
(1105) その <sup>とし</sup> 年は <u>6月</u> じ <u>う</u> 雨 <sup>は</sup> が ぜんぜん ふり ました。	<u>ふりました</u> ふりません (でした) <u>ぜんぜん</u> (時) ずつと, つづいて, その他 <u>ぜんぜん</u> (量) たくさん, うんと, その他	19・25 5・2 14・8 11・14

注1) 31年度には, 実験学級は4年生に, 対照学級は3年生になった。  
注2) 一の使い方は30年度2学期問題教示の脚注で示す。

(1106) あきらくんは みち ち子さんも <u>ふたりとも</u> よく べんきょう します。 (参照0204, 0307, 1201, 1301)	あきらくんは も	20・8
	あきらくんはみちこさんも と は	20・18
	みちこさんは と	3・10
	その他	6・13
(1107) そんなになっても きみが <u>へいきだろうが</u> , ぼ くは こまるよ。(参照1202, 1302)	きみが は	34・28
	きみが なら	1・0
	きみが ママ	14・21
	その他	
(1108) としろうくんの うちには にいさんは <u>早くか えって</u> くれれば, ぼんごはんを みんな いっしょに たべら れるのですが。(参照 1203~ 4, 1303~4, 0313)	にいさんは が	23・20
	にいさんは が	5・4
	にいさんが さえ	0・1
	その他	21・24
(1109) あのおじさんは, ほかに なんにも 知らない のか, さかなつりの はなし しか <u>している</u> , (参照0105, 0306, 1205, 1305)	しか ばかり	11・2
	しか だけ	4・8
	しか を	5・3
	その他	29・33
(1110) 「もしもし, あな たは まさ子さんですか。」 「 <u>はい</u> , あなたはまさ子さん です。」(参照 0218~20, 0309 ~10, 1115, 1215)	はい あなたは まさ子さんです わたし まさこ	21・15
	「あなた」「まさこさん」のうちの直し	20・19
	その他(正)	3・7
	その他(誤)	5・8
(1111) 「もしもし あち らは うえださんですか。」 「はい, <u>こちら</u> は うえだで す。」(参照 0218~20, 0309~	あちら	22・8
	そちら	
	あちら あなた	8・20

10, 1215, 1110)	あちら こちら その他 (正) その他 (誤)	11・7  1・0 7・14
(1112) わたしは ゆめで <u>せつ子さんが</u> <sup>じよう</sup> 女王さまに なりました。(参照0217, 0314, 1314)	わたしは の, が見た ゆめで ゆめを見て なりました なったゆめを見た その他 (正) その他 (誤)	9・6  4・3 25・18 3・1 8・21
(1113) このあいだ みち 子さんが びょうきになっ たので, あきらくんと そうだ んして みち子さんに <u>花を</u> <u>もって行ってあげよう</u> と そ うだんしました。(参照1211, 1311)	そうだんした きめた, きまった そうだんした いった, 思った, はなしあった そうだんして ○ そうだんした ママ その他 (誤)	10・1  9・13 2・3 24・28 4・4
(1114) このあいだ あさ 雨が ふっていたので, か さを もっていったので, <u>雨にぬれなかった</u> 。 (参照1214)	ふって いたので が, けれど, のに ふっていたので いた。 その他 (誤)	0・0  1・0 48・49
(1115) このあいだ ひる 雨が ふってきたので, かさ を もっていなかったの <u>で、ずぶぬれになった</u> 。(参照 1213, 1313)	きたので きた, きました。 きたので が, けど, など その他 (誤)	7・0  2・0 40・49

### 31年度2学期

つぎの文の□の中に ことばを 入れなさい。

(れんしゅう)

1. ふゆは さむい ので オーバーを きます。



2. まさおくんは きしゃに のりました。
3. ふゆより なつの ほうが         。
4. 小学校は 1年から 6年         あります。

		4年	3年
(1201) あきらくんも みち子さんも ふたり <u>        </u> よく べんきょう します。(参照0204, 0307, 1106, 1301)	とも で なか その他	26・24 5・9 10・10 5・6	
(1202) そんなに なつても きみ <u>        </u> へいきだるうが ぼく <u>        </u> こまるよ。(参照1107, 1302)	は——が は——は(「なら——は」4年に1人) たち(ね) ——は(ね) その他(誤)	3・3 38・37 2・2 3・7	
(1203) グローブも あるし、バットも あるし、ひろば <u>        </u> あれば、やきゅうが できるのだが。(参照 0313, 1303~4, 1108, 1204)	さえ が も その他	11・1 18・26 10・10 7・12	
(1204) とし子さんの うちは、にいさん <u>        </u> 早く かえって くれれば、ぼんごは んを みんな いっしょに たべられるのですが。(参照 1108, 1304~3, 0313, 1203)	さえ が は その他	3・2 36・43 3・0 4・45	
(1205) あの おじさんは ほかに なんにも 知らない のか、さかなつりの はなし <u>        </u> している。(参照0105, 0306, 1109, 1305)	ばかり だけ を その他	18・15 6・7 17・20 5・7	
(1206) あした ひょっと すると、あめが <u>        </u> <u>        </u> (参照1104)	~かも知れない、~かもわからない ~だろう、ふるよ、ふる ~にちがいない。 その他	36・34 9・10 1・2 0・3	
(1207) あすの やきゅう には はたして <u>        </u> <u>        </u> (参照0206, 1311, 1307)	どちらが~だろうか、だろう、等 だろうか、か等 ~するか~するか(どっちか) 誤	18・15 19・14 7・8 2・12	

(1208) あさっての やき ゅうにはおそらく [ ] [ ] (参照1303, 1209, 0205, 0304)	～だろう, ～でしょう, ～する, ～にちがいない, かもしれない, その他	29・15 12・12 5・22
(1209) らいしゅうの や きゅうには きっと [ ] [ ] (参照0205, 0304, 1208, 1308)	決意 推量 その他	28・23 14・22 4・3
(1210) だれが ピッチャ ーになった ところで [ ] [ ]。 (参照1309～10)	しょうがない, まけにきまってる, 等 おわるか, うつのだろう, 等 すか, しょうか。 その他	22・13 4・2 1・2 19・32
(1211) このあいだ みち 子さんが びょうきになっ たので, あきらくと, そうだ んして, みち子さんに 花を もって いって あげようと [ ] (参照1113, 1311)	きめました, いうことになりました, など とはなしあった, 考えた, やくそくした など そうだんした その他(誤) 思った, 思いました	5・1 4・6 4・5 8・9 25・27
(1212) きょうは さむい から くつしたを [ ] [ ] さむい。(参照 0212, 0303, 1312)	はかないと, はかなくちゃ, その他 は(いて)ても, はいたが, その他 はきなさい, はいていく, その他 その他(誤)	26・30 9・11 6・5 5・3
(1213) このあいだ おつ かいのかえりに あめがふっ てきた[ ]かさを もって いなかった[ ]ずぶぬれに なった。(参照1115, 1313)	とき—ので(・から) けど(・が・のに)—ので・から 。でも—ので(・。だから) ので(・から)—ので(・から) 〔・その他〕	0・12 15・5 3・3 28・29
(1214) このあいだ あめ がふっていた[ ], かさを もっていった[ ]だいぶぬ れた。(参照1114)	とき—けど(・のに・が) ので(・から)—けど(・が・のに) が—が, その他(誤)	6・5 24・16 0・1 16・27
(1215) 「もしもし [ ] [ ] は うえださんです か。」「はいこちらは うえだ です。」(参照 0218～20, 0309)	そちら, (そちらさま) あなた, きみ, など。 こちら, ここ 誤	25・14 16・18 1・3 5・15

～10, 1110～11)

31年3度学期

教示・((れんしゅう))は2学期と同じ

		4年	3年
(1301) あきらくんも み ち子さんも ふたり□□と ても げんきです。 (参照0204, 0307, 1106, 1201)	とも で なか	41・44 0・3 0・0 6・3	
(1302) そんなに なって も きみ□□へいきだろうが ぼく□□こまるよ。 (参照1101, 1202)	は——が は——は(「はこそ」4年1人) たち(は)——たち(は) その他(誤)	2・0 38・38 4・2 3・10	
(1303) グローブも ある し、バットも あるし、ポー ルもあるし、ひろば□□あ れば、やきゅうが できるのだ が。(参照0313, 1203～4, 1108, 1304)	さえ が も その他	17・6 21・28 6・10 3・6	
(1304) にいさん□□早 く かえてくれば、ばんご はんを みんな いっしょに たべられるのですが。 (参照 1102, 1203～4, 0313, 3103)	さえ が は その他	3・0 32・35 4・8 12・7	
(1305) あの おじさんは ほかに なんにも 知らない のか、さかなつりの はなし □□している。(参照0105, 0306, 1109, 1205)	ばかり だけ を その他	20・17 7・11 11・11 9・11	
(1306) まさか 君が そ んな ことを □□ □□。	否定も推量もあるもの(「思う」使用) 否定も推量もあるもの(「だろう」使用) 否定はあり、推量のないもの 否定も推量もないもの	20・14 16・19 10・10 1・7	
(1307) あすの やきゅう には はたして □□	どちらが～だろうか、だろう、等 だろうか、か、等	23・21 13・8	

_____。(参照0206, 0311 1207)	～するか～するか(どっちか) 誤	5・12 6・9
(1308) あさっての やき ゅうには おそらく _____ _____ (参照 1208, 1209, 0205, 0304)	～だろう, ～と思う, など ～する, らしい, ちがいない, など	40・27 1・5 6・18
(1309) だれか ピッチャ ーに なった ところで _____ _____ (参照 1210, 1310)	しょうがない, まけるにきまってる, 等 おわるのか, うつのだろう, 等 すか, しょうか, しょう, 等 その他	23・21 2・8 1・4 21・17
(1310) このえは どう見 ても _____ _____ (参照1309, 1210)	正 誤	42・46 4・4
(1311) はが いたくなっ たので おかあさんに いって はいしゃさんに みてもらい にいこうと _____ _____ (参照1113, 1211)	思った, 思う, など しました, した, など その他(誤)	30・28 9・11 8・11
(1312) きょうは ひるご ろから, 雨が ふるようだか ら かさを _____ こまるよ。(参照 0212, 0303, 1212)	もっていかないと, わすれたら, など。 もっていったら, もってきては, など。 ～ので, ～から, その他(誤)	38・43 2・3 4・0 3・4
(1313) このあいだ おつ かいのかえりに, 雨が ふっ て きた _____ずぶぬれにな った。(参照1115, 1213)	とき——ので(・から) けど(・が・のに)——ので(・から) 。だが, (・ぼくは)——ので(・で) ので(・から)——ので(・から) [・その他]	5・5 25・8 2・3 15・34
(1314) わたしは まさお さんが おじいさんに _____ _____ (参照0217, 0314, 1112)	「わたしは」「まさおさんが」両方生かす 両方を生かそうとして失敗 片方しかつかんでない	30・37 4・5 13・8

## B 結果の分析

さききのべたねらいにもとづき, 5項目にわけてのべる〔ねらい(ii)〕は,

ここでは、副助詞と陳述副詞とにわけた]。

### 1. 格助詞と関係表現

助詞の使用に関しては、テスト問題さえやさしくすれば、2 年末で80%の正答を得られることが、すでわかっている（「低学年の読み書き能力」70～84 ページ）。しかし問題をむずかしくすると、高学年へ行っても正答率が悪いことも一般に知られている。それでは、その出来、不出来は、どんな様相を示し、どんな問題点をふくんでいるのであろうか。このことを、3、4 年生について格助詞、副助詞（係助詞をふくむ）、接続助詞（複雑文構成として）の三つにわけ、それぞれ別のねらいをつけて、調べてみた。なお接続助詞は、助詞の項以外のところであつかう。

格助詞の問題点をねらって出した問題は次の 15 である。0101, 0203, 0104, 0213, 0214, 0301 ; 0202, 0215, 0308, 1101, (0315) ; 1107, 1202, 1302 ; 2106

#### (i) 格助詞使用と読解力・関係把握力

次の 2 題は<sup>注1)</sup> 同じような問題であるが、出来不出来は非常に異なる。

(0101) お父さんからかわいいお人形ときれいな本を買って下さいました。

(0203) ぼくは兄さんが本を読んでもらいました。

の傍線部の直し方は次の通りである。

	3 年	2 年
(0101) 「が」または「は」に直したもの……………	20/48	14/50
「に」に直したもの……………	25/48	19/50
(0203) 「に」または「から」に直したもの……………	41/49	34/49
「ぼくは」の部分直したもの……………	0/49	4/49

(0203) から推して (0101) を考えれば、(0101) の不出来は「格助詞」の理解より、文を「下さいました」まで読み通せたかどうかによると考えられる。

次の二文は、直し上りが同じ構造になるように作成した問題であるが、出来不出来は非常に異なる。

(0202) ねこはねずみから大きい。

(0215) なかゆびこゆび長い。

直し方は次の通りである。

注1) ここに書く問題は便宜上表記や傍線などの点で、原文通りにしなかった。原文は前節で見ていただきたい。

(0202)	「から」を「より」に直したもの……………	39/49	35/49
(0215)	「は」——「より」を補ったもの……………	7/49	3/49
	その他の正答……………	8/49	15/49

(0215) の場合も「より」の使い方がわからない——というより、「より」を使って関係表現を組み立てることがむずかしい——と考えた方がよさそうである。関係把握のむずかしさは、次の例にもうまくあらわれている。

(0315) あそこの家では大きい人の方が小さい人よりかえってたくさん食べます。

の誤り（3年24/48，2年35/48）の中に a と b とをおきかえたものが少なくない（3年5/24，2年6/35）ことを見ても、「直したいんだが直せない」という気持がうかがわれる。

こうしたことから「が」「に」「より」などは、基本的には使えるのだが、文章の読解力の未熟さや関係把握の困難さのために、実際には使いきれないことがあるのだ、と考えられる。

(iia) 「より」を補う関係表現の発達(0215)と同種の問題の1年間の発達のあとをたどってみよう。次の数字(分子)は、いずれも、「は——より」を補ったものの数である。

					3・4年	2・3年注1)
30年度2学期末	0215	なかゆび	こゆび	ながい。	7/49	3/49
30年度3学期末	0308	なかゆび	こゆび	ながい。	14/48	7/48
31年度1学期末	1101	おとな	こども	せがたかい。	29/49	18/49

(iib) 「から」・「まで」注2) を補う関係表現 下の文に「から」または「まで」を補って直した正答の数を示す。これには「から——まで」のほか「から——までは」「は——まで」「は——から」など、いろいろあるが、「がっこう」を消して「は」とか「まで」とかを入れた正答(つまり消して直した正答)はこの中にふくまれていない。

					2年	3年
(0214)	わたしのうち	がっこう	あるいて	10.ぶんです。	33/49	19/49
(0301)	わたしのうち	がっこう	あるいて	10.ぶんです。	38/48	20/48

注1) 31年度になって、学年が一つ進んだ。  
注2) 「から」に対応する「まで」は格助詞として扱う。

以上 a b で見たように、格助詞を使って関係を組み立てる能力は 3・4年の間にかなり急速に発達するものと思われる。

(iii) 主格の「は」<sup>注1)</sup>と「が」 「は」と「が」の使いわけについて次の問題を出した。

(1202・1302) そんなになってもきみ $\square$ へいきだろうが、ぼく $\square$ こまるよ。

(2106)<sup>注2)</sup> 「みなさんの中に、中村さんという人はいらっしゃいませんか。」  
「はい私 $\square$ 中村です。」

(0204) そうは からだは おおきいので おとなしい。

前二者では「きみ $\square$ 」に「が」を入れたら誤り、(2106)では「は」はあやまりである。ところで、この結果は次のようになっている。

	4・5年	3・4年
31年2学期 (1202) は—が……………	3/46	3/49
は—は……………	38/46	37/49
31年3学期 (1302) は—が……………	2/47	0/50
は—は……………	38/47	38/50
32年1学期 (2106) が……………	35/49	28/48
は……………	13/49	16/48

(1202)と(1302)とから見ると、この能力は、3,4年であまりかわらず、かなり高いところに安定している。また一方(2106)は前二者ほどよくなく、また4年と5年との間にいくぶんかの差がある。これらのことから、「は」と「が」の使いわけは、低学年ですでにかなりできるのではないか、また2つの文の関連としてとらえる能力は4,5年ころにのびるのではないか(「5 複雑な文の組立て、参照」と考えられる。

(2106)は意味の上で問題があるが、これを文法的にだけみるならば、「おおきいので」の文は「からだが」となるべきであり、また「からだは」を生かす文では、「ので」を「が」や「けれども」など逆接の接続助詞におきかえなければならぬ。この観点から結果をみると、次のようになっている。

注1) 主格を表わす「は」は格助詞として扱う。

注2) 参考のため、32年1学期の問題をあげておく。

	3年	2年
からだは——が(けれど, ても) .....	6/49	4/49
からだは——ので.....	16/49	16/49

## 2. 副助詞(係助詞をふくむ)と気持の表現

副助詞では、特に「こうもいえるがこういった方がもっと適切だ」というふうな、助詞の使い方を見た〔ただし、(i)の後半は別。〕この項にあたる問題は次の17(+2)である。

- (i) 限定表現 0102, 0105, 0306, 1109, 1205, 1305, (2102)
- (ii) 限定強調(さえ) 0313, 1203, 1303, (2103), 1108, 1204, 1304
- (iii) 強調表現(もーも) 0204, 0307, 1106, 1201, 1301

### (i) 限定表現

(0102) おひるをたべてから2じかんだけたっています。  
 の正答は3年1学期で、しか 20/48, は 7/48, も 5/48 となっている。

(0105) あそんでしかいないで、もうすこしべんきょうしなさい。  
 が「ばかり」となせたものは、3年1学期で29/48となっている。

以上の2題に見られるように、「ばかり」「しか」への修正は、3年1学期で2/3前後がその能力を持っている。これの修正法としては、係を直すより結びを直すほうがやさしいらしく、3年・2年3学期に行なった

(0306) となりの おじさんは へんな ことしかいっている。  
 では、

	3年	2年
「しか」を「ばかり」に直したもの.....	3/48	4/48
「いっている」を否定形に直したもの.....	16/48	14/48
「しか」を「を」に直したもの.....	23/48	17/48

となっている。そこで4年(・3年)1学期では「している」を直してはいけないという条件をつけたところ、

(1109) あのおじさんは、ほかになんにも知らないのか、魚釣りの話しかしている。で「しか」を「ばかり」に直せたものは4年11/49, 3年2/49であった。

また4年(3年)2学期から5年1学期にかけて行なった

あのおじさんはほかに何も知らないのか魚釣りの話          している。



という完成法検査で「ばかり」「をいれたものは、

	4年(5年)	3年(4年)
31年度2学期	18/47	15/49
31年度3学期	20/47	17/50
32年度1学期	29/49	21/50

となり、5年になって、やっと半数をこえるばかりである。ただ、この問題文は複文であるので、そのために正答率が悪くなったものとも考えられる。

(ii) 限定強調

「さえ」を使う能力について、次の a、b 2 種類の問題を出してみた。

(iia) 次の30年度の問題は、誤りの修正、31年度以後のものは完成形式である。

31年度3学期 (0313) ボールもあるし バットもあるから、ひろばしか あれば やきゅうが できるのだが。

31年度2学期～ } { (1203) ボールもあるし、バットもあるし、  
 (1303)  
 32年度1学期 } { (2101) ひろば[ ]あれば やきゅうが できるのだが。

この問題は「が」に直しても(「が」を入れても)、まちがいではない。しかし、「が」より「も」、「も」より「さえ」の方が適切である。ところで、その結果は、

30年度3学期 (0313)	[3年]	さえ…5/48	も…6/48	が…29/48
	[2年]	さえ…0/48	も…3/48	が…28/48
31年度2学期 (1203)	[4年]	さえ…11/46	も…10/46	が…18/46
	[3年]	さえ…1/49	も…10/49	が…26/49
31年度3学期 (1303)	[4年]	さえ…17/47	も…6/47	が…21/47
	[3年]	さえ…6/50	も…10/50	が…28/50
32年度1学期 (2101)	[5年]	さえ…24/47	も…4/49	が…16/49
	[4年]	さえ…11/50	も…9/50	が…29/50

ここで、1年へだてた2学年が平行的に進んでいること。そしてこの問題において「さえ」は、3年に出始め、次第にふえて5年の1学期で約半数になっている。

(iib) 次の3問も「さえ」を引き出すために作ったものであるが、その結果はかなり違っている。

31年度1学期……訂正問題 ([ ]内は直してはいけない)

(1108) としろうくんのうちにはいさんは 早くかえってくれば ばんごはんを  
みんないっしょにたべられるのですが。

31年度2学期・3学期……完成問題

(1204) とし子さんのうちにはいさん  早く かえって くれば、ばん  
ごはんを みんな いっしょに たべられるのですが。

(1304) にいさん  早く かえって くれば、ばんごはんを みんな い  
っしょに たべられるのですが。

この問題は「が」でも通じるが、「さえ」の方がいっそう適切である。また  
「は」は誤りである。結果は次の通り。

31年度1学期(1108)	[4年]	さえ…0/49	が…31/49	は…18/49
	[3年]	さえ…1/49	が…29/49	は…19/49
31年度2学期(1204)	[4年]	さえ…3/46	が…36/46	は…5/46
	[3年]	さえ…2/49	が…44/49	は…4/49
31年度3学期(1304)	[4年]	さえ…3/47	が…32/47	は…4/47
	[3年]	さえ…0/50	が…35/50	は…8/50

aとこれほど違っているのは、「さえ」を呼び出す要素が後にきていることで  
あろうと考えられる。

### (iii) 強調表現

「AとBは」と言うより「AもBも」と言う方が強調した表現になる。こう  
いう観点から、次の一連の問題を出した。次の3題は訂正問題である。

30年度2学期(0204) } { あきらくんは みち子さんも ふたりとも よく べん  
30年度3学期(0307) } { きょうします。

31年度1学期(1106) あきらくんは みち子さんも ふたりとも よくべんき  
ょうします。

(0204) [3年] もーも…20/49 とーは…13/49 [2年] もーも…6/49 とーは  
…4/49

(0307) [3年] もーも…14/48 とーは…17/48 [2年] もーも…5/48 とーは  
…16/48

(1106) [4年] もーも…20/49 とーは…20/49 [3年] もーも…8/49 とーは  
…18/49

この結果は (ia) の「さえ」に似ている。なお、この数字に出ない多くが  
「ふたりとも」を「ふたりで」「いっしょに」などに直していたところから、

こうした係助詞的用法のむずかしさがうかがわれる。そこで31年度2学期には次のような完成問題を出した。

(1201) あきらくんも みち子さんも ふたり  よく べんぎょうします。その結果は次のようであった。

	とも	では	で	なか
4年	26/46	4/46	5/46	10/46
3年	24/49	2/49	9/49	10/49

以上 (i) (ii) の結果から考えてみると、中学年では、話し手の素材に対する気持を表わす助詞の使い方は、まだ完全でなく発達の途上にあるといえそうである。

### 3. 副詞・副詞句と陳述

陳述を支配する副詞（または副詞句）が用いられたとき、あるべきように陳述がなされているかどうかを調べた。陳述支配の仕方によって、次の五つにわけてのべる。

- 否定……0305 ; 1105
- 仮定……0210, 0302, 1102 ; 0312, 1103
- 推量……0205, 0304 ; 1209 ; 0207 ; 1208, 1308 ; 1104, 1206
- 疑問……0206, 0311, 1207, 1307
- 限界評価……1210, 1309, 1310, 1306

#### (i) 否定を要求する副詞

(0305) みちこさんは めったに がっこうを やすみます。

	3年	2年
「めったに」をかえたもの……………	14/48	6/48
「やすみません」にしたもの……………	26/48	31/48

(1105) その年は  6月じゅう 雨が ぜんぜん ふりました。

	4年	3年
{ 「ぜんぜん」をかえたもの……………	26/49	12/49
{ 結びを否定にしたもの……………	19/49	25/49

この種の問題は3年から4年にかけて、大部分ができるようになる。

#### (ii) 仮定の副詞

句末を支配して仮定をあらわす副詞として、「もし」「どんなに」とその句末の関係の理解を訂正法によって試みた。

(0210)(0302)(1102) もしあめが ふったから、 えんそくは やめに なります。において、「ふったから」を「ふったら」(・「ふったなら」「ふったとしたら」など) になおせたものの数は次の通りである。

	3年(3段目は4年)	2年(3段目は3年)
30年2学期 (0210)	22/49	20/49
30年3学期 (0302)	41/48	35/48
31年1学期 (1102)	45/49	37/49

(0312)(1103) どんなに あめが ふるけれども ゆうびんやさんは きつとくる。の「ふるけれども」を仮定逆法に直させたもの。

	3年(2段目は4年)	2年(2段目は3年)
30年3学期 (0312)	37/48	24/48
31年1学期 (1103)	45/49	37/49

以上のようにこの種の問題は4年生で大部分ができるようになる。

(iii) 推量を要求する副詞・副詞句

(0207) あしたは たぶん あめでしょう。(訂正しないのが正答)

では誤答は2年生の4/49だけ。(誤答は「たぶん」を「だいぶん」に)

(1208・1308) あさっての やぎゅうは おそらく

では、

	2学期		3学期			
	4年	3年	4年	3年		
正	「だろう」「でしよう」で結んだもの……………		29/46	15/49	35/47	21/50
	「ね」「な」など話しかけの終助詞など………		2/46	1/49	5/47	6/50
	「～する」「だ」で結んだもの……………		10/46	11/49	1/47	5/50
誤	「か」で結んだもの……………		2/46	10/49	2/47	9/50
	「そうだ」「かもしれぬ」「してみせる」など…		2/40	11/49	3/47	8/50

となって、3年では、結び方のまぎらわしいのがかなりある。

「ひょっとすると」の場合は、

(1104) あさっては  あめが ふるに ちがいない。

では、

	4年	3年		
{	「かもしれない」「かもわからない」と直せたもの……………		33/49	7/49
	できなかったもの……………		16/49	42/49

で、4年生と3年生との間にいちじるしい開きがある。同じく

(1206) あした ひょっとすると あめが

では、

	4年	3年
{ 「かも知れない」で結んだもの……………	36/46	34/49
{ 「れるだろう」「ふる」「ふるよ」などで結んだもの……………	9/46	10/49

となり、誤答はほとんどない。

以上のことから考えると、推量を要求する陳述の副詞は、3年生で、場合によってもたつぐが、4年生になれば大体使える、といえるのではなからうか。

なお「きっと」について調べようとした(0205)(0304)の2問題は問題作成をあやまったので考察からはずし、(1209)を次のように整理した。

(1209) らいしゅうの やきゅうには きっと

において、

	4年	3年
{ 推量で結んだもの……………	14/46	22/48
{ 決意で結んだもの……………	28/46	23/48

(iv) 疑問を要求する副詞

疑問を要求する副詞のうち「はたして」だけを調べた。

(0206)(0311) あすの やきゅうには はたして かちましよう。

(1207)(1307) あすの やきゅうには はたして

この結びは、推量的疑問にならなければならない。そしてその場合、「どちらが」を使うのと使わないのと両方あり得る。結果は次の通り。

	「どちらが」あり		「どちらが」なし	
30年2学期(0206)	3年 0/49	2年 3/49	3年 18/49	2年 5/49
30年3学期(0311)	3年 2/48	2年 5/48	3年 24/48	2年 12/48
31年2学期(1207)	4年 18/46	3年 15/49	4年 19/46	3年 14/49
31年3学期(1307)	4年 23/47	3年 21/50	4年 13/49	3年 8/50
	あやまり			
	3年 23/49	2年 38/49		
	3年 15/48	2年 29/48		
	4年 9/46	3年 20/49		
	4年 11/47	3年 21/5		

訂正法の場合と完成法の場合とでかなり異なるが、完成法の場合だと、「はたして」は4年生で大多数のものができようである。

(v) 限界評価をあらわすもの

「限界評価」というのは、次のようなものをひっくるめた、仮の名である。(1306)は否定と推量をとともに要求し、また後二者は否定を要求するのだが、その要求の仕方が、必ずしも辞を必要とせず、詞でもよい(思う、まずい、負けるなど)という点が(iv)までにのべたものどちがっている。

(1306) まさか 君が そんな ことを

	4年	3年
否定も推量もあるもの(「思う」を使う) .....	20/47	14/50
否定も推量もあるもの(「だろう」を使う) .....	16/47	19/50
否定はあり、推量がないもの .....	10/47	10/50
否定も推量もないもの .....	1/47	7/50

(1310) このえは どう見ても

正答は 4年 43/47    3年 46/50

(1210)(1309) だれが ピッチャーに なったところで

- { 「しょうがない」, 「まけるにきまってる」 など ..... a
- { 「おわるのか」, 「うつのだろう」, など ..... b
- { 「すか」, 「しょうか」 など ..... b'

	4年			3年		
31年度2学期(1210)	a22/46	b4/46	b'1/46	a13/49	b2/49	b'2/49
31年度3学期(1309)	a23/41	b2/47	b'1/47	a21/50	b8/50	b'4/50

これらの副詞または副詞句の使い方は話し手が対象をとらえるのとらえかたのあり方として問題をもつが、それは高学年へ行ってから考察する。

4. 代名詞・こそあど系

今まで「格助詞」でことがらとことがらの関係把握、「副助詞」と「陳述の副詞」とで、話し手とことがらとの関係把握を中心に文法の問題点をみてきたが、ここでは、話し手と聞き手との関係を把握することに関して、代名詞やこそあど系の使い方、こなし方を見ていく。これに関係のある問題は次の8題である。

0218, 0309, 1110 ; 0219 ; 0220, 0310, 1111, 1215

「あなたはAさんですか」に対しては「わたしはAです」のように人称をかえ、敬語を変化させて答えなければならぬ。そういう会話の場面を、文章の中で読みとらえ、誤りを直すことができるであろうか。

(0218)(0309)(1110)「あなたは まさこさんですか」「はい あなたは まさこさんです」

「わたしはまさこです」と直したものの数は次の通り。

	3年(3段目は4年)	2年(3段目は3年)
30年度2学期(0218)	19/49	7/49
30年度3学期(0309)	28/48	16/48
31年度1学期(1110)	21/49	15/49

訂正法は一般に完成法よりむずかしく、またその場面が目前になく間接的であるということはあるが、この形では、3～4年の内に半数前後ができていないことになる。

(0220)(0310)(1111)「もしもし、あちらは、うえださんですか。」「はい、こちらはうえだです。」

これは直し方が三つあり得る。

- $p$  「あちら」を「そちら」に……電話のような場面
- $q$  「あちら」を「こちら」に……人を訪ねるような場合
- $r$  「こちら」を「あちら」、「うえだ」を「うえださん」に……近所の人に尋ねるような場合

これに  $p'$  (「そちら」のかわりに「あなた」を使ったもの) を入れて結果を分類すると次のようになった。

	$p$		$p'$	
30年度2学期(0220)	3年 18/49	2年 9/99	3年 4/49	2年 0/49
30年度3学期(0310)	3年 21/48	2年 6/48	3年 9/48	2年 16/48
31年度1学期(1111)	4年 22/49	3年 8/49	4年 8/49	3年 20/49
	$q$		$r$	
	3年 4/49	2年 1/49	3年 0/49	2年 0/49
	3年 5/48	2年 6/48	3年 0/48	2年 1/48
	4年 11/49	3年 7/49	4年 0/49	3年 0/49

これを32年度2学期には完成法で行なった。

(1215) 「もしもし  はうえださんですか」「はい、こちらは う

えだです」

その結果は次の通り。

	$p$	$p'$	$q$
4年	35/47	16/47	1/47
3年	14/50	18/50	3/50

以上の4問題をあわせ考えると、 $p, p'$ の合計が少しずつふえて行くこと、および、上の級では $p$ が多く、下のクラスでは $p'$ が多いことがわかる。そして、完成法を用いれば、4年生で大部分ができるようになるということがわかる。

### 5. 複雑な文の組立て

ここで「複雑な文」というのは、主語や述語が二つ以上あったりして、主述修飾関係の複雑な文のことである。複雑な文を二つに分け、

(i) 並べ複雑文……「AがBなので、CがDだ」というふうに、二つ以上の主述関係がならんでいるもの。「AがBなので、Cだ」といった、ものもふくむ。

(ii) 包み複雑文……「AはBがCだと言った」というふうに、一つの主述関係をあらわす主語と述語の間に他の主述関係が包まれているもの。

(i) 並べ複雑文の組立て能力をみる問題……0212, 0303, 1212, 1312 ; 1115, 1213, 1313(, 2104) ; 1114, 1214,

(ii) 包み複雑文の組立て能力をみる問題……0217, 0314, 1112 ; 1314 (, 2105) ; 1113, 1211, 1311(, 2103)

(i) 並べ複雑文……並べ複雑文は、三つの述語句(述語が一つあるひとかたまり——以下「句」という)。からなるものばかりにした。

(ia) (0212)(0303) きょうは さむいから、くつしたを はいて いないから さむい。

(1212) きょうは さむいから、くつしたを  さむい。

(1312) きょうは 雨がふるようだから、 こ



まるよ。

この訂正の仕方、完全の仕方を次の四つにわけろ。

*p* ……「さむいから」を「さむいのに」「さむいが」などに直したもの。

*q* ……「はいていないから」または「」のところを、「はかないと、  
「はかなくちゃ」などに直したもの。

*q'* …… *q* と同じ部分を「はいても」「かきをもつていっても」などに直したもの、

*r* ……最後の「さむい」「こまるよ」などを無視して「はきなさい」「はいていこう」  
などにしたもの。

結果は次の通りであった。

3年(3,4段目は4年)				
30年度2学期(0212)	<i>p</i> 4/49	<i>q</i> 10/49	<i>q'</i> 2/49	<i>r</i> 6/49
30年度3学期(0303)	<i>p</i> 7/48	<i>q</i> 18/48	<i>q'</i> 0/48	<i>r</i> 8/48
31年度2学期(1212)		<i>q</i> 26/46	<i>q'</i> 9/16	<i>r</i> 6/46
31年度3学期(1312)		<i>q</i> 38/47	<i>q'</i> 2/47	
2年(3,4段目は3年)				
	<i>p</i> 3/49	<i>q</i> 5/49	<i>q'</i> 2/49	<i>r</i> 14/49
	<i>p</i> 0/48	<i>q</i> 16/48	<i>q'</i> 1/48	<i>r</i> 13/48
		<i>q</i> 30/49	<i>q'</i> 11/49	<i>r</i> 5/49
		<i>q</i> 43/50	<i>q'</i> 3/50	

この結果を見ると、この種の問題は、完成法だと、3年で大体できるようになるが、訂正法だと、2年の3~4分の1及び3年の一部が、3句並べ複雑文を2句なみに見ようとする傾向があることがわかる。

(ib) 前の (ia) では、第1句と第3句の独立性が強くなく、全文として2句並びの複雑文に近いが、これがもう少しはっきりした3句並びの複雑文になると、どうであろうか。

(1115) このあいだ ひる 雨がふってきたので、かきをもつて いなかった  
ので、ずぶぬれに なった。

(1213)(1313)(2104) このあいだ おつかいの かえりに 雨がふってきた  
かきをもつて いなかったずぶぬれになった。

*p* ……文を二つないし三つに切るもの。

*q* ……「ので——ので」または「——」を  
「けど(・が……) ——ので(・から)」にするもの。

r ……「とき——ので」にするもの

4年(4段目は5年)

3年(4段目は2年)

31年度1学期(1115) p 7/49 q 2/49 r 0/49 p 0/49 q 0/49 r 0/49

31年度2学期(1213) p 3/46 q 12/46 r 0/46 p 3/49 q 12/49 r 12/49

31年度3学期(1313) p 1/47 q 25/47 r 5/47 p 2/50 q 8/50 r 5/50

32年度1学期(2104) p 5/49 q 28/49 r 7/49 p 0/50 q 14/50 r 6/50

(1114) このあいだ あさ 雨が ふって いたので、 かさを もって  
いったので、 雨に ぬれなかった。

(1214) このあいだ あめが ふっていた□□かさを もって いった  
□□ だいぶ ぬれた。

2つのうち(1114)は両学年とも正答なし。(1214)は、

	5年	4年
{とき——けど(・のに・が)	6/46	5/49
{ので(・から)——けど(・が・のに)	24/46	16/49

となっている。

以上(ii b)の各問出来具合を、その時期とあわせて、考えてみると、(1114)は(1115)よりむずかしく、(1214)は(1213)よりむずかしい。そこで訂正法は完成法よりむずかしい、ということも考慮にいれて、文そのもののむずかしさを考えてみると、一番むずかしいのが(1114)の文、一番やさしいのが(1214)の文ということになりそうである。つまり、

「AだからB ; BだからC」を組みあわせて一つにする組み立て方より、  
「AだけれどBだからC」という組み立て方のほうがやさしく、またそれより、  
「AだからBだけれどもC」のほうが、いっそうやさしい。  
という傾向があるようである。そして「AだけれどもBだからC」の組み立てを大半がこなせるようになるのは、高学年になってからだと思われる。

(ii) 包み複雑文の組立て

(0217)(0314)(1112) わたしは ゆめで せつさんが <sup>じよおう</sup>女王さまに なりました。

を訂正する問題に対する反応を

p ……「わたしは」を「わたしの」「わたしのみた」などにかえたもの。

q …… 「ゆめで」を「ゆめを見て」にかえたもの。

r …… 「なりました」を「なったのを見た」「なった所を見た」「なったかと思った」などにかえたもの。

s …… 「なりました」を「なったゆめを見た」「なったゆめでした」などにかえたもの。

のようにわけてみたところ。

		3年(3段目は4年)			
30年度2学期(0217)	p 8/49	q 0/49	r 0/49	s 6/49	
30年度3学期(4314)	p 13/48	q 2/48	r 0/48	s 15/48	
31年度1学期(1112)	p 9/49	q 4/49	r 3/49	s 25/49	
		2年(3段目は3年)			
	p 3/49	q 3/49	r 0/49	s 3/49	
	p 3/48	q 3/48	r 1/48	s 11/48	
	p 6/49	q 3/49	r 1/49	s 18/49	

となった。これをみると、包み複雑文が成り立つ途中で、「ゆめで——ゆめを見た」のように、内側の主述関係の外側に同語のくりかえしをとる、という過程を経るように思われる。この場合のような同語くりかえしの例をもう一つ。

(1113) このあいだ みち子さんが びょうきに なったので、あきらくんと  
と そうだんして、みち子さんに 花を もって行って あげようと  
と そうだんした。

(1211) このあいだ みち子さんが びょうきに なったので、あきらくんと  
と そうだんして、みち子さんに 花を もって行って あげようと  
と 。

この問題に対する、最後の部分の反応を

p …… 「きめた」「いうことになりました」などにしたもの。

q …… 「思った」「言った」「話しあった」などにしたもの。

r …… 「そうだんした」にしたもの。

にわけてみると、

		4年			3年		
31年度1学期(1113)	p 10/49	q 9/49	r 24/49	p 1/49	q 13/49	r 28/49	
31年度2学期(1211)	p 5/46	q 25/46	r 4/46	p 1/49	q 27/49	r 5/49	

31年1学期の訂正問題では、「相談して——相談した」が半数前後になっている。(1211)に続くのは次の問題である。

(1311)(2103) はが いたく なったので、おかあさんに 行って、はいし  
 さんに みてもらいに いこうと 。

この  中の答を

*p* …… 「思う」「思った」「した」など

*q* …… 「いいました」「いきました」など

とすると、結果は次の通りになった。

	4年(2段目は5年)		3年(2段目は4年)	
31年度3学期	<i>p</i> 39/47	<i>q</i> 8/47	<i>p</i> 39/50	<i>q</i> 6/50
32年度1学期	<i>p</i> 45/49	<i>q</i> 4/49	<i>p</i> 46/50	<i>q</i> 4/50

こうみると、完成法のほうは、3、4年で、かなりできるようである。

二つの主語に対して、それぞれの述語を補えるかどうかを調べるために、次の問題を出した。

(1314)(2105) わたしは まさおさんが おじいさんに   
。

この結果、を

*p* …… 「わたしは」「まさおさん」をともに生かしているもの。

*q* …… 「わたしは」に対応するものが消えてしまっているもの

とあらわすと、次のようになった。

	4年(2段目は5年)		3年(2段目は4年)	
31年度3学期 (1314)	<i>p</i> 30/47	<i>q</i> 13/47	<i>p</i> 37/50	<i>q</i> 8/50
32年度1学期 (2105)	<i>p</i> 35/49	<i>q</i> 8/49	<i>p</i> 33/50	<i>q</i> 10/50

これをみると、この能力は、いずれも1/3以上ができており、また4年生を中心として、あまり動いていないようである。

(高橋)

## Ⅵ 読書生活の発達

### A 調査の方法

#### 1. 調査方法

昭和28年度、児童の入学前後の家庭における読書状態を調査したが、以後、ひきつづき毎年、実験学校と協力学校に対して、同種の調査を続けてきた。調査方法は、質問紙法による調査用紙を各家庭に配布して記入してもらうのであったが、各家庭では、協力して、まじめな回答をよせられたので、(記入の仕方に精粗の別はあったが)低学年の段階で、かなり、信頼できる結果がえられた。中学年になってからは、児童自身にも、この種の質問に対する回答ができるような能力がついてきたこと、家人の目からみた子女の読書状態と、児童自身の読書に対する興味や関心の実態との間に、どういう関係があるかを、あわせてみるために、読書調査を、家庭用、児童用の二本立として、さらに詳しくこの段階での読書状態をみようとした。

2. 調査期日 (3年)昭和30年11月

(4年)昭和31年11月

家庭用と児童用は、前者は家庭へ配布し記入してもらったものを回収、後者は、学校で、一定の時間に児童にいっせいに記入してもらったものを回収するという方法を取り、それぞれ、相前後して実施した。

#### 3. 調査内容

家庭用の調査では、従来の調査項目中、言語能力との関係の深かった項目を選定し、さらに、この段階で必要と思われるものを加えた。すなわち、家庭における読書(教科書や直接学校のためにする勉強以外の読書)の、

1 興味 2 読書時間数 3 読書反応の有無(家人への話しかけ・質問) 4 ひとりで読むか 5 音読・黙読 6 読書態度上の変化(前年と比較して) 7 読む本の種類・範囲 8 閲読状況 9 本の選定 10 蔵書の数

などで、3年4年とも、中学年用として調査項目は同一である。

なお、中学年では、従来の付帯調査の、新聞・ラジオに新しくテレビを加えておいた。

#### 新聞の調査内容

- (1) 新聞への興味・関心の有無
- (2) みる紙面
- (3) 新聞を通しての文字や内容への関心
- (4) 子供新聞読紙状態

#### ラジオの調査内容

- (1) ラジオへの興味と関心
- (2) 聴取番組の種類と傾向
- (3) ラジオを通しての言語への関心

#### テレビの調査内容

- (1) テレビへの興味と接近の有無
- (2) 聴視番組の種類・傾向

児童用では、家庭にたずねたいいくつかの問いの他に、読書に対する児童の意識・関心・興味等の状態がつかめるような問いを加えた。

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| (1) 読書の興味         | (2) 読書の目的意識の有無      |
| (3) 本の選択の態度とその基準  | (4) 読書の場所           |
| (5) 愛読書の種類と傾向     | (6) 読書活動の有無（質問・ノート） |
| (7) 閲読状態          | (8) 希望図書の種類と傾向      |
| (9) 読む態度や種類の変化の自覚 |                     |

調査項目は3・4年ほとんど同じだが、4年では、3年からの発達、4年の特性が把握できるように配慮してある。（調査票は巻末付録参照）

## B どんな本を読んでいるか

### 1. 読む本の種類と範囲

中学年の児童たちが、好んで読む本の種類は何か。家庭調査の結果では、実験学校は次のようになっている。

	(4年)	(3年)
1 漫画	91.0%	80.0%
2 雑誌類	75.6	90.0
3 童話・物語・小説類	48.9	57.5

4	冒険・探検記	35.6	47.5
5	理科・社会科などに関するもの	28.9	27.5
6	参考書・辞書・年鑑類	26.7	25.0
7	伝記類	22.2	32.5
8	劇	13.3	20.0
9	詩の類	11.1	10.0
10	作文・文集の類	8.9	15.0
11	その他	0	5.0

これによると、漫画が雑誌と1位を争い、入門期・低学年のころに上位にあった童話・物語・小説類が3位になり、その代り冒険・探検記や参考書類が読まれるようになったこと、少しずつではあるが、読書範囲が拡張されてきたことがわかる。これは、児童の読む本を種類別にすると、どういう類のものを好むかを類別にあげてもらったのであるが、協力学校でも、大体同様の回答であった。

好んで読む本の種類

3年（家庭調査）

学校	種類 童話・物語・小説	冒険探検記	伝記	劇	漫画	作文文集	詩	理科・社会科に関するもの		参考書	雑誌	その他
								理科	社会科			
C	43.7	22.9	10.4	16.7	91.7	6.2	8.3	2.1	14.6	85.4	0	
F	43.2	18.2	0	4.5	63.6	2.3	0	4.5	4.5	81.8	0	
H	40.6	25.0	6.3	3.1	75.0	0	3.1	6.3	0	68.8	0	
K	48.0	20.0	4.0	12.0	72.0	22.0	6.0	4.0	8.0	72.0	0	
N	56.9	29.4	17.6	21.6	82.4	15.7	21.6	3.9	19.6	82.4	0	

好んで読む本の種類

4年（家庭調査）

学校	種類 童話・物語・小説	冒険探検記	伝記	劇	漫画	作文文集	詩	理科・社会科に関するもの		参考書	雑誌	その他
								理科	社会科			
C	40.8	38.8	49.0	14.3	81.6	22.4	12.2	10.2	28.6	85.7	6.1	
O	44.2	37.2	51.2	18.6	86.0	9.3	9.3	20.9	18.6	67.4	14.0	
F	35.9	7.7	10.3	10.3	71.8	7.7	0	7.7	7.7	76.9	15.4	
H	53.1	40.6	31.3	18.8	71.9	15.6	12.5	18.8	9.4	78.1	0	
K	56.8	34.1	36.4	15.9	81.8	13.6	11.4	9.1	0	70.5	18.2	

このように好んで読む本を種類別にあげてみると、学校によって読書傾向に多少の特異性はあるが、大勢は地域差がほとんどみられず、共通した傾向をもっていることがわかる。ただ農山村の方が、都市部に比べると、参考書類が少

ないという程度の差である。それでは、入門期や低学年に見られた雑誌以外の書物の地域差はなくなったのかというと、大ざっぱに、種類や範囲を傾向的に数量的に見た場合と違い、書物の入手に伴なり地域性がまだ残っていることが認められた。ことに、童話・物語・小説類、参考書などにそれが多い。しかし、そうした地域差を超えて、児童の読書範囲、傾向が、同じ方向に向いていくところに、中学年の特徴があるように思われる。

なお、この調査と相まって児童自身に答えてもらった読書の種類や傾向と比較すると、おもしろい。「このごろ読んだ本のなかで、どんなのがすきでしたか。そのなまえ2さつをかいてください。」(本の名前を忘れたら、どんな種類のものかをかかせた。)これに対する児童の答えは、次のようである。

最近読んだ、好きな本 4年 (児童調査)

種類	童話物語			冒険探検			伝記			社会科			理科			参考書			作文文集			劇			漫画			雑誌		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
実験	4	24	28	7	1	8	2	2	4	2	0	2	4	0	4										7	11	18	2	8	10
C	25	28	53	9	1	10	2	3	5																0	1	1	1	2	
O	17	15	32	1	0	1	7	1	8																9	10	19	7	11	18
F	9	19	28	2	0	2	0	1	1						1	1	2	1	0	1	1	0	1		3	4	7	23	16	39
H	5	20	25	4	0	4	0	1	1																8	6	14	12	8	20

これによると、たくさん読まれた本が、必ずしも、印象強く受けとられたり、魅力があったり、好ましい本として児童に愛好されているとはかぎらないということがわかる。多く読まれる種類が、最もよいものとして支持されているとは限らないというこの現象から、次のようなことが考察される。

たとえば、たくさん読まれたものの種類別では、雑誌や漫画であったが、好きな本という感銘は、それらからはあまり受けておらず、童話・物語の名作品が首位になっている。このことは、この時期の児童の読書の価値意識が、育てられていることを物語るものと思われる。読書する理由に対して、価値意識のあることが認められたが、それは、好きな本にもあらわれているのである。漫画の多読も、むしろ児童なりのリクリエーションとして読み流されてしまうわけである。その他は、大体家庭でみかける傾向と同じである。



なお、同時に調べた、児童が現在、いちばん読んでみたい希望の本は、下表のようで、

読みたい本 4年（児童調査）

種類 男	童話物語			冒険探検			伝記			社会科			理科			参考書 辞書			作文 文集			スポ ーツ			漫画			雑誌		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
実験	0	23	23	19	4	23	1	3	4	1	0	1	5	2	7									3	4	7	1	3	4	
C	16	15	31	3	3	6	4	2	6	3	0	3				2	1	3				1	0	1	3	0	3	0	3	3
O	11	9	20	7	0	7	3	1	4	2	0	2	3	0	3	2	0	2						3	6	9	13	4	17	
F	8	20	28	13	2	15	7	4	11															11	8	19	1	0	1	
H	6	7	13	4	1	5	1	0	1															6	5	11	8	4	12	

好きだった本と大体同じ傾向である。漫画や雑誌の数が、さらに減っていること、男女差が際立っていることなどが目につく。ことに実験学校では、女兒は悲しい物語、少女小説を希望するものが多く、男児は、反対に勇ましい冒険・探検物語を希望している。

それでは、中学年の児童たちのこうした読書傾向が、具体的にはどうなのかをみよう。

1 童話・物語 58冊（ ）内の数字は人数。ただし1人の場合は省略。以下同じ。

男 24種 26冊	(○印は、男女とも に読んだもの)	女 30種 32冊
赤い鳥名作集	水滸伝	クオレ物語
有三少年文選	○わんわん物語(2)	アンデルセン物語(2)
小公子	○イエスさま(2)	ピーターパン
家なき子	人形とお月さま	マッチ売りの少女
巖窟王	小ぼうしのすもう	シンデレラ姫
○イソップ物語(2)	木の下の子	ジェイン・エヤ
ストリンドベリ	赤い惑星の少年(2)	ゼンダ城のとりこ
童話集	少年姿三四郎(2)	ヴェニス商人
ニルスのおふしぎな旅	城北だより	青い鳥
北欧童話集	フェアブルの昆虫記	トルストイ物語
仔鹿物語		リヤ王物語
森の小人		八犬伝
西遊記		名作物語
		たのしい童話
		新しい童話
		子供文学
		白鳥の湖
		宇治拾遺物語
		やん坊にん坊とん坊(2)
		ろば物語
		嵐に咲く花
		級の明星
		美しき妹
		涙の母子草
		天使のひとみ
		心の花たば
		きりの中の顔

「最近（2か月間）にどんな本を読んでいますか。」の問いに、実験学校の4年生が読んだ本として家人があげたものは前ページの表のようであるが、さらに、児童が好きな本、読みたい本として答えたものを補いながらみると、次のようである。

低学年の同類のものに比べると、かなり、上級向きになっていること、男児と女児との好み、前よりさらにはっきりわかれてきたこと、女児では、名作の少年少女文学と共に、新しく、いわゆる少女小説という愛読書が、急激に増加してきたこと、少しではあるが、日本の古典をもとにしたよみものなどにも関心がむいてきたことなどがあげられよう。

児童が好きだと認めた本で、これら以外のおもなものをあげると、

「ニーベルンゲン物語」「せむしの子馬」「赤い惑星の少年」(2) (男児)、「ケティ物語」(女児)などや、「夾竹桃の花咲けば」「花よりも美しく」「まりのゆくえ」「母千鳥」(女児)などがある。読みたい本では、女児の「かわいそうな本」9人が、具体的に書名をあげてはいないが、少女小説的なものであることが想像される。

女児愛好の少女小説の一群は別として、童話・物語類が上級向きになったことは、他の協力学学校でも著しく目立ち、地方の都市にあるC校O校などにも、多くの名作物語が、読んだ本、読みたい本として列挙されている。

ピノキオ、イワンの馬鹿、足ながおじさん、ジャングル物語、三銃士(男児)

しあわせな王子、乞食と王子、あゝ無情、アルプスの少女、にんじん、ハムレット、白雪姫、人魚姫、若草物語、ノートルダム物語(女児)

ただこの種のものになると、農村地方では、やや種類が、量的にも質的にも乏しい傾向がある。実験学校に見られた男女差は、他校でもはっきり現われている。なお、日本の古典も、だんだん読まれるようになっていて、日本神話、平家物語、義経記、弓張月、曾我兄弟、里見八犬伝、少年少女古典文学全集、古典とまではいかないが、太閤記、白菊物語などもあって、全体として、外国の名作ものが多い中に、昔話・おとぎ話の類から一段高い日本古典が、なかま入りをしつつあることが目立つ。現代の日本の童話・物語類は外国の作品に比べると量の上では少ない。

「のんちゃん雲にのる」「白雪先生」「ひろすけ童話集」などが愛好されている。

ただ、いわゆる悲しいよみもの、少女小説となると、数がふえてくる。なお、このほかに、ラジオの人気番組であった作品、「オテナの塔」「七つの誓い」「ぎゃらむの洞窟」や、ちゃんばらもの的な一群のよみものもみられた。

2 漫画 46冊

男	14種 21冊	女	24種 25冊
鉄腕アトム(2)	いがくり君(2)	了海物語(名作まんが)	さざえさん
人工衛星第1号	白星くん	黒馬物語	すみれさん
鉄人28号	だるまさん	リヤ王	ぼくちゃん
原子天馬団	ミックイと巨人	小公女	とん子ちゃん
ロック冒険記	まんが(6)	シンデレラ姫	ひばり姫
少年児雷也	三銃士(名作まんが)	赤ずきん	ゆかいな金ちゃん
まんがが大学	つばなり剣士	狐の裁判	赤いカナリヤ
		花よりも美しく	朱房の小天狗
		まりのゆくえ	びっくり人形
		まんが(2)	さるとび佐助
		冒険だん吉	学友日記
		たぬきちゃん物語	マリーちゃん西部へ行く

低学年で愛読された漫画が、生活漫画や、時代漫画、冒険・探検漫画で、入門期のころより、読書興味の上で、一段の発達がみられたが、中学年でも、同様の傾向で、愛読されている。ただ、男児では、時世を反映して、科学的な興味をおりこんだ、科学漫画が多くなったこと、女児では、名作物語を漫画化した名作漫画が多く愛読されていることが目立つほか、やはり、生活漫画が多く読まれている。なお、生活漫画の中では、「さざえさん」や「くりちゃん」「ヨウちゃん」などのように、それらの登場人物の行動におかしみを感じるという一群のほかに、野球漫画、柔道漫画などと銘をうたれている一群の漫画もあって、たとえば、「ライナーくん」のように、昔なら、少年小説の主人公として活躍する正義純情な人物を、漫画形式で扱っているものがある。実験学校の男児Tが、「読書ノート」で、漫画の読後感に、いつも、「ためになった。」「あそこがよいとおもった。」などと記入したわけもここにあるのであって、名作漫画もそうであるが、絵と登場人物の会話が主になって構成されるこれらの文表現

ばかりになじんでいると、多読するわりに文字力とくに漢字の書字力や文章表現力、読解能力などの上で、バランスのとれた正しい能力がつかないのではないかという懸念も生ずる。事実、漫画だけを特に読んでいた、言語能力下位のA女は、ある期間、会話だけから成る幼稚な作文を書いていたことがあった。

実験学校で、よかった漫画としてあげられたものは

男		女	
マンガ大学	鉄腕アトム	とどろき先生	こまちゃん
本とうくん	いがぐりくん	ちどりちゃん	ちぐさちゃん
黒帯くん	ポッポちゃん	アバートちゃん	さざえさん(2)
クリちゃん		あまからきょうだい	おちゃひめ

で、児童の好きな漫画の実態がわかる。

協力学校でも、ほとんどこれと同様であるが、ただ、「若様小天狗」「怪力頼光」「はやぶさ頭巾」「一心太助」「月丸一平」「弥次さん喜多さん」「雷電」「三日月天狗」などのいわゆる時代漫画が、よかったという本の中に加えられていることが、目立つ差である。

### 3 冒険・探検記15冊

男	13種 15冊	(女 0)
ロビンソン漂流記	ノンニの冒険	ハックルベリーの冒険
希望号の冒険(2)	少年火星探検隊(2)	月世界探検
宇宙探検 220 日	南極へ	緑の宇宙人
少年ケニヤ	少年タイガー	ソロモンの洞窟
怪人パイロット		

冒険・探検記の類を愛読するのは、中学年での一つの特徴である。実験学校では、漫画でもそうであったが、時世反映の宇宙探検に大方の興味が動いていた。しかし協力学校では、「宝島」「ガリバー旅行記」など、名作の方が主である。そして、実験・協力校ともに、男児が圧倒的に多く、童話・物語類が女兒に多く愛好されているのと対照をなしている。読書内容に性別がはっきり現われたすのは、中学年の段階からといえる。

読後の印象の強かったものでは、以上のほかに、「アマゾンの秘宝」や、探偵の本があげられ(実験学校)、読みたい本に、男女とも「探偵もの」(実験学校男11人女4人)をあげている。「怪奇四十面相」「二十面相」など探偵ものに

興味と関心がよせられるようになったのは、児童の推理力や判断力が進歩してきた徴候であり、この探偵ものの登場は、中学年の読書の種類の新しい一つの特徴といえよう。

#### 4 伝記 10冊

(\*は伝記に準ずるもの)

男	2種 2冊	女	8種 8冊
○リンカーン(2)	* 荒木又右衛門(2) 塚原ト伝 水戸黄門漫遊記	紫式部	ワット
○北里柴三郎(2)		清少納言	モーツァルト
		万寿姫	野口英世

伝記類は、低学年からぼつぼつ読まれていたが、中学年になると、増加の方向を取り、また人物の領域が拡張されてくる。

読後感銘を受けたものでは、

〔実験学校〕

リンカーン、ニュートン(男児)、二宮金次郎、中江藤樹(女児)

〔協力学校〕

豊臣秀吉、二宮金次郎、ナポレオン、リンカーン、キューリー夫人伝(男児)、野口英世、エジソン(男・女児)、シェーベルト(女児)

などで、政治、科学、医学、文学、音楽など、種々の分野の人々に関心・興味をよせられていることがわかる。野口英世、エジソン、リンカーンなどは、特に愛読者が多い。なお、荒木又右衛門、塚原ト伝といった講談的な人物を扱ったものが、この期の男児に、かなり愛読されていることも、一つの特色としてあげられよう。読みたい本に、柳生十兵衛(協力学校)をあげたものもある。

特定の人名をあげていないが、「偉人伝」(男7人・女4人)として、まとめて読みたい本にあげられる力をもっている。

#### 5 理科・社会科に関するもの 4冊

男	3種 3冊	女	1種 1冊
工作の手引 切手なんでも号	昆虫図鑑	なぜだろー・なぜかしら	四年上

児童が答えた読書の目的の理由として、学校では得られない、いろいろな知識を得るためというのが、かなり多くあげられていたが、そういう意味での読

書領域もかなり広がっていることがわかる。協力量校でも、「社会科見学図鑑」「世界の地理」「図工ブック」「学習年鑑」などがあげられているし、「なぜだろう・なぜかしら」は、協力量校4校からの回答があった。

直接、児童がよかった本としてあげたものには、

〔実験学校〕

人工衛星、宇宙物語、宇宙の秘密  
おもしろい社会、山の画報、発明発見物語（男児）

〔協力量校〕

図画工作（男児）

などがあり、さらに、希望書としては、

〔実験学校〕

白い大陸(2)、細菌の本、バクテリア  
世界の移り変り（男児）  
天文の本、火の起源（女児）

〔協力量校〕

日本の歴史の本、発明・発見の本  
医学の勉強のための本、実験に役立つ本（男児）

などがあげられている。

社会科・理科に関するもの以外にも、

写真の本、柔道の本（協力量校・男児）

などの趣味やスポーツのための本、

作文集、たのしい児童劇（協力量校・女児）

などの学習に関する参考書などもある。

童話物語・漫画・雑誌などの量には及ばないが、これらからでも、児童が自己の興味・趣味・関心・必要などに応じて、本を選んで読む態度と能力のついてきた段階に達していることが認められる。

6 雑 誌 83冊

男	13種 39冊	女	12種 44冊
○小学四年生	(16)	男 女 (8・8)	なかよし (9)
少年クラブ	(1)		少女ブック (8)
少年	(3)		少女 (7)

○幼年クラブ	(5)——(4・1)	りぼん	(3)
少年画報	(1)	少女クラブ	(2)
○おもしろブック	(8)——(6・1)	小学一年生	(1)
漫画王	(4)	たのしい一年生	(1)
冒険王	(4)	小学生の科学	(1)
○科学クラブ	(5)——(4・2)		
朝日グラフ	(1)		
子供の科学	(1)		
おもしろい社会科	(1)		
四年の学習	(1)		

これらの閲読状態は、

	男	女	計
きまってとっている	14人	25人	39人
ときどき買う	14	6	20
借りてくる	6	11	17
その他	5	2	7

(中学年でも、低学年同様、「漫画王・冒険王」のような娯楽本位の雑誌は、家庭で購読しないで、借り読みをする率が高くなっている。)

いわゆる学習的な雑誌のほかに、娯楽本位の雑誌が多く読まれ、雑誌の種類も多種多様になるという低学年の徴候がいつそうきわだってきたこと、科学系統の少年向けの雑誌が多く読まれていることが目立っている。

ことに後者は男児に多く、また、中学年になると、雑誌閲読の男女差もかなり出てくる。協力学校でも、学習向きの雑誌、娯楽雑誌等の閲読状態は、ほぼ同様で、ここにあげた諸雑誌のほかに、

ぼくら 野球少年 少年王 痛快王 漫画少年 少年家の光  
などが加えられる。

ただ、協力学校では、実験学校にみられたような、少年向けの専門雑誌、たとえば科学クラブのようなものは、読まれていない。従来、地域差があまりみられなかった雑誌に、中学年になってから、かえって上のようなある種の地域差が見られるのである。

以上、実験・協力学校の4年を中心に、読書の種類と範囲を見てきたのであるが、3年ではどうであろうか。

(1) 読む本の種類の変化

3年と4年とでは、読書の態度や読む本の種類に変化があるか否かをたずねた場合、児童自身では、読む態度も読む本の種類も変わったと70%ほど（平均）のものが答えている。（「読書態度の変化」の項参照）

実験学校では

(3年)	→	(4年)	
漫画		物語	22.2% (男11.1 女29.6)
漫画		理科	2.2
漫画がへった			2.2
探偵		天文	2.2
おもしろい本		こわい本	6.6
	→	小説	2.2
	→	漫画	2.2

その他、前よりたくさん読む6.6%、いろいろなものを読む2.2%、むずかしい本を読む2.2%などがある。

3・4年の読む本の種類はかわらないと答えたものでは、

3.4年共通して漫画がすき	4.4%
” 探偵ものがすき	6.6
” 昔話がすき	2.2
無 答	20.0

という自己観察である。

3年の読書調査で、最近読んで好きな本及び読んでみたいと思う本を児童に

最近読んだ、好きな本

3年（児童調査）

種類 学校	童話物語			冒険探検			伝記			社会科学参考書			作文文集			漫画			雑誌		
	男女		計	男女		計	男女		計	男女		計	男女		計	男女		計	男女		計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
実験	9	12	21	5	0	5	3	1	4	2	2	4	0	1	1	5	2	7	10	34	44
C	14	18	32	7	2	9	4	3	7	0	4	4				10	5	15	18	16	34
O	9	16	25	5	2	7	6	3	9	3	0	3				6	2	8	18	12	30
F	14	30	44	13	0	13	2	1	3	1	2	3				3	4	7	8	8	16
H	11	20	31	2	0	2	9	2	11	2	0	2							8	6	14
K	20	39	59	11	4	15	2	0	2	0	1	1				1	2	3	10	6	16
N	15	17	32	5	0	5	1	0	1	1	0	1	0	1	1	8	7	15	16	24	40



読みたい本

3年（児童調査）

種類 学校	童話 物語			冒険 探検			伝記			社会科 理科 参考書			スポーツ			漫画			雑誌		
	男		計	男		計	男		計	男		計	男		計	男		計	男		計
	男	女		男	女		男	女		男	女		男	女		男	女		男	女	
実験	14	11	25	0	2	2				2	2	4				3	9	12	5	13	18
C	0	6	6	5	1	6	2	2	4	2	0	2	2	0	2	11	3	14	18	8	26
O	10	8	18	3	1	4	0	3	3						7	3	10	15	10	25	
F	21	37	58	11	1	12									1	0	1	4	7	11	
H	16	15	31	2	0	2	4	0	4	0	2	2			1	5	6	4	3	7	
K	12	21	33	4	0	4									3	5	8	7	1	8	
N	8	14	22	5	0	5	1	0	1	0	2	2			1	2	3	3	7	10	

あげさせたのが、以上の二つの表である。

これと、前掲の4年の場合(320ページ)と比較してみると、その種類や範囲も量的には、あまり変化が認められない。ただ、3年の方が、雑誌に対する読後の印象や感銘が強いようである。これは、雑誌と単行本のどちらが好きかをたずねた場合、3年では雑誌が多く、4年では逆に単行本となっていたのと同じである。また、質的、内容的にみても、3年では、童話・物語の類に、また、一寸法師、桃太郎、俵藤太、牛若丸(協力学校H校)など、低学年で愛読された絵物語式のものが残存していたり、4年の女兒に多かった少女小説がそれほど多く読まれたり、読みたがられたりはしていない。伝記でも、

二宮金次郎、渡辺華山、中江藤樹、源義経、八幡太郎義家、左甚五郎、野口英世、エジソン、ナイチンゲール、ワシントン、ベープルース、ニュートン、キュリー夫人などいろいろあるが、低学年と4年との中間的な色彩も感じられる。

社会科・理科その他の教科に関するものでは、

〔読んでよかった本〕 地球と宇宙(実験学校)、みんなの世界、村にダムができる、子供百科図鑑(協力学校)

〔読みたい本〕 日本の交通、おもしろい算数、工作の本、みんなの幸福、地球の本、すもうの本、3年の作文(協力学校)

など、広い範囲にわたって参考書が求められており、これが4年へとさらに発展していることがわかる。

雑誌類では、学習向きのもの、娯楽専用のものともによく愛読されている。

ただ、4年にみられた子供むぎの専門雑誌はまだ読まれていない。

漫画は、3・4年あまり変わっていない。生活漫画が愛読されている。

(2) 短いよみものから長いよみものへ

家人が認めた読書態度の変化の一つに、長いものが読めるようになったとあったが、このことは、次の数字によっても裏づけられる。

(児童調査)

学校	長いものが すき		短いものが すき	
	3年	4年	3年	4年
	実	85.1	86.7	14.9
C	74.5	87.5	25.5	12.5
O	85.1	84.1	14.9	13.6
F	69.6	51.2	30.4	48.8
H	71.9	78.1	25.0	21.9
K	76.5	86.4	23.5	13.4
N	92.0	—	8.0	—

「長いものがたりと、みじかいお話とではどちらがすきですか。」の問いに対して、児童自身も、一様に長いものが好きと答えている。

そして、長編のものをよいとする最大の理由は、長くてよみでがある(実験学校、26人・57.8%)で、内容的に詳しいという理由は(4人・8.9%)であった。

児童が自身で本を選ぶ時の基準の一つに、「読みでがありそうだ」というのが、かなり

の高率50%台を占めていたが、これらの結果から、中学年の段階では、一応、長いものを、読み通そうとする態度も、力もついてきたことがわかる。

したがって、本の読み方も、読みはじめたものを途中であきて投げ出さないで、一応読んでから、次にうつるという態度で読めるようになったことが、家人から報告されている。

一方、短いものをよいとする児童は少ないが、その人たちの理由は、すぐ読み終るから6.6

読み方 (家庭調査)

学校	学年	絵だけみる		読み終らずに、次々とかえる		よんでから次にうつる	
		3年	4年	3年	4年	3年	4年
		実験	0	4.4	10.0	17.8	92.5
C	2.1	0	27.1	22.4	64.6	67.3	
O	—	0	—	23.3	—	74.4	
F	4.5	2.6	29.5	30.8	61.4	69.2	
H	21.9	25.8	31.2	71.0	43.8	3.2	
K	8.0	2.3	24.0	31.8	66.0	63.6	
N	5.9	—	11.8	—	76.5	—	

%、おもしろい2.2%、長いのはあきる4.4%という状態で、言語能力・読書能力の低いものにみられた。(実験学校、4年・児童用)

(3) 雑誌と単行本

これと関連するものに雑誌と単行本がある。「ざっしといっさつのまとまっ

(児童調査)

	雑誌がすき		まとまった本がすき	
	3年	4年	3年	4年
実験	66.0	40.0	34.0	60.0
C	70.6	33.3	29.4	68.7
N	55.3	40.9	44.7	56.8
F	52.2	68.3	47.8	31.7
H	59.4	50.0	37.5	44.1
K	66.7	40.9	33.3	56.8
N	62.0	—	36.0	—

た本とどちらがすきですか。』の問いに対して児童は3年では雑誌と答えたものが多かったが、4年では、大体逆の数字を示して、単行本の方を好むようになっている。4年になって単行本の方がすきと答えたものの数が多いのは、前の短いものから長いものへの傾向に共通するものでもある。ただ、現実には愛読している本の種類で、雑誌が上位を占めているのと矛盾しているが、それぞれを支持する理由をみると、必ずしも矛盾していないことがわかる。

実験学校 (児童調査)

理由		学年		3年				4年			
		男	女	男	女	計	%	男	女	計	%
雑誌のすきな理由	続きがあるからたのしみ	3	12	15	31.9	4	5	9	20.0		
	いろいろな種類のもの、おもしろいものがある	7	7	14	29.8	2	8	10	22.2		
単行本のすきな理由	最後までまとまってよめる	5	4	9	19.1	10	13	23	51.1		
	おもしろい	1	2	3	6.4						
	ためになる	3	1	4	8.5	2	1	3	*6.6		
	その他					0	1	1	2.2		

\* 4年では「ためになる」に、

自分のわからないことがわかる 4.4%

ほんとのことがかいてある 2.2%

という内訳がある。

その他では、単行本の方が経済的という答もあった。

雑誌をあげる理由は、分量よりも、続きものに対する期待、たのしみ、また、一冊の中に童話・物語、冒険探検、漫画、学習記事までも、ものによってはあるという、多彩にもられた内容に魅力を感じての結果である。4年では、相当長く、最後までまとまっているものが好まれていることが示されている。

協力学校の調査でも (6校計)

雑誌のすきな理由		まとまった本のすきな理由	
おもしろい	20.7%	よみである	28.1%
いろいろの種類がある	7.6	まとまっていて終りがきちんとしている	16.7
毎月とれて、つゞきがある	15.8	おもしろい	24.5
漫画が多い	9.8	よみたいものだけがある	8.7
付録がある	8.7	くわしくていろいろわかる	7.6

同じような回答であった。

## C どう読んでいるか

### 1. 読書態度の変化

「お子さんの本を読む態度は、前年と比べてかわりませんか。」の問いに対し

態度	実験学校				協力学校					
	3年		4年		3年 (6校)	4年 (5校)				
	男 (19人)	女 (21人)	計 (40人)	%	男 (19人)	女 (26人)	計 (45人)	%	平均%	平均%
わからない字をきく	6	8	14	35.0	5	10	15	33.3	30.7	33.6
わからない語のいみをきく	11	10	21	52.5	7	14	21	46.7	35.6	36.7
自分で読むようになる	8	13	21	52.5	3	8	11	24.4	47.1	39.2
読んだことを話す	4	11	15	37.5	3	11	14	31.1	26.7	34.1
すらすら早く読む	3	10	13	32.5	9	8	17	37.8	42.7	33.7
長く続けて読む	9	12	21	52.5	7	14	21	46.7	35.6	34.0
とくべつのもを好む	6	3	9	22.5	6	7	13	28.9	14.7	16.2
なんでも読む	3	8	11	27.5	6	10	16	35.6	27.1	27.3
まんがを読む	5	7	12	30.0	6	7	13	28.9	38.2	35.0
まんがを読まない	0	1	1	2.5	2	2	4	8.9	6.2	13.0
本をかりる	12	6	18	45.0	8	16	24	53.3	51.1	51.8
本をかりない	0	1	1	2.5	0	1	1	2.2	4.0	5.9
本がすきになる	7	10	17	42.5	10	11	21	46.7	47.6	40.5
本を読まなくなる	0	0	0	0	0	1	1	2.2	1.3	1.6
くり返して読む	10	9	19	47.5	5	13	18	40.0	31.6	26.1
新しいものを読む	0	4	4	10.0	0	1	1	2.2	12.4	13.0
読んだことを自分の生活の中にとり入れる					3	7	10	22.2		7.5
その他	2	0	2	5.0	2	2	4	8.9	4.0	4.5

4年では、その他に 長編のものを読み通す (男1)

読後、感激したり批判したりする。(女1)

のような家庭からの記入もあった。

て、家庭で認められた読書態度の変化は前表のようであった。

低学年，2年のころに，すでに，わからない字をきいたり(54.3%)，自分で読むようになったり(58.7%)，読んだことを話したり(41.3%)，1年のころと比べて本を多く読むようになったり(47.8%)して，積極的な読書態度になってきたことが見うけられたが，この態度は，中学年になって，いっそう発達してきていることがわかる。

中学年では，わからない文字を聞くよりも，わからない語の意味を聞くもの数がましてきたこと，長く続けて読むことができるようになったこと，以前より本が好きになったこと，本をかりようになったこと，読む本の種類がきまりだしたこと，同時に読む本の種類が広がってきたことなどが目立っており，特徴としてあげられよう。ことに4年生になると，読んだことを自分の生活の中にとり入れるような読み方がされ始めていることが注意される。そしてこれらの特徴は，各調査項目で，改めてたずねた場合にも等しく，数量的に裏づけられており，また，中学年の他の言語能力の発達にてらして考えても認められるものである。

家人のこうした観察ばかりでなく，児童自身も，下表のように読書態度の変ってきたことを認めている。

中学年での読書の態度や実態次にみよう。

実験学校でも，協力学校でも，低学年のころと比べて，中学年になって「本を読まなくなった」というものはほとんどいない。児童に直接，読書の好き

読書態度の変化の意識 4年(児童調査)

学校	3年とくらべて読書態度がかわったか		読む本の種類がかわったか	
	かわらない	かわった	かわらない	かわった
実験	17.8	82.2	33.3	66.7
C	8.3	91.7	4.2	93.7
O	9.1	88.6	11.4	86.4
F	39.0	61.0	43.9	56.1
H	12.5	87.5	28.1	71.9
K	2.2	95.5	2.2	93.2

らいを問い，きれいな人は，なぜきれいなのか，その理由をたずねたところ，読むひまがないというのは案外少なく農村のH校の女兒ひとりの「子供の守りで，読書するひまがない」という答が目立ったくらいである。「意味がわからない」と，語いの抵抗を訴えたものが，なかでいちばん多かった。このことは，児童が

読む雑誌などのよみものには、多くルビがほどこされており、すでにひらがなは一応マスターしたので、読むことはできるが、あまり児童むきでない語いが児童雑誌やよみものに、相当提出されていることによると思われる。中学年になって、読書態度の変化で、むずかしい語の意味をたずねるようになったと家人が認めたのも、このためであろう。

読書のきらいな理由（好きな人は除く）

（児童調査）

学校	学年	理由		むずかしい字が多い		意味がわからない		読む本がない		読むひまがない		その他	
		おもしろくない		3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
		3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
実験 C O F H K N		2.1	2.2	6.4	0	8.5	8.9	その他 4.3	0	0	0	4.3	0
		2.0	4.2	2.0	0	2.0	6.2	2.0	4.2	0	4.2	0	2.1
		2.1	6.8	8.5	4.5	12.8	4.5	10.6	0	2.1	0	0	2.2
		0	4.9	0	7.3	0	19.5	2.2	2.4	0	2.4	0	2.4
		3.1	6.3	6.3	6.3	3.1	3.1	0	0	0	6.3	0	3.1
		0	0	0	0	0	0	2.0	0	0	0	0	0
	2.0	—	8.0	—	4.0	—	2.0	—	2.0	—	0	—	

## 2. 読書の興味と時間

低学年のころに、すでに読書に対する興味をもっているものは、実験学校で70%（非常にすぎな方 15.6%，すぎな方 57.8%）に達し、学習のため以外に本を読む時間も、毎日平均して30分以上の者が77%という数を示していたが、中学年の段階になると、これは、いっそう上回ってきて、読書の愛好の度合が

実験学校

（家庭調査）

読書の興味	学年	3年				4年			
		男		女		男		女	
		計 (19人)	計 (21人)	計 (40人)	%	計 (19人)	計 (26人)	計 (45人)	%
本を読むことが非常にすぎ		6	5	11	27.5	8	6	14	31.1
すぎな方		10	12	22	55.0	6	14	20	44.4
あまり好きでない		2	2	4	10.0	5	6	11	24.4
よくわからない		0	1	1	2.5	0	0	0	0
きらい		0	0	0	0	0	0	0	0
無答		1	1	2	5.0	0	0	0	0

強化されてきている。

この数字は、低学年の場合と同様、家人が、自家の子供たちへの読書態度の評価であったが、児童自身の回答（意識）ではもっと高くなっている。これが児童も、中学年ともなれば、読書好きなことに価値感を認めての解答なのか、どうか、それをも含めているとしても、そのことは、読書に対する価値意識のついてきた証明であるし、また学校での遊び時間での所見や、児童の平素の読書状態をみても、かなり信用してよい数字である。

実 験 学 校 (児童調査)

興 味	学 年		3 年				4 年			
	男 女	女	男	女	計	%	男	女	計	%
			(19人)	(28人)	(47人)		(18人)	(27人)	(45人)	
とても好き			8	10	18	38.3	11	13	24	53.3
ふつう			10	18	28	59.6	6	13	19	42.2
あまり好きでない			0	0	0	0	1	1	2	4.4
無答			1	0	1	2.1	0	0	0	0

協力学校でも、中学年になると読書の興味は急激に高くなっている。しかし実験学校や、一部の協力校のように、中学年の段階でも、さらに興味の発達上昇がみられるのに対して、4年では低下した学校も少なくない。しかし、毎日読書する率は増加しているから、興味の意識はともかくとして、実質的には、発達していることがわかる。

読書のすききらいと、その度合 (児童調査)

学 校	年	すききらい		とともすき		ふつう		すきでない		毎日読書する		ときどきする		あまりしない	
		3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
		実 験	38.3	53.3	59.6	42.2	0	4.4	25.5	40.0	68.1	55.6	6.4	4.4	
C	60.8	72.9	33.3	29.2	5.9	0	25.5	39.6	66.7	60.4	7.8	4.2			
O	61.7	59.1	36.2	38.6	2.1	2.2	27.7	34.1	70.2	63.6	2.1	2.2			
F	78.3	43.9	17.4	39.0	4.3	17.1	15.2	19.5	69.6	56.1	15.2	24.4			
H	56.3	53.1	34.4	43.8	9.3	3.1	15.7	18.8	75.0	68.8	9.3	12.5			
K	58.8	50.0	39.2	45.5	2.0	0	23.5	43.2	68.7	45.5	7.8	9.1			
N	68.0	—	26.0	—	6.0	—	38.0	—	60.0	—	2.0	—			

実 験 学 校

(家庭調査)

読書時間	学年		3 年				4 年			
	男	女	男	女	計	%	男	女	計	%
	(19人)	(21人)	(40人)				(19人)	(26人)	(45人)	
10分	0	0	0	0	0	0	1	1	2.2	
20分	1	0	1	2.5	0	1	1	2.2		
30分	5	2	7	17.5	2	3	5	11.1		
60分	2	5	7	17.5	7	5	12	26.7		
90分	1	1	2	5.0	3	4	7	15.6		
120分	2	1	3	7.5	2	6	8	17.8		
150分	0	3	3	7.5	1	0	1	2.2		
180分	5	3	8	20.0	0	0	0	0		
210分	0	0	0	0	0	0	0	0		
240分	1	0	1	2.5	1	0	1	2.2		
270分	0	0	0	0	0	1	1	2.2		
無 答	0	0	0	0	3	5	8	17.8		

読書に対する興味が高まってきた結果、読書時間数も当然ふえてきている。しかも、これは中学年でも3年よりは4年へと学年が進むほど増加している。4年では、実に1日平均読書時間85.8分という数字である。(3年 82.7分) 読書時間の増加は、実験学校ばかりでなく、協力学校でも、一様に伸びている。

なお、読書する時では、実験・協力校とも、に就寝前のころがいちばん多く、35%~40%台、次が、ひまさえあればいつでも、夕食後(ともに30%~33%)の順で夕食前や下校直後はわりあい少ない。(10%~20%台)

このように読書の興味、読書時間数ともに、中学年で著しい発達ぶりがみられるが、それを裏づけるのが次の現象である。

(1) 本を借りる

子供達は、自分の本だけではその読書欲を満足させることができないで他か



実 験 学 校

(家庭調査)

態 度	学 年		3 年				4 年			
	男	女	男 (19人)	女 (21人)	計 (40人)	%	男 (19人)	女 (26人)	計 (45人)	%
よくかりる			9 (5)	7 (5)	16 (10)	40.0 (21.3)	8 (6)	14 (8)	22 (14)	48.9 (31.1)
ときどきかりる			10 (8)	10 (14)	20 (22)	50.0 (46.8)	11 (11)	12 (16)	23 (7)	51.1 (60.0)
かりない (あまりかりない)			0 (6)	2 (9)	2 (15)	5.0 (31.9)	0 (1)	0 (3)	0 (4)	0 (8.9)

( ) 内は、実験学校児童用の調査の結果を示す。

(児童調査)

態 度	学 年	よくかりる		ときどきかりる		あまりかりない	
		学校		学校		学校	
		3年	4年	3年	4年	3年	4年
実験		21.3	31.1	46.8	60.0	31.9	8.9
C		17.6	20.8	51.0	47.9	31.4	31.2
O		23.4	29.5	55.3	47.7	21.3	18.2
F		13.0	7.3	50.0	46.3	34.8	46.3
H		12.5	25.0	75.0	65.6	12.5	9.4
K		27.5	36.4	64.7	56.8	7.8	6.8
N		16.0	—	66.0	—	18.0	—

ら本を借りて読むようになるが、中学年ではそうした態度が、だんだん積極的になり、顕著になってくるのが、上の表でもわかる。かりる度合の判定については、家庭での見込みの方が、児童自身が答えた数よりも高いが、「かりない」「あまりかりない」の解答項目のちがいに

も多少の関係がありそうである。ただ両調査とも、3年よりは、さらに4年へと積極的になっている点では一致している。

これらのさかんな読書欲をみたすための本をどこから借りるかをみると、友人が圧倒的に多いこと、4年生になると、貸本屋に進出するようになることなどが、わかる。(家庭、児童両方から)

児童の読書環境をなすものが、家庭と学校とだけではないということ、むしろ、友人との間にある環境の方が大きいということは、読書指導の上で、知っておかなければならないことである。協力学校でも、この傾向は同じである。ただ概して、都会地に近い地域の方が、貸本屋を利用する数がふえていることが目立った。また、協力学校でも、3年よりは、4年の方に貸本屋利用がふえており、このことも、読書興味の増大を証明している。

(児童調査)

学校 学年 性別	学 校 図 書 館		学 校 文 庫		友 人		きょうだ		貸本屋		その他	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
	実 験	34.0	31.1	4.3	0	53.2	44.4	6.4	4.4	2.1	26.7	0
C	9.8	4.2	23.5	18.7	37.3	47.9	3.9	6.2	13.7	29.2	0	8.3
O	34.0	20.5	0	0	61.7	65.9	2.1	2.0	0	15.9	0	4.5
F	52.2	68.3	15.2	0	32.6	82.9	0	2.4	0	0	0	9.8
H	34.4	12.1	6.3	0	53.1	81.8	3.1	3.0	3.1	3.0	0	0
K	0	27.3	21.6	4.5	64.7	65.9	13.7	0	0	0	0	2.2
N	2.0	—	24.0	—	64.0	—	6.0	—	4.0	—	0	—

家庭からの回答もこれとほぼ同じ。ただ実験校、C校をはじめ、他の2,3校とも、友人からかり数が家庭回答の方が多かったのは、家人が、友人からかりた本をも学校からのものと思いこんだためであろう。

## (2) 読書の意義の自覚

以上で、読書の興味や時間の増大が数量的にたしかめられたが、このころの児童はいったいどのような立場から読書しているのであろうか。「あなたは、なぜ、学校のべんきょうのほかにも本をよむのですか。」の問いに対して、児童がめいめい記入したのを整理すると、次のようである。

読書をする理由

(児童調査)

理 由	学 校		実 験 学 校								協 力 学 校	
	学 年		3 年				4 年				3年	4年
	男 女		男	女	計	%	男	女	計	%	6校 平均%	5校 平均%
	おもしろいから	5	14	19	40.4	7	4	11	24.4		39.4	34.7
いろいろなことが書いてある のでためになるから	4	9	13	27.7	5	2	7	25.9		24.9	4.8	
新しいことがわかるから いろいろ知りたいので、学校 だけでは知識が足りないから	8	3	11	23.4	4	7	11	24.4		8.3	13.8	
本がすきだから					2	2	4	8.8		9.0	10.4	
さびしいから・ひまをまぎら すために					3	6	9	20.0		5.4	6.3	
友人がおもしろいといっただ から					0	2	2	4.4			0.6	
自分が読みたいので					0	3	3	6.6		6.1	3.8	
母・友人・弟妹たちに話をし てやるために					0	2	2	4.4				
まんがあるから										5.4	2.1	
そ の 他	1	1	2	4.3						3.6	1.3	
わ か ら な い										0.7		
無 答	1	1	2	4.3						3.6		

これによると、単におもしろいから、本がすきだから、さびしい、ひまをまぎらすためになどの、娯楽のための読み、レクリエーションのための読みのほかに、いろいろの新しい知識を得ようとする、知識補充のため教養のために読書するという読書意識がついてきたこと、目的をもって、読書する態度がついてきたことがわかる。しかも、この項目では、自由に児童に記入させたのであるが、4年になると、読書をする理由が、さらに他の人に話すという目的のためであったり、ひま、淋しさをまぎらすためであったりなど、細かに分析されているのも、この段階での読書意識のはっきりしてきたことを物語るものとして、おもしろい。協力学校でも、やや低い段階の理由もみうけられるが、全体としては、実験学校と同様の読書意識があることがわかる。

そして、こうした意識のもとに、それぞれの目的をもって読書された結果、相応の読後の満足感が得られているのである。

読書の効用 (児童調査)

効用 学 年 学校	おもしろかった		新しいことがわかった		自分の知りたいことがわかった		勉強のためになった	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
	実験	12.8	44.4	46.8	46.7	25.5	46.7	14.9
C	13.7	6.2	15.7	45.8	31.4	22.9	39.2	31.2
O	27.7	25.0	6.4	29.5	19.1	27.2	44.7	22.7
F	43.5	63.4	8.7	19.5	6.5	12.2	41.3	7.3
H	18.8	31.3	28.1	43.8	12.5	15.6	40.6	9.4
K	15.7	22.7	45.1	38.6	9.8	11.4	29.4	22.7
N	28.0	—	34.0	—	12.0	—	26.0	—

「あなたは今まで、本を読んで、どんなことでよかったですか。」の問いに対して、児童は一樣に、その効用を認めている。娯楽としての読書の効用に対して、知識教養のために、読書が、欠くことのできないものであるという読書の価値意識は、中学年の段階で、十分つくようである。また、このことが、逆に、前の読書の理由となって現われてもいるのである。

### (3) 本の選択

本の選択は、入門期では、ほとんど家人の手に任せられており、2年になって

本の選択 (家庭調査)

人 学 年 学校	子 供		家 人		両 方	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年
実験	22.5%	33.3%	27.5%	24.4%	47.5%	46.7%
C	39.6	30.6	14.6	26.5	43.7	44.9
O	—	39.5	—	23.3	—	41.9
F	31.8	43.6	34.1	17.9	29.5	43.6
H	15.6	46.9	75.0	15.6	6.3	37.5
K	42.0	43.2	16.0	27.3	34.0	29.5
N	21.5	—	31.4	—	45.1	—

も、家人が主体で、子供の自主的な立場からの選択はされていない。ただ選択に対する発言が親たちに認められているという段階であった。それが中学年では、徐々に子供が選択する傾向になっていることがわかる。4年になると家人が選ぶよりも、児童の選ぶ方がやや多くなり、

あとは、両方で相談し合う形をとっている。本の購買という経済面から、家人の発言の方がまだ大きくびくからでもあろうが、子供たちが読む本を選択しようという力は、中学年になると、つき始めてくるとみてよい。それが言いすぎなら少なくとも本を選択しようという態度はある程度できていると思われる。

「あなたは読む本を選ぶとき、どうしてきめますか。」の問いに対して、子供たちは、実験学校・協力学校ともに、次の表のように答えている。

本の選択 (児童調査)

理由 学 年 学校	家人がすすめるから		先生がすすめるから		友人がすすめるから		自分でおもしろいと思ったから		知りたいことがかいてあったから	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
実験	0	4.4	0	0	0	4.4	66.0	84.4	31.9	57.8
C	17.6	0	3.9	2.1	0	0	23.6	39.6	54.9	60.4
O	2.1	6.8	6.4	2.2	0	2.2	53.2	47.7	34.0	38.6
F	21.7	2.4	15.2	2.4	2.2	0	58.9	85.4	2.2	24.4
H	0	6.3	12.5	6.3	0	6.3	34.4	59.4	53.1	21.9
K	5.9	2.2	3.9	2.2	3.9	4.5	54.9	56.8	31.4	31.8
N	12.0	—	0	—	6.0	—	46.0	—	34.0	—

家人、先生、友人など、他からすすめられて、読む本の選択をする場合は、意外に少なく、自分の娯楽や知識欲を満足させるために選択するという自主的な態度をとっていることがわかる。そして、これには、前に見た、読書をする理由、読書について児童が認めた効用とも一致するものである。

それでは、自分で読む本を選択する場合、どこに重点をおくかをたずねてみると、表紙やさし絵などの外形的な点より、分量とか、内容のおもしろさとか内容的な面に着眼するようになってきていることがわかる。

本をえらぶ時の基準 (児童調査)

理由 学校 学年	表紙がきれい		絵が多い		すぐよめそう		長くてよみ でがある		その他	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
実験	2.1	2.2	4.3	4.4	8.5	15.6	51.1	46.7	27.7	35.6
C	0	2.1	9.8	6.2	25.5	4.2	39.2	70.8	17.6	43.7
O	4.3	4.5	8.5	4.5	10.6	11.4	48.9	52.3	12.9	36.4
F	6.5	0	10.9	19.5	13.0	34.1	69.6	39.0	0	7.3
H	0	5.9	12.5	8.8	12.5	11.7	62.5	44.1	12.5	8.8
K	3.9	2.2	3.9	2.2	29.4	4.5	39.2	50.0	21.6	34.1
N	4.0	—	12.0	—	12.0	—	58.0	—	8.0	—

その他の理由では、「偉い人のことがわかる」(実験学校男児)、「天文学のことがわかる」(同・男児)、「ためになりそう」「かわいそうな話の書いてある本だから」(同・女児)、「すきな漫画がかいてある」(同・男児)など、それぞれ自分の興味、関心や好みの対象であることがあげられている。中には、「ちゃんばらが書いてある」(協力学校・男児)などもあって、自主的に選ぶことが、すべて好ましい態度であるとはいえないが、少なくとも、自分で選択しようという態度はついているのである。良書に対する目を開けてやれば、中学年の児童は、もう、自分なりに、自分の読む本を選定しようという意欲と態度があるのである。

本の選択を自主的にしようとする態度がついてきている中学年では、読み方も自然自主的になってくる。家庭からよせられた読書態度の変化の中にも「自分で読むようになる」ということが、強く出ていたが、この自分で読むという態度は、低学年の時に、すでに一つの特徴としてあらわれたものであった。

2年	いつもひとりで読む	53.3%
	ひとりで読んだり、読んでもらったり	46.7%
	いつも読んでもらう	0

しかし、中学年になると、いつもひとりで読むものが90%台になっており(協

力・H校を除く), 4年になれば, ひとりで読む能力も十分ついてきていることがわかる。

(家庭調査)

年度 学年 学校	いつもひとりでよむ		いつもだれかによんでもらう		ひとりでよんだりよんでもらったり		友だちといっしょによむ	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
	%	%	%	%	%	%	%	%
実験	82.5	91.1	0	0	15.0	6.7	2.5	0
C	85.4	93.9	0	0	12.5	4.1	2.1	4.1
O	—	95.3	—	0	—	0	—	4.7
F	81.8	92.3	0	0	18.2	5.1	0	2.6
H	84.4	81.3	1.3	0	3.1	3.1	9.4	6.3
K	78.0	100	2.0	0	14.0	0	4.0	0
N	78.4	—	0	—	17.6	—	3.9	—

ただ, このように自力で読書する能力がついてきたためか, 読書に伴う, 質問や, 読んだことを家人に話したり, 幼い人たちに読んでやったりという付帯活動が, 中学年になると, 足ぶみの状態, または, 下降状態になっている。

実験・協力学校

(家庭調査)

	家人に質問する		家人に質問しない		家人に話す		家人に話さぬ		幼い人に読んでやる		幼い人に読んでやらない		弟妹がいない	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
	実験	80.0	80.0	20.0	20.0	82.5	55.6	12.5	42.2	40.0	31.1	25.0	33.3	37.5
C	62.5	73.5	37.5	24.5	52.1	61.2	47.9	36.7	22.9	30.6	35.4	34.7	39.6	24.5
O	—	74.4	—	37.2	—	62.8	—	39.5	—	39.5	—	41.9	—	20.9
F	72.7	79.5	27.3	17.9	63.6	61.5	36.4	35.9	54.5	33.3	18.2	43.6	27.3	23.1
H	53.1	81.3	46.9	18.8	53.1	59.4	46.9	37.5	56.3	46.9	37.5	25.0	6.3	25.0
K	72.0	65.9	26.0	31.8	66.0	65.9	30.0	34.1	26.0	31.8	32.0	34.1	40.0	34.1
N	68.0	—	31.6	—	66.7	—	31.3	—	35.3	—	23.5	—	39.2	—

家人に質問するということは, わからない語の意味をたずねるという中学年の読書態度の一つの特徴なども加わって, 一応, 低学年よりも, 活発であり, 3年よりは4年へと上昇しているが, (実験学校では, 足ぶみ) 読んだことを家人に話すという態度は, 3年あたりまでが絶頂で, あとは, それほど, ないようである。自己を中心とした読書態度, 読書力の充実のために, 読んだこと

を話したり若い人たちに読んできかせるといった、他に働きかける活動が、しばらく休止状態になるのではなからうか。こうした傾向は、協力学校に比べて実験学校の方が強いようである。

(児童調査)

学校	年度		いつも話す		ときどき話す		あまり話さぬ	
	学年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	
								3年
実	2.1	2.2	55.3	48.9	40.0	48.9		
C	11.8	18.7	68.6	62.5	19.6	20.8		
O	17.0	6.8	53.2	56.8	29.8	43.2		
F	6.5	0	45.7	9.8	47.8	87.8		
H	12.5	9.4	46.9	46.9	40.6	46.9		
K	9.8	2.2	52.9	61.4	37.3	36.4		
N	18.0	—	52.0	—	30.0	—		

(児童調査)

学校	年度		読んだことをいつもノートする		読んだことをときどきノートする		しない	
	学年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	
								3年
実	6.4	0	42.5	33.3	51.1	66.7		
C	0	0	35.3	72.9	62.7	27.1		
O	6.4	0	40.4	45.5	29.8	50.0		
F	0	0	8.7	0	91.3	100		
H	12.5	9.4	37.5	78.1	0	12.5		
K	3.9	2.2	90.2	63.6	5.9	31.8		
N	2.0	—	22.0	—	66.0	—		

なお、児童自身に「本で読んだことを、うちの人や友だちに話しますか。」とたずねた場合、家人の話されたという印象と、子どもたちが話したという意識の間には、やや差異がみとめられた。また、「本で読んだことをノートなどに書いておくことがありますか。」の問いに対しては、ときどきするものが、ようやく多くなり始めている。もっともこの態度は、多く読むことと必ずしも正比例しないことは、読書ノート記入の際にも現われていたし、学校によって非常に差のあることがわかる。ただ、いつもノートするという人はきわめて少ない。

学校で、ノートすることを指導しているようなところ(H校)では、総体的にこの態度がついている。しかし、読後のメモや感想などを書き記すことは、態度としては現われていても、習慣として身についたものではなさそうである。「大事なことだけ、忘れないように書いておく」(実験学校・男児言語能力上位)というりっぱな態度のものも見うけられたが、こうした態度は、至って少なく、まだ、興味や必要に応じてさかんになり始めた知識欲をみたとす、自己中心的な読書期にようやくはいった段階であるといえよう。

#### (4) 音読と黙読

低学年の段階で、すでに、家庭での自由読みの場合の音読から黙読へ移る時的な徴候がみられたが、中学年では、さらにそれが強くなっている。低学年

では、まだ、音読の域が脱しきれず両方混合の状態が多かったが、3年では、音読はなくなって、黙読が、最も優位になり、両方混合がずっとへってくる。4年になると黙読の習慣のついている者、75.6%に達している。

実験学校 (家庭調査)

態度 \ 学年	2年		3年				4年			
	男	女	男 (19人)	女 (21人)	計 (40人)	%	男 (・人)	女 (・人)	計 (・人)	%
いつも音読する	22.2		0	0	0	0	0	1	1	2.2
いつも黙読する	31.1		13	14	27	67.5	15	19	34	75.6
その時により両方	42.2		4	8	12	30.0	2	6	8	17.8
唇読する	—		1	0	1	2.5	0	2	2	4.4

実験学校で行なった音読速度と黙読速度のテストで、黙読速度の方が音読速度より早くなった時期が、4年3学期であったから、この調査やテスト結果とにらみ合せて、黙読の力がつき、速度も早くなるのは、中学年後期のころと推定してもさしつかえなさそうである。

なお、音読・黙読の習慣、能力については、協力学校で、同様の結果がみられる。

協力学校 (家庭調査)

学校 \ 学年	いつも音読			いつも黙読			両方			唇読	
	2年	3年	4年	2年	3年	4年	2年	3年	4年	3年	4年
C	32.6	6.2	8.2	28.3	56.2	53.1	34.8	22.9	26.5	10.4	10.2
O	33.3	—	14.0	37.5	—	58.1	29.2	—	27.9	—	0
F	57.8	22.7	28.2	6.7	25.0	28.2	31.1	47.7	43.6	4.5	2.6
H	43.8	28.1	21.9	9.3	62.5	43.8	43.8	3.1	31.3	3.1	0
K	48.1	18.0	6.8	15.4	44.0	47.7	34.6	32.0	34.1	4.0	13.6

音読・黙読の能力に関して、低学年でみられた一つの問題があった。それは実験学校、協力学校を通して、女子に比べて男子の方が、黙読能力が早くついているということであった。(協力学校中1校は例外)この現象は、中学年ではどうなっているかを調べたところ、次表のように相かわらず、男子の方が黙



学校	性別	いつも音読		黙読		両方		唇読	
		男%	女%	男%	女%	男%	女%	男%	女%
		実験	0	3.8	78.9	73.1	10.5	23.1	0
C	12	4.2	60	45.8	24	29.2	4	16.7	
O	12.5	15.8	58.3	57.9	29.2	26.3	0	0	
F	42.1	15	21.1	35	31.6	55	5.3	0	
H	13.3	29.4	33.0	52.9	46.7	17.6	0	0	
K	9.1	4.5	45.5	50.0	31.8	36.4	13.6	13.6	

読の習慣や能力がついていることが認められた。これをさらに、音読と黙読の両速度テストの結果と比べてみると、(4年2学期)

実験学校	男	女
黙読	40.9行	38.4行
音読	44.9	40.8
協力学校		
黙読	44.6行	40.0行
音読	53.4	51.5

というように、実験、協力両校とも、黙読速度は男子の方がはやい。もっともこの場合、音読速度も男子の方が早いので、これをもって直ちに断定できないがしかし、音読技能の男女差を見ると、音読技能では、女子の方が優位である。

これら低・中学年に現われた傾向から、黙読・音読と男女差について、発達

#### 音読技能 4年1学期

学校	男		女	
	素点12点 に対する 平均点	平均%	素点12点 に対する 平均点	平均%
実験学校	9.20	76.7	9.29	77.4
O	9.19	76.6	9.37	78.1
H	8.67	72.4	8.61	71.7
K	9.90	82.5	10.46	87.2
G	7.91	65.9	8.91	74.2
協力学校 計	8.93	74.8	9.39	78.2

4年2学期は協力学校からの報告がないので、1学期とした。

上なんらかの特徴がありそうであるということを問題として残しておきたい。

なお、従来読書能力の発達の一つの徴候として、音読から黙読に移り、その速度が早くなることがあげられているが、この限りにおいては、低・中学年を通して、男子の方が、読書能力が早くつくといえそうである。

(5) 蔵書数

なお、参考までに、中学年の児童専用の蔵書を調べたものをあげておくと、

蔵書 4年（家庭調査）

学校	種類	一般書	参考書	絵本	辞典類	雑誌	合計
実験	%	49.1	10.0	6.7	5.9	28.3	1人平均 35.3冊
	一人当り冊数	17.3	3.5	2.4	2.1	10.0	
C	%	28.6	8.3	16.3	6.4	40.8	27.7
	冊	7.9	2.3	4.5	1.7	11.3	
O	%	26.2	6.5	20.7	6.2	52.4	27.7
	冊	6.5	1.6	5.1	1.5	13.0	
F	%	21.2	5.3	13.0	6.9	53.5	19.8
	冊	4.2	1.1	2.6	1.4	10.5	
H	%	38.6	3.5	14.7	6.5	36.7	42.4
	冊	16.3	1.5	6.2	2.8	15.6	
K	%	21.7	5.8	14.9	3.5	54.1	20.7
	冊	4.5	1.2	3.1	0.7	11.2	

(注) 農村でのH校として、非常に高い数字を示しているが、1人で660冊という蔵書家（男児）がいるための数字で、他は、非常に低い。

上表のような数字になる。ひとりあたりの平均冊数は、かなり地域性を表わしている（H校は除く）ことが、この表でわかる。（学校の配列は上から順に、都市から農村へととなっている。）

また、3年での児童の蔵書の平均冊数をみると（協力5校）

0冊	1～10冊	11～20冊	21～30冊	31～50冊	51～70冊	71～100冊	100冊以上
0.9%	21.8%	24.4%	12.0%	15.1%	8.4%	1.7%	1.7%

という数字で、20冊前後が大半を占めていることがわかった。

なお、本を読む場所は実験・協力校ともに自宅が多く、次に学校の図書館や教室、友人の家、本屋の順になっている。

学校によっては、学校の図書室を多く利用して読んでいるところもあり、

本を読む場所 4年(児童調査) (C・H校)教室で多く読

場所 学校	学校の図書室(館)	教室	自宅	本屋	友人の家
実験	6.7	4.4	91.1	2.2	4.4
C	31.2	6.2	62.5	4.2	6.2
O	13.6	0	81.8	0	11.3
F	17.1	7.3	82.9	0	0
H	20.6	5.9	73.5	0	0
K	25.0	13.6	54.5	0	4.5

3年の同調査では、自宅と答えたもの実験校93.6%、\*N校88.0%、他校はいずれも30~70%であった。

む学校(K校)もある。これらは、一つは地域差でもあろうが、地域差というよりも、学校や教室における図書設備とも関係があろう。東京の実験学校やN校が自宅で読む数が圧倒的に多い

のは、自宅にそれだけ読書の環境ができているというのであろうか。

## D 個人差および言語能力との関係

### 1. 個別的考察

実験学校の児童の家庭読書の内容をその入門期当時から個人別に整理しているが、これが6年間蓄積されると、個人別に家庭読書歴ができ、個々の読書発達が具体的にわかるはずである。中学年における個人別の家庭読書の内容を質問の諸項目別に整理したものを、次に掲げておこう。(348~351ページの表参照)

このうち、1から5までの項目は、おのおのよい態度・適当な方法と思われる観点から総合的に判断し評点化してあり、6、7、8では、その傾向・状態をそのまま記入し、右方の評点と左方の記入を比較しながら見ると、大体、個人別の家庭読書の内容が一覧できるようになっている。

これと、入門期、低学年のころの家庭における読書の調査(興味・時間・態度・種類)整理表(「入門期の言語能力」「低学年の読み書き能力」参照)をあわせて見ると、中学年までの児童の個人別読書発達ということになる。

中学年で目立つことは、低学年のころ、すでに基礎的な読書態度がつきだしたために、入門期におけるほど個人差が点数化してはあられなくなっていたが、中学年では、いっそうそれが著しいことである。しかし、実際問題として読書能力の個人差はますます開いてきている。これは、読書の興味など一様に高くなっており、読書時間も総体的にふえ、自分で読む、黙読するなどの好ましい読書態度も一応そろってとれるようになったからで、中学年以後は、量や

4年男子	1. 読書の興味	2. 読書時間	3.	4. 質問	5.	6. 本の選定	7. 3年のころに比べて本の読み方の変化																
	非常に好き すきなり すきでない	6060302010 分以上 以前上 後下	ひとりで 読む	すなわ 読む	黙読 音読	両子ど ちの人 方も	1 わか らな い 2 わか らな い 3 わか らな い 4 じぶ んだ こと を話 す 5 読 んだ こと を自 分の 生活 に 6 つづ けて 早く 読め る 7 なつ た 8 ある 種 の もの を特 別に よ む 9 た だ でも 読む よう にな っ た 10 ま んが を好 んで よ む 11 あ ま り ま んが を好 んで よ む 12 ま んが を好 んで よ む 13 ま んが を好 んで よ む 14 こ の ご ろ は 本 を借 りて こ な く 15 こ の ご ろ は 本 を借 りて こ な く 16 こ の ご ろ は 本 を借 りて こ な く 17 こ の ご ろ は 本 を借 りて こ な く																
1	5		3	2	3	△	2 5 17																
2	5	5	3	1	2	▽	6 10 12																
3	5	4	3	1	3	○	6 9 10 14 17																
4	4	5	3	1		△	4 5 6 8 9 12 14																
5	4	5	3	2	3	▽	4 12 14																
6	5	5	3	2	3	○	1 2 6 17																
7	4			2		△	2 14																
8	5	4	3	2	3	△	6 7 8 11 17																
9	3	3	3	2	3	△	1 2 10 12																
10	3	4	2	2	3	△	1 2 3 8																
11	3	3	3	2	3	△	1 2 7 10 12 14																
12	3	5	3	2	3	△	1 2 3 4 5 6 9 10 12 14																
13	4	4	3	2	3	▽	3 6 8 9 10 12 14																
14	5	5	3	2	3	○	6 7 8 17																
15	5	5	3	2	3	○	1 2																
16	4	4	3	2	3	○	7 9 1 4																
17	5		3	1	3	▽	7 12																
18	4	4	3	2	3	▽	7 8 11 14																
19	3	4	3	1	3	▽	6 7 9 14																

8. 最近（2か月間）に読んだ本（種類の多い場合はおもなものだけをあげた）	
雑誌	単行本
1 少年 科学クラブ	鉄腕アトム 他マンガ
2 少年 おもしろぶっく 漫画王 冒険王	
3 冒険王 小学四年生	マンガ
4 少年クラブ 漫画王 おもしろぶっく	小公子 家なき子 リンカーン 北里柴三郎



12	4	5	3	2	3	△	8 10 12
13	5	5	3	2	3	△	1 2 4 5 6 7 8 9 17
14	4	4	3	1	3	△	6 12
15	4		3	2	2	○	3 5 6 12 17
16	5	5	3	2	3	○	1 3 4 12 14
17	5	5	3	2	3	▽	1 2 3 7 10 14 17
18	4	4	3	2	3	○	2 4 12 17
19	3	3	3	2	2	△	17
20	4	5	3	2	3	○	2 5 9 17
21	4	5	3	2	3	▽	2 7 12
22	3	5	2	2	3	▽	2 6 8 10 12 14 16
23							
24	4	5	3	2	3	▽	1 7 9 10 12 17
25	5	5	3	2	2	△	1 2 4 7 9 12 14 17
26	4	4	3	2	3	▽	9
27	4	4	3	2	2	▽	1 2 3 5 6 7 9 12 14 17
28	4	3	3	2	2	△	4 5 7 8 12 14 17

8. 最近（2か月間）に読んだ本

		雑誌	単行本
1			
2	小学四年生		名作童話集
3	小女ブック なかよし		たのしい童話 子供文学 リヤ王 白鳥の湖
4	少女ブック なかよし		
5	なかよし 四年生		
6	リボン		ジェイン・エア ゼンダ城のとりこ クオレ物語 天使のひとみ
7	小学四年生 なかよし 少女		ヴェニスの商人 黒馬物語 まりのゆくえ
8	小学四年生 少女		
9	少女 小学四年生		アンデルセン物語 北里柴三郎 エスさま 紫式部
10			
11	少女 なかよし 少女ブック		嵐に咲く花 級の明星 美しき妹
12	少女ブック		青い鳥 清少納言 その他マンガ
13	小年四年生 小学一年生 リボン たのしい一年生		
14	小学四年生 少女ブック		

15				シンデレラ姫 マンガ
16	少女	なかよし		
17				
18	少女	なかよし		マンガ
19	少女ブック			やん坊にん坊とん坊
20	少女ブック	幼年クラブ		わんわん物語 モーツアルト なぜだろいうな ぜかしら
21	少女クラブ			
22	小学四年生	少女ブック	りぼん	涙の母子草 小公女 その他マンガ
23				
24				
25	少女	なかよし	おもしろぶっく	アンデルセン物語 ピーターパン
26				少女小説 マンガ
27				きりの中の顔
28	小学四年生	科学クラブ		

家庭読書能力と言語能力一覧表

男子 No.	読数 書点	読容 書内	総合 点	漢字 力 読	漢字 力 書	語い 力	読解 力	黙 読 速	音 読 速	音能 技	文力 能	話し 方	聞き 方
1	40a	中	4	3	3	4	3	4	4	2	3	0	5
2	40	下	3	3	1	2	3	2	1	1	1	0	2
3	38a	下	2	1	2	2	1	3	3	1	3	0	3
4	37a	中	5	3	3	4	3	3	3	3	3	0	5
5	54a	上	7	3	3	3	2	4	4	1	4	0	3
6	47a	中	7	3	4	4	3	3	3	3	4	0	—
7	31a	下	3	3	3	3	2	3	3	3	3	1	3
8	50	上	8	4	5	3	4	3	3	3	3	0	3
9	39	中	4	3	3	3	2	3	4	1	4	0	5
10	45	上	7	2	3	3	4	3	2	2	3	0	3
11	43	下	5	2	3	3	3	2	2	2	3	0	5
12	36	下	2	1	1	2	3	1	3	1	1	0	3
13	28a	下	5	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	55	上	9	4	5	5	4	5	5	3	5	0	5
15	49	上	7	3	3	4	4	3	4	2	3	0	5
16	47a	中	6	3	2	3	1	3	3	1	2	1	3
17	38a	下	4	3	2	4	4	3	4	3	3	0	5
18	54	上	9	4	4	4	5	5	5	3	5	0	3
19	43	中	4	3	3	4	5	3	3	1	2	0	3

女子 No.	読書 数点	読書 内容	総 数点	漢字 力読	漢字 力書	語 い力	読 解力	黙 読速	音 読速	音 読技	文 法能	話 し方	聞 き方
1				3	2	3	3	2	1	1	3	0	1
2	45a	上	7	4	3	4	3	4	3	2	3	0	3
3	39a	上	7	3	3	3	3	3	2	2	2	1	1
4	29a	中	5	3	3	2	2	2	2	2	2	0	1
5	45	中	6	3	3	4	3	2	3	3	3	1	3
6	50	中	7	3	3	2	3	2	2	3	4	1	3
7	33a	中	3	3	4	4	3	3	3	2	3	0	5
8	46	中	5	1	2	3	4	3	3	2	3	0	5
9	45	上	8	3	5	4	5	3	3	3	4	0	3
10	40	下	3	3	3	2	3	3	3	2	2	0	1
11	47	上	7	5	5	5	5	3	3	3	3	0	2
12	41	中	5	3	3	3	1	5	4	3	3	0	3
13	51	上	6	3	3	4	4	4	4	2	4	0	5
14	44	中	4	3	3	3	4	3	3	3	3	0	3
15	37a	中	5	2	3	3	3	4	3	1	3	0	2
16	48a	下	6	3	3	3	3	4	4	3	3	0	3
17	43a	下	2	1	2	3	2	2	3	1	1	1	3
18	44a	下	3	3	3	3	2	3	2	2	3	0	2
19	40a	下	3	2	2	3	2	1	1	1	2	0	3
20	42a	中	7	3	3	2	3	3	3	1	2	0	3
21	45a	中	4	3	3	3	3	4	5	3	4	0	3
22	43	下	4	3	4	1	3	2	1	2	2	0	2
23	17a	下	2	3	3	3	1	3	3	1	3	0	2
24	44	中	5	4	3	2	4	3	3	3	2	0	2
25	50	中	5	4	4	3	3	3	3	2	3	0	3
26	46	下	3	2	2	3	1	3	3	2	3	1	3
27	46	上	7	3	4	3	3	4	3	1	4	0	3
28	45	上	6	3	3	4	5	3	3	2	3	1	3

形式よりももっぱら読書内容や読解の深淺などの質の問題が読書力の個人差を決定する重点になってくる。読書が非常に好きで、1日に2時間も読んでいる男児(2)の読解力が低いものであったり、1日に4時間半も読むという女兒(10)が読書時間の多いほど、言語能力がましているとはいえないのであって、これらは、漫画や少女小説の乱読に多くみられるのである。反対に読書は好きな方と答えて1時間ぐらいしか読んでいないが読解力をはじめ言語諸能力が非常に高



い男児(男)もいる。しかし、総体的に、読書好きで、よい態度で望ましい本を多く読書するものが、読書能力が高いのはいうまでもない。

家庭読書の点数が、このような性質をおびてきたので、これに児童に調査した読書調査項目で、点数化しうるものを加え、それと読書内容及び読書ノートを考慮に入れた家庭読書総合点を計出し、これと、各言語能力(4年2学期の各言語能力テストの結合を5段階に評価したもの。漢字の読字力のみは、4年2学期にテストをしなかったので4年1学期のものである。)との関係が比較できるように整理したのが、351~352ページの家庭読書能力と言語能力一覧表である。これによって、中学年の後期の児童の読書力と言語能力との関係がほぼわかる。

## 2. 全体的考察

1年入門期における読書の全体的な点数と他の言語能力との相関をみた場合、実験学校でも、協力学校でも、書字力との相関の方が高く、読字力が次位、語い力が最も低かった。2年では、読字力の相関が第1位、2位が読解力、3位は書字力で、語い力は相かわらず、低い方であった。

家庭における読書点数と言語能力との相関〔実験学校〕

	1年	2年	4年
書字力との相関	1位 (0.67)	3位 (0.28)	5位 (0.44)
読字力	2位 (0.57)	1位 (0.41)	*2位 (0.60)
語い力	3位 (0.22)	5位 (0.27)	6位 (0.43)
読解力		2位 (0.34)	4位 (0.55)
読書速度			6位 (0.43)
音読技能			9位 (0.31)
文法		6位 (0.17)	3位 (0.58)
作文		3位 (0.28)	**1位 (0.74)
話し方			8位 (0.36)
聞き方			10位 (0.17)

\* 4年3学期の読解力

\*\*作文Bテスト

家庭での読書態度や能力が低学年に比べて、いちじるしく活発になってきた中学年の読書点数と言語能力の相関は、上表のように、低学年とかなり趣がかわってきている。低学年の場合は、文字力や読解力など、基礎的な言語能力との相関が多くみられたが、中学年では、これらの基礎をふまえた応用的な言語

能力との相関の方が高くなっている。もっともこんどの家庭における読書点数の中には、三つの要素が加わって、（家庭からの回答のもの、児童自身の回答によるもの、読書ノートの三つから、点数をとった、読書総合点である）前より複雑であるから、全く同じ立場での比較にならないであろうが、しかし、傾向的には、認めてもよさそうである。

なお、読書と最も関係のありそうな語い力が、いつも、あまり高い相関度を示さないのは、ふしぎに思われたが、これは、語いテストの問題や方法にもかなり関係のあることが、語い力の発達に関する調査の方で明らかになった。それは従来の語いテスト問題が、大体教科書からとられたものであったこと、その問い方も、深い理解をたずねたものでなかったために、家庭読書がそれほどきいてこなかったのであるが、テスト方法を複雑にして、語い理解の深さをたずねた場合には、語い力と読書点数との間に、他の場合よりも高い相関がみられたのであった。（語い能力の発達の章、参照）

### E 新聞とラジオ・テレビへの接近と興味

低学年の段階で、新聞やラジオに興味をもつことは、都市、農山村の区別なく、一様に、相当の高い率で（新聞は60%台、ラジオは80%台）接近していたが、中学年になるとそれがいっそう高くなっている。ラジオは低学年のころは他の家庭読書と比べると、むしろ、農山村の方に多く聴取されているようであったが、今度の結果では、そういう地域の差が少なくなっている。新聞は、ラ

学校	学年	態度		新聞(おとな)		" "		ラジオを		" "		テレビを		" "	
		をみる		をみる		みない		きく		きかない		見る		みない	
		3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年		
実験		67.5	75.6	13.3	20.0	8.9	82.5	93.3	0	0	60.0	84.4	17.5	8.9	
C		72.9	73.5	12.2	20.8	6.1	89.6	93.9	6.2	0	83.3	89.8	14.6	4.1	
O		—	65.1	18.6	—	11.6	—	86.0	—	4.7	—	76.7	—	18.6	
F		63.6	76.9	5.1	34.1	5.1	97.7	94.9	2.3	0	0	2.6	86.4	84.6	
H		59.4	71.0	12.9	40.6	9.7	84.4	87.5	9.4	6.3	59.4	50.0	40.6	40.6	
K		68.0	59.1	11.4	26.0	22.7	88.0	90.9	4.0	0	24.0	54.5	56.0	34.1	
N		82.4	—	—	13.7	—	90.2	—	3.9	—	54.9	—	33.3	—	

ジオに比べると非常に接近率が上昇してきていることが目立ち、特に4年では見る程度の者の上に、読む態度がついてきたことが発達を示している。地域差も徐々にとれているようである。

新聞・ラジオと共に、近年新しいマスコミの力を発揮しだしたテレビの接近率も付带的に調べたところ、これもかなり児童の言語生活の中に食いこんでいることがわかった。低学年のころはテレビについての調査をしなかったから、段階的には比較できないが、中学年の間でも3年と4年の間に相当の開きがあるから、それからも類推できよう。ただし、テレビの場合は、その接近率がただちに言語発達と関係があるということよりも、むしろ、テレビの普及率によることの方が大きい。それは、テレビには、他のものに比べて非常に地域差が見られるということからも言える。しかし、ともかく、このように新聞、ラジオ、テレビなどの広い領域から、児童の言語発達への素地をなすものが絶えず流れ込んでいること、その影響の大きなことは、無視できない。

### 1. 新聞

低学年のころの新聞の見方は、入門期のころの新聞の絵や写真をながめて、それについて家人に読んだり話したりを要請する段階から、ようやく自分で読もうとする態度がつきはじめ、そのために、新聞を読んでもほしがらぬもの数が減って、字の質問をする数が増加してき、見る紙面の範囲がわずかながら広げられてきたというところがあった。中学年でも、この傾向が受けつがれ、徐々に進展されている。新聞を見たり、さらに読んだりする数がまず増えてきている。しかし、まだ、それは、成人のように毎日読むという習慣的のものではない。

学校	態度		ときどき	
	学年		みる	
	3年	4年	3年	4年
実験	28.2	22.2	56.4	62.2
C	25.0	16.3	58.3	67.3
O	—	27.9	—	51.2
F	9.1	15.4	68.2	59.0
H	12.5	15.6	53.1	65.6
K	14.0	22.7	64.0	50.0
N	33.3	—	56.9	—

また、新聞を見たり読んだりして、さらに家人に読んだり、話したりしてほしがらぬ、字の質問をする、内容の質問をするといったそれに対する反応は、実験学校を除いては、だんだん多くなっている。

紙面では、まだ、相かわらず写真や絵や漫画を多くみる傾向があるが、低学年に比べると、中学年では、子供らん、スポーツ

学校	学年	新聞について 読んだり話し たりする		"ほしがら ない		字の質問 をする		"し ない		内容の質問 をする		"し ない	
		3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
		実験	66.7	62.2	23.1	31.1	48.6	51.1	40.5	40.0	66.7	60.0	25.6
C	54.2	57.1	41.7	28.6	43.7	51.0	47.9	38.8	56.2	59.2	37.5	28.6	
O	—	34.9	—	44.2	—	46.5	—	37.2	—	41.9	—	39.5	
F	25.0	41.0	63.6	35.9	22.7	48.7	61.4	28.2	38.6	51.3	47.9	30.8	
H	16.8	25.0	75.0	62.5	34.4	40.6	59.4	50.0	31.3	56.3	62.5	34.4	
K	52.0	36.4	38.0	45.5	38.0	45.5	48.0	31.8	46.0	43.2	40.0	34.1	
N	64.7	—	35.3	—	58.8	—	41.2	—	66.7	—	27.4	—	

らんを多く見るようになり、また少しずつではあるが社会面にも関心をもつようになってきている。ラジオ放送の番組に目を通すようになったこともこの期の著しい特徴といえよう。

見る紙面 実験・協力学校（家庭調査）

学校	学年	写真		絵		広告		漫画		スポーツ		映画	
		3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
		実験	65.0	69.0	0	42.2	0	15.6	72.5	71.1	17.5	22.2	0
C	60.4	67.3	39.6	38.8	14.6	6.1	85.4	77.6	39.6	44.9	8.3	2.0	
O	—	53.5	—	37.2	—	4.7	—	76.7	—	41.9	—	14.0	
F	54.5	48.7	36.4	25.6	4.5	7.7	63.6	69.2	13.6	23.1	0	0	
H	37.5	62.5	37.5	43.8	6.3	18.8	50.0	62.5	3.1	34.4	3.1	6.3	
K	48.0	47.7	34.0	34.1	12.0	4.5	70.0	68.2	24.0	25.0	0	2.3	
N	74.5	—	41.2	—	13.7	—	86.3	—	21.6	—	5.9	—	

学校	学年	こどもら		ラジオ放 送番組		社会面		家庭らん		演芸らん		娯楽らん	
		3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
		実験	50.0	46.7	0	48.9	—	11.1	—	0	—	0	—
C	43.7	36.7	20.8	40.8	—	14.3	—	0	—	0	—	2.0	
O	—	25.6	—	44.2	—	7.0	—	2.3	—	7.0	—	2.3	
F	20.5	30.8	4.5	12.8	—	5.1	—	0	—	0	—	2.6	
H	6.3	34.4	12.5	37.5	—	9.4	—	9.4	—	9.4	—	0	
K	40.0	45.5	18.0	25.0	—	6.8	—	0	—	4.5	—	2.3	
N	52.9	—	35.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

おとなの新聞に比べると、子供新聞への接近状態は、低学年のころと比べると、上昇してはいる。実験学校の調査では、2年では、読むものの13.3%であったのに対し、3年61.5%、4年40%という数を示している。

子供新聞 (家庭調査)

学校	年度	子供新聞をよむ		子供新聞をよまない		小学生日		毎小生		読売小		その他	
		3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
		実験	61.5	40.0	28.2	46.7	10.0	4.4	10.0	8.9	27.5	0	サンケイ 22.5 毎日中 2.1
C	29.2	34.7	60.4	44.9	0	18.4	12.5	14.3	18.7	0		0	
O	—	27.9	—	48.8	—	9.3	—	9.3	—	0		0	
F	25.0	10.3	65.9	59.0	4.0	2.6	11.4	0	6.8	0	サンケイ 毎日中 11.4	0	
H	6.3	31.3	50.0	56.3	0	12.5	6.3	21.9	0	0	0	0	
K	44.0	36.4	48.0	40.9	4.0	9.1	8.0	15.9	30.0	0	0	0	
N	47.1	—	49.0	—	9.8	—	9.8	—	9.8	—	11.8	—	

3年に比べると子供新聞の読者は減ってきている。これは、子供新聞を購入する者の数も(3年47.1%、4年31.1%)、外部から借りる数も(3年15.0%、4年2.2%)というふうに減っているのに応じていて、3年のころよりは総体的に消極的になっていることがわかる。中学年も後期になると、児童の興味は、もっと他の種類のよみものに向けられること、ある種のニュース性はおとなの新聞でもだんだんみたされること、家庭で、もっとまとまった形の雑誌や参考書(たとえば科学クラブ、学習図鑑など)を購入してやるための経済的な理由など、種々の理由によるであろう。子供新聞の特徴である、学校だより(3年35.0%、4年17.8%)や、生徒の作品(3年25.0%、4年20.0%)、学習に関係のある記事(3年10.0%、4年8.9%)などの好んでみる紙面の率も、それほど高くない。子供新聞を読んで、刺激されて投書するというようなことも少なく、3、4年を通じてそれぞれ1名くらいの者であった。実験学校でみられた子供の新聞への関心の度合の低さは、協力学校でも、大体同じであるが、購入や経済に関係があるためか、がいして都市の方が積極的であるという地域差がみとめられた。

種類 学年 学校	ニュース		学校だより		スポーツ		漫画		天気の様子	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
実験学校	30.0	26.7	35.0	17.8	15.0	20.0	40.0	35.6	5.0	4.4
C	8.3	14.3	10.4	14.3	10.4	16.3	31.2	32.7	0	4.1
O	—	9.3	—	14.0	—	11.6	—	23.3	—	7.0
F	2.3	5.1	6.8	2.6	2.3	2.6	13.6	2.6	2.3	0
H	0	5.3	0	15.8	3.1	15.8	3.1	23.7	0	0
K	6.0	13.6	10.0	9.1	10.0	6.8	36.0	22.7	4.0	0
N	5.9	—	13.7	—	11.8	—	37.3	—	5.9	—

種類 学年 学校	物語		学習に関係のあるもの		生徒の作品		その他	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
実験学校	47.5	24.4	10.0	8.9	25.0	20.0	0	2.2
C	20.8	24.5	4.2	8.2	16.7	22.4	64.6	2.0
O	—	14.0	—	4.7	—	14.0	—	7.0
F	18.2	2.6	0	2.6	11.4	0	72.7	0
H	0	13.2	0	7.9	3.1	15.8	96.9	2.6
K	20.0	25.0	4.0	4.5	12.0	20.5	58.0	6.8
N	31.4	—	3.9	—	21.6	—	25.5	—

## 2. ラジオ

ラジオの聴取は、前学年でも高かったが、中学年になるといっそう高くなることは、前掲の表でもわかる。しかも、聞き方も、毎日聞くものがふえてきている。これを新聞の読紙状態と比べてみると、

	〔新聞〕 毎日よむ	ときどきよむ	〔ラジオ〕 毎日きく	ときどききく
実験	22.2%	62.2%	80.8%	15.6%
C	16.3	67.3	49.0	38.8
O	27.9	51.2	32.6	41.9
F	15.4	59.0	56.4	41.0
H	15.6	65.6	56.3	37.5
K	22.7	50.0	59.1	31.8

というふうに、非常に積極的であることがわかる。

ラジオについての態度

学校	学年	質問する		質問しない		ラジオで聞いたことを話す		"話さない"	
		3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
		実験	60.5	62.2	23.7	26.7	52.5	55.6	25.0
C	54.2	42.9	37.5	42.9	39.6	42.9	52.1	46.9	
O	—	51.2	—	30.2	—	51.2	—	37.2	
F	45.5	51.3	50.0	38.5	45.5	23.1	54.5	43.6	
H	34.4	46.9	59.4	46.9	28.1	43.8	65.6	50.0	
K	50.0	29.5	32.0	50.0	42.0	29.5	42.0	50.0	
N	64.7	—	25.5	—	56.9	—	37.3	—	

ラジオを聞く態度については、ラジオを聞いて質問する者は、実験学校では低学年のころと大差ないが、50%を越える半数以上の者が、ラジオで聞いたことを、家人や幼い弟妹たちに話すという、主体的な聞きとり方ができてきたことが注目される。協力学校でも、大体同じ傾向を示しているが、都市部に比べると、農山村の方が、やや興味的に聞いているという態度が見られた。

好んで聞く番組は、低学年のころと大差はない。また、子供に人気のある番組は、都市農村の区別なく、一様に好まれている。ただ、低学年と比べて、いわゆるおとなの娯楽番組ものが割合に下位になって、「三つの歌」と「おとうさんはお人よし」は特例）子供番組の娯楽ものが上位にあること、今まで、下位にあった、ニュースや子供新聞の種類のニュース性のあるものが聞かれるようになったこと、スポーツの実況放送にもかなり興味を覚えるようになったことなどが新しい現象としてあげられよう。しかも低学年のころより子供たちの好む番組に共通性があるようになったこと、（低学年の時は、非常に分散していた）が目立ってきている。これは、中学年で、新聞紙面でラジオの放送番組を見るという率が、かなり高くなってきたことと相通ずるもので、児童が、自主的にダイヤルを廻して聞くようになったことを物語るのではなからうか。

ちえのポスト式の番組、子供の時間は、低学年のころと同様相変わらず上位にある。低学年で、おとなの娯楽番組をかなり好んで聞いていたために、この段階で、児童の興味関心がおとなのものにうつっていく徴候かと思われたが、それはむしろ、家人が好んできく番組のお相伴であって、児童自身の興味や関心

学校 順位	実験	C	N	F	H	K
1	オテナの人 塔 (17)	お父さん はお人よ し (17)	オテナの人 塔 (20)	三つの歌 人 (18)	オテナの人 塔 (22)	オテナの人 塔 (27)
2	ポッポち ゃん (13)	オテナの 塔 (15)	三つの歌 (13)	オテナの 塔 (17)	三つの歌 (14)	お父さん はお人よ し (22)
3	やん坊に ん坊とん 坊 (11)	三つの歌 (13)	やん坊に ん坊とん 坊 (12)	ちえのポ スト (13)	天気予報 (9)	三つの歌 (21)
4	三つの歌 (7)	ハリスク イズ (6)	鞍馬天狗 (12)	やん坊に ん坊とん 坊 (9)	子供の時 間 (6)	子供の時 間 (8)
5	サザエさ ん (7)	子供の時 間 (4)	ターザン (10)	のびゆく 若葉 (7)	ニュース (5)	歌の玉手 箱 (7)
6	ちえのポ スト (5)	ちえのポ スト (4)	ポッポち ゃん (10)	子供の時 間 (6)	お父さん はお人よ し (4)	ちえのポ スト (7)
7	少年宮本 武蔵 (5)	ニュース (4)	サザエさ ん (9)	子供音楽 会 (4)	ちえのポ スト (4)	万才学校 (6)
8	鞍馬天狗 少年版 (4)	ポッポち ゃん (4)	少年宮本 武蔵 (7)	ニュース (3)	音楽 (3)	ポッポち ゃん (5)
9	子供新聞 (4)	やん坊に ん坊とん 坊 (3)	ジャンバ ルジャン (7)	子供新聞 (3)		ハリスク イズ (4)
10	ターザン (3)	野球 (3)	ちえのポ スト (7)			歌謡曲 (3)
11	お父さん はお人よ し (3)	お母さん の黒板 (3)	ニュース (5)			
12	ちえのわ クラブ (3)	歌 (3)	子供新聞 (4)			
13	ピヨピヨ 大学 (3)	子供新聞 (3)	ものまね コンク ール (3)			
14		スポーツ 実況 (3)	子供の新 聞 (3)			
15		サザエさ ん (3)	子供音楽 会 (3)			

回答 2 人以下の番組は省略。

は、まだ、子供を対象としたものであることがわかった。この傾向は、3, 4年を通じて大差なく、中学年の実態といえる。

### 3. テレビ

テレビをみる率は、実験学校や都市の協力学校では、すでに、新聞をみる率



に接近しているから、その影響は、今後時間を追って大きくなると思われるが今のところは、都会地にかたよっていることは、前に述べたとおりである。現在では、自宅でよりは、近所のテレビのある家で見る機会が一番多く、（実験学校51.1%）、つづいては街頭。飲食店という数は非常に少ない。実験学校でも、協力学校でも、街頭がへって（3年から4年にかけて）、近所の家が多くなっていること（次位は、自宅）は、テレビの普及度を物語るものである。

テレビの番組

種類 学年 学校	実況		歌		演芸		その他	
	3年	4年	3年	4年	3年	4年	3年	4年
実験	50.0	37.8	15.0	24.4	25.0	44.0	2.5	8.9
C	52.1	51.0	20.8	32.7	18.7	40.8	0	20.4
O	—	41.9	—	11.6	—	32.6	—	11.6
F	0	0	0	0	0	0	0	5.1
H	59.4	46.9	9.4	9.4	3.1	9.4	0	12.5
K	20.0	29.5	8.0	4.5	6.0	6.8	0	15.9
N	41.2	—	15.7	—	13.7	—	3.9	—

見る番組は、現在のところ、演芸や実況が多く、続いて歌となっている。

なお、児童に、これら新聞・ラジオに対する興味と、読書への興味とどちら

興味の比較 4年生

種類 学校	本をよ むこと	ラジオを きくこと	新聞を みる こと
実験	60.2	43.8	0
C	69.4	26.5	0
O	60.5	25.6	0
F	43.6	43.6	5.1
H	78.1	25.0	0
K	75.0	18.2	2.3

が、優位であるかたずねたところ、実験校も協力校もひとしく、本を読むことを第1位におしている。（F校は、読書とラジオとは同じであった。）

新聞をみることなどは、これらのマスコミの比率の上では、まだ低く、おとなの接近状態とは、相当の開きがあること、意外なほど

本を読むことに、興味をもっていることがわかった。

## F 読書ノートに見られる読む能力の発達

児童のようやく旺盛になりだした読書欲と、ひとりだちで読めるようになってきた読書能力とに応じて実験学校では、3年から、児童に図書室に自由に出

入して、図書利用をすることを許すようになった。そこで、今までの読書調査のほかに、3年から読書ノートを記入させてみた。使用した読書ノートは、第1回の3年の時は、東京都学校図書館協議会編の「どくしょノート（低学年用）」、第2回めからは、第1回に使用した経験を考慮した、自家製の「どくしょノート」によった。

どくしょノート (研究室製)

よんだ日		本の名(な)	本をかいた人 (はっこうじょでもよい)
よみはじめた日	月 日		
よみおわった日	月 日		
この本を よんで どう 思いましたか。○を つけましょう。			
おもしろかった つまらなかった ためになった むずかしかった やさしかった そのほか じぶんの ことばで かける人は かい て みましょう。			
			この本をよんで 書いてみたいことがある たら、かいて おきましよう。どんなお はなしか、また、どこが おもしろかっ か、なんでもよろしい。えにかいて み い人は、えでも よろしい。

○ ○ ○  
 一 さつ よんだら、この ノートの つかいかた (表紙のうら)  
 二 よんだ日、本の 名、本を かい  
 三 かんそうも わすれずに かい  
 四 本を よむ ちゅうい  
 五、四、三、二、一、よむまえには、手  
 一 本は ていねいに あつかいまし  
 二 しせいを たくして よみまし  
 三 本を よみまし  
 四 おわりに よみとおしまし  
 五

1. 読書ノート回収状況

3年から児童は、図書室に自由に出入して、喜々として図書を読むようになってきたので、「本を読んだら、ノートにつけてみましょう。」と3年1学期

(30.6) から読書ノートを配布した。しかし、児童の自由なありのままの読書状態を知りたいので、記入に対して強制はしないでおいた。その読書ノートを夏休みが始まる前に回収してみたところ、

男 21人中 9人      女 29人中 18人      計 50人中 27人  
しか回収しえなかった。

休み時間など、少しの時間をも惜しんで、むさぼるように読んでいるわりに回収率が少なかったのは、読むには読んでも、記入する煩をいとうためと、あとでわかったが、記入しうるほど深く読めていないためであった。しかし、27人の中には、その後も続けて記録し、自発的に2冊目を要求する児童もいたりして、非常に個人差があったが、ともかく3年では、まだ読書ノートの記録は上乘とはいえない状態であった。それが4年になると、(31年7～8月)

男 21人中 13人 61.9%      女 28人中 18人 64.3%  
計 49人中 31人 63.3%

とやや上回り、5年では、(32年7～8月)

男 22人中 20人 90.9%      女 28人中 25人 89.3%  
計 50人中 45人 90.0%

というふうに回収率がよくなっている。そしてこの回収率の向上は、単に数量上の向上だけでなく、質的にも発達を示しているのである。

## 2. 読書ノート記録の状況

読書ノート記録の状況は次のようである。これによってみると、3年では、書名だけしか書かなかった者が3人、書名と絵だけ書いた者が9人いるのに対して、4年になると、そういう段階の記録は皆無になっている。また、3年では、絵を主にした、部分的の引用や感想が多く、幼稚な記入ぶりもかなり見られたが、4年では、それが減って、内容をおおった感想や、時には、批評や意見をまじえた記録が見受けられるようになって一段と充実した記録になっている。

読書量もだんだん多くなり、種類も、中学年らしく童話、物語、探検、冒険理科、社会科関係のよみものというふうに読書範囲がひろがっている。また家庭での読書調査や児童調査にも見られたが、読書興味や態度に男女差が現われ

## 読書ノート（実験学校）

（第1回回収分）

態度	学年		3 年				4 年			
	男女		男	女	計	%	男	女	計	%
	男	女	(21人)	(29人)	(50人)		(21人)	(28人)	(49人)	
ノートを提出したものの	(人)	%	(人)	%	(人)	%	(人)	%	(人)	%
書名だけをかいたものの	2	9.5	1	3.4	3	6.0	0	0	0	0
書名・絵をかいたものの	7	33.3	2	6.9	9	18.0	0	0	0	0
書名・絵・感想をかいたものの	5	23.8	12	41.4	17	34.0	8	38.1	11	39.3
書名・感想をかいたものの	1	4.8	3	10.3	4	8.0	4	19.0	7	25.0
									31	63.3

(注) 提出したが、何も記入していないもの1人を含む。

（第1回回収分）

冊数	学年		3 年			4 年		
	男女		男	女	計	男	女	計
	男	女	(21人)	(29人)	(50人)	(21人)	(28人)	(49人)
読書ノートに記入された総冊数			72冊	51冊	123冊	67冊	128冊	195冊
学級1人あたり平均冊数			3.4	1.8	2.5	3.2	4.6	4.0

てくることも読書ノートによって裏づけられた。たとえば、男児は、冒険・探検記類、理科系統のものなどを好んで愛読するが、女兒は、大半が、同巧異曲のいわゆる少女小説を好んでいることである。

なお、家庭読書の調査結果で、読書の興味や時間数などを問うた読書興味や態度や能力では、中学年になると差がつきにくい点もあったが、現実では、相当個人差が出ているし、読解力などのテストの結果でも、かなり個人差がある。これをどうして、客観的につかめるかと思っていたが、読書ノートの記録を見ると、かなり個人差が具体的にうつしだされていることがわかった。また、このことは同時に、読解力の発達のしかたをある程度表わしていると思われる。興味ある問題を提示しているといえる。

(年間読書状況)

	3 年				4 年			
	男 (9人)	女 (18人)	計 (27人)	%	男 (13人)	女 (18人)	計 (31人)	%
童話・物語	45	45	90	49.6	28	65	93	48.7
探検・冒険	3	3	6	3.3	12	2	14	7.3
漫画	2	6	8	4.4	12	54	66	34.6
伝記	11	18	29	15.9	4	3	7	3.7
理科	29	6	35	19.3	3	0	3	1.6
社会	7	2	9	4.9	4	0	4	2.1
作文	1	1	2	1.1	1	0	1	0.5
劇	1	0	1	0.5	0	0	0	0
童謡	0	1	1	0.5	0	0	0	0
雑誌	0	1	1	0.5	0	2	2	1.0
辞書	0	0	0	0	0	1	1	0.5

### 3. 読書ノートの記入のしかたからみた読みとり能力の発達

読書したことをノートに記入させると、記入のし方に、能力差、個人差からくるいろいろの型がでてくる。そして、それを、他の言語能力と比較してみた場合、おのずからそこに、発達の段階があることがわかった。

[3年]

#### (1) 書名だけを書いておくもの

K女(言語能力 中の下)

30年5月12日 ちゅうじょうひめ
30年6月6日 しらぎくものがたり

備忘の意味で、成人がする場合と違い、中学年の読書ノートで見られた限りでは読書能力の低い段階、または、投げやりの性質のものであった。

#### (2) 書名と、絵だけを書くもの

この絵の書き方にも、大体2種類あった。

(i) 自分の印象に残った場面と思われる箇所を絵で表現する。説明がないから、どういう場面なのか、読者がそこから何を受け取って、何を訴えようとしたのか、第三者にはよくわからない。低い段階の読み方の者に見受けられた。

例 A女（言語能力 下位）

30年6月29日 <sup>しょうとくだいし</sup> 聖徳太子  
(小さい童子ふうの子が手を合わせているような様子をした絵だけがかいてある。)

これが少し進んだ段階では書名と絵をかいて、そこにおもしろいとか、かなしかったとかちょっとした感想が付記されている。

S女（言語能力 下位）

30年6月25日 シンデレラ姫 絵 かとうまさお  
(長いひだつきのスカートの下からくつをはいた2本の足だけがかいてある絵。)  
下に、  
「わたくしは ここがさびしいかた(さびしかった)」  
とかいてある。

主人公の悲しい身の上に同情したのであろうが、絵と文字を相補っても、(大体想像はつくが) どのような場面なのか、はっきりしない。

(四) 一編の中心場面、山にあたる場面を絵であらわしたもの。第三者にもよくわかる。

例 K男（言語能力 下位）

30年6月14日 あかづきん はまだひろすけ  
(おばあさんにばけた狼がベッドで寝ている絵がかいてある。)

この子は、まだ、ことばにまとめて表現する段階では、低く、前日の記録では

30年6月13日 べんけい たかのまさみ  
「けらいにしたくささい(してください)」

とだけ書いてある。大の男の弁慶が、小さな少年牛若丸に負けて、「家来にしてください」と頼んだところに、強い印象を受けて書いたものと思われるが、こうした、登場人物の片言隻語だけしか、記録できないのである。当時のK男の国語の読解能力は中の下であった。

(3) 文中の印象に残ったことばを書きだす。成人の場合の主要箇所引用文にあたるわけであるが、これにも、段階がみられた。

(イ) 必ずしも、主要場面でない所をぬきがきする。

主題ではない、その本のごく一小部分のところに興味をおぼえて、そこを指摘する。これは、長い文の読解力テストなどで、その主要部分についてたずねた場合、低学年の下位の児童などにみられる結果と一致している。

S女（言語能力 中の下）

30年7月13日	じゃんね(囃)だるく	高のまさみ
(羊らしいものが、2匹いる絵)		
ある日じゃんねがまきばでひつじのぼんをしていると、おそろしいおおかみがあらわれました。		
ほかのひつじかいたちはあわててにげしました。		

ジャン・ダークの伝記風な物語であるから、オルレアンの一少女から祖国の危急を救う行動に、感銘を受け、印象もそこに集中すると考えられるが、叙述のある部分にひかれるという、読みとりの浅さが見られる。この子の読解力は下で、平素の学習態度でも、こうした共通点が見出せる。そして、この子は、

30年10月29日	ロビンソンクルーソー	小田 忠
(舟とそれを支えるように両手をのぼした人の絵)		
わたしはゆうきをだしてたちあがりつぎのなみがくるまえに岸へたどりつきました。		

3年2学期になっても同様の読み方をしている。

絵と部分的な引用文によって現わされている。

こういう傾向の読みとり方、記入のし方は3年生の段階の、中位クラスの子に多い。

(1)の(イ)の絵で読書の印象を表わそうとした段階に共通性のある低いものである。

(ロ) 文中の主要部分が引用できる。

G男（言語能力 上位）

30年5月25日 イソップ物語

(きつねの口の中に、くちばしを入れている鶴の絵が、なかなかうまくかけている。)

キツネののどにとげがささっていました。つるさんがとおったので、「どうぞおねがいです。とげをとってください。おれいをいただきます。」つるさんはとってやりました。

「あの……おれいわ。」

「おまえさんがわしの口の中でぶじなのがなによりのおれいさ。」

G男は非常に読書ずきで読解力にもすぐれているが、このような主要部分が読みとれるものは、3年では、読書能力の上位のもの、まれに中位のものに見かけられる。そして、この種の引用文が書ける子の半数以上は、簡単な内容の紹介や感想が書けるようになっている。ハンス・アンデルセンの「美しい話」を読んだ同児の読書ノート、5月9日には、

ハンス・アンデルセンが子供の時、本をかいたが、みんな読んでくれない、おかあさんがそれをなぐさめる。

といった要約がされている。

S女(言語能力 上位)

30年10月23日 いのうえでん きたむらひでお

(井上でんがはたを織っている絵がかいてある。)

でんは小さい時におねえさんがたのはたおりをみてやりたくなくなりました。でんはおとなになってくるめがすりのきもをつくりました。

(イ) リズムのある表現や気のきいたことばなど、文章表現のおもしろさなどに気づいた引用。

K男(言語能力 上位)

30年6月10日 とけい あさひなていいち

(時計塔の絵。クレヨンできれいかいてある。)

大きなとけいになっている。きんこんかんとなっている。

たかいたかいとけいとう じこくをしらせるとけいとう おうさまみたいに つっ立って にぎやかな町みおろしている。



この種の引用ができる子も、(3)の(ロ)と同様、読書能力は高い。なお両者の間には上下の段階の差があるというよりも、性格の差が現われるようである。この子のノートは、他にもこうした引用箇所が2、3あった。

(4) 簡単に内容をまとめてかくことができる。

I女（言語能力 上位）

30年6月15日 あかずきんさん 浜田広介

あかずきんさんは、おばあさんがびょうきなので、おかあさんに*いわれてがおばあさんのところ*においしいものをもっていきました。とちゅうおおかみにあってあかずきんさんはびくともしないでたちどまりました。そしておおかみにさきまわりしておばあさんをたべようとしたのですが、花（赤の誤り）ずきんさんのほうがおいしそうだとおもっておばあさんをたべるのをやめてあかずきんをたべようとすると花ずきんがにげて、おおかみはかりうどうにうたれてしんでしまいました。

赤ずきんの話全体として読みとっており、記録のし方も、文法や文字上の多少の難点を除くと、かなりまとまった要約ができるようになっている。絵の助けをかりなくても、読解したことが十分に文字で表現されている。

(5) 読後の感想や批評をつけ加えることができる。これには、(イ)たんに、「おもしろかった。」とか、「かわいそうだった。」とかの短い、評語でかたづけてしまうものと、(ロ)どういう点が、どうだったというように、内容の簡単な紹介や、自分の感想をつけ加えるものとある。

A男（言語能力 上位）

30年6月13日 美しい星空 理科教育研究委員会

(大熊座の星座の絵がかいてある。)そばに、  
「いろいろな星のかたちがおもしろい。」と書いてあって、さらに下段に、  
さそりや大ぐまこぐまなどいろいろほしをつないでかいてあるし、よこに  
そのなをかいてあるからおもしろい。

G男（言語能力 上位）

30年11月4日～7日 工作の友 源一郎

(台の上にかたつむりがいて、それに紐をとおしてある絵)

絵の横に、「とても工作のためになった」とかいてあり、さらに下段に、  
かたつむりの動く所がおもしろい。一かいつくってみました。

このように読んだことに対する感想や批評ばかりでなく、上位の者になると利用できる読みの段階にまで進むことができる。読書ずきのG男など、3年1か年の間に、読書能力の上に非常な発達があったことが読書記録を通して認められるのである。

なお、H男の読書ノートを見ると、今までのべた読書の傾向をひとりで、発達的に示しているという興味ある例もある。この子は、2年のころは言語能力は中以下で大して目立たなかったが、非常な読書ずきで、3年の中ごろからは図書委員になったほどである。3年の初めごろは、もっぱら、自分の主観的な印象に残ったとおぼしき場面を絵にかいていた。やがてその絵が、主題を現わす絵になり、

30年6月20日      イソップ                      川端康成

では、きつねとつるが、かたわらに筒の長いいれものと皿の絵がかいてあるというふうになっている。ノートは継続して記録され、2学期の終りごろには、

30年11月5日      鳥類魚貝図鑑

(鶴とだ鳥に似た形の鳥の絵と、うなぎのような形状の魚の絵。)  
スケロプタルムスやツルウナギやマクロフマリクスなどへびみたいな魚な  
(さかなの意)だ。こんなすごいのみたことない。  
リボンウオなどりぼんのさきにあたまがあってそのへんからひげがでておぼ  
けみりたいだ。

31年1月27日      ヘレンケラー

(ヘレンケラー女史の絵)  
かわいそうな本でたいへんいい本です。

少しずつではあるが、だんだん自分の感想なども加えるようになっていっている。

[4年]

3年での読書ノートを通してみた読みの実態は以上のようなようであるが、4年に

なると、これらの大体の傾向をふまえながら、さらに変化がみられる。

(1) 書名と絵だけかくという記入のしかたがなくなる。

3年の時のように絵だけで、内容や、自分の気持を表現するだけでは満足できなくなる。読みとった内容が文字表現化される、それだけ深く読めたものとも、また、分化して読めたともいえよう。

絵のほかに、かんたんな内容の紹介や、評語・感想を添えるものが多い。

(イ) 絵と評語だけ。

U女（言語能力 中の下位）

31年7月21日	心の王冠	松沢のぼる
(三人の女の子の絵。ひとりはいぼり、ひとは、うつむいた表情をしている。)		
○かわいそうだった		

こういう形式のものは、大体、読書能力の低い者に多く、漫画や、少女小説の愛好者に多い。中には、「やさしかった。」「つまらなかった。」などの評語がみられるが、こうした態度の読みぶりで、多くの冊数を読んでいる者はただ、すじをおうだけのためか、多く読むわりに、読解力がつかない場合が多いようである。能力の低い女兒に多くみられた。

(2) 感想や評語に、簡単な理由が書き添えられる。

S女（言語能力 中位）

31年8月12日	母こい月夜
○かわいそうだった。	
おねえさんやおばあさんにいじわるされるのがかわいそうだ。	

S男（言語能力 中の下位）

31年8月2日	がんばれサンボ	せおたろう
○おもしろかった		
サンボがアイスクリームなめたらあんまりつめたいのでおっこしたところがおもしろかった。		

Y女（言語能力 中位）

31年7月30日 ゆめのゆりかご 小糸のぶ

○かわいそうだった

さくまはつ子がまだわかいころびょういんのかんごふさんをしていました。そのびょういんにおんなじ日にうまれたおんなのこがいました。せきぐちのり子とたけむらははるみです。ふたりともかおがにているのでいれかえてしまいました。大きくなってからのり子はやさしい子にはるみはいじわるになりました。はるみとのり子はクラスが同じなのではるみはのり子をいじめてばかりいるのがかわいそうです。

上の3例のような形で、書かれ、4年の読書ノートの半分はこれである。後者程度に書けるものは、かなり力がある方。少女小説を愛読する女兒にこの種の読み方が多い。

(3) 感想だけでなく、意見や批判をもった読みができる。

4年になって、上位クラスの者に見られる読書態度、能力である。

G男（言語能力 上位）

31年7月22日 フェーブル昆虫記 平野威馬雄

○ためになった

フェーブルの昆虫記はたいへんためになった。ぼくは、イナゴがせみを食るとか（肉食幼虫）ホテルが、つゆだけ食べるのではなくて、かたつむり（肉食幼虫）をたべるなんというむずかしいことがたくさんわかった。せみはありよりきんべんだという信じられないことも書いてあった。8月になったら、ぼくも昆虫記を、やろうと思った。

31年8月12日 美しい心正しい人 児童文学者協会編

○ためになった

この本の中に、（きちがいハンス）という話があるが、ハンスはかわいそうだ。役者になりたいと思って、いなかから、きたのに、みんなハンスをきちがいだと思ってだれもあいてにしてくれない。シボーニという人だけは、受(愛)して、おしえてくれたが、ハンスはのどをわるくして歌がうたえなかったのでハンスは、役者をやめて、本をかくことにした。これが、アンデルセンの子ども時代だったが、ぼくはうそだと思った。ほかに光の天使（ヘレン・ケラー）つばめの話があった。

O男（言語能力 上位）

31年9月5日 希望号の冒険 フランス デュアメル

○おもしろかった

このものがたりは、すいそぼくだんの、何百ばいもあるZぼくだんがぼくはつしたことからはじまる。8月4日、主人こうのエマニュエルの家が、いや、フランスじゅうが大じしんになった。テーブルは、ひっくりかえりてい電になった。それで、希望号という船にのってあたらしい土也(地)をもとめるのだった。

ぼくは、こんなおそろしいZぼくだんやすいそぼくだんなぞつくってもらいたくない。平和り用ならいくらつくってもいいと思う。

前2例のG男は3年の時にも、かなり高い読書態度が見られたが、4年になると、このようにいっそう発達してきている。読解力も作文能力もこの読書ノートの結果を裏づけるように高い。あとのO男は途中から転校してきたので、3年のころの能力はわからないが、4年では、G男同様上位クラスである。こういう読書ノートが書ける上位クラスは、4年では、まだ数名しかおらず、このころになると、読書態度や能力の上に、かなり個人差が認められてくるのである。しかし総体的にいて、中学年の読書能力は、かなりまとまったものを部分的、印象的に理解することから、徐々に全体的、主題的、客観的に理解し、さらに、自分の感想や意見も加えて読みとれるという段階にまで発達してきているといえよう。(声 沢)

## 付録 1 家庭読書調査の問題

次に添えた「家庭の読書の調査（昭和31年度）」及び「読書調査（児童用）」は、ともに、4年生用のものである。30年度（3年用）の読書調査票も、31年度（4年用）とほとんど同じである。ただ、4年用では、4年生の特殊性を見るために、問題に少し手を加えたり、質問項目を2、3ふやしたりしただけである。

### 家庭の読書の調査（昭和31年度）

男  
女 名まえ

国立国語研究所 国語教育研究室

この調査は、家庭での教科書以外の読書（絵本・雑誌・単行本・参考書など）について、おうちのかたに答えていただくものです。記入の方法は、「こたえ」の欄のあてはまるところに○印をつけ、書きこむところ（※）へは、なるべくくわしく書き入れて下さい。この中で「本」というのはすべて教科書以外の本です。

とい	こたえ		
1. お子さんは、他のあそびとくらべて、本を読むのが好きですか。	1. とても熱中してよむ 2. 好きな方である 3. あまり好きでない 4. きらいである 5. よくわからない		
2. うちで本を読む時間は毎日平均どのくらいですか。	時 分 ぐらい		
3. 1日のうちで、おもにどういう時間に本を読みますか。（あてはまるものを○で囲んで下さい。いくつでもかまいません。）	1. 学校へ行く前 2. 学校から帰るとすぐ 3. 夕ごはん前 4. 夕食のあと 5. 寝る前 6. ひとつということなく、ひまがあれば ※その他（ ）		
4. どんな読み方をしますか。	絵や写真などだけ見る 一冊（または一つの話）を終りまで読まないで次とかえる 一冊（または一つの話）を終りまで読んでから、次へうつる		
5. お子さんが このんで読む本は、おもに どんな種	<table border="1"> <tr> <td>童話・物語 小説類</td> <td>例 グリム童話集、白雪姫、クオレン</td> </tr> </table>	童話・物語 小説類	例 グリム童話集、白雪姫、クオレン
童話・物語 小説類	例 グリム童話集、白雪姫、クオレン		

類のものでしょうか。(あてはまるものを例の方でなく、種類の方を○で囲んで下さい。いくつでもかまいません。なお、とくに このものは◎をつけて下さい。)

冒険・探検記の類	ロビンソン漂流記 トム・ソーヤの冒険
伝記類	エジソン伝 ナイチンゲール野口英世
劇	学校劇集 児童劇集 森のピノチオ
漫画	ヨウちゃん サマエさん
作文・文集の類	四年生の作文 小学生作文集
詩の類	赤い鳥童謡画集 童謡集
理科・社会科学などに関する資料を主にしたもの	卵のひみつ 発明ものがたり
参考書・辞書類	学習大辞典 少年百科 動物図絵
雑誌類	小学四年生 幼年クラブ おもしろブック
※その他	

6. お子さんは、外から 本をかりてきますか。	1. よくかりてくる 2. ととききかりる 3. かりない
7. おもに どこから 本をかりますか。	1. 学校 2. 友だち 3. かし本屋 ※その他 ( )
8. 本を 買うときは、おもにだれが えらびますか。	1. お子さん 2. うちの人 3. そのときによって両方
9. お子さんは 本を読むときひとりで読みますか。	1. いつもひとりで読む 2. いつもだれかに読んでもらう 3. その時によって両方 4. いつも友だちといっしょに読む
10. お子さんは、本を読んでいて、わからないことがあれば、うちの人にたずねますか。	1. たずねる 2. たずねない
11. お子さんは、読んだ本について、うちの人に話すことがありますか。	1. ある 2. ない
12. お子さんは 幼い 弟妹たちに、本を読んであげることがありますか。	1. ある 2. ない 3. 弟妹がいない









9. その子供新聞は、うちで買っているのですか。	1. 家で買う 2. 買わない 3. 借りる
10. 子供新聞では、どんなところをこのんで読みますか。	1. ニュース 2. 学校だより 3. スポーツ 4. 漫画 5. 天気のように 6. ものがたり 7. 学習に関係のあるらん 8. 生徒の作品（作文，詩，絵など） ※その他（ ）
11. 子供新聞に投書などすることがありますか。	1. ある 2. ない

ラジオ

1. お子さんは、ラジオを聞きますか。	1. きく 2. きかない
2. お子さんは、毎日きまってラジオを聞きますか。	1. 毎日きく 2. ときどき聞く程度
3. お子さんは、ラジオを聞いて、質問することがありますか。	1. はい 2. いゝえ
4. お子さんは、ラジオで聞いたことを、うちの人や、小さい子どもさんなどに話してきかせることがありますか。	1. はい 2. いゝえ
5. お子さんが、最近このんで聞いている番組はなんですか。たとえば、「七つの誓い」「三つの歌」といったように、くわしく書いて下さい。	※
6. お子さんは テレビを見ることがありますか。	1. ある 2. ない
7. テレビは おもに どこで見ますか。	1. じぶんのうち 2. 近所のうち 3. 街頭 4. 飲食店 ※その他（ ）
8. テレビを見るとすると、おもにどんなものを見ますか。	1. 実況放送 2. うた 3. 演芸 ※その他（ ）

<p>9. お子さんは、本を読むことと、ラジオを聞くことと、新聞を見ることとでは、どれが いちばん好きですか</p>	<p>1. 本を読むこと 3. 新聞を見ること</p>	<p>2. ラジオを聞くこと</p>
--	---------------------------------	--------------------

読書調査〔児童用〕（昭和31年度）

ねん	おとこ おんな	なまえ	
----	------------	-----	--

みなさんは、学校のべんきょうのほかにも、いろいろと本をよんでいるとおもいます。つぎの19のおたずねに、こたえてください。

（こたえ方）あっているものには○をつける。かきこむところには、なるべくくわしくかく。

<p>1. あなたは本をよむことがすきなほうですか。</p> <p>1. とてもすき 2. ふつう 3. あまりすきではない</p>	<p>2. 学校のべんきょうのほかにも、いろいろな本をよみますか。</p> <p>1. まいにち よむ 2. ときどき よむ 3. あまり よまない</p>	<p>3. あなたは 今まで 本をよんで どんなことで、よかったと思えますか。</p> <p>1. 本をよんでいるあいだおもしろかった 2. あたらしいことがいろいろわかった 3. じぶんの知りたいことが わかった 4. 学校のべんきょうのために なった</p>
<p>4. 学校のべんきょうのほかにも、本をよむのがきらいなのは、なぜですか。</p> <p>（すきな人は かななくてよい）</p> <p>1. よんでも おもしろくないから 2. むずかしい じが多いから 3. むずかしい ことばが多くて いみが</p>	<p>5. あなたは、よむ本をえらぶとき どうしてきめますか。</p> <p>1. うちで すずめるから 2. 先生が よみなさいというから 3. ともだちに すずめられたから 4. 本をみて おもしろそうだったので、よみたいと思ったか</p>	<p>6. あなたが じぶんで本を えらんだり かったり するときには、その本の どういうところが 気に入ったからですか。</p> <p>1. ひょうし が きれいだ 2. えが たくさん ある 3. すぐよめそうだ 4. ながくて、よみでが</p>

<p>わからないから</p> <p>4. よむ本が ないから</p> <p>5. うちが いそがしくて 本をよむひまがないから</p> <p>6. そのほかに、わけがあったら、かいてください</p> <p>( )</p>	<p>ら</p> <p>5. じぶんが しりたいと 思っていたことが かいである本だから</p>	<p>ありそうだ</p> <p>5. そのほかに わけがあったら かいて ください</p> <p>( )</p>
<p>7. あなたが 本をよむ場所 (学校のべんきょうのほかに) は おもどこですか。</p> <p>1. 学校のとしょかん (としょしつ)</p> <p>2. 教室</p> <p>3. じぶんの家</p> <p>4. ほんや (たちよみ)</p> <p>5. 友だちの家</p>	<p>8. ざっしと、いっさつのまとまった本と、どちらが すきですか。</p> <p>1. ざっし</p> <p>2. まとまった本</p>	<p>9. それは なぜですか すきな わけを かいて ください。</p> <p>( )</p>
<p>10. 長い ものがたりと みじかい おはなしとでは どちらが すきですか。</p> <p>1. 長い ものがたり</p> <p>2. みじかい おはなし すきなわけを かいて ください</p> <p>( )</p>	<p>11. じぶんの 本の ほかに かりて 本をよみますか。</p> <p>1. よくかりる</p> <p>2. ときどきかりる</p> <p>3. あまり かりない</p>	<p>12. 本をかりるときは、おもに どこから かりますか。</p> <p>1. 学校のとしょかん (としょしつ)</p> <p>2. 学校のがっきゅうぶんこ</p> <p>3. 友だち</p> <p>4. きょうだい</p> <p>5. かし本や そのほか ( )</p>
<p>13. このごろ よんだ 本のなかでどんなのが すきでしたか。</p> <p>その なまえを 2さつ かいて下さい (本のなまえを わすれたら、どんな お話</p>	<p>14. 本でよんだことを うちの人や友だちに話しますか。</p> <p>1. いつも話してあげる</p> <p>2. ときどき 話してあげる</p> <p>3. あまり 話してあげ</p>	<p>15. 本でよんだことを ノートなどに かいておくことが ありますか。</p> <p>1. ある</p> <p>イ、いつもかく</p> <p>ロ、ときどき</p> <p>2. ない</p>

<p>のだったか、かいてく ださい。たとえば、い さましいたんけんのお 話。</p>	<p>ない</p>	
<p>16. あなたは、いま、どん な本を いちばん よ んでみたいと おもい ますか。つぎにかいて ください。</p>	<p>17. あなたは、なぜ 学校 のべんぎょうのほか に本をよむのですか。次 にかいて下さい。</p>	<p>18. あなたは、3年生のこ ろとくらべて本のよみ かたが かわってきま したか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. かわらない</li> <li>2. かわった</li> </ol> <p>(たとえば 本をよむ時間がな がくなった たくさんよむよう になった 熱心によむように なった など)</p>
<p>19. あなたは、3年生のこ ろとくらべてよむ本の しゅるいが かわって きましたか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. かわらない</li> <li>2. かわった</li> </ol> <p>(どんなにかわった か、かけたら し たに かいて く ださい)</p>		

(注) 3年用では、18.19がない。

## 付録2 社会性調査の問題

### A テスト

御両親へお願い

つぎに、お子さんがお宅でふだんどうやっているかを調べるいろいろな質問があげてあります。

これは、お子さんの年ごろではどんな習慣があるかを広く調査し、こういう習慣と国語の力の関係をしらべるのが、主な目的です。

御多用中おそれいますが、つぎの要領でお答え下さい。

国立国語研究所 国語教育研究室

〔答え方の要領〕

どの問題もお子さんにあてはまるところを○でかこみます。たとえば「I.ねどこのあげおろし」では、自分でしている場合は「自分でも手伝っている」を○でかこんで「自分でも手伝っている」とします。家の人がしてやるときは「家の人がしている」を○でかこみます。

問題によっては「さあ、どっちだろう」というものもあります。こういう場合は「まあどちらかといえばこっちだ」という方を○でかこんで下さい。

備考のらんには、ことばでつけ加えたいことがあったら、なるべく簡単に記入して下さい。

年	男
	女

〔質問その一〕	お子さんにあてはまる方をかこむ		備考
1. ねどこのあげおろし	自分でも手伝っている	家の人がしている	
2. 着物のきがえ	自分でしている	家の人が手伝っている	
3. きがえたもののしまつ	自分でしている	家の人がしている	
4. 指の爪を切ること	自分で切っている	家の人が切っている	
5. おふるでからだの主な部分を洗うこと	自分で洗っている	家の人が手伝っている	

6. 学校の時間割や鉛筆など	自分でしらべたり, そろえたりしている	家の人を手伝っている	
7. 自分のもちもの, 部屋のせいとん	自分でしている	家の人をしている	
8. 自分の鉛筆をけずること	〃	〃	
9. ノートや鉛筆を買うこと	自分で買っている	家の人を買って与えている	
10. ちょっとした傷をしたとき	自分で薬をつけている	家の人がつけてやっている	

〔質問その二〕		お子さんにあてはまる方をかこむ		備	考
1. 毎日きまってする家のそうじ	ふんたんがある	ない			
2. 食器をはこんだりかたづけたりする	よくする	家の人全部する			
3. ちょっとした買物のお使い	よくする	〃			
4. お客さんがきた時せったいの手伝い	〃	〃			
5. 飼っている動物のせわ	せわずきな方だ	あまりすきではない			
6. 小さいこどものせわ	すきな方だ	あまりすきではない			
	いればよくするだろう	いてもあまりしないだろう			
7-10 その他, 家の手伝いで毎日きまってするもの又はよくするものがあったら, イ, ロ, ハのらんに書き入れ, なかったら, なしを○でかこむ。	イ	なし			
	ロ				
	ハ				

〔質問その三〕		お子さんにあてはまる方をかこむ		備	考
1. 親せきや知りあいのお客さんがみえた時	せきにでる	ほとんど出ない			



2. 家の近くの友達とのあそび	よくしている	あまりしていない	
3. "	よくあそびのかしらになっている	あとをついて行く方になっている	
4. おともだちやきょうだいとの関係	物のかしかりをよくしている	物のかしかりはあまりしない	
5. "	物をよく分けてやる方だ	あまり分けてやらない方だ	
6. きょうだいの関係	いろいろなことを一緒にする方だ	あまり一緒ににはしない	
7. 家の中のお子さんの状態	ものわかりがいい方だ	わがままな方だ	
8. 家の人との関係	よく話す方だ	だまっている方だ	
9. "	かわいがられている方だ	まああまりかわいがってやれない	
10. 家の人にほしいものをねだるとき	はっきりいう方だ	はっきりいわない方だ	

## B テスト

おとこ	なえ	
おんな	ま	

- (1) やまだくんは ひとりだけもけいひこうきを もっていないので、みんなからなまはずれにされます。それで、まい日おてつだいをして、10円<sup>えん</sup>ずつためています。あと60円で もけいひこうきがかえます。

ある日、ひとりであるいているとき やまだくんは100円さつをひろいました。

〔もんだい 1〕 やまだくんは、ひろった100円さつをどうしたらよいでしょう。

〔もんだい 2〕 もんだい1で そうするわけは どうしてですか。

- (2) 3年生のえんそくするとき、こうえんで、おべんとうをたべました。たべたあとにはかみくずがたくさんちらかっています。あたりにはごみすてばがないのです。

〔もんだい 1〕 みんなは、ちらかったかみくずを どうしたらよいでしょう。

〔もんだい 2〕 もんだい1で そうするわけは どうしてですか。

- (3) 花子さんのおかあさんは、びょうきでねています。

ある日、花子さんがこうえんに行くと、きれいなチューリップがたくさんさいてい

ました。「まあきれい。おかあさんに 1本もって行ってあげようかしら。」と花子さんはおもいました。

〔もんだい 1〕 花子さんは チューリップを とってもいいでしょうか。

〔もんだい 2〕 そのわけはどうしてですか。

- (4) たろうさんたちが 4人でキャッチボールをして あそぼうとしています。きんじょには キャッチボールをするような にわやひろばがありません。じてんしゃや人がとおるひろい道は あります。

〔もんだい 1〕 たろうさんたちは どうしたらよいでしょう。

〔もんだい 2〕 もんだい1で そうするわけは なぜですか。

- (5) しん一くんは せいがひくいので「ちびしん、ちびしん。」と、みんなにからかわれます。ある日、みんなで川へおよぎに行くことになりました。そうして しん一くんをふかいところへつれて行こうとみんながいました。

「いけだくん きみもみんなのいけんには さんせいだろう。ちびしんがどうするかおもしろいぞ。」と だれかがいました。

〔もんだい 1〕 あなたが いけだくんだったら どうしますか。

〔もんだい 2〕 そうするわけは どうしてですか。

- (6) わざわざ町へ行って かってきたキャベツのなえを、さいとうくんは まいにちたいせつに せわをしています。ところが となりの家のにわとりが、いつもなえをあらしにやってきます。

ある日さいとうくんは、なえをあらしているにわとりを みつけました。おこって石をなげつけると、にわとりはびっこになって しまいました。

〔もんだい 1〕 あなたが さいとうくんだったら、どうしますか。

〔もんだい 2〕 もんだい1で そうするわけは なぜですか。

- (7) さかたくんは よわいものいじめばかりします。さかたくんは、みのるさんよりずっとつよいし、らんぼうなので どうにもしようがありません。きょうも みのるさんが見ているところで、なにもしないよし子さんを いじめていました。

〔もんだい 1〕 みのるさんは どうしたらよいでしょう。

[もんだい 2] もんだい1で そうするわけは なぜですか。

- (8) わかいときあそびくらしたひとが おじいさんになって、とてもこまっていた  
このおじいさんはひとりぼっちで、めんどうをみてくれるうちのひとは いないので  
す。

[もんだい 1] このおじいさんを どうしたらよいと おもいますか。

[もんだい 2] もんだい1のわけは どうしてですか。

### C テスト

年	男	なまえ
	女	

つぎのもんだいをよんで、イ、ロ、ハ、ニ、ホの5つのこたえの中から、もっともよ  
いこたえを 2つずつえらびなさい。こたえかたは (れい) にしてあるように、○を  
つけます。

(れい) うみでとれるものは なにとなにか。

イ、おこめ      ロ、かぼちゃ      ①、くじら      ②、かつお  
ホ、たきぎ

- (1) かわでとれるものは なにとなにか。

イ、たこ      ロ、いわし      ハ、どじょう      ニ、こんぶ  
ホ、めだか

- (2) やまでとれるものは なにとなにか。

イ、しお      ロ、さとう      ハ、きのこ      ニ、わた  
ホ、すみ(もくたん)

- (3) おもに まちでつくられるものは なにとなにか。

イ、ようぶく      ロ、りんご      ハ、がくようひん      ニ、まゆ  
ホ、せきたん

- (4) あおものいちばには なにとながでるか。

イ、おさかな      ロ、やさい      ハ、くだもの      ニ、おこめ  
ホ、ざいもく

- (5) 人のやくにたないどうぶつは どれとどれか。

イ、ひつじ      ロ、ねずみ      ハ、にわとり      ニ、うま  
ホ、からす

- (6) おまわりさんは どんなことをするか。

イ、どろぼうをつかまえる      ロ、かじをけす      ハ、てがみをくばる  
ニ、まいごのせわをする      ホ、せんそうをする

- (7) いねは どんなてんで やくにたつか。

イ、わらのなわをつくる      ロ、かみをつくる      ハ、ぬのをつくる  
 ニ、おこめをとる      ホ、うどんをつくる

(8) 木はどんなてんで やくにたつか。

イ、セメントをつくる      ロ、こうずい（おおみず）にならないようにする  
 ハ、れんたんをつくる      ニ、レールにする  
 ホ、すみ（もくたん）をつくる

(9) おひゃくしょうさんは どうして うまやにわとりをかうのか。

イ、みてたのしむ      ロ、どうぶつをかわいがる      ハ、はたけのしごとをてつだわせる  
 ニ、どろぼうのばんをさせる      ホ、にくやたまごをうって おかねにする

(10) ほけんじょは どんなことをするか。

イ、よぼうちゅうしゃをする      ロ、こどもをあそぼせる      ハ、かいちゅうのけんきをする  
 ニ、びんぼうなひとにおかねをくれる  
 ホ、おおぜいのひとが あつまってたのしむ

(11) あたらしいいみちをつくるときには どんなことがたいせつか。

イ、まっすぐである      ロ、まがっている      ハ、はばがひろい  
 ニ、けしきがよい      ホ、ふとい木が はしにうえてある

(12) とおくにある いなかのうちに いそいでしらせをするには どのほうほうとどのほうほうがよいか。

イ、でんぼうをうつ      ロ、こづつみをだす      ハ、そくたつをだす  
 ニ、はしっていく      ホ、ひこうきでいく

(13) つぎのどんなときとどんなときに やくばへとどけるか。

イ、でんわをひくとき      ロ、赤ちゃん<sup>あか</sup>がうまれたとき      ハ、ひっこしをしたとき  
 ニ、ものをなくしたとき      ホ、かじになったとき

(14) たくさんのおこめを とおくのまちまではこぶには どんなものがよいか。

イ、トラック      ロ、バス      ハ、かもつれっしゃ      ニ、ひこうき  
 ホ、じてんしゃ

(15) オリンピックでは、つぎのどんなことをするか。

イ、なかよくはなしあいうる      ロ、スキーやスケート      ハ、すいえいやはしるきょうそう  
 ニ、おんがくかい      ホ、おどりやしばい

## D テスト

年	男	なまえ
	女	

つぎに あなたのクラスのなかで なかのよいともだちや、いちばんしんせつなおともだちなどについて、たずねるしつもんがあります。あなたのクラスのおともだちをよくかんがえて、おもったとおりにしょうじきにかいてください。

(1) あなたとなかのよいおともだちを 5人かきなさい。

1.

2.

3.

4.

5.

- (2) あなたが その人のいうことならよろこんでさんせいする人をかきなさい。(その人のいうことをきかないと いじめられるからきく というひとは かいてはいけない)
- (3) いちばんしんせつな人を 1人かきなさい。
- (4) いちばんがまんづよい人を 1人かきなさい。
- (5) いちばんよくきそくをまもる人を 1人かきなさい。
- (6) いちばんほがらかであかるい人を 1人かきなさい。
- (7) いろいろなことを、まっさきに立ってやる人を 1人かきなさい。
- (8) いろいろなうんどうが いちばんじょうずな人を 1人かきなさい。
- (9) おもしろいおはなしをするのが いちばんよくできる人を 1人かきなさい。
- (10) べんぎょうが いちばんよくできる人を 1人かきなさい。
- (11) いちばんれいぎたいたい人を 1人かきなさい。

— 国立国語研究所刊行書 —

昭和24年度～昭和31年度	国立国語研究所年報 1～8	
国立国語研究所報告 1	八丈島の言語調査	
国立国語研究所報告 2	言語生活の実態 —白河市および付近の農村における—	(秀英出版刊) ¥ 300.00
国立国語研究所報告 3	現代語の助詞・助動詞 —用法と実例—	
国立国語研究所報告 4	婦人雑誌の用語 —現代語の語彙調査—	
国立国語研究所報告 5	地域社会の言語生活 —福岡における実態調査—	(秀英出版刊) ¥ 600.00
国立国語研究所報告 6	少年と新聞 —小学生・中学生の新聞への接近と理解—	
国立国語研究所報告 7	入門期の言語能力	
国立国語研究所報告 8	談話語の実態	
国立国語研究所報告 9	読みの実験的研究 —音読にあらわれた読みあやまりの分析—	
国立国語研究所報告10	低学年の読み書き能力	
国立国語研究所報告11	敬語と敬語意識	
国立国語研究所報告12	総合雑誌の用語 (前編) —現代語の語彙調査—	
国立国語研究所報告13	総合雑誌の用語 (後編) —現代語の語彙調査—	
国立国語研究所資料集 1	国語関係刊行書目 (昭和17～24年)	
国立国語研究所資料集 2	語彙調査 —現代新聞用語の一例—	
国立国語研究所資料集 3	送り仮名法資料集	
国立国語研究所資料集 4	明治以降国語学関係刊行書目	(秀英出版刊) ¥ 300.00
国立国語研究所 共著	高校生と新聞	(秀英出版刊) ¥ 280.00
日本新聞協会 共著	青年とマス・コミュニケーション	(金沢書店刊) ¥ 450.00
国立国語研究所 編	国語年鑑 (昭和29年版)	(秀英出版刊) ¥ 450.00
国立国語研究所 編	国語年鑑 (昭和30年版)	(秀英出版刊) ¥ 600.00
国立国語研究所 編	国語年鑑 (昭和31年版)	(秀英出版刊) ¥ 450.00
国立国語研究所 編	国語年鑑 (昭和32年版)	(秀英出版刊) ¥ 480.00
国立国語研究所 編	国語年鑑 (昭和33年版)	(近刊)

昭和 33 年 3 月

国立国語研究所

東京都千代田区神田一ツ橋 1-1  
電話 九段 (33) 代表 4 2 9 5

U D C 4 9 5. 6-0 7

N D C 3 7 5. 8

996

THE LANGUAGE ABILITY OF  
CHILDREN IN THE  
THIRD AND FOURTH GRADE

The Third Report

The 7 Years Studies on the Language  
Development of School Children

CONTENTS

Forward

The Outline of the Study

Chap I        The Growth in Reading

Chap II       The Growth in Written Composition

Chap III      The Growth in Spelling (Kanji, Katakana) and  
Punctuation

Chap IV      The Growth in Vocabulary

Chap V       The Growth in Grammatical Usage

Chap VI      The Growth in Home Reading

Appendix A   The Papers of the Home Reading Survey

Appendix B   The Papers of the Sociality Test

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE  
KANDA-HITOTUBASI, TIYODA, TOKYO

1958